

中央区男女共同参画に関する アンケート調査

報 告 書

令和 4 (2022) 年 3 月

中 央 区

目次

I 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の仕様	3
3 回収数及び回収率	3
4 調査項目	4
5 報告書の見方	5
II 調査結果の概要	7
1 区民調査結果の概要	9
2 若年層調査結果の概要	14
III 調査結果【区民調査】	17
1 回答者のプロフィール	19
2 男女平等意識	22
3 家庭生活や地域活動	34
4 子育て・教育	53
5 働き方	61
6 仕事と生活の調和	65
7 健康・人権	72
8 性的少数者、LGBT 等	88
9 防災	92
10 女性の活躍推進	96
11 区の男女共同参画の取組	103
IV 調査結果【若年層調査】	119
1 回答者のプロフィール	121
2 結婚、固定的性別役割分担に対する考え方	123
3 デートDV	126
4 悩み	130
V 資料編	133
1 区民調査調査票(単純集計結果付)	135
2 若年層調査調査票(単純集計結果付)	153

I 調査概要

1 調査の目的

この調査は、区民の男女共同参画に関する意識・実態や区の施策に対する要望等を総合的に把握し、「中央区男女共同参画行動計画 2018」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施した。

また、満 18 歳以上を対象とする上記の区民調査とは別に、増加する若年層の結婚や固定的性別役割分担、デートDV、悩みに関する意識・実態を把握し施策に反映するため、中学生・高校生世代の区民を対象とした調査を実施した。

2 調査の仕様

(1) 区民調査

- | | |
|--------|--|
| ① 調査対象 | 中央区に居住する満 18 歳以上の区民 |
| ② 対象者数 | 2,000 人 |
| ③ 抽出方法 | 無作為抽出 |
| ④ 調査方法 | 郵送配布－郵送回収法（督促を兼ねた礼状ハガキ 1 回送付） |
| ⑤ 調査期間 | 令和 3 年 9 月 21 日（火）～10 月 12 日（火）（22 日間） |

(2) 若年層調査

- | | |
|--------|--|
| ① 調査対象 | 中央区に居住する平成 15 年 4 月 2 日から平成 21 年 4 月 1 日までに生まれた方（中学生・高校生世代の区民） |
| ② 対象者数 | 504 人 |
| ③ 抽出方法 | 年齢別・男女別に無作為抽出 |
| ④ 調査方法 | はがきで協力依頼を送付、WEB 回答 |
| ⑤ 調査期間 | 令和 3 年 10 月 1 日（金）～10 月 18 日（月）（18 日間） |

3 回収数及び回収率

(1) 区民調査

- | | |
|---------|---|
| ① 対象者数 | 2,000 人 |
| ② 有効回収数 | 646 人（女性:412 人、男性:221 人、その他:1 人、性別無回答:12 人） |
| ③ 回収率 | 32.3% |

(2) 若年層調査

- | | |
|---------|--|
| ① 対象者数 | 504 人 |
| ② 有効回収数 | 175 人（女性:91 人、男性:82 人、その他:2 人、性別無回答:0 人） |
| ③ 回収率 | 34.7% |

4 調査項目

(2) 区民調査

大項目	調査項目
回答者の プロフィール	F1 性別
	F2 年齢
	F3 居住地域
	F4 居住歴
	F5 一緒に暮らしている人
男女平等 意識	問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
	問2 各分野における男女の地位の平等感
	問3 重要な企画や方針決定の際に女性の参画が少ない理由
	問4 言葉の認知度
家庭生活や 地域活動	問5 配偶者の有無
	問5-1 働き手(共働き)の状況
	問6 主に家事・育児・介護を担っている人
	問7 家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間
	問8 現在、介護を行っているか
	問8-1 介護の負担感
	問9 男性が家事・育児・介護に参加するために大切なこと
	問10 地域活動への参加状況・参加意向
	問10-1 地域活動に参加していない理由
	問11 子育て観
子育て・教育	問12 学校教育の中で行われるとよいと思うこと
	問13 子育てをしやすくするために区が進めるべき施策
	問14 現在の職業
働き方	問14-1 職場における仕事と子育て・介護の両立に対する配慮の有無
	問14-2 働いていない理由
	問14-3 今後の就労意向
仕事と生活の 調和	問15 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の望ましい姿
	問16 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の現在の状況
	問17 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進するために必要なこと
健康・人権	問18 健康に関する欲しい情報
	問19 配偶者暴力防止法の認知度
	問20 配偶者・恋人などから暴力を受けた経験の有無
	問20-1 受けた暴力についての相談先
	問20-2 誰にも相談しなかった理由
	問21 ドメスティック・バイオレンス(DV)について見聞きしたことがあるか
性的少数者、 LGBT 等	問22 配偶者や恋人などの間で起きる暴力を防止するために必要だと思うこと
	問23 性的少数者(セクシュアルマイノリティ、LGBT 等)が暮らしにくさを感じる点だと思うこと
防災	問24 すべての人の性の多様性が認め合える社会をつくるために区に期待する施策
	問25 地域の防災対策において重要なこと
女性の 活躍推進	問26 防災拠点(避難所)の運営において男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があること
	問27 女性が働くことに対する考え
	問28 女性が出産・育児・介護により離職せず同じ職場で働き続けるために必要なこと
区の男女共同 参画の取組	問29 女性が再就職や起業にチャレンジする際に必要だと思うこと
	問30 女性センター「ブーケ 21」の認知度
	問31 女性センター「ブーケ 21」事業の認知状況と利用意向
	問31-1 女性センター「ブーケ 21」で利用してみたい、あったら良いと思う事業(自由回答)
	問32 男女共同参画を進めるために区が力を入れるべきこと
	問33 男女共同参画について日頃感じていること、区の施策について望むこと(自由回答)

(2) 若年層調査

大項目	調査項目
回答者の プロフィール	問1 性別
	問2 学年
	問3 両親の働き方
結婚、 固定的性別 役割分担に 対する考え方	問4 将来の働き方への希望
	問5 固定的性別役割分担に対する考え方
	問6 最近した家での手伝い
デートDV	問7 デートDVの言葉の認知度
	問8 デートDVに対する認識
悩み	問9 悩みを話す方法
	問10 相談したいことや聞いてほしいことがあったときに気軽に話せる相手
	問11 性(性的指向)や心の性(性自認)について悩んだことの有無

5 報告書の見方

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- (3) 性別、年代別の集計結果などでは、無回答を除いているため、合計が全体とは一致しない。全体は、性別、年代やそれらの無回答者を足し合わせたものである。また、複数回答の設問では、すべての回答比率を合計しても100%にならない場合がある。
- (4) 本文の選択肢の表現は一部省略されている場合がある。
- (5) 過去の調査結果との比較では、平成28年、平成24年、平成19年に実施した「中央区男女共同参画に関するアンケート調査」と平成12年に実施した「男女平等に関する意識調査」を使用している。
- (6) 過去の調査結果との比較において、選択肢の表現が異なる場合は令和3年調査の選択肢にあわせている。また、該当する選択肢がない場合は「―」と表記している。
- (7) 令和3年調査から「18・19歳」を調査対象に含めている。そのため、経年比較をする際は「18・19歳」を除いたN=640の数値を用いて集計している。
- (8) クロス集計結果の性・年代別の「女性10代」「男性10代」は、サンプル数が少ないため傾向を見るにとどめ、本文中の分析では触れていない。

Ⅱ 調査結果の概要

1 区民調査結果の概要

(1) 回答者のプロフィール

- ◆ 性別は、「女性」が 63.8%、「男性」が 34.2%、「その他」が 0.2%となっている。(F1)
- ◆ 年齢は、全体では、「45～49 歳」(12.5%) が最も多く、次いで「40～44 歳」(11.8%) となっている。性別にみると、女性は「40～44 歳」(12.9%) が最も多く、男性は「45～49 歳」(13.6%) が最も多くなっている。(F2)
- ◆ 居住地域は、全体では、「月島地域」(43.0%) が最も多く、次いで「日本橋地域」(31.6%)、「京橋地域」(23.7%) となっている。(F3)
- ◆ 居住歴は、全体では、「20 年以上」(31.4%) が最も多く、次いで「3 年以上～6 年未満」(15.8%)、「10 年以上～15 年未満」(14.4%) となっている。(F4)
- ◆ 家族構成を、単独世帯、夫婦のみ世帯、二世帯世帯(親と未婚の子)、二世帯世帯(親と子ども夫婦)、三世帯世帯(親と子と孫)、その他、に類型化したところ、「二世帯世帯(親と未婚の子)」(36.1%) が最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」(31.0%)、「単独世帯」(20.0%) となっている。(F5)

(2) 男女平等意識

- ◆ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担に＜反対＞(「どちらかといえば反対である」と「反対である」の合計)は、全体では 57.9%であり、その割合は、特に男女とも若い世代で高くなっている。性別にみると、＜反対＞は女性 60.2%、男性 53.3%となっている。平成 28 年調査と比較すると、＜反対＞(令和 3 年:57.8%、平成 28 年:50.3%) が 7.5 ポイント高くなっている。(問 1)
- ◆ 男女の地位の平等感について、全体では『教育の場(学校・大学)では』で、「平等になっている」が 58.2%と半数を超えたものの、それ以外の分野では『家庭では』を除きすべて＜男性優遇＞(「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」の合計)が半数を占めている。特に『しきたりや慣習では』、『政治の場では』で、＜男性優遇＞の割合が 80%を超えて高くなっている。平成 28 年調査と比較すると、『職場では』以外の分野すべてで「平等になっている」の割合が低くなっている。(問 2)
- ◆ 重要な企画や方針決定の際に女性の参画が少ない理由は、全体では、「男性優位の組織運営」(63.2%) が最も多くなっている。性別にみても、男女ともに「男性優位の組織運営」が最も多く、女性は 66.7%、男性は 56.1%となっている。(問 3)
- ◆ 男女共同参画に関する言葉とその意味について、「言葉の意味まで知っていた」の割合が最も高いのは、全体では、『LGBT』(79.9%) で、次いで『ジェンダー平等』(70.4%)、『男女共同参画』(53.7%) となっている。(問 4)

(3) 家庭生活や地域活動

- ◆ 家事・育児・介護に携わる 1 日あたりの平均時間は、平成 28 年調査と比較すると、男女ともに平均時間は長くなっており、女性に比べて男性の平均時間の伸びが特に大きい。しかし、平日・休日ともに男性よりも女性の方が、時間数が依然長いことに変わりはない。(問 7)

- ◆ 介護を行うことの負担感については、男性よりも女性の方が社会活動の制約、肉体的負担感、精神的負担感を感じる割合が高く、女性よりも男性の方が経済的負担感を感じる割合が高くなっている。(問 8-1)
- ◆ 男性が家事、育児、介護に参加するために大切なことは、全体では、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」(68.9%) が最も多く、次いで「仕事と家庭の両立に対する理解が得られやすい職場の風土づくりをすること」(52.6%)、「働き方の見直し等により、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」(51.5%) となっている。性別にみても、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」が男女ともに最も多く、女性が 70.4%、男性が 67.0%となっている。(問 9)
- ◆ 地域活動に参加している人は、全体では、48.8%であった。また、現在参加している地域活動は、女性は『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』(19.7%)、男性は『町会や自治会の活動』(19.5%) が最も多くなっている。今後参加したい活動は、男女ともに『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』(女性:51.0%、男性:48.0%) が最も多くなっている。(問 10)
- ◆ 地域活動に参加していない理由は、全体では、「時間的余裕がないから」(54.7%) が最も多く、次いで「どのような活動があるのかわからないから」(38.7%)、「参加方法がわからない、きっかけがないから」(33.2%) となっている。(問 10-1)

(4) 子育て・教育

- ◆ 望ましいと思う子どもの育て方は、全体では、「男女を問わず、社会で自立ができるように育てる」(86.5%) が最も多く、次いで「男女を問わず、生活に必要な家事ができるように育てる」(71.7%)、「しつけや教育について、男女の区別はしないで育てる」(61.1%) となっている。また、平成 28 年調査と比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は 21.8%から 13.1%と 8.7 ポイント低くなっている。(問 11)
- ◆ 学校教育の中で行われるとよいと思うことは、全体では、「生活指導や進路指導において、性別の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(70.6%) が最も多く、次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を性別の区別なく同じにする」(60.5%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(55.1%) となっている。(問 12)
- ◆ 子育てをしやすいするために区が進めるべき施策は、全体では、「延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など、状況に応じて利用できる多様なサービスの充実」(54.3%) が最も多く、次いで「保育所の増設など、子どもを預けられる施設の充実」(49.8%)、「放課後における子どもの居場所づくり(学童クラブやプレディなど)の充実」(39.5%) となっている。(問 13)

(5) 働き方

- ◆ 現在の職業は、性別にみると、女性は「勤め人(フルタイム)」(42.7%) が最も多く、「家事専業(主婦・主夫)」(15.0%)、「自営業(個人事業主、家族従業者も含む)」(13.6%)、「パートタイマー・アルバイト・派遣社員等」(12.6%)、「無職」(11.2%) の 4 項目が 10%を超えている。男性は「勤め人(フルタイム)」(61.5%) が最も多く、次いで「自営業(個人事業主、家族従業者も含む)」(19.9%)、「無職」(10.4%) となっている。(問 14)
- ◆ 職場における仕事と子育て・介護の両立に対する配慮について、現在働いている人にたずねたところ、女性の 75.6%、男性の 67.0%が「配慮がある」(「配慮があると思う」と「やや配慮がある

と思う」の合計)と回答しており、その割合は平成28年調査より高くなっている。(問14-1)

- ◆ 働いていない人の働いていない理由は、全体では、「高齢で引退をしているから」(52.4%)が最も多くなっている。性別にみると、女性は「育児をしているから」(10.6%)、「介護をしているから」(5.3%)、「家族が賛成していないから」(3.5%)と回答する人がいるが、男性では回答する人はいない。また、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響による事業廃止や解雇のため」は、女性が6.2%、男性が3.8%となっている。(問14-2)
- ◆ 働いていない人のうち、女性の29.2%、男性の26.9%が「働きたい」と回答している。(問14-3)

(6) 仕事と生活の調和

- ◆ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の望ましい姿について、全体では、「仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい」が60.2%で最も多くなっている。(問15)
- ◆ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の現在の状況について、「仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている」は、21.1%であった。また、望ましい姿(問15)で「仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい」と回答した人のうち、現在の状況で「仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている」と回答したのは25.4%であり、4人に1人程度にとどまっている。(問16)
- ◆ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進するため必要だと思うことは、全体では、「企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む」(61.3%)が最も多く、次いで「家族みんなで家事・育児・介護を分担する」(40.4%)、「家事・育児・介護サービスの充実をはかる」(33.4%)となっている。性別にみると、「家族みんなで家事・育児・介護を分担する」(女性:47.8%、男性:27.1%)、「家事・育児・介護サービスの充実をはかる」(女性:40.8%、男性:20.4%)は、男性よりも女性の方が約20ポイント高くなっている。(問17)

(7) 健康・人権

- ◆ 健康に関する欲しい情報は、性別にみると、女性は「体力づくりなど健康増進に関する情報」(39.6%)と「健康診断や各種検診に関する情報」(39.6%)が同率で最も多く、男性は「生活習慣病に関する情報」(40.7%)が最も多くなっている。また、女性は「更年期にみられる症状などに関する情報」(女性:22.6%、男性:10.4%)、「性別特有の疾病(乳がん、子宮がん、前立腺がんなど)に関する情報」(女性:21.6%、男性:8.6%)で、男性より10ポイント以上高くなっている。性・年代別にみると、健康に関する欲しい情報は性・年代で異なることが分かる。(問18)
- ◆ 配偶者暴力防止法について、全体では、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」(52.6%)が半数を超え、「法律があることも、その内容も知っている」(23.7%)、「法律があることを知らなかった」(21.8%)がともに20%台となっている。「法律があることも、その内容も知っている」の割合は、平成28年調査より高くなっている。(問19)
- ◆ 女性の14.6%、男性の7.2%が配偶者・恋人などから何らかの暴力を受けた経験がある。その割合は平成28年調査より高くなっている。(問20)
- ◆ 全体では、暴力を受けた人の50.6%が誰にも相談をしていない。その割合は、性別にみると、女性は46.7%、男性は68.8%となっている。相談先では、友人・知人や親族が多く、公的機関の相談窓口を利用している人は少ない。(問20-1)
- ◆ 相談しなかった理由は、全体では、「相談しても無駄だと思ったから」(43.6%)が最も多く、次い

で「相談するほどのことではないと思ったから」(41.0%)、「人に打ち明けることに抵抗があったから」(33.3%)となっている。(問 20-2)

- ◆ ドメスティック・バイオレンス(DV)について、全体では、「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」が7.9%、「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」が15.8%、「親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある」が36.1%となっている。なお、「見聞きしたことがない」が40.7%であり、「無回答」(3.4%)と合計しても44.1%であるため、それ以外の55.9%がドメスティック・バイオレンス(DV)を見聞きしたことがある。(問 21)
- ◆ 配偶者や恋人などの間で起きる暴力を防止するために必要だと思うことは、全体では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(71.5%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(57.0%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(43.3%)となっている。なお、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(令和3年:71.4%、平成28年:57.2%)は、平成28年調査から14.2ポイント高くなっている。(問 22)

(8) 性的少数者、LGBT 等

- ◆ 性的少数者(セクシュアルマイノリティ、LGBT等)が暮らしにくさを感じる点だと思うことでは、全体では、「偏見や差別がある」が72.4%で最も多く、次いで「家族や周囲の人の理解が得られない」(60.2%)、「中傷されたり、いやがらせ、いじめを受けたりする」(51.1%)となっている。(問 23)
- ◆ 性的少数者(セクシュアルマイノリティ、LGBT等)をはじめ、すべての人の性の多様性が認め合える社会をつくるために、区に期待する施策は、全体では、「学校現場における性的少数者(セクシュアルマイノリティ、LGBT等)や性の多様性について理解するための教育」(54.5%)が最も多く、次いで「行政職員や教職員への性的少数者(セクシュアルマイノリティ、LGBT等)や性の多様性についての意識啓発」(42.4%)、「同性パートナーシップ証明制度の導入」(39.5%)となっている。(問 24)

(9) 防災

- ◆ 地域における防災対策において特に重要なことは、全体では、「災害や防災に関する知識の習得を進める」(52.2%)が最も多く、次いで「女性の意見を踏まえて、災害備蓄品を準備する」(45.4%)、「防災拠点(避難所)の設備に女性の意見を反映させる」(44.1%)となっている。(問 25)
- ◆ 防災拠点(避難所)の運営において男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があると思うことは、全体では、「男女別の配慮などによる防災拠点(避難所)のプライバシー確保(トイレ、更衣室、物干し場所等)」(80.2%)が最も多く、次いで「妊娠婦や育児中の女性への配慮(授乳室の設置等)」(64.9%)、「女性用品の配布の際の配慮」(57.0%)となっている。(問 26)

(10) 女性の活躍推進

- ◆ 女性が働くことについて、全体では、「子どもの有無にかかわらず、働く方がよい」(56.0%)という就業継続型の割合が最も高くなっている。また、「子どもができたらか働くことをやめ、子どもが成長したら再び働く方がよい」(12.5%)という中断再就職型の割合は「その他」(18.9%)に次いで高くなっている。平成28年調査と比較すると、就業継続型の割合は高く、中断再就職型の割合は低くなっている。(問 27)

- ◆ 女性が出産・育児・介護により離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは、全体では、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(78.3%)が最も多く、次いで「職場における上司、管理職、同僚の理解と意識改革」(59.0%)、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(56.5%)となっている。(問 28)
- ◆ 子育てや介護によりいったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするために必要なことは、全体では、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態(在宅勤務や短時間勤務など)の導入」(53.1%)が最も多く、次いで「再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」(51.4%)、「再就職希望者への情報提供」(49.7%)となっている。(問 29)

(11) 区の男女共同参画の取組

- ◆ 女性センター「ブーケ 21」について、全体では、＜利用層＞（「日頃、頻繁に施設を利用している」と「たまに利用している、または利用したことがある」と「講演会、セミナー、中央区ブーケ祭りなどで訪れたことがある」の合計）は 7.4%、＜認知・非利用層＞（「利用したことはないが、活動内容は知っている」と「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」の合計）は 45.0%であり、＜非認知層＞（「施設があることを知らない」）は 45.8%となっている。＜非認知層＞の割合は、性別にみると男性が、居住地域別にみると日本橋地域が、居住歴別にみると居住歴の短い人ほど、高くなっている。(問 30)
- ◆ 女性センター「ブーケ 21」事業の認知状況について、事業を「知っている」の割合は、全体では、『「ブーケ 21」女性相談』(13.6%)、『中央区ブーケ祭り』(12.2%)の順で高い。事業の利用意向をみると、事業を「利用したい」の割合は、全体では、『「ブーケ 21」ホームページ』(30.3%)が最も高く、次いで『「ブーケ 21」女性相談』(26.9%)、『中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」』(23.2%)となっている。(問 31)
- ◆ 男女共同参画を進めるために区が力を入れるべきことは、全体では、「男女ともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発」(52.2%)が最も多く、次いで「子育て・介護などで仕事を中断した人への再就職支援」(44.7%)、「育児や介護と仕事や活動の両立を支援する施設・サービスの充実」(44.4%)、「学校における男女平等教育の推進」(43.2%)となっている。平成 28 年調査と比較すると、「学校における男女平等教育の推進」(令和 3 年:43.1%、平成 28 年:25.8%)は 17.3 ポイント高くなっている。(問 32)

2 若年層調査結果の概要

(1) 回答者のプロフィール

- ◆ 性別は、「女性」が 52.0%、「男性」が 46.9%、「その他」が 1.1%となっている。(問 1)
- ◆ 学年は、全体では、「中学 3 年生」(22.3%) が最も多く、次いで「高校 1 年生」(20.6%) となっている。(問 2)
- ◆ 父親の働き方は、全体では、「外で働いている」(79.4%) が最も多く、次いで「家で働いている(一時的にリモートワークをしている場合は含まない)」(9.7%) となっている。(問 3 (1))
- ◆ 母親の働き方は、全体では、「外で働いている」(54.9%) が最も多く、次いで「主に家で家事や育児等をしている」(32.0%) となっている。(問 3 (2))

(2) 結婚、固定的性別役割分担に対する考え方

- ◆ 将来の働き方への希望は、全体では、「ずっと仕事を続けたい」(59.4%) が最も多く、次いで「わからない」(15.4%)、「子どもができたら仕事をやめて、子どもが成長したら再び仕事をしたい」(11.4%) となっている。性別にみると、「ずっと仕事を続けたい」は、女性が 47.3%に対して男性は 73.2%となっている。(問 4)
- ◆ 固定的性別役割分担に対する考え方は、全体では、「共感しない」が 71.4%であった。性別でみると、「共感する」は、女性が 9.9%であるのに対し、男性は 18.3%となっている。(問 5)
- ◆ 最近した家での手伝いは、全体では、「食事のしたくや後かたづけ」(63.4%) が最も多く、次いで「洗たく物干しや取り込むなど」(38.9%)、「家の中のそうじ」(33.7%) となっている。(問 6)

(3) デートDV

- ◆ デートDVの言葉の認知度は、全体では、「聞いたことがない」(55.4%) が最も多く、次いで「意味を知っている」(24.0%)、「聞いたことはあるが、意味は知らない」(20.0%) となっている。性別にみると、女性は「意味を知っている」の割合が 27.5%であるのに対して、男性は 20.7%となっている。また学年別にみると、「意味を知っている」の割合は、高校 2 年生 (55.6%)、高校 3 年生 (42.3%) は高くなっている。(問 7)
- ◆ デートDVに対する認識について、『たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が 88.6%となっている。(問 8 (1))
- ◆ 『ばかにしたり、傷つける言葉を言う』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」(63.4%) が最も多く、次いで「事情によっては「デートDV」にはあたらない」(32.0%) となっている。(問 8 (2))
- ◆ 『友人との連絡・付き合いを制限する』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が 46.9%、「事情によっては「デートDV」にはあたらない」が 41.1%となっている。性別にみると、女性は「どんな場合でも「デートDV」にあたる」(51.6%) が多く、男性は「事情によっては「デートDV」にはあたらない」(43.9%) が多くなっている。また、男性は「「デートDV」ではない」が 9.8%となっている。(問 8 (3))
- ◆ 『いやがっているのにキスしたり、体にさわる』は、全体では「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が 83.4%となっている。(問 8 (4))

(4) 悩み

- ◆ 悩みを話す方法は、全体では、「直接会って話す」(65.7%) が最も多く、次いで「ラインなどのコミュニケーションアプリ」(33.7%)、「電話で話す」(25.7%) となっている。「自分のなやみを人に話さない」は 19.4%であった。(問 9)
- ◆ 相談したいことや聞いてほしいことがあったときに気軽に話せる相手は、全体では、「友人」(74.9%) が最も多く、次いで「家族」(60.6%)、「学校の先生」(17.1%) となっている。「だれもいない」は 6.9%であった。(問 10)
- ◆ 性(性的指向)や心の性(性自認)について悩んだことの有無について、全体では、<なやんだことがある> (「なやんだことがあり(今、なやんでいる)」、周りになやんでいる人がいた(いる)」と「なやんだことがある(今、なやんでいる)が、周りになやんでいる人はいなかった」の合計)は 13.7%であった。また、<周りになやんでいる人がいた> (「なやんだことがあり(今、なやんでいる)」、周りになやんでいる人がいた(いる)」と「なやんだことはないが、周りになやんでいる人がいた(いる)」の合計)は、24.5%であった。(問 11)

Ⅲ 調査結果【区民調査】

1 回答者のプロフィール

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

「女性」が 63.8%、「男性」が 34.2%、「その他」が 0.2%となっている。(図表Ⅲ－1－1)

図表Ⅲ－1－1 性別（全体）



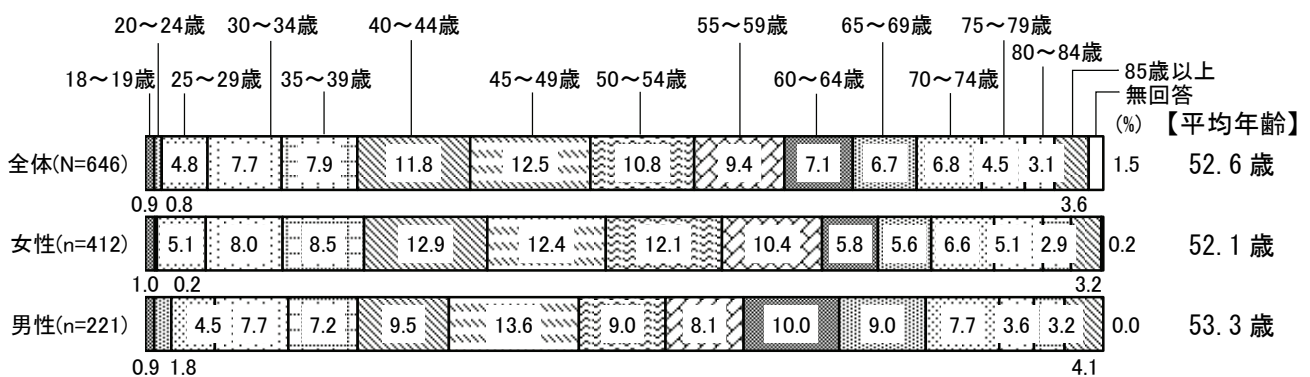
F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

全体では、「45～49 歳」(12.5%) が最も多く、次いで「40～44 歳」(11.8%) となっている。

性別にみると、女性は「40～44 歳」(12.9%) が最も多く、男性は「45～49 歳」(13.6%) が最も多くなっている。

回答者の平均年齢は、全体では、52.6 歳、女性は 52.1 歳、男性は 53.3 歳であった。(図表Ⅲ－1－2)

図表Ⅲ－1－2 年齢（全体、性別）

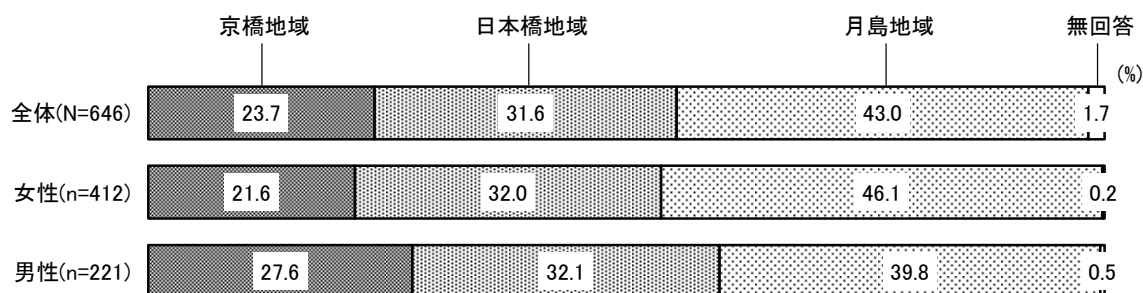


※平均年齢は無回答を除き、各中央値、「85 歳以上」は「87 歳」を用いて加重平均で算出。

F 3 あなたの住まいの地域は次のどれにあたりますか。(1つに○)

全体では、「月島地域」(43.0%)が最も多く、次いで「日本橋地域」(31.6%)、「京橋地域」(23.7%)となっている。(図表Ⅲ－1－3)

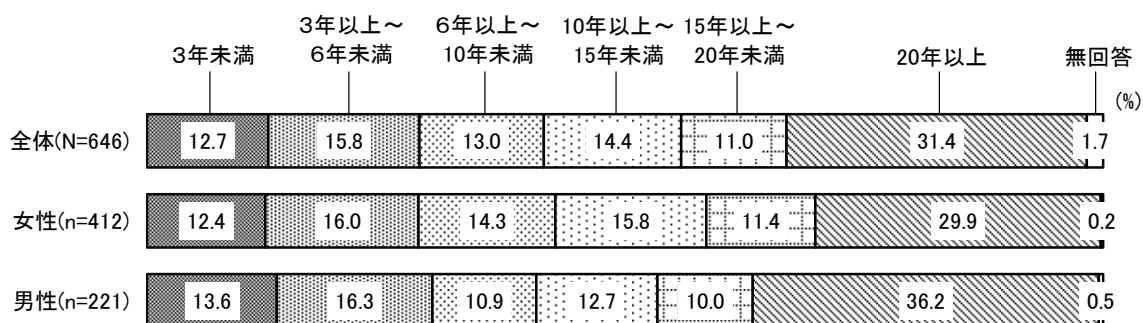
図表Ⅲ－1－3 居住地域（全体、性別）



F 4 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(1つに○)

全体では、「20年以上」(31.4%)が最も多く、次いで「3年以上～6年未満」(15.8%)、「10年以上～15年未満」(14.4%)となっている。(図表Ⅲ－1－4)

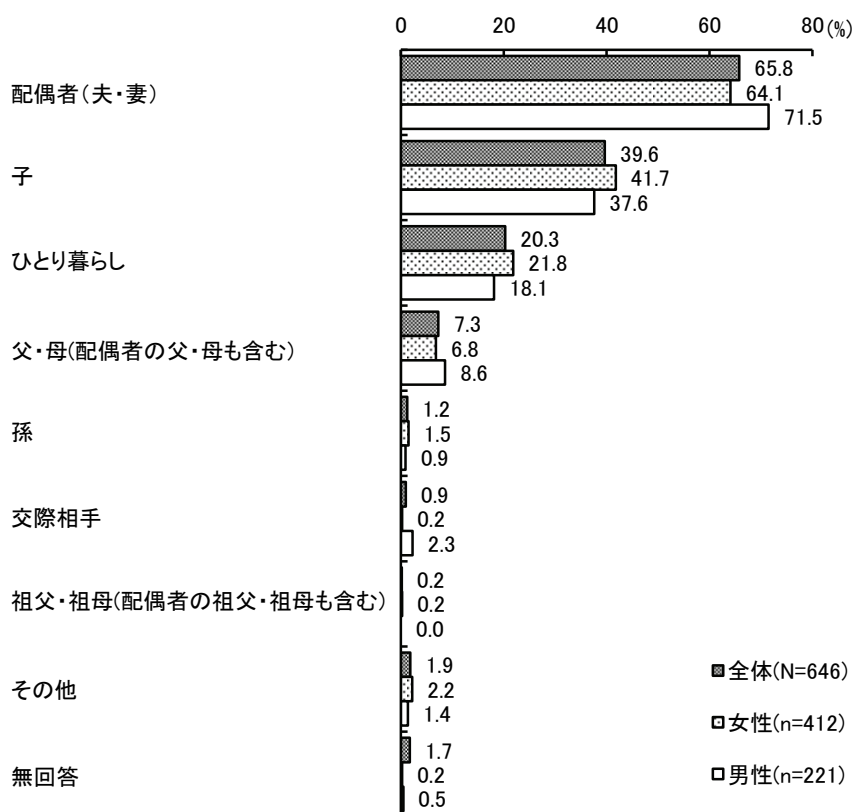
図表Ⅲ－1－4 居住歴（全体、性別）



F 5 あなたが現在一緒に暮らしている人は誰ですか。(いくつでも○)

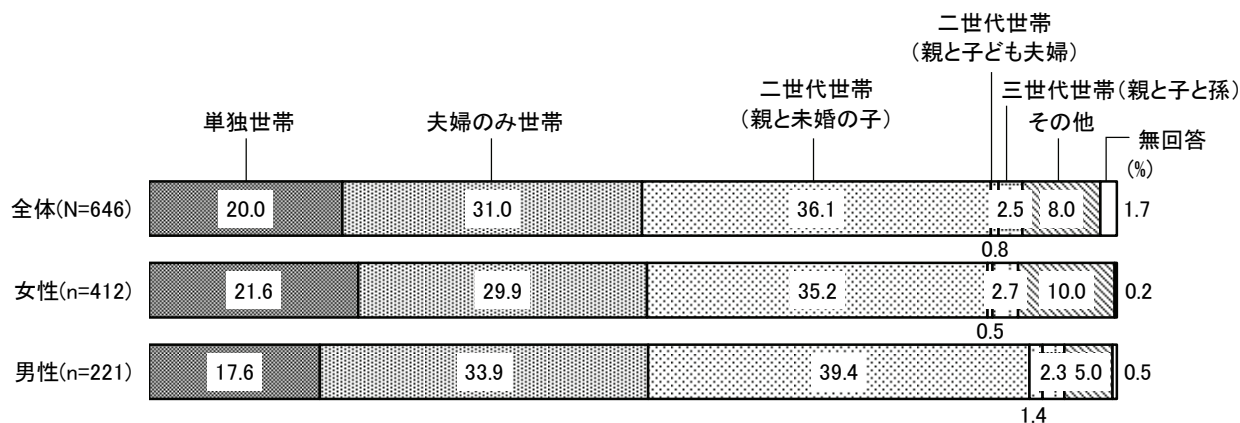
全体では、「配偶者(夫・妻)」(65.8%)が最も多く、次いで「子」(39.6%)、「ひとり暮らし」(20.3%)となっている。(図表Ⅲ－１－５－①)

図表Ⅲ－１－５－① 一緒に暮らしている人(全体、性別:複数回答)



回答内容から、単独世帯、夫婦のみ世帯、二世帯世帯(親と未婚の子)、二世帯世帯(親と子ども夫婦)、三世帯世帯(親と子と孫)、その他、と家族構成を類型化した。全体では「二世帯世帯(親と未婚の子)」(36.1%)が最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」(31.0%)、「単独世帯」(20.0%)となっている。(図表Ⅲ－１－５－②)

図表Ⅲ－１－５－② 家族構成(全体、性別)



2 男女平等意識

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別によって役割を固定する考え方を「**固定的性別役割分担**」と言います。あなたはこのような考え方をどう思いますか。（1つに○）

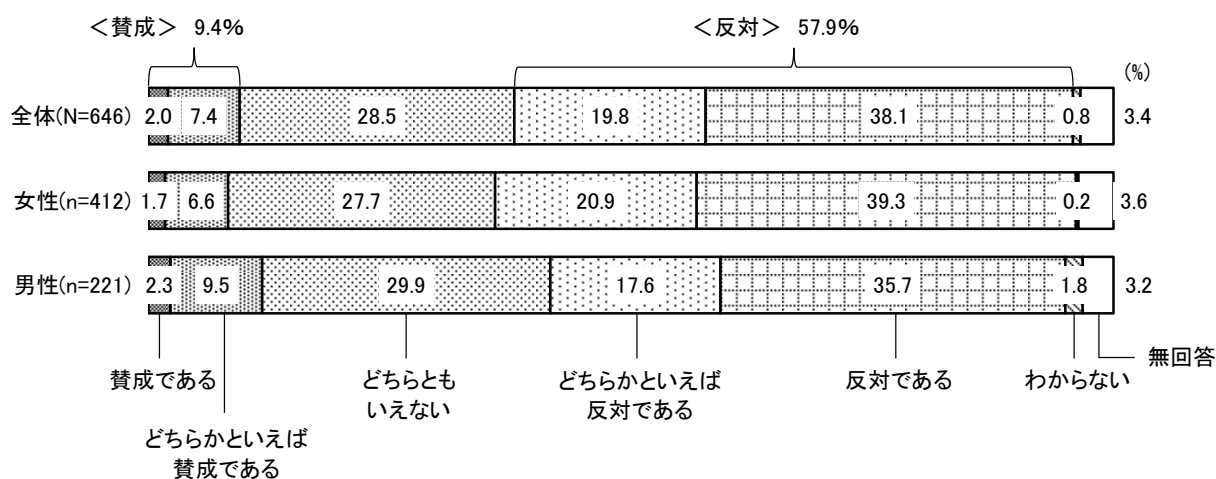
●女性は 60.2%、男性は 53.3%が＜反対＞と考えている

全体では、「反対である」（38.1%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（28.5%）となっている。

「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合計した＜賛成＞は 9.4%、「どちらかといえば反対である」と「反対である」を合計した＜反対＞は 57.9%となっている。

性別にみると、＜反対＞は女性 60.2%、男性 53.3%であり、男性よりも女性の方が＜反対＞の割合が高くなっている。（図表Ⅲ－２－１－①）

図表Ⅲ－２－１－① 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（全体、性別）



性・年代別にみると、女性の20代、30代、40代、50代、男性の30代で＜反対＞が6割を超えている。(図表Ⅲ－２－１－②)

図表Ⅲ－２－１－② 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(全体、性別、性・年代別)

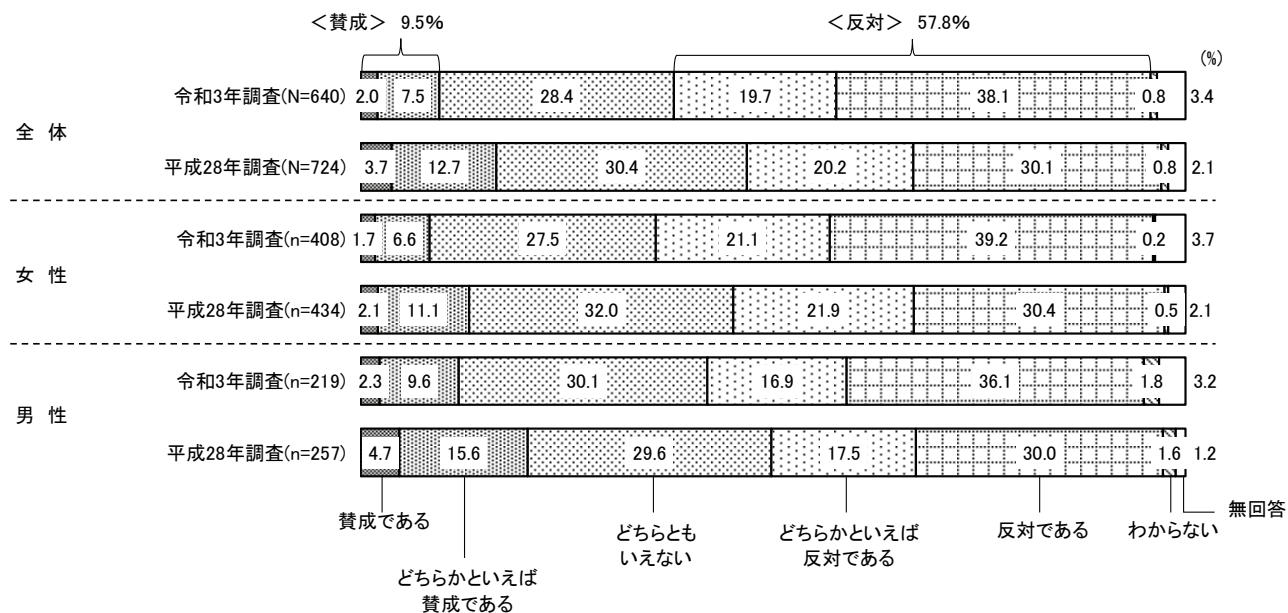
[上段:実数、下段:%]

			賛成		どちらともいえない	反対		わからない	無回答
			賛成である	どちらかといえば賛成である		どちらかといえば反対である	反対である		
全 体 (N=646)			13 2.0	48 7.4	184 28.5	128 19.8	246 38.1	5 0.8	22 3.4
性別	女 性 (n=412)		7 1.7	27 6.6	114 27.7	86 20.9	162 39.3	1 0.2	15 3.6
	男 性 (n=221)		5 2.3	21 9.5	66 29.9	39 17.6	79 35.7	4 1.8	7 3.2
性・年代別	女 性	10 代 (n=4)	0 100.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=22)	1 4.5	0 0.0	6 27.3	6 27.3	9 40.9	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=68)	1 1.5	2 2.9	18 26.5	10 14.7	33 48.5	0 0.0	4 5.9
		40 代 (n=104)	2 1.9	7 6.7	27 26.0	16 15.4	49 47.1	1 1.0	2 1.9
		50 代 (n=93)	0 0.0	5 5.4	24 25.8	27 29.0	37 39.8	0 0.0	0 0.0
		60 代 (n=47)	0 0.0	3 6.4	18 38.3	12 25.5	13 27.7	0 0.0	1 2.1
		70 代 (n=48)	1 2.1	6 12.5	14 29.2	12 25.0	12 25.0	0 0.0	3 6.3
		80 代以上 (n=25)	2 8.0	4 16.0	5 20.0	3 12.0	6 24.0	0 0.0	5 20.0
	男 性	10 代 (n=2)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=14)	1 7.1	1 7.1	3 21.4	2 14.3	5 35.7	0 0.0	2 14.3
		30 代 (n=33)	0 0.0	1 3.0	8 24.2	4 12.1	19 57.6	1 3.0	0 0.0
		40 代 (n=51)	1 2.0	5 9.8	16 31.4	11 21.6	17 33.3	0 0.0	1 2.0
		50 代 (n=38)	2 5.3	3 7.9	12 31.6	9 23.7	11 28.9	1 2.6	0 0.0
		60 代 (n=42)	0 0.0	4 9.5	11 26.2	7 16.7	15 35.7	1 2.4	4 9.5
		70 代 (n=25)	0 0.0	5 20.0	6 24.0	3 12.0	11 44.0	0 0.0	0 0.0
		80 代以上 (n=16)	1 6.3	2 12.5	10 62.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0

Ⅲ 調査結果【区民調査】

平成 28 年調査と比較すると、全体では、＜反対＞が 7.5 ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－２－１－③)

図表Ⅲ－２－１－③ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別)



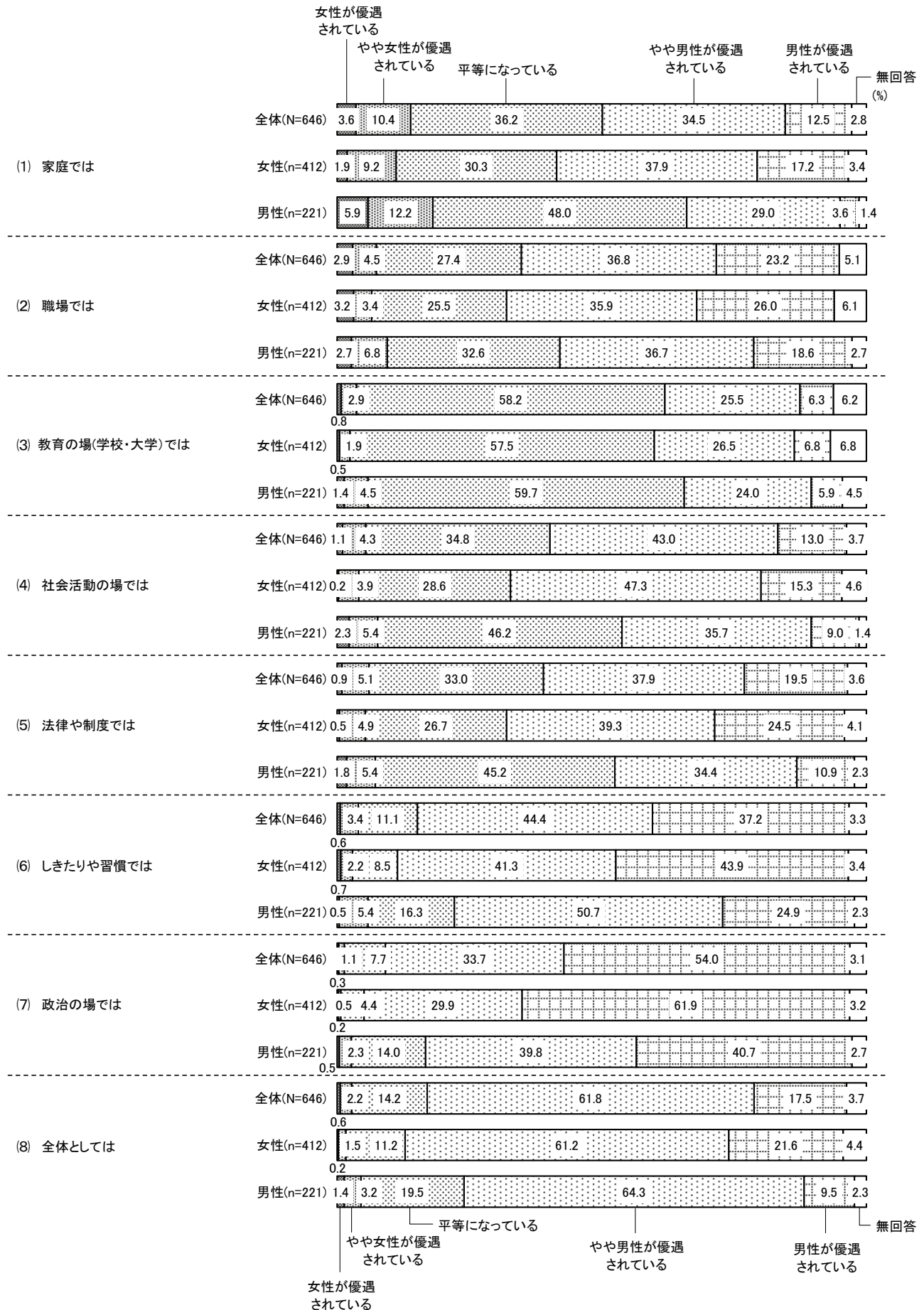
問2 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。
((1)～(8)について、1つずつ○)

●『教育の場（学校・大学）では』のみ「平等になっている」が半数を超えている

全体では、『教育の場（学校・大学）では』で「平等になっている」が58.2%と半数を超えている以外、『家庭では』を除くすべての分野で「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合計した＜男性優遇＞が半数を占めている。また、『政治の場では』で「平等になっている」が7.7%と各分野の中で最も低く、＜男性優遇＞の割合が87.7%と最も高くなっている。

性別にみると、「平等になっている」の割合について、女性より男性の方が10ポイント以上高い項目は、『家庭では』、『社会活動の場では』、『法律や制度では』の3項目となっている。（図表Ⅲ－2－2－①）

図表Ⅲ－２－２－① 各分野における男女の地位の平等感（全体、性別）



ここで、『全体としては』の結果を性・年代別に分析する。

全体では、「やや女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」を合計した＜女性優遇＞は2.8%、「平等になっている」は14.2%、＜男性優遇＞は79.3%となっている。

性・年代別でみると、「平等になっている」の割合が最も高かったのは、女性は20代で27.3%、男性は80代以上で50.0%となっている。（図表Ⅲ－２－２－②）

図表Ⅲ－２－２－② 『全体としては』の男女の地位の平等感
(全体、性別、性・年代別)

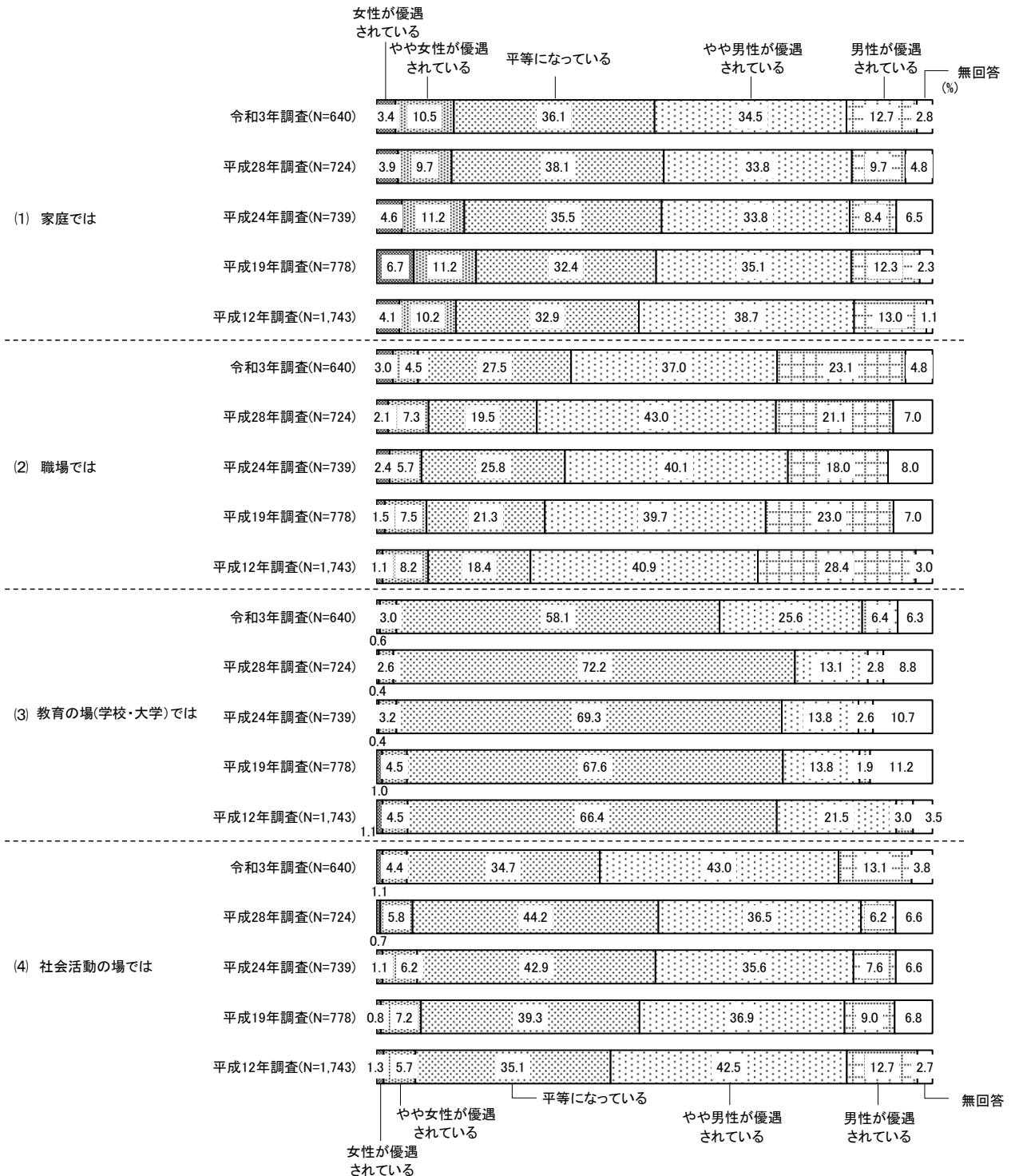
				[上段:実数、下段:%]					
				女性優遇		平等 になっている	男性優遇		無 回 答
				女性 が優 遇さ れて いる	やや 女性 が優 遇さ れて いる		やや 男性 が優 遇さ れて いる	男性 が優 遇さ れて いる	
全		体 (N=646)		4 100.0	14 2.2	92 14.2	399 61.8	113 17.5	24 3.7
性 別	女	性 (n=412)		1 100.0	6 1.5	46 11.2	252 61.2	89 21.6	18 4.4
	男	性 (n=221)		3 100.0	7 3.2	43 19.5	142 64.3	21 9.5	5 2.3
性・ 年 代 別	女 性	10	代 (n=4)	0 100.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0
		20	代 (n=22)	0 100.0	1 4.5	6 27.3	13 59.1	2 9.1	0 0.0
		30	代 (n=68)	0 100.0	0 0.0	7 10.3	42 61.8	17 25.0	2 2.9
		40	代 (n=104)	0 100.0	3 2.9	14 13.5	71 68.3	15 14.4	1 1.0
		50	代 (n=93)	1 100.0	0 0.0	4 4.3	55 59.1	29 31.2	4 4.3
		60	代 (n=47)	0 100.0	0 0.0	4 8.5	29 61.7	12 25.5	2 4.3
		70	代 (n=48)	0 100.0	1 2.1	7 14.6	27 56.3	10 20.8	3 6.3
		80 代 以 上	(n=25)	0 100.0	1 4.0	3 12.0	11 44.0	4 16.0	6 24.0
	男 性	10	代 (n=2)	0 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
		20	代 (n=14)	0 100.0	3 21.4	2 14.3	7 50.0	2 14.3	0 0.0
		30	代 (n=33)	0 100.0	0 0.0	7 21.2	21 63.6	4 12.1	1 3.0
		40	代 (n=51)	2 100.0	2 3.9	8 15.7	34 66.7	5 9.8	0 0.0
		50	代 (n=38)	1 100.0	1 2.6	5 13.2	29 76.3	2 5.3	0 0.0
		60	代 (n=42)	0 100.0	0 0.0	5 11.9	30 71.4	5 11.9	2 4.8
		70	代 (n=25)	0 100.0	0 0.0	8 32.0	14 56.0	2 8.0	1 4.0
		80 代 以 上	(n=16)	0 100.0	0 0.0	8 50.0	6 37.5	1 6.3	1 6.3

「男女共同参画社会基本法」制定後の平成12年調査から、令和3年調査まで、5回にわたる本区調査での、分野別及び全体における「男女の地位の平等感」の割合を比較した。

『家庭では』や『職場では』では回答割合に大きな変化がなく、『教育の場（学校・大学）では』、『社会活動の場では』も平成28年までは変化がみられていないが、令和3年調査で「平等になっている」の割合が低くなっており、「やや男性が優遇されている」の割合が高くなっている。（図表Ⅲ－２－２－③）

図表Ⅲ－２－２－③ 各分野における男女の地位の平等感

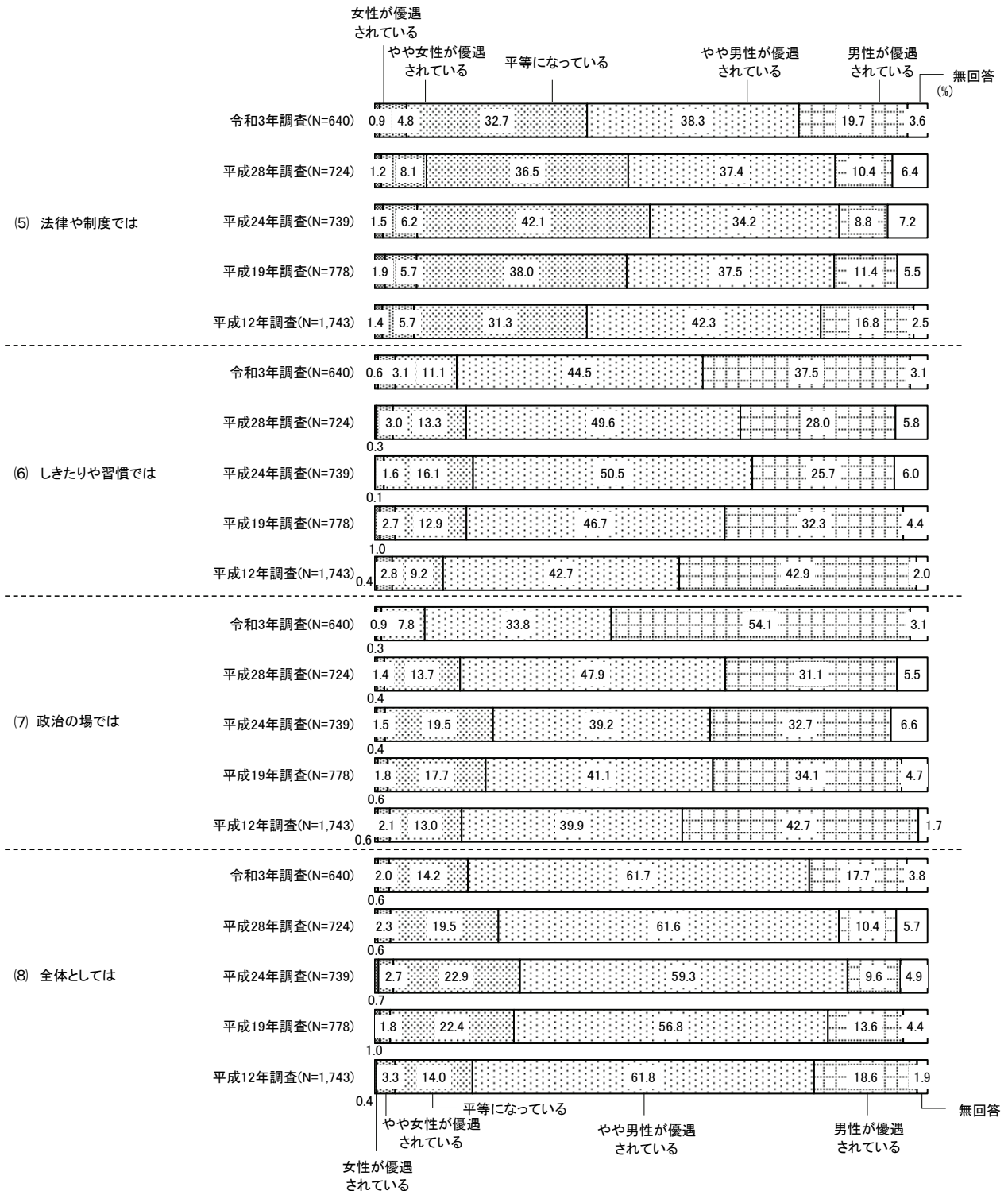
（令和3年調査・平成28年調査・平成24年調査・平成19年調査・平成12年調査：全体）



『法律や制度では』から『政治の場では』まで、また『全体としては』では、＜男性優遇＞の割合が高い傾向にあるが、令和３年調査は『法律や制度では』で「平等になっている」の割合が低くなり、『政治の場では』でも「男性が優遇されている」の割合が大幅に高くなっており、近年、固定的性別役割分担に反対する人が増える一方で、男女の地位の不平等感は改善していない状況がうかがえる。
(図表Ⅲ－２－２－③)

図表Ⅲ－２－２－③ 各分野における男女の地位の平等感

(令和３年調査・平成２８年調査・平成２４年調査・平成１９年調査・平成１２年調査:全体) 続き



問3 あなたは、政治や行政、会社などにおいて、特に重要な企画や方針を決定していく際に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(いくつでも○)

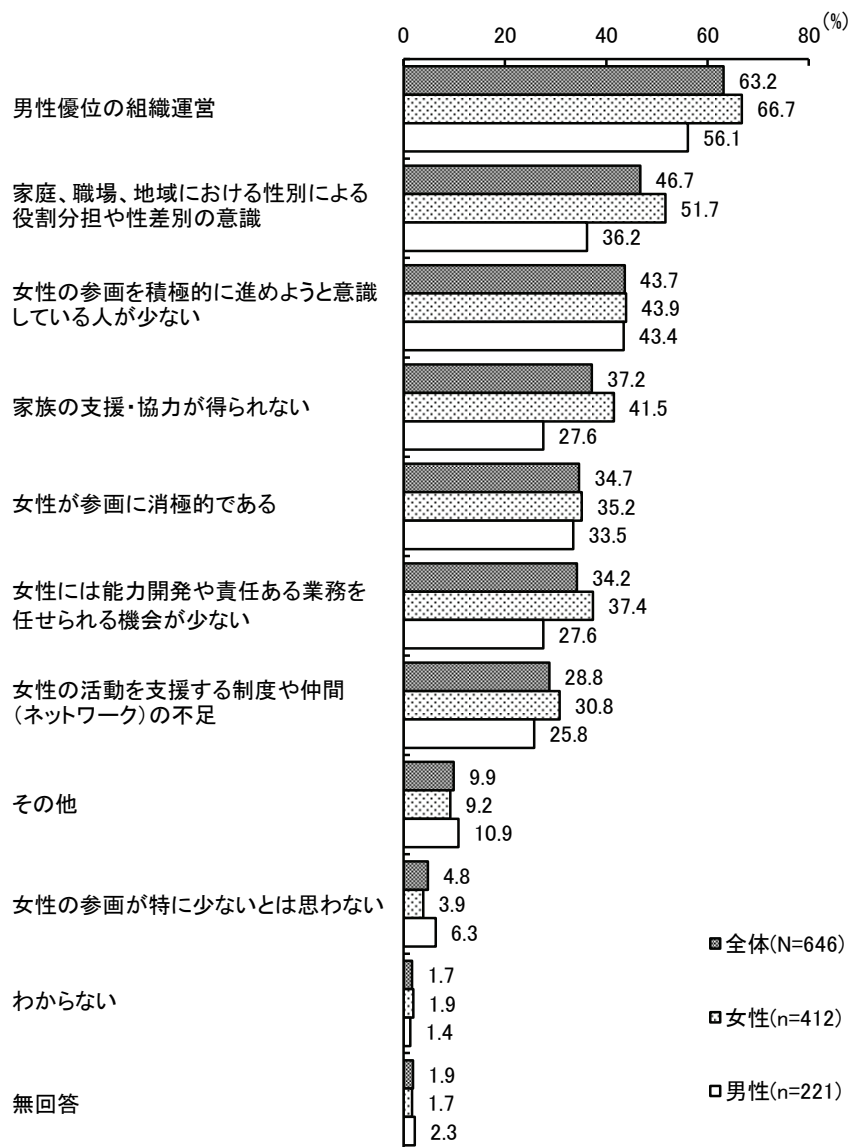
●「男性優位の組織運営」が男女ともに最も多い

重要な企画や方針決定の際に女性の参画が少ない理由は、全体では、「男性優位の組織運営」(63.2%)が最も多く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」(46.7%)、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」(43.7%)となっている。

性別にみると、男女ともに「男性優位の組織運営」が最も多く、女性は66.7%、男性は56.1%となっている。男女間の差が10ポイント以上ある項目は、「男性優位の組織運営」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」、「家族の支援・協力が得られない」の3項目となっている。

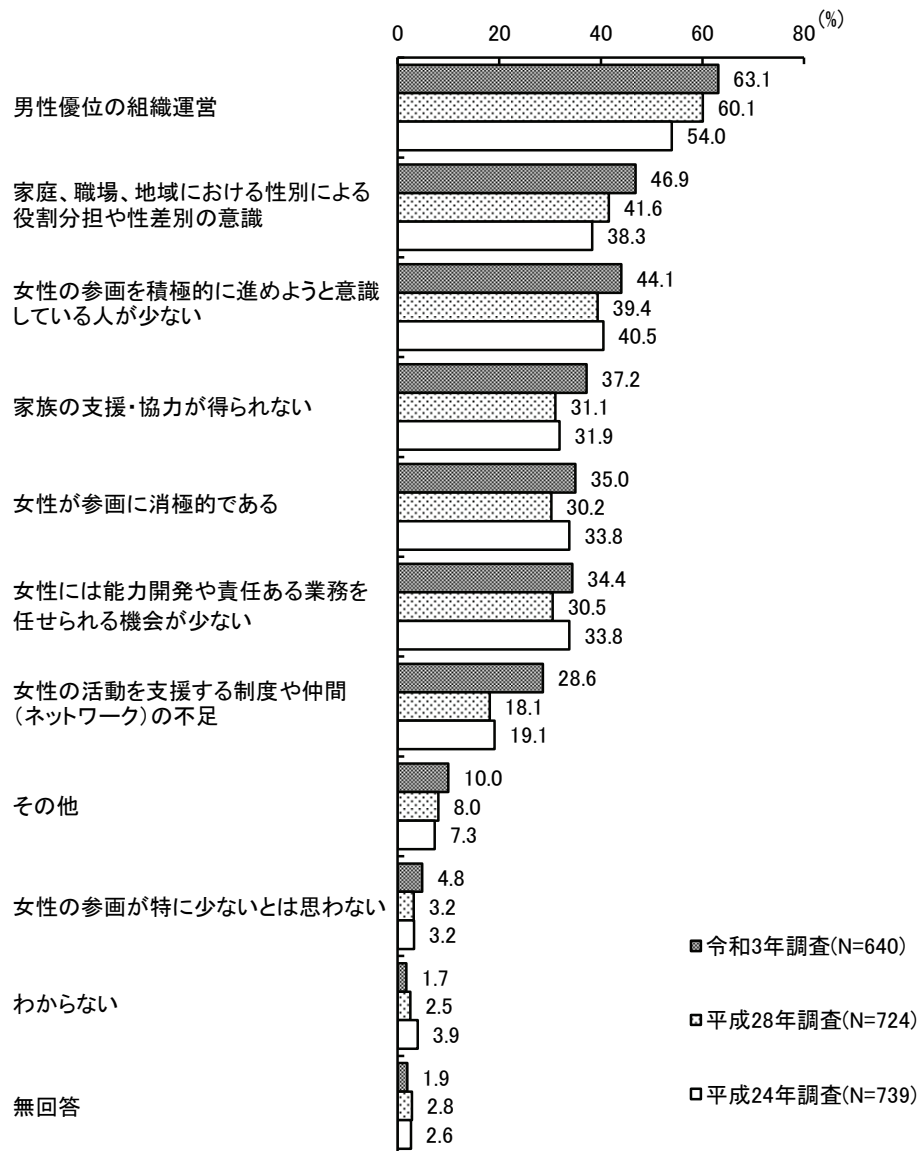
(図表Ⅲ-2-3-①)

図表Ⅲ-2-3-① 重要な企画や方針決定の際に女性の参画が少ない理由
(全体、性別:複数回答)



平成 28 年調査及び平成 24 年調査と比較すると、平成 24 年調査から「男性優位の組織運営」が最も多くなっている。また、平成 28 年調査から令和 3 年調査にかけて 10 ポイント以上増加している項目は、「女性の活動を支援する制度や仲間（ネットワーク）の不足」の 1 項目であった。（図表Ⅲ－2－3－②）

図表Ⅲ－2－3－② 重要な企画や方針決定の際に女性の参画が少ない理由
（令和 3 年調査・平成 28 年調査・平成 24 年調査：全体：複数回答）



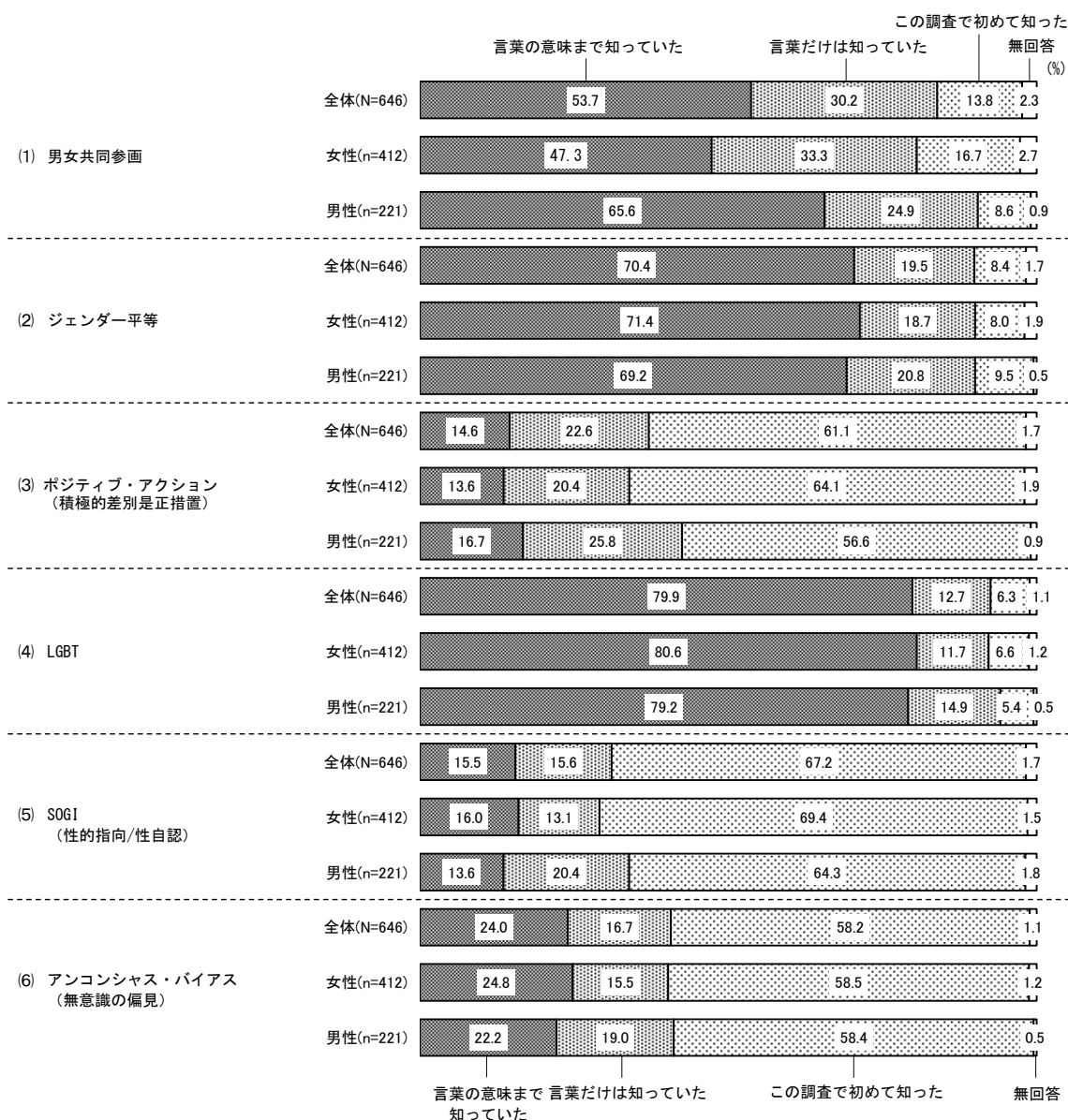
問4 あなたは、以下の（１）～（６）の言葉とその意味を知っていましたか。
（（１）～（６）について、１つずつ○）

●「言葉の意味まで知っていた」の割合は、『LGBT』が79.9%と最も高い

全体では、「言葉の意味まで知っていた」の割合が最も高いのは『LGBT』（79.9%）で、次いで『ジェンダー平等』（70.4%）、『男女共同参画』（53.7%）となっている。『LGBT』は「言葉の意味まで知っていた」が79.9%、「言葉だけは知っていた」が12.7%であり、『ジェンダー平等』もそれぞれ70.4%、19.5%となっている。しかし、『男女共同参画』については、それぞれ53.7%、30.2%と、上位2位と比べて「言葉の意味まで知っていた」の割合が低く、「言葉だけは知っていた」の割合が高くなっている。

性別にみると『男女共同参画』の「言葉の意味まで知っていた」の割合は、女性は47.3%で、男性は65.6%と、女性よりも男性の方が18.3ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－２－４－①）

図表Ⅲ－２－４－① 言葉の認知度（全体、性別）



ここで、『男女共同参画』の言葉の認知度の結果を性・年代別に分析する。

性・年代別に「言葉の意味まで知っていた」の割合をみると、女性は60代で38.3%、70代で29.2%、80代以上で24.0%、年齢が高い程、割合が低くなっている。男性は40代で78.4%と他の年代に比べて10ポイント以上高くなっている。(図表Ⅲ－２－４－②)

図表Ⅲ－２－４－② 『男女共同参画』の言葉の認知度（全体、性別、性・年代別）

				[上段:実数、下段:%]			
				言葉の意味まで知っていた	言葉だけは知っていた	この調査で初めて知った	無回答
全		体	(N=646)	347	195	89	15
			100.0	53.7	30.2	13.8	2.3
性別	女	性	(n=412)	195	137	69	11
			100.0	47.3	33.3	16.7	2.7
	男	性	(n=221)	145	55	19	2
			100.0	65.6	24.9	8.6	0.9
性・年代別	女性	10代	(n=4)	2	1	1	0
			100.0	50.0	25.0	25.0	0.0
		20代	(n=22)	12	8	2	0
			100.0	54.5	36.4	9.1	0.0
		30代	(n=68)	38	20	10	0
			100.0	55.9	29.4	14.7	0.0
		40代	(n=104)	51	31	21	1
			100.0	49.0	29.8	20.2	1.0
	男性	50代	(n=93)	53	27	12	1
			100.0	57.0	29.0	12.9	1.1
		60代	(n=47)	18	21	7	1
			100.0	38.3	44.7	14.9	2.1
		70代	(n=48)	14	20	10	4
			100.0	29.2	41.7	20.8	8.3
		80代以上	(n=25)	6	9	6	4
			100.0	24.0	36.0	24.0	16.0
		10代	(n=2)	1	0	1	0
			100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
		20代	(n=14)	8	6	0	0
			100.0	57.1	42.9	0.0	0.0
		30代	(n=33)	20	7	5	1
			100.0	60.6	21.2	15.2	3.0
		40代	(n=51)	40	7	4	0
			100.0	78.4	13.7	7.8	0.0
		50代	(n=38)	26	10	2	0
			100.0	68.4	26.3	5.3	0.0
		60代	(n=42)	26	12	4	0
			100.0	61.9	28.6	9.5	0.0
		70代	(n=25)	16	7	2	0
			100.0	64.0	28.0	8.0	0.0
		80代以上	(n=16)	8	6	1	1
			100.0	50.0	37.5	6.3	6.3

3 家庭生活や地域活動

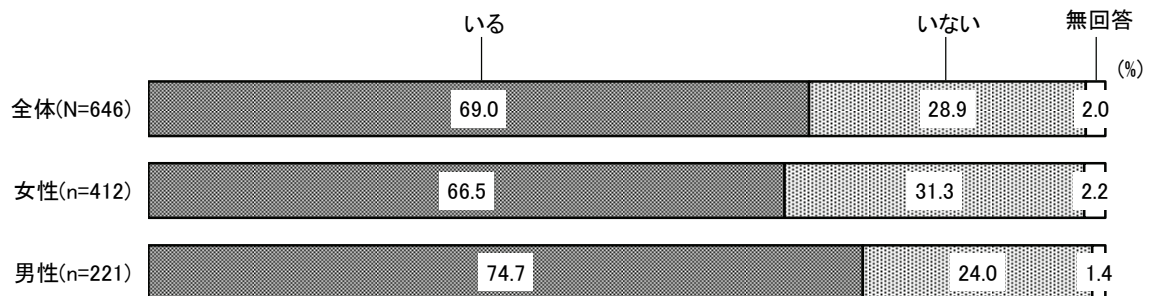
問5 あなたには、現在、配偶者※はいらっしゃいますか。（1つに○）

※「配偶者」には、婚姻届を出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者（以下「事実婚関係にある者」という）も含まれます。

●回答者の 69.0%は配偶者がいる

配偶者の有無について、全体では、「いる」が 69.0%、「いない」が 28.9%となっている。（図表Ⅲ－3－1）

図表Ⅲ－3－1 配偶者の有無（全体、性別）



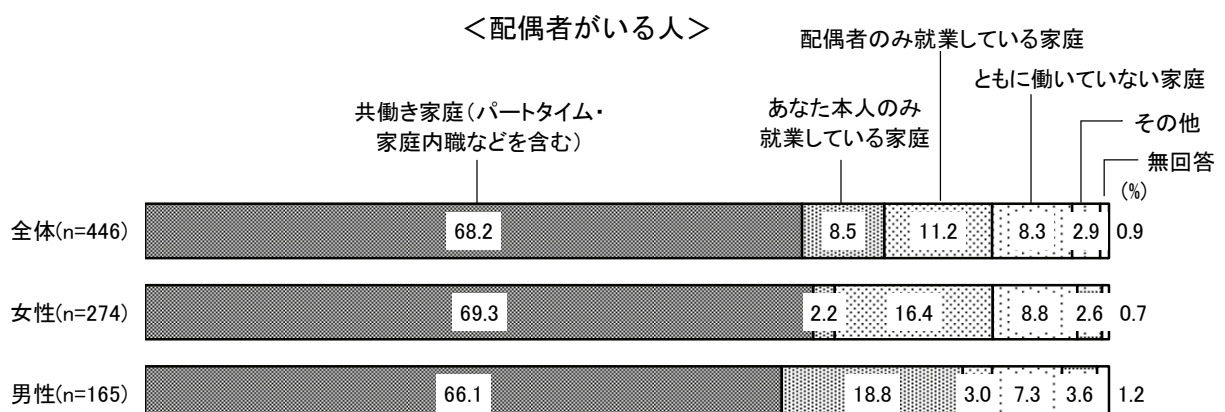
問5－1 あなたのご家庭は、次のどれにあてはまりますか。（1つに○）

●共働き家庭は 68.2%となっている

全体では、「共働き家庭（パートタイム・家庭内職などを含む）」（68.2%）が最も多く、次いで「配偶者のみ就業している家庭」（11.2%）、「あなた本人のみ就業している家庭」（8.5%）となっている。

性別にみると女性は「あなた本人のみ就業している家庭」は 2.2%であるのに対して、男性は 18.8%となっている。（図表Ⅲ－3－2）

図表Ⅲ－3－2 働き手（共働き）の状況（全体、性別）



問6 あなたの家庭では、次にあげるような家事・育児・介護等を主にどなたがしていますか。
((1)～(12)について、1つずつ○)

●「主にあなた（回答者）」と答えた割合が高いのは、女性は『食事の支度』、『洗濯』、『掃除』、男性は『家具・家電品などの修理』、『高額商品の購入』、『預貯金の管理』

性別に上位3位の項目をみると、女性が「主にあなた（回答者）」と答えた割合は、『食事の支度』（72.8%）が最も高く、次いで『洗濯』（69.7%）、『掃除』（68.9%）となっている。また、男性が「主にあなた（回答者）」と答えた割合は、『家具・家電品などの修理』（66.1%）が最も高く、次いで『高額商品の購入』（46.6%）、『預貯金の管理』（39.4%）となっている。（図表Ⅲ－3－3）

図表Ⅲ－3－3 主に家事・育児・介護を担っている人（性別、上位3項目）

項目	女性(n=412)			男性(n=221)		
	第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位
食事の支度	主にあなた 72.8%	家族で協力 11.2%	主に配偶者 6.3%	主に配偶者 39.4%	主にあなた 23.5%	家族で協力 22.6%
洗濯	主にあなた 69.7%	家族で協力 15.0%	主に配偶者 5.3%	主に配偶者 33.0%	主にあなた 27.6%	家族で協力 24.9%
掃除	主にあなた 68.9%	家族で協力 17.2%	主に配偶者 4.6%	主に配偶者 32.6%	家族で協力 27.1%	主にあなた 24.9%
日用品の買い物	主にあなた 65.5%	家族で協力 20.4%	主に配偶者 4.1%	家族で協力 32.1%	主にあなた 29.9%	主に配偶者 26.7%
食事の後かたづけ、食器洗い	主にあなた 61.9%	家族で協力 20.4%	主に配偶者 9.0%	主にあなた 34.8%	家族で協力 29.4%	主に配偶者 22.2%
日常の家計管理	主にあなた 58.0%	家族で協力 14.3%	主に配偶者 13.3%	主にあなた 35.3%	主に配偶者 29.4%	家族で協力 21.3%
近所づきあい	主にあなた 50.5%	家族で協力 24.5%	その他 11.7%	家族で協力 32.6%	主にあなた 21.7%	主に配偶者 19.5%
預貯金の管理	主にあなた 49.0%	家族で協力 18.7%	主に配偶者 16.0%	主にあなた 39.4%	家族で協力 25.8%	主に配偶者 18.1%
家具・家電品などの修理	主にあなた 36.2%	主に配偶者 27.2%	家族で協力 16.3%	主にあなた 66.1%	家族で協力 12.7%	主に父親 その他 3.6%
高額商品の購入	主にあなた 33.3%	家族で協力 26.9%	主に配偶者 23.8%	主にあなた 46.6%	家族で協力 33.0%	主に配偶者 5.4%
子どもの世話やしつけ	該当する人がいないので する必要がない 43.2%	主にあなた 26.5%	家族で協力 16.0%	該当する人がいないので する必要がない 45.2%	家族で協力 24.0%	主に配偶者 14.0%
高齢者や病人の世話	該当する人がいないので する必要がない 62.9%	主に配偶者 14.6%	家族で協力 6.8%	該当する人がいないので する必要がない 64.3%	家族で協力 10.9%	主にあなた 5.4%

* 選択肢は、「主にあなた」、「主に配偶者」、「主に母親」、「主に父親」、「主に娘」、「主に息子」「家族で協力」、「その他」となっており、『子どもの世話やしつけ』、『高齢者や病人の世話』のみ「該当する人がいないので、する必要がない」が選択肢として設けられている。

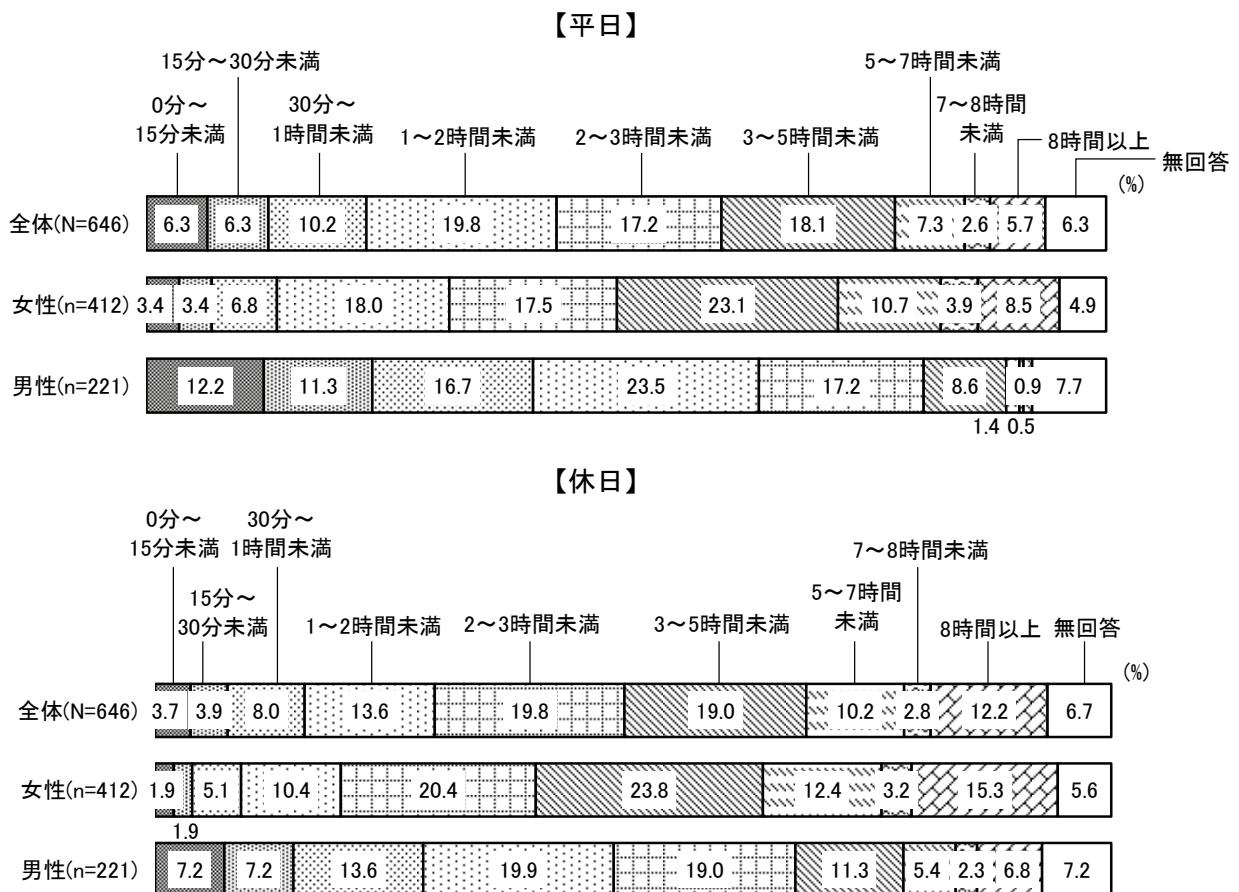
問7 あなたが平日・休日で家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間はどのくらいですか。平均的な時間をお選びください。(平日・休日について、1つつ〇)

●家事・育児・介護に携わる時間は、平日・休日ともに男性よりも女性の方が長い

全体では、平日は、「1～2時間未満」(19.8%)が最も多く、次いで「3～5時間未満」(18.1%)、「2～3時間未満」(17.2%)となっている。休日は、「2～3時間未満」(19.8%)が最も多く、次いで「3～5時間未満」(19.0%)、「1～2時間未満」(13.6%)となっている。

性別にみると、女性の平日は、「3～5時間未満」(23.1%)が最も多く、次いで「1～2時間未満」(18.0%)、「2～3時間未満」(17.5%)となっている。休日は、「3～5時間未満」(23.8%)が最も多く、次いで「2～3時間未満」(20.4%)、「8時間以上」(15.3%)となっている。男性の平日は、「1～2時間未満」(23.5%)が最も多く、次いで「2～3時間未満」(17.2%)、「30分～1時間未満」(16.7%)となっている。休日は、「1～2時間未満」(19.9%)が最も多く、次いで「2～3時間未満」(19.0%)、「30分～1時間未満」(13.6%)となっている。(図表Ⅲ－3－4－①)

図表Ⅲ－3－4－① 家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間(全体、性別)



性・配偶者の有無別にみると、平日の女性で、配偶者のいる人は「3～5時間未満」(25.9%)が最も多く、配偶者のいない人は「1～2時間未満」(25.6%)が最も多くなっている。男性で、配偶者のいる人は「1～2時間未満」(21.2%)が最も多く、配偶者のいない人も「1～2時間未満」(30.2%)が最も多くなっている。

性・働き手の状況別にみると、平日の女性の共働き家庭（パートタイム・家庭内職などを含む）では、「3～5時間未満」(27.4%)が最も多くなっている。男性の共働き家庭（パートタイム・家庭内職などを含む）は「1～2時間未満」(25.7%)が最も多くなっている。(図表Ⅲ－3－4－②)

図表Ⅲ－3－4－② 家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間〔平日〕
(全体、性別、性・配偶者の有無別、性・働き手の状況別)

			[上段:実数、下段:%]										
			0分 ～ 15分 未満	15分 ～ 30分 未満	30分 ～ 1時間 未満	1 ～ 2時間 未満	2 ～ 3時間 未満	3 ～ 5時間 未満	5 ～ 7時間 未満	7 ～ 8時間 未満	8時間 以上	無 回 答	平 均 (分)
全 体 (N=646)			41 100.0	41 6.3	66 10.2	128 19.8	111 17.2	117 18.1	47 7.3	17 2.6	37 5.7	41 6.3	177.2
性 別	女 性 (n=412)		14.0 100.0	14.0 3.4	28.0 6.8	74.0 18.0	72.0 17.5	95.0 23.1	44.0 10.7	16.0 3.9	35.0 8.5	20.0 4.9	219.3
	男 性 (n=221)		27.0 100.0	25.0 11.3	37.0 16.7	52.0 23.5	38.0 17.2	19.0 8.6	3.0 1.4	1.0 0.5	2.0 0.9	17.0 7.7	98.5
性・配偶者の有無別	女 性	配 偶 者 あ り (n=274)	6 100.0	8 2.9	12 4.4	40 14.6	43 15.7	71 25.9	40 14.6	16 5.8	31 11.3	7 2.6	254.9
		配 偶 者 な し (n=129)	8 100.0	6 4.7	16 12.4	33 25.6	28 21.7	22 17.1	3 2.3	0 0.0	4 3.1	9 7.0	140.4
	男 性	配 偶 者 あ り (n=165)	18 100.0	22 13.3	29 17.6	35 21.2	31 18.8	16 9.7	3 1.8	1 0.6	2 1.2	8 4.8	103.9
		配 偶 者 な し (n=53)	9 100.0	3 5.7	8 15.1	16 30.2	6 11.3	3 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 15.1	79.0
性・働き手の状況別	女 性	共働き家庭(パートタイム・家庭内職などを含む) (n=190)	4 100.0	4 2.1	11 5.8	34 17.9	33 17.4	52 27.4	27 14.2	9 4.7	13 6.8	3 1.6	228.2
		あなた本人のみ就業している家庭 (n=6)	1 100.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	110.0
		配偶者のみ就業している家庭 (n=45)	1 100.0	0 0.0	1 2.2	2 4.4	4 8.9	7 15.6	10 22.2	4 8.9	15 33.3	1 2.2	384.4
		ともに働いていない家庭 (n=24)	0 100.0	3 12.5	0 0.0	1 4.2	3 12.5	8 33.3	3 12.5	2 8.3	2 8.3	2 8.3	259.4
		その他 (n=7)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	3 42.9	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	225.0
	男 性	共働き家庭(パートタイム・家庭内職などを含む) (n=109)	8 100.0	17 15.6	16 14.7	28 25.7	22 20.2	10 9.2	2 1.8	1 0.9	0 0.0	5 4.6	101.5
		あなた本人のみ就業している家庭 (n=31)	6 100.0	3 9.7	9 29.0	4 12.9	5 16.1	3 9.7	0 0.0	0 0.0	1 3.2	0 0.0	95.1
		配偶者のみ就業している家庭 (n=5)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	246.0
		ともに働いていない家庭 (n=12)	1 100.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	3 25.0	114.2
		その他 (n=6)	3 100.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	76.3

Ⅲ 調査結果【区民調査】

性・配偶者の有無別にみると、休日の女性で、配偶者のいる人は「3～5時間未満」(23.0%)が最も多く、配偶者のいない人も「3～5時間未満」(25.6%)が最も多くなっている。男性で、配偶者のいる人は「2～3時間未満」(19.4%)が最も多く、配偶者のいない人は「1～2時間未満」(30.2%)が最も多くなっている。

性・働き手の状況別にみると、休日の女性の共働き家庭（パートタイム・家庭内職などを含む）では、「2～3時間未満」(21.1%)が最も多くなっている。男性の共働き家庭（パートタイム・家庭内職などを含む）も「2～3時間未満」(18.3%)が最も多くなっている。(図表Ⅲ－3－4－③)

図表Ⅲ－3－4－③ 家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間〔休日〕
(全体、性別、性・配偶者の有無別、性・働き手の状況別)

[上段:実数、下段:%]													
			0 分 ～ 15 分 未 満	15 分 ～ 30 分 未 満	30 分 ～ 1 時 間 未 満	1 時 ～ 2 時 間 未 満	2 時 ～ 3 時 間 未 満	3 時 ～ 5 時 間 未 満	5 時 ～ 7 時 間 未 満	7 時 ～ 8 時 間 未 満	8 時 間 以 上	無 回 答	平 均 (分)
全 体 (N=646)			24.0 100.0	25.0 3.9	52.0 8.0	88.0 13.6	128.0 19.8	123.0 19.0	66.0 10.2	18.0 2.8	79.0 12.2	43.0 6.7	230.5
性 別	女 性 (n=412)		8.0 100.0	8.0 1.9	21.0 5.1	43.0 10.4	84.0 20.4	98.0 23.8	51.0 12.4	13.0 3.2	63.0 15.3	23.0 5.6	265.3
	男 性 (n=221)		16.0 100.0	16.0 7.2	30.0 13.6	44.0 19.9	42.0 19.0	25.0 11.3	12.0 5.4	5.0 2.3	15.0 6.8	16.0 7.2	164.2
性・配偶者の有無別	女 性	配 偶 者 あ り (n=274)	1 100.0	6 2.2	12 4.4	24 8.8	53 19.3	63 23.0	41 15.0	12 4.4	54 19.7	8 2.9	295.0
		配 偶 者 な し (n=129)	7 100.0	2 1.6	9 7.0	19 14.7	30 23.3	33 25.6	10 7.8	1 0.8	7 5.4	11 8.5	193.9
	男 性	配 偶 者 あ り (n=165)	8 100.0	14 8.5	24 14.5	27 16.4	32 19.4	20 12.1	12 7.3	4 2.4	15 9.1	9 5.5	183.4
		配 偶 者 な し (n=53)	8 100.0	2 3.8	6 11.3	16 30.2	9 17.0	5 9.4	0 0.0	1 1.9	0 0.0	6 11.3	102.4
性・働き手の状況別	女 性	共働き家庭(パートタイム・家庭内職などを含む) (n=190)	0 100.0	2 1.1	9 4.7	19 10.0	40 21.1	39 20.5	30 15.8	9 4.7	38 20.0	4 2.1	296.6
		あなた本人のみ就業している家庭 (n=6)	0 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	186.3
		配偶者のみ就業している家庭 (n=45)	1 100.0	0 0.0	2 4.4	1 2.2	8 17.8	11 24.4	5 11.1	2 4.4	14 31.1	1 2.2	343.8
		ともに働いていない家庭 (n=24)	0 100.0	3 12.5	0 0.0	2 8.3	4 16.7	8 33.3	3 12.5	1 4.2	1 4.2	2 8.3	222.6
		その他 (n=7)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	4 57.1	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	235.0
		共働き家庭(パートタイム・家庭内職などを含む) (n=109)	2 100.0	11 10.1	13 11.9	19 17.4	20 18.3	15 13.8	11 10.1	2 1.8	10 9.2	6 5.5	194.3
	男 性	あなた本人のみ就業している家庭 (n=31)	3 100.0	0 0.0	7 22.6	5 16.1	8 25.8	4 12.9	0 0.0	0 0.0	4 12.9	0 0.0	172.5
		配偶者のみ就業している家庭 (n=5)	0 100.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	262.5
		ともに働いていない家庭 (n=12)	1 100.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	3 25.0	137.5
		その他 (n=6)	2 100.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	82.5
		共働き家庭(パートタイム・家庭内職などを含む) (n=109)	2 100.0	11 10.1	13 11.9	19 17.4	20 18.3	15 13.8	11 10.1	2 1.8	10 9.2	6 5.5	194.3
		あなた本人のみ就業している家庭 (n=31)	3 100.0	0 0.0	7 22.6	5 16.1	8 25.8	4 12.9	0 0.0	0 0.0	4 12.9	0 0.0	172.5

平成 28 年調査と家事・育児・介護に携わる 1 日あたりの平均時間を比較すると、平日では男女とも時間が伸びる傾向にあり、特に男性の時間の伸びが 65.1 分から 99.4 分、共働き家庭の男性で 69.9 分から 101.5 分と 30 分以上長くなっている。

休日も平日同様の傾向だが、女性は時間の変化が少ないのに対し、男性 134.1 分から 165.7 分、共働き男性は 165.1 分から 194.3 分と 30 分程度長くなっている。(図表Ⅲ－３－４－④)

図表Ⅲ－３－４－④ 家事・育児・介護に携わる 1 日あたりの時間〔平日・休日〕

(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別、性・働き手の状況別)

【平日】

[上段:実数、下段:%]

			未 0 満 分 15 分	未 15 満 分 30 分	1 30 時 分 間 未 満	未 1 満 2 時 間	未 2 満 3 時 間	未 3 満 5 時 間	未 5 満 7 時 間	未 7 満 8 時 間	8 時 間 以上	無 回 答	平 均 (分)
令和 3 年	全 体 (N=640) 100.0		36 5.6	40 6.3	66 10.3	128 20.0	111 17.3	117 18.3	47 7.3	17 2.7	37 5.8	41 6.4	178.9
	性別	女 性 (n=408) 100.0	11 2.7	13 3.2	28 6.9	74 18.1	72 17.6	95 23.3	44 10.8	16 3.9	35 8.6	20 4.9	221.5
		男 性 (n=249) 100.0	25 11.4	25 11.4	37 16.9	52 23.7	38 17.4	19 8.7	3 1.4	1 0.5	2 0.9	17 7.8	99.4
	性・働き手の状況別	女性・共働き家庭 (n=190) 100.0	4 2.1	4 2.1	11 5.8	34 17.9	33 17.4	52 27.4	27 14.2	9 4.7	13 6.8	3 1.6	228.2
		男性・共働き家庭 (n=109) 100.0	8 7.3	17 15.6	16 14.7	28 25.7	22 20.2	10 9.2	2 1.8	1 0.9	0 0.0	5 4.6	101.5
平成 28 年	全 体 (N=724) 100.0		86 11.9	60 8.3	95 13.1	140 19.3	119 16.4	94 13.0	31 4.3	11 1.5	43 5.9	45 6.2	149.0
	性別	女 性 (n=434) 100.0	26 6.0	20 4.6	42 9.7	80 18.4	87 20.0	82 18.9	26 6.0	10 2.3	42 9.7	19 4.4	196.4
		男 性 (n=257) 100.0	56 21.8	39 15.2	52 20.2	51 19.8	28 10.9	8 3.1	3 1.2	0 0.0	0 0.0	20 7.8	65.1
	性・働き手の状況別	女性・共働き家庭 (n=176) 100.0	2 1.1	4 2.3	11 6.3	36 20.5	39 22.2	46 26.1	19 10.8	4 2.3	13 7.4	2 1.1	213.6
		男性・共働き家庭 (n=106) 100.0	24 22.6	14 13.2	18 17.0	26 24.5	16 15.1	3 2.8	1 0.9	0 0.0	0 0.0	4 3.8	69.9

【休日】

[上段:実数、下段:%]

			未 0 満 分 15 分	未 15 満 分 30 分	1 30 時 分 間 未 満	未 1 満 2 時 間	未 2 満 3 時 間	未 3 満 5 時 間	未 5 満 7 時 間	未 7 満 8 時 間	8 時 間 以上	無 回 答	平 均 (分)
令和 3 年	全 体 (N=640) 100.0		20 3.1	23 3.6	52 8.1	88 13.8	128 20.0	123 19.2	66 10.3	18 2.8	79 12.3	43 6.7	232.7
	性別	女 性 (n=408) 100.0	5 1.2	7 1.7	21 5.1	43 10.5	84 20.6	98 24.0	51 12.5	13 3.2	63 15.4	23 5.6	267.9
		男 性 (n=249) 100.0	15 6.8	15 6.8	30 13.7	44 20.1	42 19.2	25 11.4	12 5.5	5 2.3	15 6.8	16 7.3	165.7
	性・働き手の状況別	女性・共働き家庭 (n=190) 100.0	0 0.0	2 1.1	9 4.7	19 10.0	40 21.1	39 20.5	30 15.8	9 4.7	38 20.0	4 2.1	296.6
		男性・共働き家庭 (n=109) 100.0	2 1.8	11 10.1	13 11.9	19 17.4	20 18.3	15 13.8	11 10.1	2 1.8	10 9.2	6 5.5	194.3
平成 28 年	全 体 (N=724) 100.0		52 7.2	33 4.6	73 10.1	101 14.0	157 21.7	112 15.5	45 6.2	17 2.3	84 11.6	50 6.9	205.0
	性別	女 性 (n=434) 100.0	18 4.1	6 1.4	32 7.4	50 11.5	103 23.7	86 19.8	39 9.0	11 2.5	66 15.2	23 5.3	245.5
		男 性 (n=257) 100.0	31 12.1	26 10.1	40 15.6	48 18.7	48 18.7	20 7.8	4 1.6	4 1.6	16 6.2	20 7.8	134.1
	性・働き手の状況別	女性・共働き家庭 (n=176) 100.0	1 0.6	0 0.0	6 3.4	16 9.1	47 26.7	37 21.0	25 14.2	4 2.3	38 21.6	2 1.1	294.5
		男性・共働き家庭 (n=106) 100.0	11 10.4	12 11.3	10 9.4	23 21.7	23 21.7	9 8.5	2 1.9	0 0.0	13 12.3	3 2.8	165.1

問8 あなたは、現在、ご家族の介護を行っていらっしゃいますか。（1つに○）

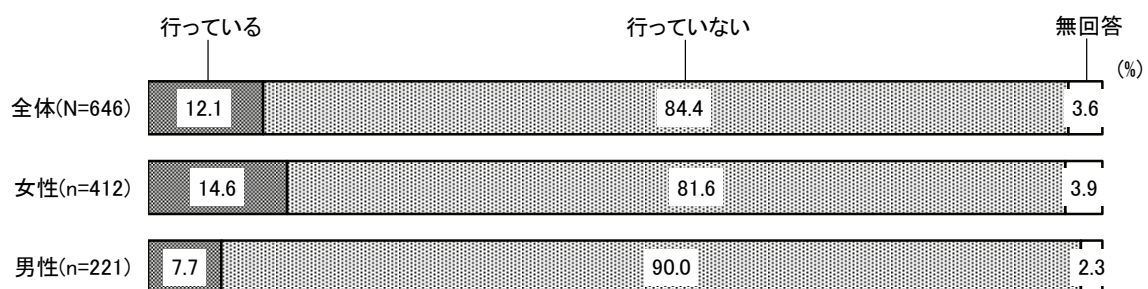
●介護を行っている人は、女性は50代、60代、70代、男性は50代、80代以上で多い

全体では、「行っている」は、12.1%、「行っていない」は84.4%となっている。

性別にみると女性が14.6%で、男性が7.7%となっている。（図表Ⅲ－3－5－①）

性・年代別にみると、「行っている」の割合は、女性は50代が21.5%、60代が25.5%、70代が20.8%と全体と比較して高くなっている。男性は80代以上が18.8%、50代が13.2%と全体よりも高くなっている。（図表Ⅲ－3－5－②）

図表Ⅲ－3－5－① 現在、介護を行っているか（全体、性別）



図表Ⅲ－3－5－② 現在、介護を行っているか（全体、性別、性・年代別）

				[上段:実数、下段:%]		
				行 っ て い る	行 っ て い な い	無 回 答
全	体	(N=646)	100.0	78	545	23
				12.1	84.4	3.6
性	別	女 性	(n=412)	60	336	16
		女 性	100.0	14.6	81.6	3.9
性	別	男 性	(n=221)	17	199	5
		男 性	100.0	7.7	90.0	2.3
性・年代別	女 性	10 代	(n=4)	0	4	0
		10 代	100.0	0.0	100.0	0.0
		20 代	(n=22)	0	21	1
		20 代	100.0	0.0	95.5	4.5
		30 代	(n=68)	5	63	0
		30 代	100.0	7.4	92.6	0.0
		40 代	(n=104)	10	90	4
		40 代	100.0	9.6	86.5	3.8
	男 性	50 代	(n=93)	20	71	2
		50 代	100.0	21.5	76.3	2.2
		60 代	(n=47)	12	34	1
		60 代	100.0	25.5	72.3	2.1
		70 代	(n=48)	10	35	3
		70 代	100.0	20.8	72.9	6.3
		80 代以上	(n=25)	3	17	5
		80 代以上	100.0	12.0	68.0	20.0
	男 性	10 代	(n=2)	0	2	0
		10 代	100.0	0.0	100.0	0.0
		20 代	(n=14)	0	14	0
		20 代	100.0	0.0	100.0	0.0
		30 代	(n=33)	2	31	0
		30 代	100.0	6.1	93.9	0.0
		40 代	(n=51)	3	48	0
		40 代	100.0	5.9	94.1	0.0
	男 性	50 代	(n=38)	5	32	1
		50 代	100.0	13.2	84.2	2.6
		60 代	(n=42)	3	37	2
		60 代	100.0	7.1	88.1	4.8
	男 性	70 代	(n=25)	1	23	1
		70 代	100.0	4.0	92.0	4.0
	男 性	80 代以上	(n=16)	3	12	1
		80 代以上	100.0	18.8	75.0	6.3

問 8-1 あなたは、「介護」を行うことに対して、どのくらい負担を感じますか。
当てはまるものをお選びください。（（１）～（４）について、１つずつ○）

●女性に精神的負担感、肉体的負担感、男性に経済的負担感を特に感じている

（１）社会活動の制約

全体では、「やや負担を感じる」（33.3%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（26.9%）、「非常に負担を感じる」（19.2%）、となっている。

性別にみると、「非常に負担を感じる」と「やや負担を感じる」を合計した＜負担を感じる＞は、女性は55.0%、男性は41.1%となっている。（図表Ⅲ－３－６）

（２）精神的負担

全体では、「やや負担を感じる」（33.3%）が最も多く、次いで「非常に負担を感じる」（26.9%）、同率で「どちらともいえない」（16.7%）、「あまり負担を感じない」（16.7%）となっている。

性別にみると、＜負担を感じる＞は、女性は66.6%、男性は35.3%となっている。（図表Ⅲ－３－６）

（３）経済的負担感

全体では、「やや負担を感じる」（29.5%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（23.1%）、「あまり負担を感じない」（17.9%）となっている。

性別にみると、＜負担を感じる＞は、女性は43.3%、男性は47.1%となっている。（図表Ⅲ－３－６）

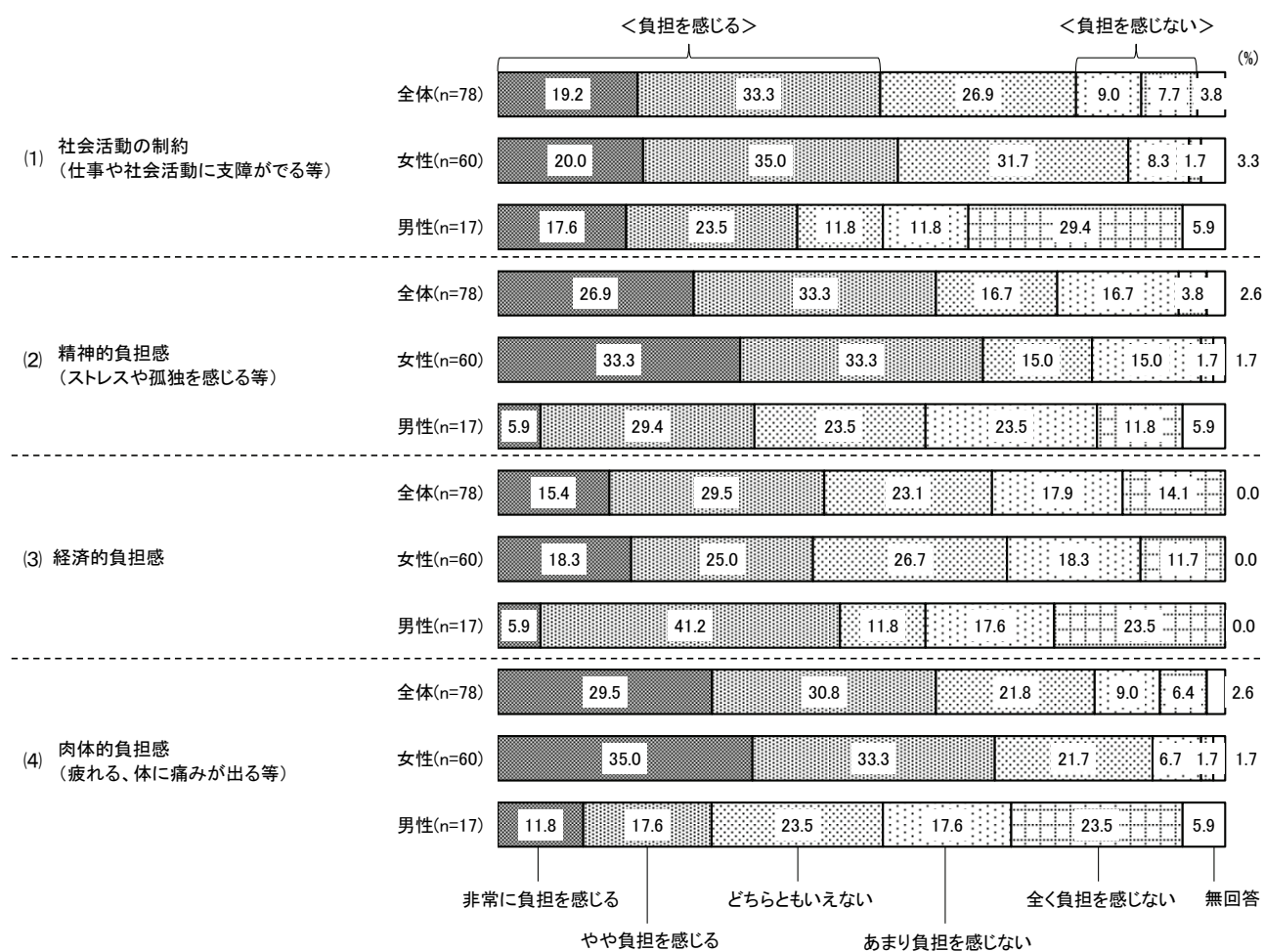
（４）肉体的負担感

全体では、「やや負担を感じる」（30.8%）が最も多く、次いで「非常に負担を感じる」（29.5%）、「あまり負担を感じない」（21.8%）となっている。

性別にみると、＜負担を感じる＞は、女性は68.3%、男性は29.4%となっている。（図表Ⅲ－３－６）

図表Ⅲ－３－６ 介護の負担感（全体、性別）

<介護を行っている人>



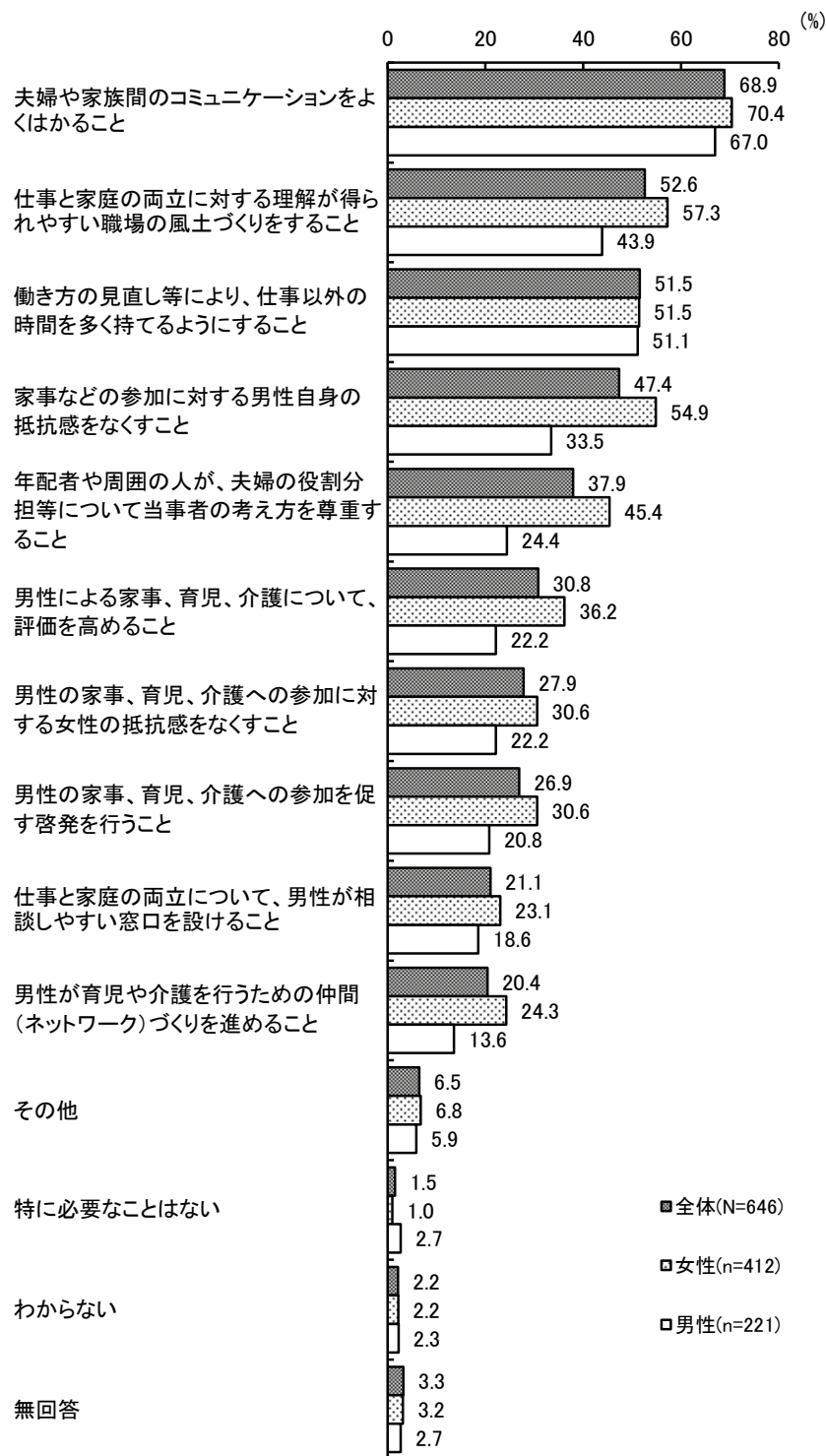
問9 あなたは、男性が家事、育児、介護に参加する際にどのようなことが大切だと思いますか。
(いくつでも○)

●「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」が男女ともに最も多い

全体では、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」(68.9%)が最も多く、次いで「仕事と家庭の両立に対する理解が得られやすい職場の風土づくりをすること」(52.6%)、「働き方の見直し等により、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」(51.5%)となっている。

性別にみると、女性は全体と上位2項目は同様であるが、3位は「家事などの参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(54.9%)となっている。男性の上位3項目は全体と同様であるが、3位の「家事などの参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は33.5%と全体と比較して10ポイント以上低くなっている。また、女性が男性を20ポイント以上、上回っている項目は、「家事などの参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」の2項目となっている。(図表Ⅲ-3-7-①)

図表Ⅲ－３－７－① 男性が家事・育児・介護に参加するために大切なこと
(全体、性別:複数回答)



性・年代別にみると、女性、男性ともに20代以上のすべての年代で「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。また男性の30代では「働き方の見直し等により、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」(69.7%)も同率で最も多くなっている。

性・配偶者の有無別にみると、女性は配偶者の有無にかかわらず「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」(あり:74.5%、なし:62.0%)が最も多くなっている。男性も配偶者の有無にかかわらず「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」(あり:68.5%、なし:62.3%)が最も多くなっている。(図表Ⅲ-3-7-②)

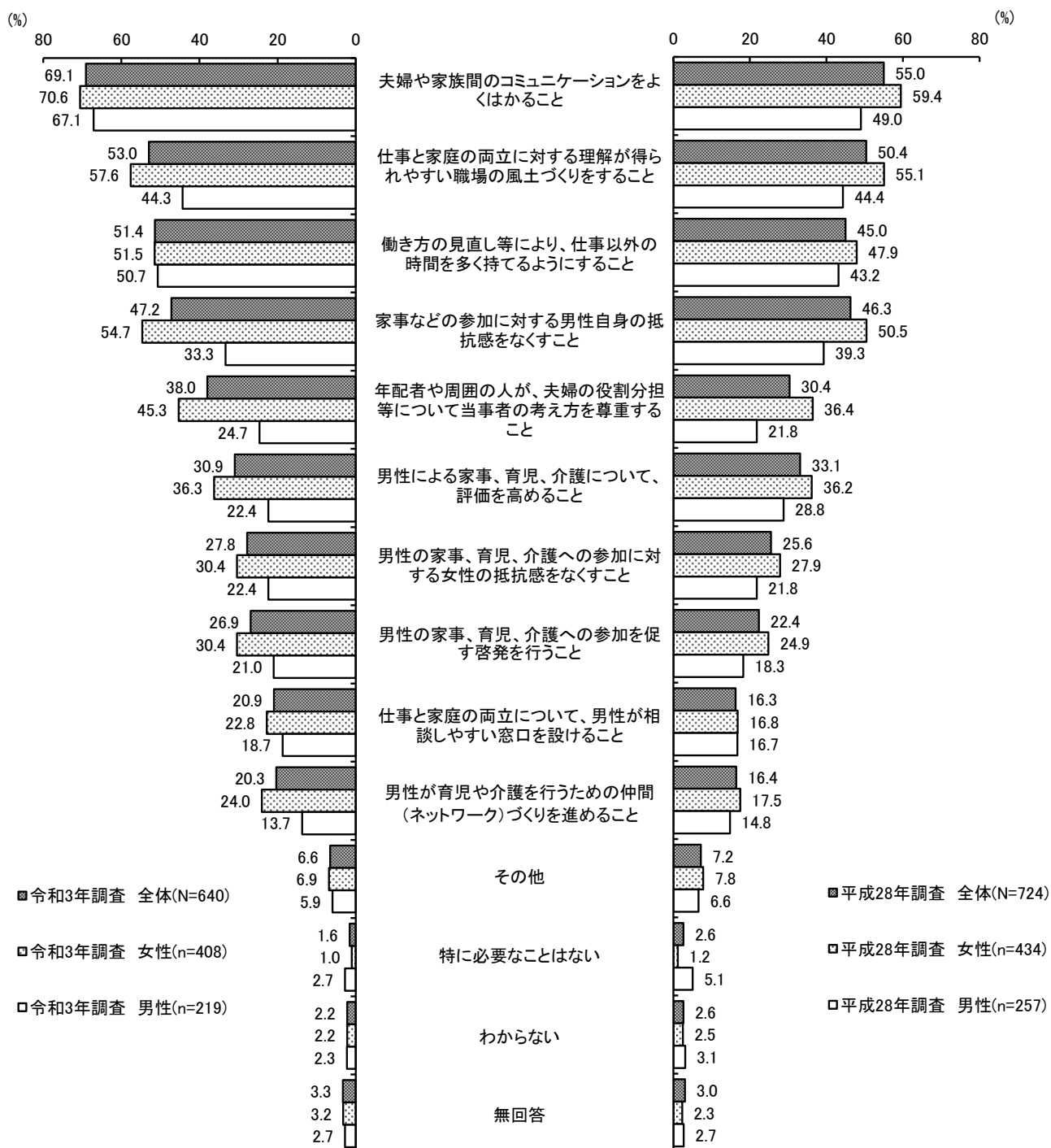
図表Ⅲ-3-7-② 男性が家事・育児・介護に参加するために大切なこと
(全体、性別、性・年代別、性・配偶者の有無別:複数回答)

				[上段:実数、下段:%]															
				くはかること	夫婦や家族間のコミュニケーションをよ	仕事と家庭の両立に対する理解が得られやすい職場の風土づくりをすること	働き方の見直し等により、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	家事などの参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと	年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること	評価を高めること	男性による家事、育児、介護について、男性の抵抗感をなくすこと	男性の家事、育児、介護への参加を促す啓発を行うこと	男性の家事、育児、介護への参加を促すしやすいつい窓口を設けること	男性が育児や介護を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答	
全 体				(N=646) 100.0	445 68.9	340 52.6	333 51.5	306 47.4	245 37.9	199 30.8	180 27.9	174 26.9	136 21.1	132 20.4	42 6.5	10 1.5	14 2.2	21 3.3	
性別	女	性	(n=412) 100.0	290 70.4	236 57.3	212 51.5	226 54.9	187 45.4	149 36.2	126 30.6	126 30.6	95 23.1	100 24.3	28 6.8	4 1.0	9 2.2	13 3.2		
	男	性	(n=221) 100.0	148 67.0	97 43.9	113 51.1	74 33.5	54 24.4	49 22.2	49 22.2	46 20.8	41 18.6	30 13.6	13 5.9	6 2.7	5 2.3	6 2.7		
性・年代別	女性	10代	(n=4) 100.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
		20代	(n=22) 100.0	22 100.0	15 68.2	14 63.6	13 59.1	9 40.9	7 31.8	6 27.3	4 18.2	6 27.3	5 22.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
		30代	(n=68) 100.0	53 77.9	48 70.6	45 66.2	39 57.4	36 52.9	23 33.8	16 23.5	20 29.4	21 30.9	26 38.2	9 13.2	0 0.0	1 1.5	1 1.5		
		40代	(n=104) 100.0	71 68.3	65 62.5	54 51.9	51 49.0	44 42.3	36 34.6	27 26.0	32 30.8	20 19.2	26 25.0	10 9.6	1 1.0	1 1.0	1 1.0		
		50代	(n=93) 100.0	66 71.0	52 55.9	44 47.3	59 63.4	52 55.9	37 39.8	36 38.7	30 32.3	26 28.0	21 22.6	8 8.6	0 0.0	1 1.1	1 1.1		
		60代	(n=47) 100.0	33 70.2	29 61.7	27 57.4	30 63.8	20 42.6	22 46.8	20 42.6	16 34.0	10 21.3	10 21.3	0 0.0	1 2.1	1 2.1	0 0.0		
		70代	(n=48) 100.0	28 58.3	18 37.5	16 33.3	21 43.8	18 37.5	13 27.1	12 25.0	15 31.3	6 12.5	7 14.6	0 0.0	2 4.2	3 6.3	4 8.3		
		80代以上	(n=25) 100.0	14 56.0	8 32.0	10 40.0	9 36.0	6 24.0	10 40.0	6 24.0	7 28.0	4 16.0	3 12.0	1 4.0	0 0.0	2 8.0	6 24.0		
	男性	10代	(n=2) 100.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
		20代	(n=14) 100.0	11 78.6	8 57.1	7 50.0	5 35.7	4 28.6	3 21.4	6 42.9	0 0.0	2 14.3	1 7.1	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
		30代	(n=33) 100.0	23 69.7	21 63.6	23 69.7	8 24.2	8 24.2	9 27.3	5 15.2	11 33.3	7 21.2	7 21.2	2 6.1	0 0.0	1 3.0	0 0.0		
		40代	(n=51) 100.0	38 74.5	33 64.7	32 62.7	20 39.2	16 31.4	14 27.5	12 23.5	11 21.6	12 23.5	9 17.6	2 3.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
		50代	(n=38) 100.0	26 68.4	17 44.7	23 60.5	13 34.2	8 21.1	12 31.6	10 26.3	10 26.3	8 21.1	4 10.5	3 7.9	1 2.6	0 0.0	0 0.0		
		60代	(n=42) 100.0	28 66.7	15 35.7	19 45.2	17 40.5	10 23.8	7 16.7	9 21.4	6 14.3	6 14.3	3 7.1	3 7.1	1 2.4	1 2.4	0 0.0		
		70代	(n=25) 100.0	15 60.0	3 12.0	6 24.0	6 24.0	5 20.0	3 12.0	7 28.0	3 12.0	5 20.0	3 12.0	0 0.0	1 4.0	2 8.0	3 12.0		
		80代以上	(n=16) 100.0	6 37.5	0 0.0	1 6.3	4 25.0	3 18.8	3 6.3	0 0.0	2 12.5	1 6.3	0 0.0	6 6.3	3 6.3	6 6.3	18 18.8		
	性・配偶者の有無別	女性	配偶者いる	(n=274) 100.0	204 74.5	163 59.5	134 48.9	151 55.1	121 44.2	100 36.5	79 28.8	78 28.5	56 20.4	58 21.2	17 6.2	3 1.1	3 1.1	5 1.8	
			配偶者いない	(n=129) 100.0	80 62.0	70 54.3	75 58.1	71 55.0	65 50.4	47 36.4	44 34.1	46 35.7	37 28.7	40 31.0	9 7.0	1 0.8	6 4.7	5 3.9	
		男性	配偶者いる	(n=165) 100.0	113 68.5	72 43.6	86 52.1	60 36.4	36 21.8	36 21.8	37 22.4	34 20.6	27 16.4	22 13.3	9 5.5	4 2.4	2 1.2	4 2.4	
			配偶者いない	(n=53) 100.0	33 62.3	24 45.3	27 50.9	14 26.4	17 32.1	12 22.6	12 22.6	13 22.6	8 15.1	4 7.5	2 3.8	3 5.7	1 1.9	1 1.9	

Ⅲ 調査結果【区民調査】

平成 28 年調査と比較すると、全体では「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」が 14.1 ポイント高くなっている。また、「家事などの参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「男性による家事、育児、介護について、評価を高めること」は、平成 28 年調査から令和 3 年調査にかけて女性では回答の割合が高くなっているが、男性では低くなっている。（図表Ⅲ－３－７－③）

図表Ⅲ－３－７－③ 男性が家事・育児・介護に参加するために大切なこと
（令和 3 年調査・平成 28 年調査：全体、性別：複数回答）



問 10 あなたは、次の地域活動について現在、参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。（【現在の参加状況】、【今後の参加意向】 ごとに、（１）～（１１）について、１つずつ○）

●地域活動に 48.8%が参加している。現在参加している地域活動は、女性は『趣味・生涯学習等サークル活動』、男性は『町会や自治会の活動』が最も多い。今後参加したい活動は、男女ともに『趣味・生涯学習等サークル活動』が最も多い

[現在の参加状況]

全体では、地域活動に＜参加している＞は 48.8%、＜参加していない＞は 51.2%である。

性別にみると、女性は男性より参加率が高くなっている。（図表Ⅲ－３－８－①）

性・年代別にみると、女性は 70 代が 68.8%、80 代以上が 80.0%と他の年代と比較して参加率が高くなっている。男性は 20 代から 50 代は 3 割台で推移しているが、60 代以上では 5 割以上で推移している。（図表Ⅲ－３－８－②）

平成 28 年調査と比較すると、全体では「参加している」が 3.3 ポイント高くなっている。男性の「参加している」の割合は変化がみられないが、女性の割合は 3.7 ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－３－８－③）

現在参加している地域活動は、全体では、『町会や自治会の活動』（17.5%）が最も多く、次いで『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』（17.2%）、『学校の保護者会や P T A 活動』（12.5%）となっている。

性別にみると、女性は『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』（19.7%）が最も多く、次いで『町会や自治会の活動』（16.3%）、『学校の保護者会や P T A 活動』（16.0%）となっている。男性は『町会や自治会の活動』（19.5%）が最も多く、次いで『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』（12.7%）、『防災・防犯・消防団等の活動』（9.0%）となっている。（図表Ⅲ－３－８－④）

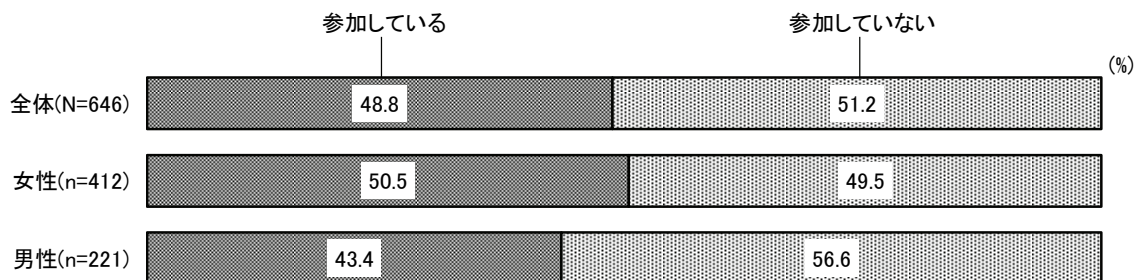
※活動に「参加している」と 1 つ以上回答した人を＜参加している＞、1 つも回答しなかった人を＜参加していない＞とした。

[今後の参加意向]

今後の参加意向が高い活動の種類は、『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』（49.8%）が最も多く、次いで『N P O、ボランティアなどの活動』（37.0%）、『地域交流・国際交流の活動』（32.7%）となっている。

性別にみると、女性は『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』（51.0%）が最も多く、次いで『N P O、ボランティアなどの活動』（38.8%）、『地域交流・国際交流の活動』（33.0%）となっている。男性は『趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動』（48.0%）が最も多く、次いで『N P O、ボランティアなどの活動』（33.9%）、『地域交流・国際交流の活動』（32.1%）となっている。（図表Ⅲ－３－８－④）

図表Ⅲ－３－８－① 地域活動への参加状況
(全体、性別)



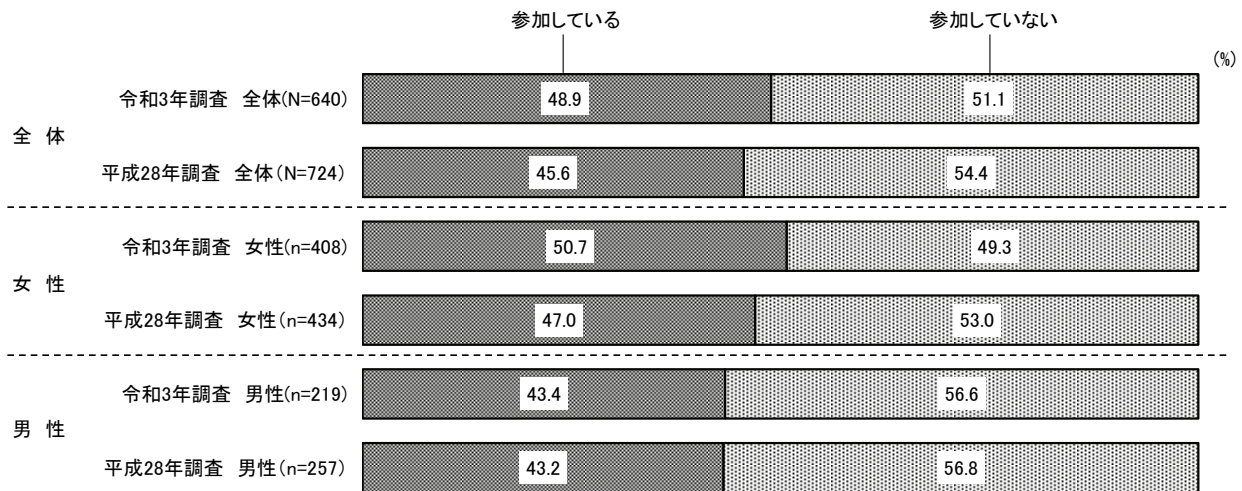
図表Ⅲ－３－８－② 地域活動への参加状況
(全体、性別、性・年代別)

[上段:実数、下段:%]

				参加 して い る	参加 して い ない
全	体	(N=646)	100.0	315	331
				48.8	51.2
性 別	女	性 (n=412)	100.0	208	204
	男	性 (n=221)	100.0	96	125
性 ・ 年 代 別	女 性	10 代 (n=4)	100.0	1	3
		20 代 (n=22)	100.0	4	18
		30 代 (n=68)	100.0	31	37
		40 代 (n=104)	100.0	56	48
		50 代 (n=93)	100.0	38	55
		60 代 (n=47)	100.0	24	23
		70 代 (n=48)	100.0	33	15
		80 代 以上 (n=25)	100.0	20	5
	男 性	10 代 (n=2)	100.0	1	1
		20 代 (n=14)	100.0	5	9
		30 代 (n=33)	100.0	11	22
		40 代 (n=51)	100.0	18	33
		50 代 (n=38)	100.0	13	25
		60 代 (n=42)	100.0	24	18
		70 代 (n=25)	100.0	15	10
		80 代 以上 (n=16)	100.0	9	7

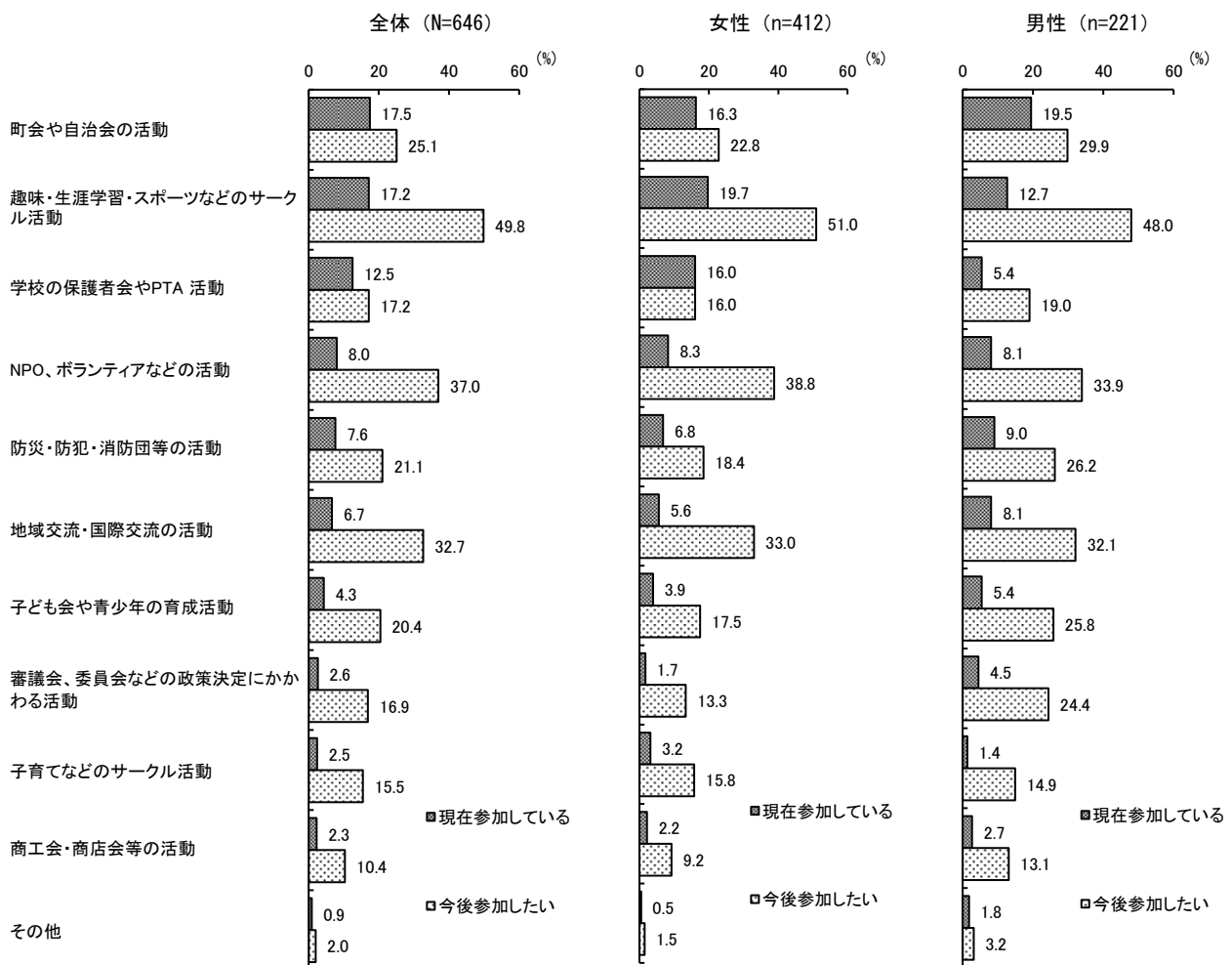
図表Ⅲ－３－８－③ 地域活動への参加状況

(令和３年調査・平成２８年調査:全体、性別)



図表Ⅲ－３－８－④ 地域活動への参加状況・参加意向

(「参加している」、「参加したい」と回答した割合)(全体、性別)

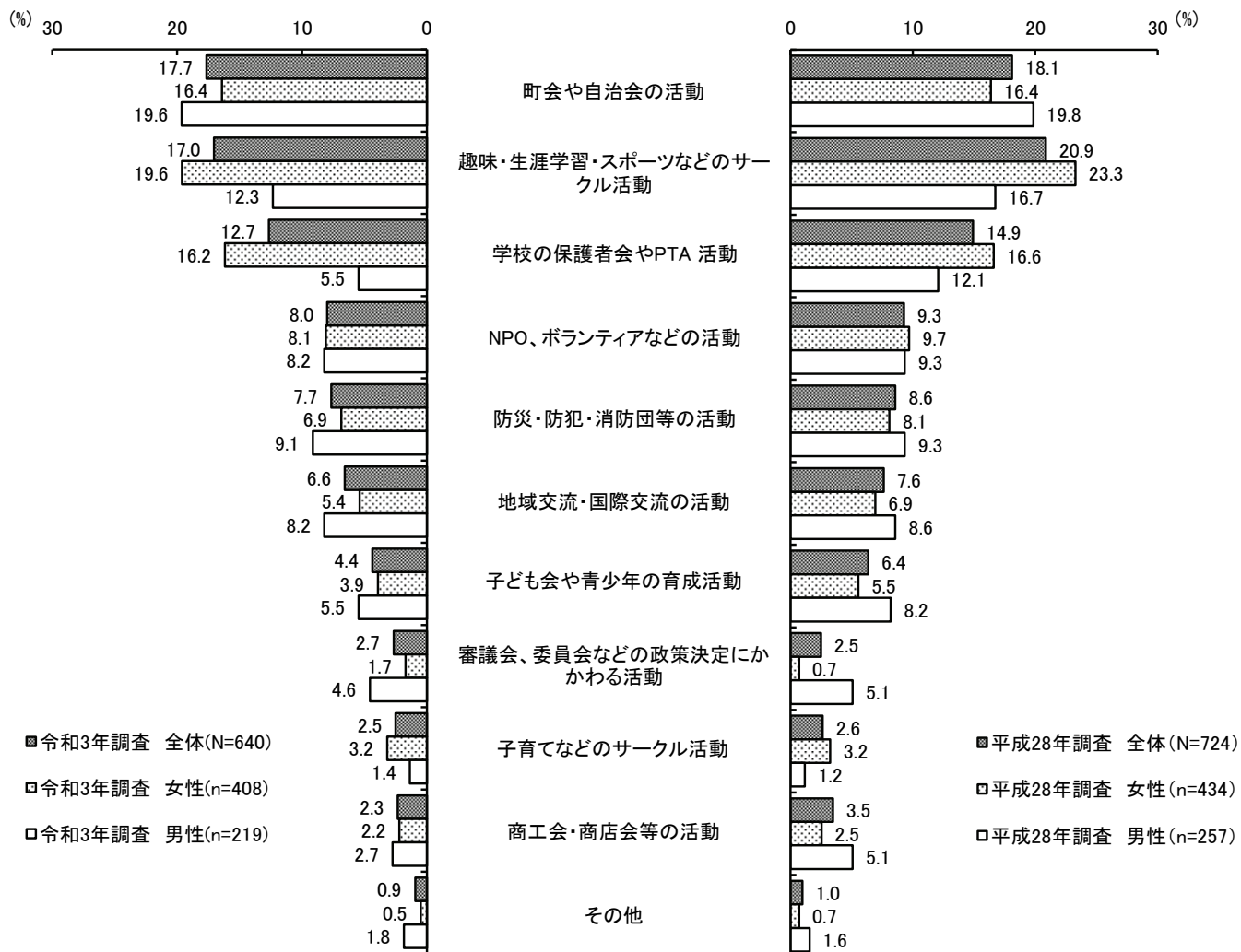


Ⅲ 調査結果【区民調査】

平成 28 年調査と比較すると、全体では、『審議会、委員会などの政策決定にかかわる活動』（2.7%）を除くすべての項目で、参加状況が低くなっている。（図表Ⅲ－３－８－⑤）

図表Ⅲ－３－８－⑤ 地域活動への参加状況（「参加している」と回答した割合）

（令和 3 年調査・平成 28 年調査：全体、性別）



問 10-1 現在、あなたが地域活動に参加していないのはなぜですか。(いくつでも○)

●地域活動に参加していない理由は、「時間的余裕がないから」が最も多い

全体では、「時間的余裕がないから」(54.7%) が最も多く、次いで「どのような活動があるのかわからないから」(38.7%)、「参加方法がわからない、きっかけがないから」(33.2%) となっている。

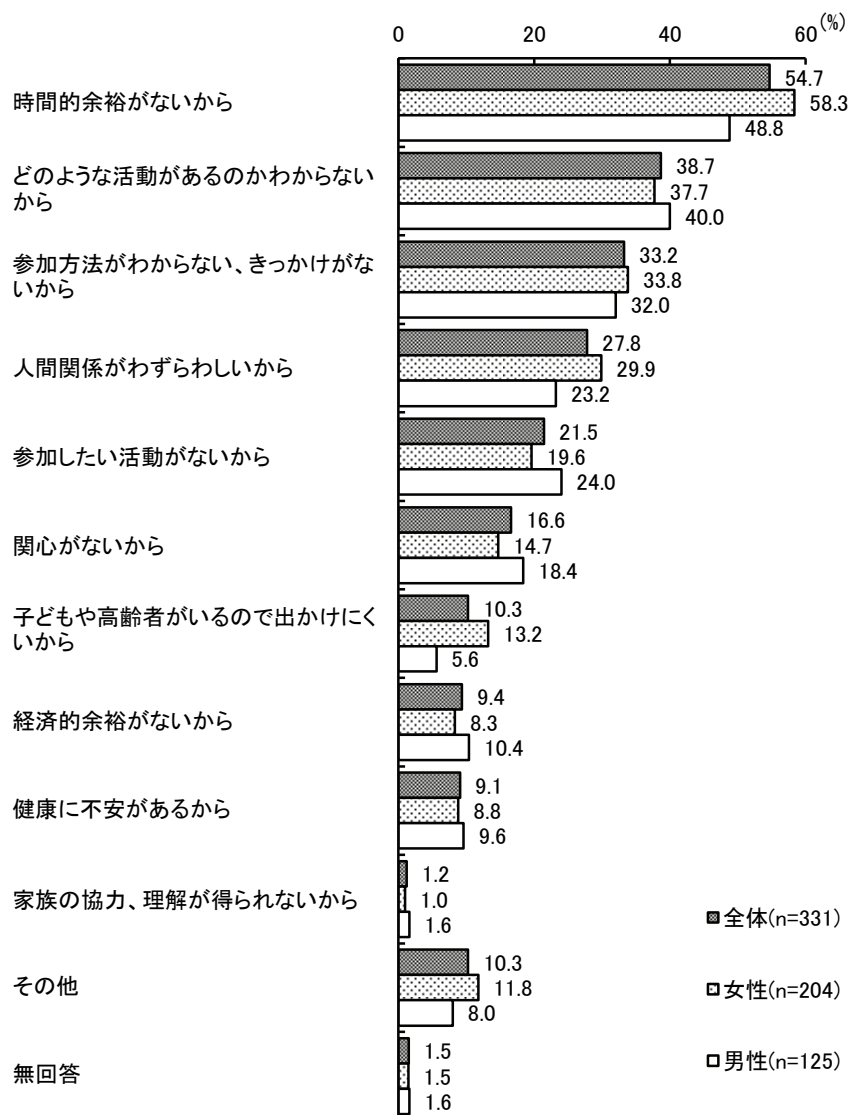
性別にみると、男女ともに上位3項目は全体と同様となっている。「時間的余裕がないから」は、男性よりも女性の方が約10ポイント高くなっている。(図表Ⅲ-3-9-①)

性・年代別にみると、女性は80代以上を除くすべての年代で「時間的余裕がないから」が最も多くなっている。男性は40代、60代、70代、80代以上で「時間的余裕がないから」が最も多くなっている。

居住歴別にみると、3年未満は「どのような活動があるのかわからないから」(55.2%) が最も多くなっている。3年以上～6年未満、6年以上～10年未満、10年以上～15年未満、15年以上～20年未満、20年以上では「時間的余裕がないから」が最も多くなっている。(図表Ⅲ-3-9-②)

図表Ⅲ-3-9-① 地域活動に参加していない理由(全体、性別:複数回答)

<地域活動に現在参加していない人>



図表Ⅲ－３－９－② 地域活動に参加していない理由

(全体、性別、性・年代別、居住歴別：複数回答) <地域活動に現在参加していない人>

[上段:実数、下段:%]

				時間的 余裕が ないから	知らない ような 活動が あるの かわか	参加方 法が分 からない 、きつ	人間関 係がわ ずらわ しいか	参加し たい活 動がな いから	関心が ないか	子ども もや高 齢者が いるの で出か	経済的 余裕が ないか	健康に 不安が あるか	家族の 協力、 理解が 得られ ない	その他	無回 答
全 体 (N=331)				181 100.0	128 38.7	110 33.2	92 27.8	71 21.5	55 16.6	34 10.3	31 9.4	30 9.1	4 1.2	34 10.3	5 1.5
性別	女 性	(n=204)	119 100.0	77 58.3	69 37.7	61 33.8	40 29.9	30 19.6	27 14.7	17 13.2	18 8.3	2 8.8	2 1.0	24 11.8	3 1.5
	男 性	(n=125)	61 100.0	50 48.8	40 40.0	29 32.0	29 23.2	30 24.0	23 18.4	7 5.6	13 10.4	12 9.6	2 1.6	10 8.0	2 1.6
性・年代別	女 性	10 代	(n=3) 100.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代	(n=18) 100.0	12 66.7	8 44.4	9 50.0	7 38.9	2 11.1	2 11.1	2 11.1	1 5.6	1 5.6	0 0.0	3 16.7	0 0.0
		30 代	(n=37) 100.0	25 67.6	20 54.1	16 43.2	10 27.0	11 29.7	6 16.2	7 18.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.7	0 0.0
		40 代	(n=48) 100.0	33 68.8	18 37.5	13 27.1	16 33.3	9 18.8	5 10.4	12 25.0	4 8.3	2 4.2	1 2.1	3 6.3	0 0.0
		50 代	(n=55) 100.0	32 58.2	19 34.5	20 36.4	19 34.5	14 25.5	11 20.0	2 3.6	7 12.7	6 10.9	1 1.8	7 12.7	1 1.8
		60 代	(n=23) 100.0	11 47.8	9 39.1	7 30.4	5 21.7	4 17.4	2 8.7	2 8.7	4 17.4	5 21.7	0 0.0	5 21.7	0 0.0
		70 代	(n=15) 100.0	4 26.7	3 20.0	3 20.0	3 20.0	0 0.0	2 13.3	2 13.3	1 6.7	3 20.0	0 0.0	2 13.3	1 6.7
		80 代以上	(n=5) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0
	男 性	10 代	(n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
		20 代	(n=9) 100.0	3 33.3	4 44.4	2 22.2	5 55.6	4 44.4	4 44.4	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		30 代	(n=22) 100.0	11 50.0	13 59.1	11 50.0	7 31.8	6 27.3	10 45.5	5 22.7	4 18.2	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		40 代	(n=33) 100.0	21 63.6	13 39.4	11 33.3	9 27.3	4 12.1	3 9.1	1 3.0	2 6.1	1 3.0	2 6.1	2 6.1	1 3.0
		50 代	(n=25) 100.0	9 36.0	14 56.0	11 44.0	4 16.0	9 36.0	2 8.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0	5 20.0	0 0.0
		60 代	(n=18) 100.0	12 66.7	3 16.7	3 16.7	2 11.1	5 27.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 22.2	0 0.0	1 5.6	0 0.0
		70 代	(n=10) 100.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		80 代以上	(n=7) 100.0	2 28.6	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	0 0.0	1 14.3	1 14.3
居住歴別	3 年未満			(n=58) 100.0	24 41.4	32 55.2	26 44.8	21 36.2	14 24.1	11 19.0	6 10.3	4 6.9	6 10.3	0 0.0	4 6.9
	3年以上～6年未満			(n=65) 100.0	41 63.1	33 50.8	25 38.5	19 29.2	16 24.6	10 15.4	6 9.2	3 4.6	1 1.5	4 6.2	0 0.0
	6年以上～10年未満			(n=43) 100.0	23 53.5	17 39.5	14 32.6	8 18.6	10 23.3	6 14.0	4 9.3	1 2.3	2 4.7	0 9.3	1 2.3
	10年以上～15年未満			(n=50) 100.0	36 72.0	16 32.0	13 26.0	14 28.0	9 18.0	5 10.0	5 10.0	7 14.0	3 6.0	2 12.0	0 0.0
	15年以上～20年未満			(n=30) 100.0	17 56.7	8 26.7	9 30.0	11 36.7	5 16.7	6 20.0	2 6.7	4 13.3	4 13.3	0 0.0	4 13.3
	20年以上			(n=83) 100.0	40 48.2	21 25.3	21 25.3	18 21.7	17 20.5	16 19.3	7 8.4	8 9.6	12 14.5	1 1.2	11 13.3

4 子育て・教育

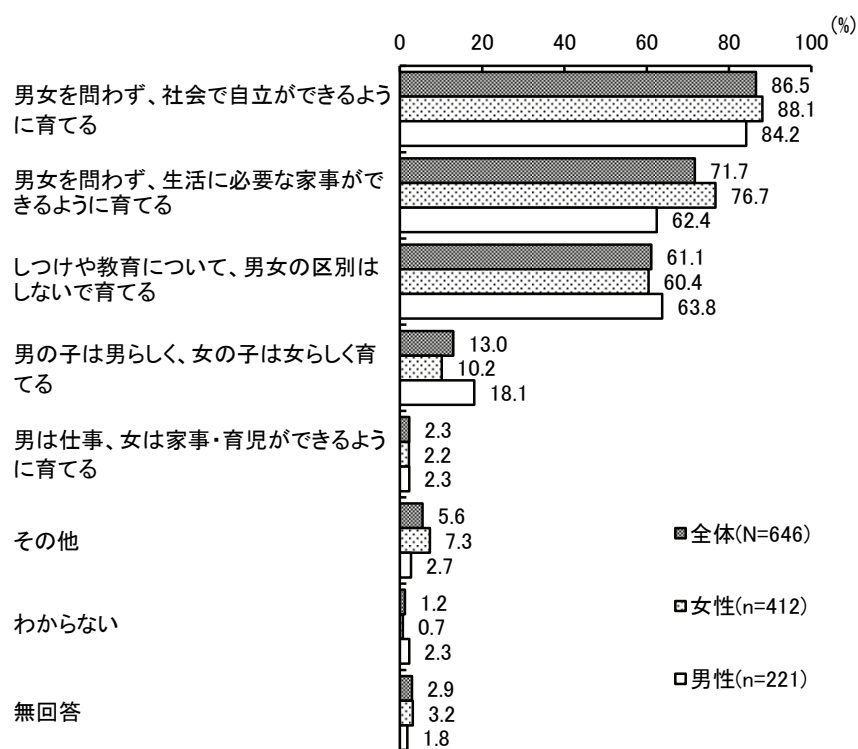
問 11 あなたは、子どもをどのように育てることが望ましいと思いますか。子育てをしていない方もお答えください。(いくつでも○)

●男女ともに「男女を問わず、社会で自立ができるように育てる」が最も多い

全体では、「男女を問わず、社会で自立ができるように育てる」(86.5%) が最も多く、次いで「男女を問わず、生活に必要な家事ができるように育てる」(71.7%)、「しつけや教育について、男女の区別はしないで育てる」(61.1%) となっている。

性別にみると、女性は全体と上位3項目が同様であるが、男性は「男女を問わず、社会で自立ができるように育てる」(84.2%) が最も多く、次いで「しつけや教育について、男女の区別はしないで育てる」(63.8%) となっている。また、「男女を問わず、生活に必要な家事ができるように育てる」は、女性が 76.7%、男性が 62.4%と男性よりも女性の方が 14.3 ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－4－1－①)

図表Ⅲ－4－1－① 子育て観（全体、性別：複数回答）



Ⅲ 調査結果【区民調査】

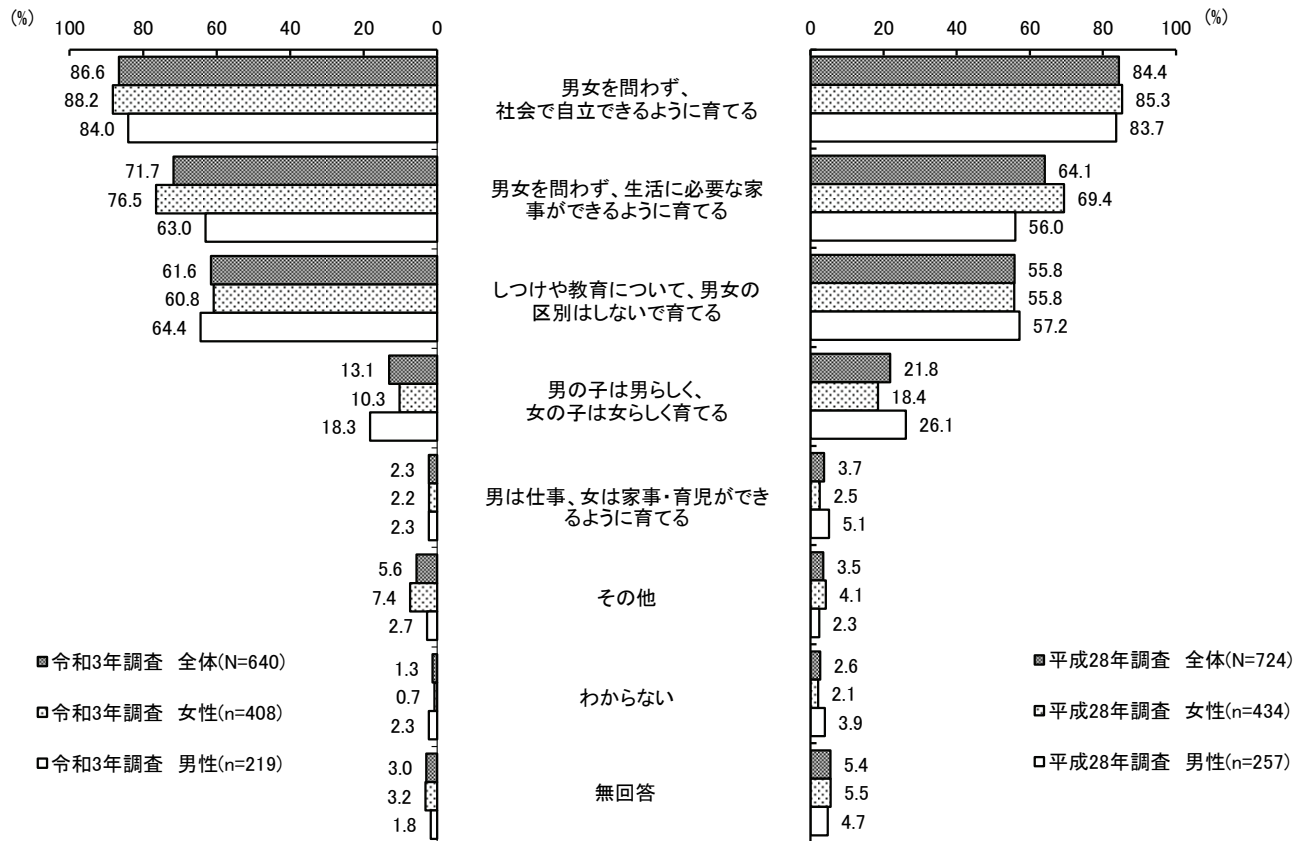
性・年代別にみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合は、20代、40～70代で男女間に差があるが、特に40代では女性が6.7%、男性が23.5%と女性よりも男性の方が16.8ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－４－１－②)

図表Ⅲ－４－１－② 子育て観（全体、性別、性・年代別：複数回答）

[上段:実数、下段:%]											
				男 女 を 間 わ ず 、 社 会 で 自 立 が で き る よ う に 育 て る	男 女 が で き る よ う に 生 活 に 必 要 な 家 事	区 別 し つ け は し な い 教 育 に つ い て 、 男 女 の	男 の 子 は 男 ら し く 、 女 の 子 は 女 ら し く 育 て る	男 は 仕 事 、 女 は 家 事 ・ 育 児 が で き る よ う に 育 て る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体 (N=646)				559 100.0	463 71.7	395 61.1	84 13.0	15 2.3	36 5.6	8 1.2	19 2.9
性 別	女 性 (n=412)			363 100.0	316 76.7	249 60.4	42 10.2	9 2.2	30 7.3	3 0.7	13 3.2
	男 性 (n=221)			186 100.0	138 62.4	141 63.8	40 18.1	5 2.3	6 2.7	5 2.3	4 1.8
性・年代別	女 性	10 代 (n=4)		3 100.0	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=22)		21 100.0	16 72.7	16 72.7	1 4.5	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=68)		65 100.0	56 82.4	45 66.2	5 7.4	1 1.5	6 8.8	0 0.0	0 0.0
		40 代 (n=104)		94 100.0	86 82.7	59 56.7	7 6.7	2 1.9	7 6.7	0 0.0	1 1.0
		50 代 (n=93)		85 100.0	74 79.6	59 63.4	9 9.7	3 3.2	7 7.5	0 0.0	1 1.1
		60 代 (n=47)		42 100.0	36 76.6	28 59.6	5 10.6	0 0.0	4 8.5	0 0.0	0 0.0
		70 代 (n=48)		36 100.0	29 60.4	29 60.4	9 18.8	0 0.0	5 10.4	1 2.1	6 12.5
		80代以上 (n=25)		16 100.0	14 56.0	11 44.0	6 24.0	3 12.0	0 0.0	2 8.0	5 20.0
	男 性	10 代 (n=2)		2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=14)		11 100.0	9 64.3	10 71.4	2 14.3	1 7.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=33)		30 100.0	27 81.8	26 78.8	2 6.1	0 0.0	0 0.0	1 3.0	0 0.0
		40 代 (n=51)		50 100.0	36 70.6	27 52.9	12 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		50 代 (n=38)		32 100.0	24 63.2	25 65.8	5 13.2	2 5.3	2 5.3	2 5.3	0 0.0
		60 代 (n=42)		34 100.0	27 64.3	30 71.4	8 19.0	2 4.8	1 2.4	0 0.0	2 4.8
		70 代 (n=25)		19 100.0	11 44.0	16 64.0	7 28.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0
		80代以上 (n=16)		8 100.0	4 25.0	7 43.8	4 25.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	2 12.5

平成 28 年調査と比較すると、令和 3 年調査の全体では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」が 13.1%であり、平成 28 年調査（21.8%）より 8.7 ポイント低くなっている。（図表Ⅲ－４－１－③）

図表Ⅲ－４－１－③ 子育て観（令和 3 年調査・平成 28 年調査：全体、性別：複数回答）



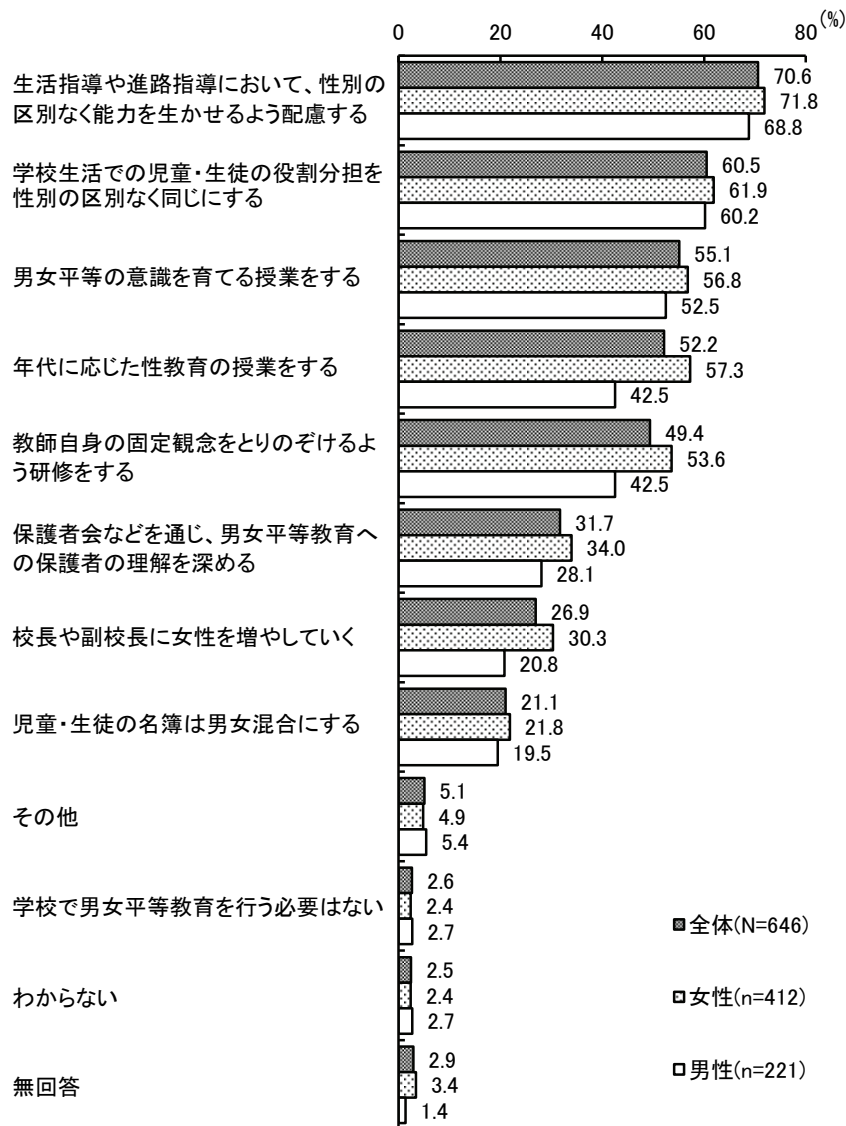
問 12 あなたは、学校教育の中で、次のうちどのようなことが行われるとよいと思いますか。
(いくつでも○)

●「生活指導や進路指導において、性別の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も多い

全体では、「生活指導や進路指導において、性別の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(70.6%)が最も多く、次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を性別の区別なく同じにする」(60.5%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(55.1%)となっている。

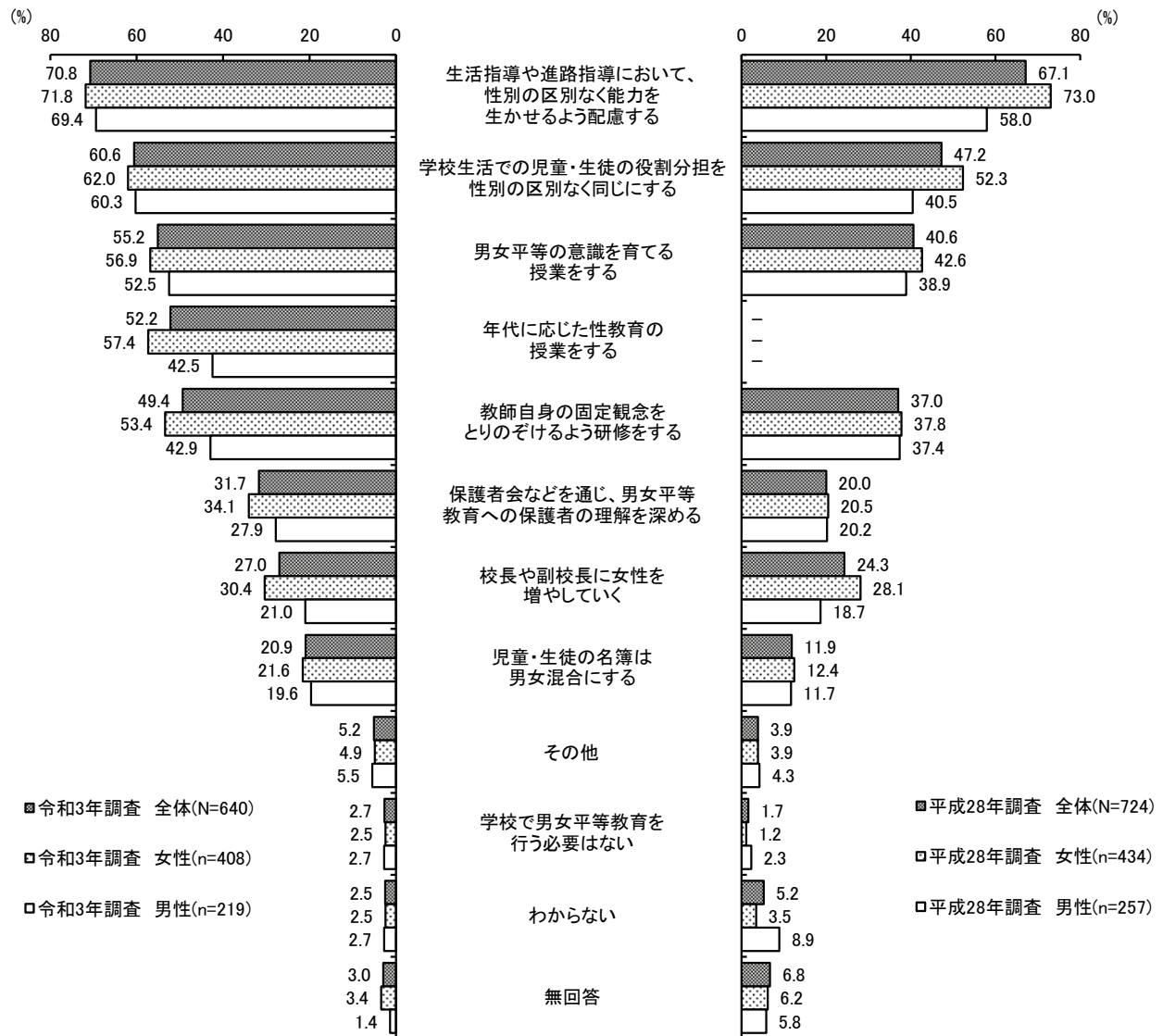
性別にみると、男性は全体と上位3項目が同様である。女性は全体と上位2項目が同様で、「年代に応じた性教育の授業をする」(57.3%)が3位となっており、その割合は男性を14.8ポイント上回っている。(図表Ⅲ－4－2－①)

図表Ⅲ－4－2－① 学校教育の中で行われるとよいと思うこと
(全体、性別：複数回答)



平成 28 年調査と比較すると、「学校生活での児童・生徒の役割分担を性別の区別なく同じにする」(60.6%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(55.2%)、「教師自身の固定観念をとりのぞけるよう研修をする」(49.4%)、「保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める」(31.7%)は、平成 28 年調査から 10 ポイント以上高くなっている。(図表Ⅲ－４－２－②)

図表Ⅲ－４－２－② 学校教育の中で行われるとよいと思うこと
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)



※「年代に応じた性教育の授業をする」は、令和3年調査から追加された。

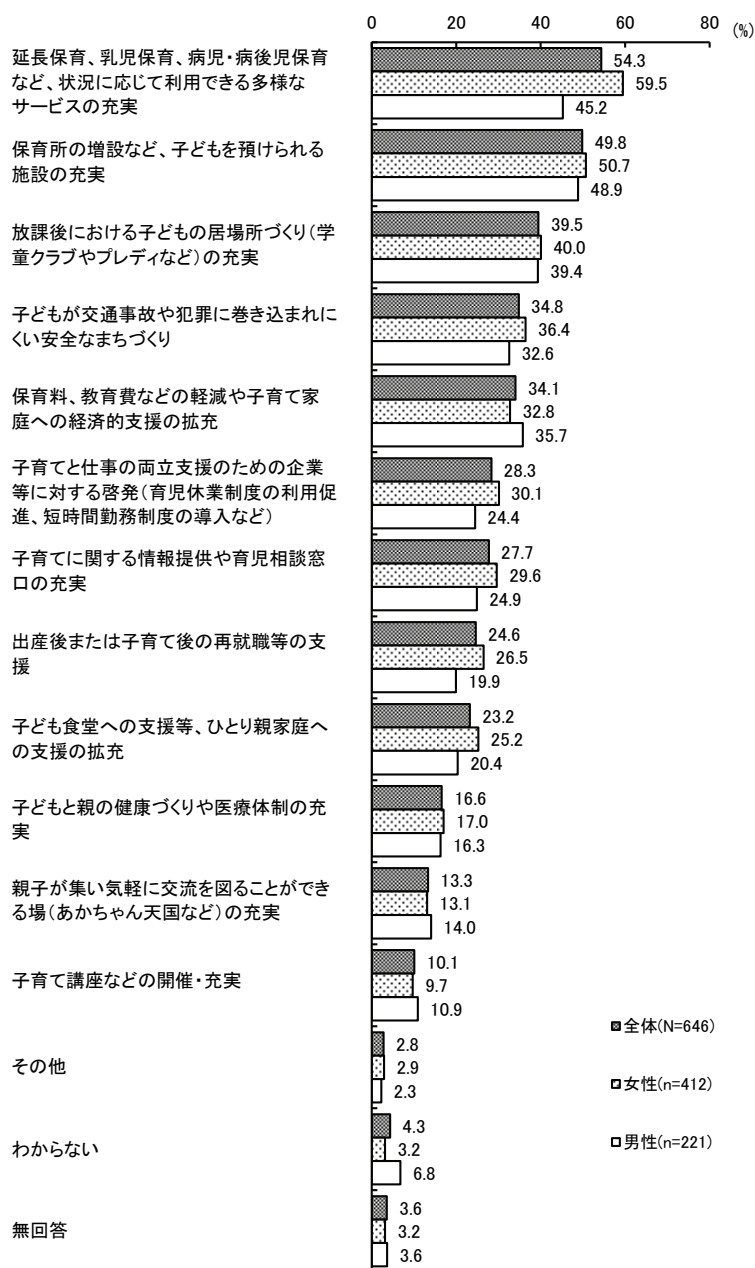
問 13 あなたは、地域で子育てをしやすくするために、今後、区はどのような施策を進める必要があると思われますか。（3つまで○）

●「状況に応じて利用できる多様な保育サービスの充実」が最も多い

全体では、「延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など、状況に応じて利用できる多様なサービスの充実」(54.3%) が最も多く、次いで「保育所の増設など、子どもを預けられる施設の充実」(49.8%)、「放課後における子どもの居場所づくり(学童クラブやプレディなど)の充実」(39.5%) となっている。

性別にみると、女性は「延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など、状況に応じて利用できる多様なサービスの充実」(59.5%) が最も多く、男性は「保育所の増設など、子どもを預けられる施設の充実」(48.9%) が最も多くなっている。(図表Ⅲ－４－３－①)

図表Ⅲ－４－３－① 子育てをしやすくするために区が進めるべき施策
(全体、性別:複数回答)



性・年代別にみると、男性 20 代、80 代以上は全体の上位 3 項目ではない「保育料、教育費などの軽減や子育て家庭への経済的支援の拡充」（20 代:64.3%、80 代以上:25.0%）が最も多くなっている。（図表Ⅲ－４－３－②）

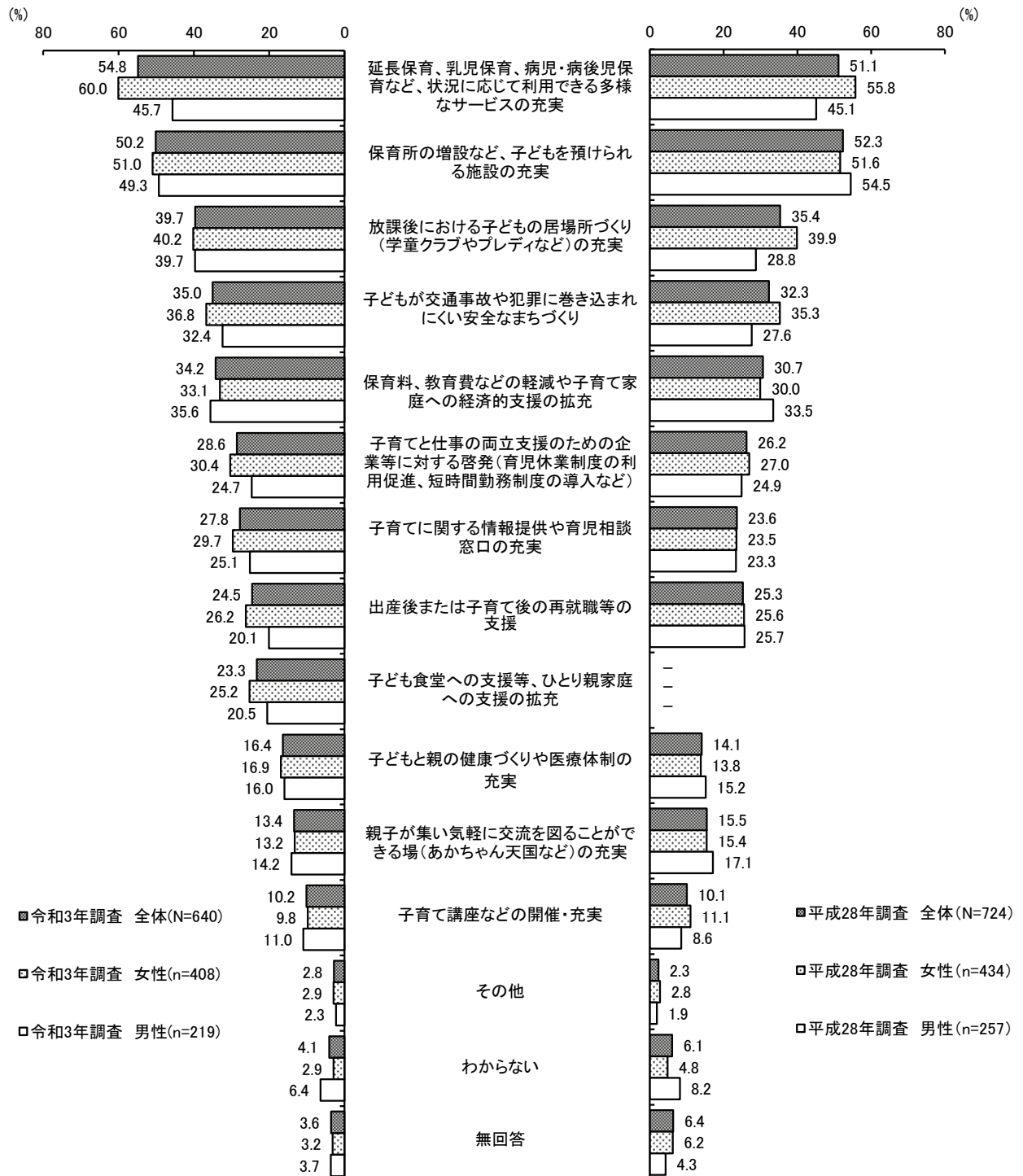
図表Ⅲ－４－３－② 子育てをしやすくするために区が進めるべき施策
（全体、性・年代別：複数回答）

			[上段:実数、下段: %]														
			延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など、状況に応じて利用できる多様なサービスの充実	保育所の増設など、子どもを預けられる施設の充実	放課後における子どもの居場所づくり（学童クラブやプレディなど）の充実	子どもが交通事故や犯罪に巻き込まれにくい安全なまちづくり	保育料、教育費などの軽減や子育て家庭への経済的支援の拡充	子育てと仕事の両立支援のための企業等に対する啓発（育児休業制度の利用促進、短時間勤務制度の導入など）	子育てに関する情報提供や育児相談窓口の充実	出産後または子育て後の再就職等の支援	子ども食堂への支援等、ひとり親家庭への支援の拡充	子どもと親の健康づくりや医療体制の充実	親子が集い気軽に交流を図ることができる場（あかちゃん天国など）の充実	子育て講座などの開催・充実	その他	わからない	無回答
全	体	(N=646)	351 100.0	322 49.8	255 39.5	225 34.8	220 34.1	183 28.3	179 27.7	159 24.6	150 23.2	107 16.6	86 13.3	65 10.1	18 2.8	28 4.3	23 3.6
性・年代別	女性	10代	(n=4) 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 25.0	1 50.0	2 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 25.0	1 0.0
		20代	(n=22) 100.0	14 63.6	15 68.2	6 27.3	7 31.8	13 59.1	6 27.3	10 45.5	7 31.8	6 27.3	8 36.4	1 4.5	2 9.1	0 0.0	1 4.5
		30代	(n=68) 100.0	53 77.9	46 67.6	32 47.1	26 38.2	30 44.1	23 33.8	26 38.2	19 27.9	12 17.6	11 16.2	10 14.7	12 17.6	5 7.4	0 0.0
		40代	(n=104) 100.0	59 56.7	46 44.2	47 45.2	48 46.2	38 36.5	33 31.7	24 23.1	26 25.0	25 24.0	17 16.3	13 12.5	8 7.7	5 4.8	4 3.8
		50代	(n=93) 100.0	56 60.2	48 51.6	39 41.9	32 34.4	27 29.0	22 23.7	33 35.5	30 32.3	26 28.0	18 19.4	13 14.0	10 10.8	2 2.2	2 2.2
		60代	(n=47) 100.0	34 72.3	23 48.9	17 36.2	10 21.3	14 29.8	17 36.2	18 38.3	11 23.4	12 25.5	8 17.0	7 14.9	5 10.6	0 0.0	0 0.0
		70代	(n=48) 100.0	20 41.7	20 41.7	14 29.2	20 41.7	10 20.8	13 27.1	6 12.5	12 25.0	15 31.3	6 12.5	5 10.4	2 4.2	0 0.0	2 4.2
		80代以上	(n=25) 100.0	9 36.0	10 40.0	8 32.0	7 28.0	3 12.0	9 36.0	4 16.0	2 8.0	7 28.0	1 4.0	5 20.0	1 4.0	0 0.0	3 12.0
	男性	10代	(n=2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
		20代	(n=14) 100.0	5 35.7	8 57.1	5 35.7	4 28.6	9 64.3	5 35.7	3 21.4	2 14.3	4 28.6	1 7.1	1 7.1	2 14.3	0 0.0	0 0.0
		30代	(n=33) 100.0	19 57.6	19 57.6	19 57.6	11 33.3	16 48.5	7 21.2	9 27.3	5 15.2	6 18.2	6 18.2	6 18.2	4 12.1	1 3.0	3 9.1
		40代	(n=51) 100.0	27 52.9	30 58.8	25 49.0	22 43.1	19 37.3	14 27.5	11 21.6	15 29.4	16 31.4	11 21.6	10 19.6	6 11.8	1 2.0	2 3.9
		50代	(n=38) 100.0	16 42.1	13 34.2	12 31.6	10 26.3	11 28.9	9 23.7	7 18.4	6 15.8	7 18.4	1 2.6	3 7.9	3 7.9	2 5.3	5 13.2
		60代	(n=42) 100.0	20 47.6	19 45.2	13 31.0	10 23.8	14 33.3	13 31.0	16 38.1	10 23.8	7 16.7	9 21.4	5 11.9	6 14.3	1 2.4	2 4.8
		70代	(n=25) 100.0	10 40.0	16 64.0	10 40.0	12 48.0	5 20.0	6 24.0	8 32.0	6 24.0	5 20.0	6 24.0	5 20.0	2 8.0	0 0.0	1 4.0
		80代以上	(n=16) 100.0	3 18.8	3 18.8	3 18.8	2 12.5	4 25.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	1 6.3

Ⅲ 調査結果【区民調査】

平成 28 年調査と比較すると、平成 28 年調査の全体では、「保育所の増設など、子どもを預けられる施設の充実」(52.3%) が最も多く、次いで「延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など、状況に応じて利用できる多様なサービスの充実」(51.1%) となっており、令和 3 年調査と上位 2 項目が入れ替わっている。(図表Ⅲ－４－３－③)

図表Ⅲ－４－３－③ 子育てをしやすくするために区が進めるべき施策
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)



※「子ども食堂への支援等、ひとり親家庭への支援の拡充」は、令和3年調査から追加された。

5 働き方

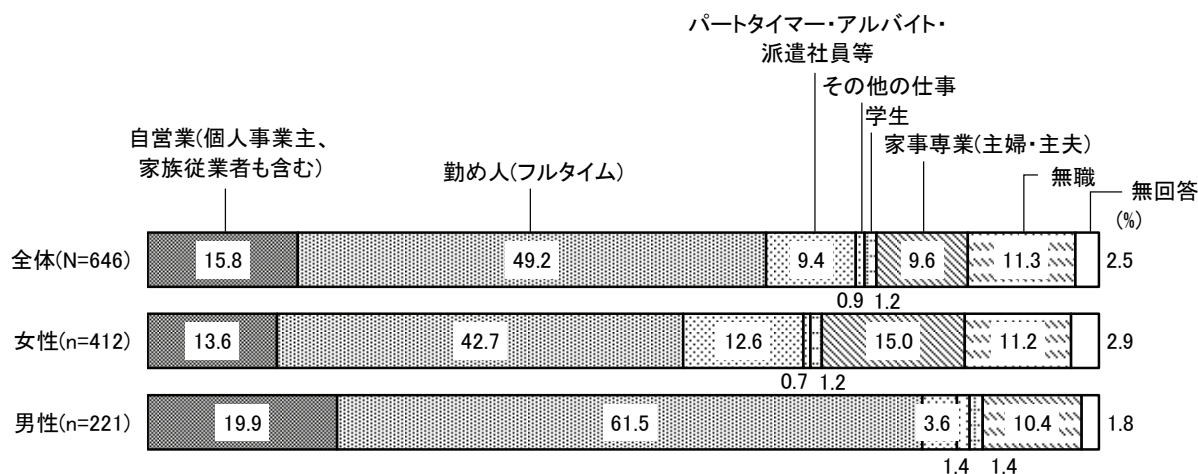
問 14 あなたの職業は次のうちどれにあたりますか。（1つに○）

●男女ともに「勤め人（フルタイム）」が最も多い

全体では、「勤め人（フルタイム）」（49.2%）が最も多く、次いで「自営業（個人事業主、家族従業者も含む）」（15.8%）、「無職」（11.3%）となっている。

性別にみると、女性は「勤め人（フルタイム）」（42.7%）が最も多く、次いで「家事専業（主婦・主夫）」（15.0%）、「自営業（個人事業主、家族従業者も含む）」（13.6%）、「パートタイマー・アルバイト・派遣社員等」（12.6%）、「無職」（11.2%）の4項目が1割を超えている。男性は「勤め人（フルタイム）」（61.5%）が6割を占め最も多く、次いで「自営業（個人事業主、家族従業者も含む）」（19.9%）、「無職」（10.4%）となっている。（図表Ⅲ－5－1）

図表Ⅲ－5－1 現在の職業（全体、性別）



問 14-1 現在、働いている方にうかがいます。あなたの職場では、仕事と子育て・介護の両立に対する配慮があると思いますか。（1つに○）

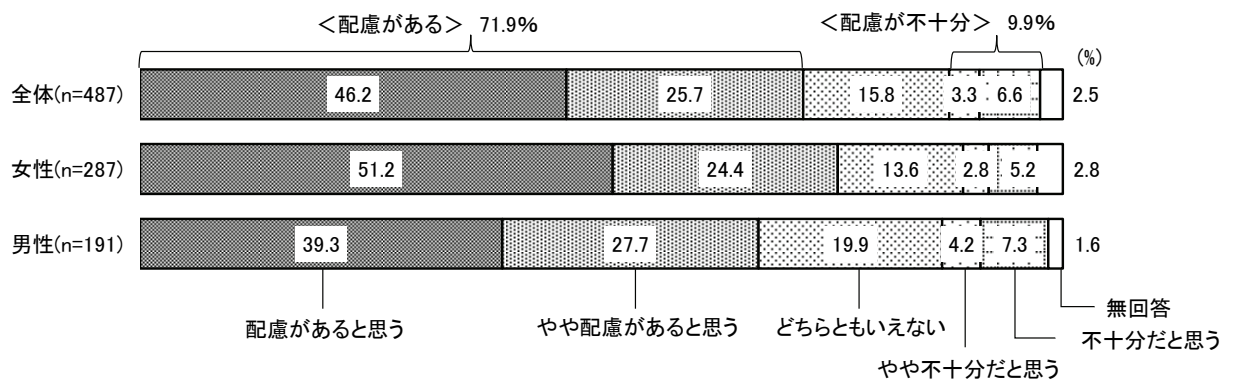
●女性 は 75.6%、男性 は 67.0% が職場における両立支援の配慮があると思っている

全体では、「配慮があると思う」（46.2%）と「やや配慮があると思う」（25.7%）を合計した＜配慮がある＞は71.9%となっている。

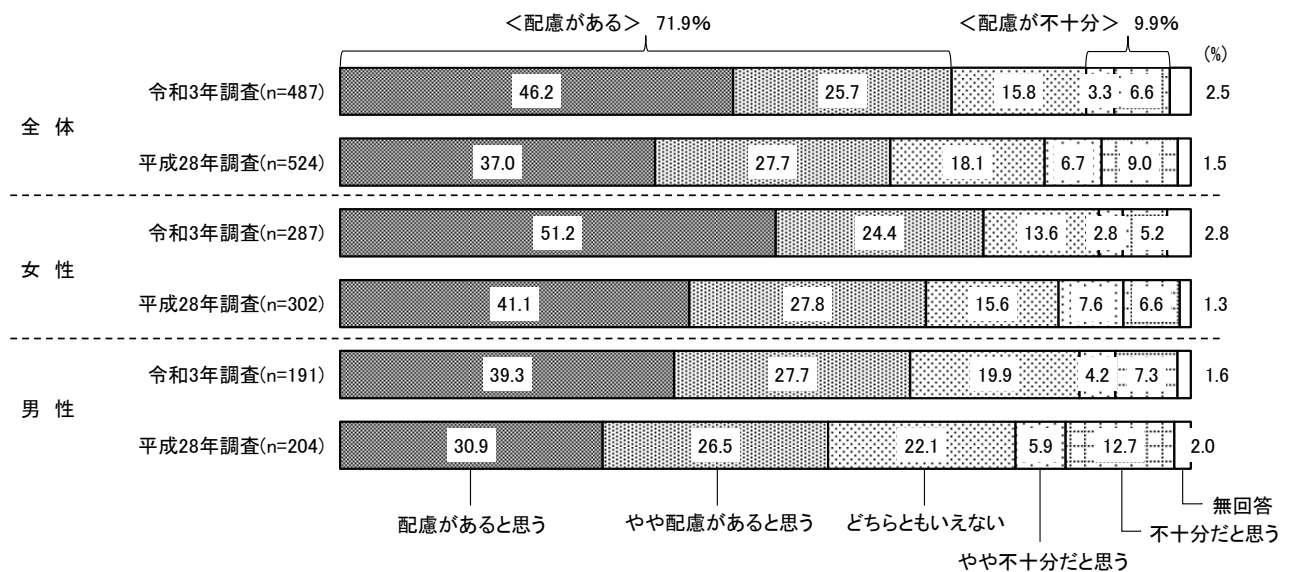
性別にみると、女性の方が＜配慮がある＞（女性：75.6%、男性：67.0%）の割合が高くなっている。（図表Ⅲ－５－２－①）

平成 28 年調査と比較すると、＜配慮がある＞の割合は女性で 6.7 ポイント、男性で 9.6 ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－５－２－②）

図表Ⅲ－５－２－① 職場における仕事と子育て・介護の両立に対する配慮の有無
（全体、性別）＜現在働いている人＞



図表Ⅲ－５－２－② 職場における仕事と子育て・介護の両立に対する配慮の有無
（令和 3 年調査・平成 28 年調査：全体、性別）＜現在働いている人＞



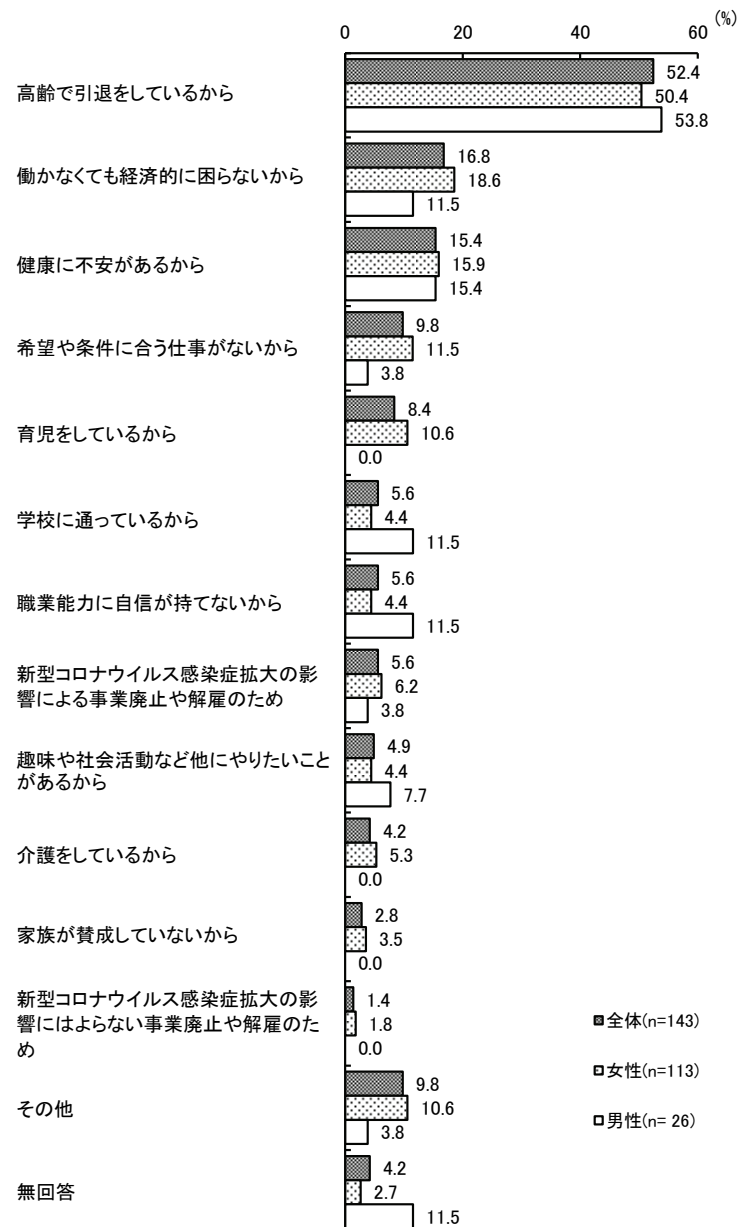
問 14-2 現在、働いていない方にうかがいます。現在、働いていないのはなぜですか。
(いくつでも○)

●「感染症拡大の影響による事業廃止や解雇のため」は、女性が6.2%、男性が3.8%

全体では、「高齢で引退をしているから」(52.4%)が最も多く、次いで「働かなくても経済的に困らないから」(16.8%)、「健康に不安があるから」(15.4%)、「希望や条件に合う仕事がないから」(9.8%)となっている。「その他」(9.8%)の具体的な内容は、「コロナ禍でステイホームしたいから」、「妊娠中」、「保育所が決まらなかったため退職せざるを得なかった」、「ずっと主婦」などの回答があった。

性別にみると、女性は「育児をしているから」(10.6%)、「介護をしているから」(5.3%)、「家族が賛成していないから」(3.5%)と回答する人がいるが、男性では回答する人はいない。また、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響による事業廃止や解雇のため」は、女性が6.2%、男性が3.8%となっている。(図表Ⅲ－５－３)

図表Ⅲ－５－３ 働いていない理由（全体、性別：複数回答）＜現在働いていない人＞



問 14-3 現在、働いていない方にうかがいます。今後、働きたいと思いますか。（1つに○）

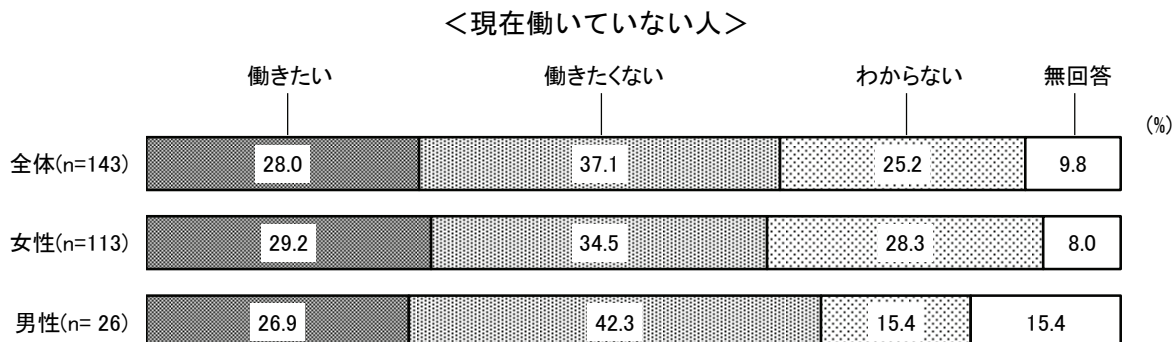
●働きたい人は、女性が 29.2%、男性が 26.9%

全体では、「働きたくない」が 37.1%、「働きたい」が 28.0%、「わからない」が 25.2%となっている。

性別にみると、「働きたい」は女性が 29.2%、男性が 26.9%である。（図表Ⅲ－５－４－①）

性・年代別にみると、女性は年代が高い方が「働きたい」の割合が低い傾向となっている。（図表Ⅲ－５－４－②）

図表Ⅲ－５－４－① 今後の就労意向（全体、性別）



図表Ⅲ－５－４－② 今後の就労意向（全体、性別、性・年代別）

＜現在働いていない人＞

[上段:実数、下段:%]

			働 き た い	な 働 き た く	い わ か ら な	無 回 答	
全 体 (n=143)			40	53	36	14	
			100.0	28.0	37.1	25.2	
性 別	女 性 (n=113)		33	39	32	9	
		100.0	29.2	34.5	28.3	8.0	
	男 性 (n=26)		7	11	4	4	
		100.0	26.9	42.3	15.4	15.4	
性・年 代 別	女 性	10 代 (n=4)	4	0	0	0	
			100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n=4)	2	0	2	0	
			100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
		30 代 (n=3)	2	1	0	0	
			100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
		40 代 (n=15)	7	4	4	0	
			100.0	46.7	26.7	26.7	0.0
	50 代 (n=16)	6	2	8	0		
		100.0	37.5	12.5	50.0	0.0	
	60 代 (n=23)	5	8	10	0		
		100.0	21.7	34.8	43.5	0.0	
	70 代 (n=26)	5	12	5	4		
		100.0	19.2	46.2	19.2	15.4	
	80 代 以上 (n=21)	2	12	2	5		
		100.0	9.5	57.1	9.5	23.8	
	男 性	10 代 (n=2)	2	0	0	0	
			100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n=1)	0	1	0	0	
			100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
30 代 (n=0)		0	0	0	0		
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
40 代 (n=0)		0	0	0	0		
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
50 代 (n=1)	1	0	0	0			
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
60 代 (n=5)	2	3	0	0			
	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0		
70 代 (n=9)	1	3	2	3			
	100.0	11.1	33.3	22.2	33.3		
80 代 以上 (n=8)	1	4	2	1			
	100.0	12.5	50.0	25.0	12.5		

6 仕事と生活の調和

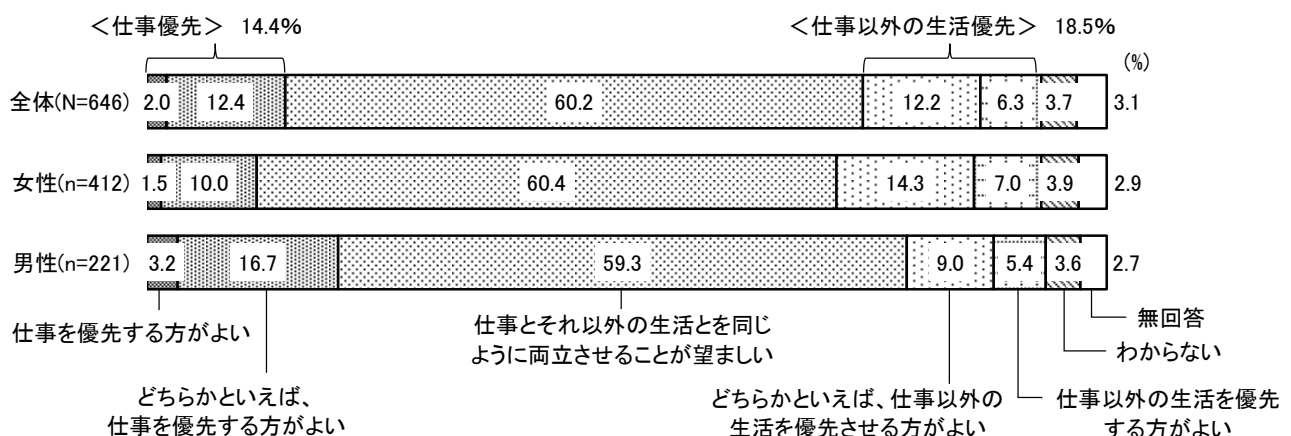
問 15 あなた自身のワーク・ライフ・バランスについて、望ましいと思うものはどれですか。現在仕事をしていない方もお答えください。（1つに○）

●仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることを望む人が 60.2%

全体では、「仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい」（60.2%）が6割を占め、「どちらかといえば、仕事を優先する方がよい」（12.4%）、「どちらかといえば、仕事以外の生活を優先させる方がよい」（12.2%）がそれぞれ1割台となっている。なお、＜仕事優先＞（「仕事を優先する方がよい」と「どちらかといえば、仕事を優先する方がよい」の合計）は14.4%、＜仕事以外の生活優先＞（「仕事以外の生活を優先させる方がよい」と「どちらかといえば、仕事以外の生活を優先させる方がよい」の合計）は18.5%となっている。

性別にみると、男女ともに「仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい」が女性60.4%、男性59.3%で6割程度となっており、＜仕事優先＞は女性が11.5%、男性が19.9%、＜仕事以外の生活優先＞は女性が21.3%、男性が14.4%となっている。（図表Ⅲ－6－1－①）

図表Ⅲ－6－1－① 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の望ましい姿
（全体、性別）



Ⅲ 調査結果【区民調査】

性・年代別にみると、＜仕事以外の生活優先＞の割合は、女性の20代、30代では4割前後、男性20代では35.7%となっている。また、「仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい」は、30代女性は、51.5%であるのに対して男性は、78.8%と20ポイント以上高くなっている。
(図表Ⅲ－6－1－②)

図表Ⅲ－6－1－② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の望ましい姿
(全体、性別、性・年代別)

			[上段:実数、下段:%]						
			仕事優先		が同仕 望じ事 まよと しうそ いれ 両以 立外 さの せ生 活と を	仕事以外の生活 優先		わ か ら な い	無 回 答
			い仕 事を 優先 する 方が よ	事ど をち を優 先か す とい う 方 え が ば よ い仕		せ事ど る以ち 方外ら がのか よ生と い活 をえ 優先 さ仕	す仕 る事 方以 が外 よの 生 活を 優先		
全 体 (N=646)			13 100.0	80 12.4	389 60.2	79 12.2	41 6.3	24 3.7	20 3.1
性 別	女 性 (n=412)		6 100.0	41 10.0	249 60.4	59 14.3	29 7.0	16 3.9	12 2.9
	男 性 (n=221)		7 100.0	37 16.7	131 59.3	20 9.0	12 5.4	8 3.6	6 2.7
性・年代別	女 性	10 代 (n=4)	0 100.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=22)	0 100.0	2 9.1	10 45.5	7 31.8	2 9.1	1 4.5	0 0.0
		30 代 (n=68)	2 100.0	3 4.4	35 51.5	18 26.5	9 13.2	0 0.0	1 1.5
		40 代 (n=104)	0 100.0	11 10.6	66 63.5	14 13.5	9 8.7	2 1.9	2 1.9
		50 代 (n=93)	2 100.0	10 10.8	68 73.1	9 9.7	4 4.3	0 0.0	0 0.0
		60 代 (n=47)	1 100.0	3 6.4	32 68.1	5 10.6	2 4.3	4 8.5	0 0.0
		70 代 (n=48)	0 100.0	7 14.6	26 54.2	5 10.4	2 4.2	6 12.5	2 4.2
		80 代 以上 (n=25)	1 100.0	5 20.0	7 28.0	1 4.0	1 4.0	3 12.0	7 28.0
	男 性	10 代 (n=2)	0 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
		20 代 (n=14)	1 100.0	3 21.4	5 35.7	1 7.1	4 28.6	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=33)	0 100.0	1 3.0	26 78.8	5 15.2	0 0.0	1 3.0	0 0.0
		40 代 (n=51)	1 100.0	11 21.6	29 56.9	7 13.7	3 5.9	0 0.0	0 0.0
		50 代 (n=38)	3 100.0	7 18.4	26 68.4	1 2.6	1 2.6	0 0.0	0 0.0
		60 代 (n=42)	0 100.0	9 21.4	27 64.3	3 7.1	2 4.8	1 2.4	0 0.0
		70 代 (n=25)	0 100.0	5 20.0	13 52.0	3 12.0	0 0.0	1 4.0	3 12.0
		80 代 以上 (n=16)	2 100.0	0 0.0	5 31.3	0 0.0	2 12.5	4 25.0	3 18.8

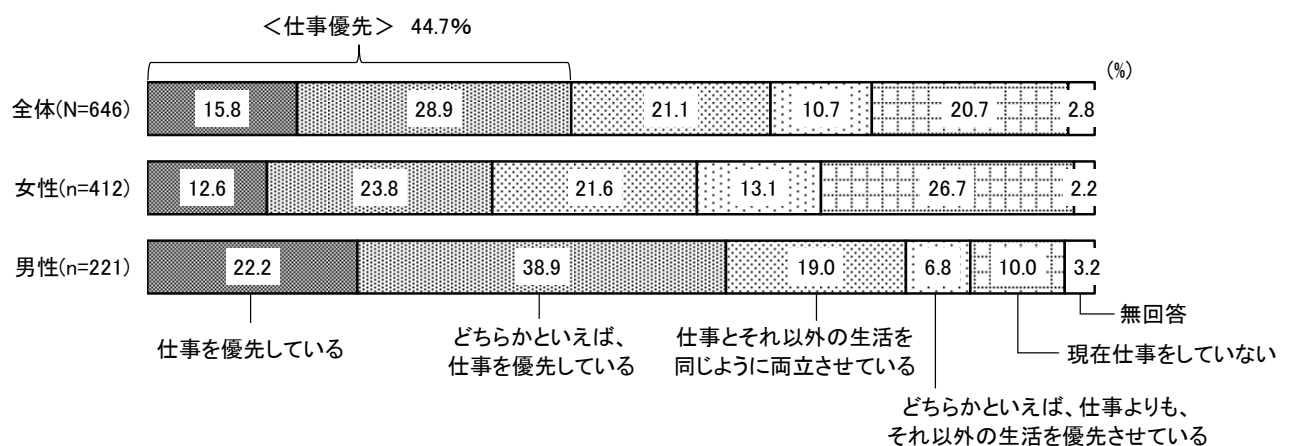
問 16 あなた自身のワーク・ライフ・バランスについて、現在の状況は次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)

●仕事とそれ以外の生活の両立をしている人は21.1%と約5人に1人、仕事とそれ以外の生活の両立を望む人のうち、実現できているのは25.4%と約4人に1人

全体では、「どちらかといえば、仕事を優先している」(28.9%)が最も多く、次いで「仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている」(21.1%)、「現在仕事をしていない」(20.7%)となっている。＜仕事優先＞(「仕事を優先している」と「どちらかといえば、仕事を優先している」の合計)は44.7%となっている。

性別にみると、女性は「現在仕事をしていない」(26.7%)、「仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている」(21.6%)が2割台であり、＜仕事優先＞(36.4%)は3割台となっている。男性は「どちらかといえば、仕事を優先している」(38.9%)が約4割を占め、「仕事を優先している」(22.2%)を合計した＜仕事優先＞(61.1%)は6割台となっており、「仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている」(19.0%)が約2割となっている。(図表Ⅲ－6－2－①)

図表Ⅲ－6－2－① 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の現在の状況
(全体、性別)



Ⅲ 調査結果【区民調査】

性・年代別にみると、＜仕事優先＞の割合は、女性は20代から50代で4割台、女性60代では31.9%となっている。男性は30代から60代で6割を超えており、特に40代では84.3%、50代では76.3%となっている。(図表Ⅲ－6－2－②)

図表Ⅲ－6－2－② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の現在の状況
（全体、性別、性・年代別）

				[上段:実数、下段:%]			
				仕事優先		ど ち ら か と い え ば 、 仕 事 を 優 先 し て い る	無 回 答
				仕 事 を 優 先 し て い る	ど ち ら か と い え ば 、 仕 事 を 優 先 し て い る		
				仕事と 生活と 両方に 優先さ せてい る	仕事と 生活と 両方に 優先さ せてい る	ど ち ら か と い え ば 、 仕 事 を 優 先 し て い る	
全 体 (N=646)				102	187	136	18
				100.0	15.8	21.1	2.8
性 別	女 性 (n=412)			52	98	89	9
				100.0	12.6	21.6	2.2
	男 性 (n=221)			49	86	42	7
				100.0	22.2	19.0	3.2
性・年代別	女 性	10 代 (n=4)		0	0	1	1
				100.0	0.0	25.0	25.0
		20 代 (n=22)		1	9	6	0
				100.0	4.5	27.3	0.0
		30 代 (n=68)		11	18	17	1
				100.0	16.2	25.0	1.5
		40 代 (n=104)		17	34	21	0
				100.0	16.3	20.2	0.0
	男 性	50 代 (n=93)		17	21	24	0
				100.0	18.3	25.8	0.0
		60 代 (n=47)		5	10	8	0
				100.0	10.6	17.0	0.0
		70 代 (n=48)		0	6	11	2
				100.0	0.0	22.9	4.2
		80 代以上 (n=25)		1	0	1	5
				100.0	4.0	4.0	20.0
	男 性	10 代 (n=2)		0	0	0	0
				100.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n=14)		3	1	7	0
				100.0	21.4	50.0	0.0
		30 代 (n=33)		6	14	12	0
				100.0	18.2	36.4	0.0
		40 代 (n=51)		20	23	4	0
				100.0	39.2	7.8	0.0
	男 性	50 代 (n=38)		11	18	8	0
				100.0	28.9	21.1	0.0
		60 代 (n=42)		4	22	6	0
				100.0	9.5	14.3	0.0
	男 性	70 代 (n=25)		2	6	5	3
				100.0	8.0	20.0	12.0
	男 性	80 代以上 (n=16)		3	2	0	4
				100.0	18.8	0.0	25.0

望ましい姿（問 15）と現在の状況（問 16）を組み合わせると、望ましい姿で「仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい」と回答する人のうち、現在の状況で「仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている」のは 25.4%にとどまっている。（図表Ⅲ－6－2－③）

図表Ⅲ－6－2－③ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の現在の状況
（全体、ワーク・ライフ・バランスの望ましい姿別）

[上段:実数、下段:%]

			仕事を優先している	どちらかといえば、仕事を優先している	仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている	どちらかといえば、生活や仕事を優先している	現在仕事をしていない	無回答
全 体 (N=646)			102	187	136	69	134	18
			100.0	15.8	21.1	10.7	20.7	2.8
ワーク・ライフ・バランスの望ましい姿別	仕事を優先する方がよい	(n=13)	9	0	1	1	2	0
			69.2	0.0	7.7	7.7	15.4	0.0
	どちらかといえば、仕事を優先する方がよい	(n=80)	20	41	4	1	13	1
			25.0	51.3	5.0	1.3	16.3	1.3
	仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい	(n=389)	57	122	99	31	79	1
			14.7	31.4	25.4	8.0	20.3	0.3
ワーク・ライフ・バランスの望ましい姿別	どちらかといえば、仕事以外の生活を優先させる方がよい	(n=79)	8	15	21	24	11	0
			10.1	19.0	26.6	30.4	13.9	0.0
	仕事以外の生活を優先する方がよい	(n=41)	7	8	5	11	10	0
ワーク・ライフ・バランスの望ましい姿別			17.1	19.5	12.2	26.8	24.4	0.0
	わからない	(n=24)	0	1	5	1	15	2
			0.0	4.2	20.8	4.2	62.5	8.3

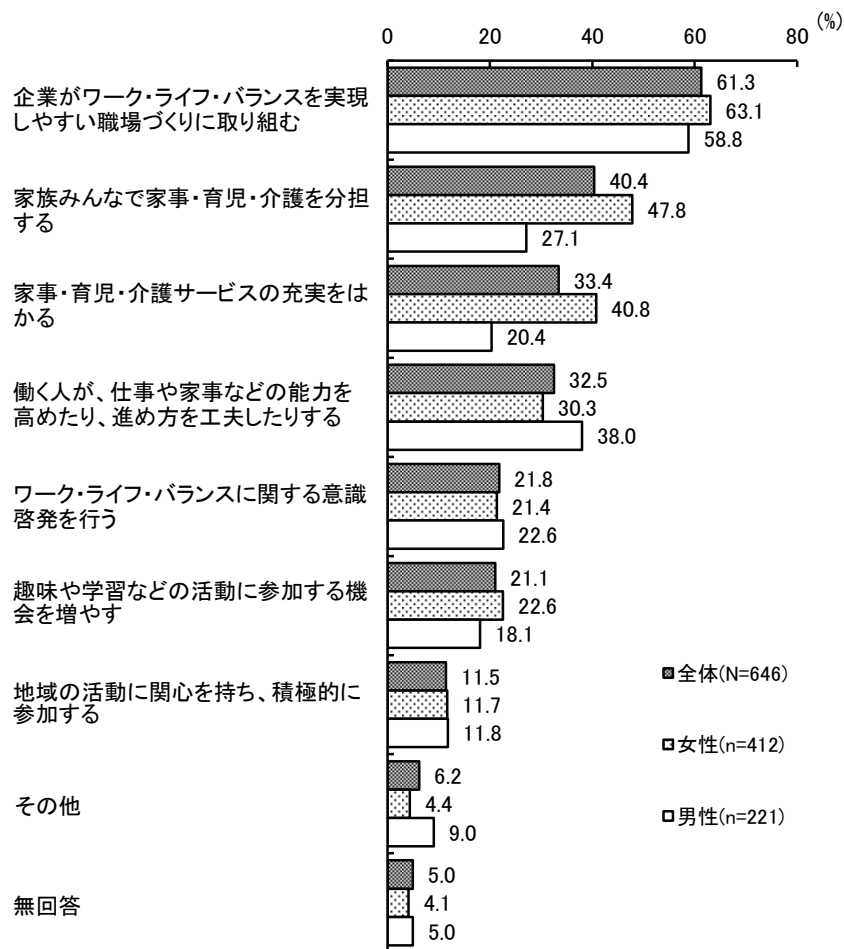
問 17 あなたは、ワーク・ライフ・バランスを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

●「企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む」が最も多い

全体では、「企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む」(61.3%)が最も多く、次いで「家族みんなで家事・育児・介護を分担する」(40.4%)、「家事・育児・介護サービスの充実をはかる」(33.4%)となっている。

性別にみると、女性は上位3項目が全体と同様となっている。男性は「企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む」(58.8%)が最も多く、次いで「働く人が、仕事や家事などの能力を高めたり、進め方を工夫したりする」(38.0%)となっている。また、「家族みんなで家事・育児・介護を分担する」(女性:47.8%、男性:27.1%)、「家事・育児・介護サービスの充実をはかる」(女性:40.8%、男性:20.4%)は、男性よりも女性の方が約20ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－6－3－①)

図表Ⅲ－6－3－① 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するために必要なこと
(全体、性別:複数回答)



性・年代別にみると、男女ともに、「家族みんなで家事・育児・介護を分担する」の割合は、年代があがるほど、低くなる傾向となっている。また、女性は「企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む」の割合も年代があがるほど、低くなる傾向となっている。（図表Ⅲ－６－３－②）

図表Ⅲ－６－３－② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するために必要なこと
（全体、性別、性・年代別：複数回答）

[上段:実数、下段:%]

			企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む	家族みんなで家事・育児・介護を分担する	家事・育児・介護サービスの充実をはかる	働く人が、仕事や家事などを上手にこなしたり、進めたりする工夫を高める	ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発を行う	趣味や学習などの活動に参加する機会を増やす	地域の活動に関心をもち、積極的に参加する	その他	無回答
全	体	(N=646)	396	261	216	210	141	136	74	40	32
		100.0	61.3	40.4	33.4	32.5	21.8	21.1	11.5	6.2	5.0
性別	女	(n=412)	260	197	168	125	88	93	48	18	17
	性	100.0	63.1	47.8	40.8	30.3	21.4	22.6	11.7	4.4	4.1
	男	(n=221)	130	60	45	84	50	40	26	20	11
	性	100.0	58.8	27.1	20.4	38.0	22.6	18.1	11.8	9.0	5.0
性・年代別	女性	10代	(n=4)	3	3	1	1	1	1	0	0
			100.0	75.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
		20代	(n=22)	19	13	7	7	3	6	0	0
			100.0	86.4	59.1	31.8	31.8	13.6	27.3	0.0	0.0
		30代	(n=68)	50	37	33	16	17	14	5	1
			100.0	73.5	54.4	48.5	23.5	25.0	20.6	7.4	1.5
		40代	(n=104)	74	54	42	35	20	13	6	0
			100.0	71.2	51.9	40.4	33.7	19.2	12.5	5.8	0.0
	男性	50代	(n=93)	63	42	42	32	26	23	6	3
			100.0	67.7	45.2	45.2	34.4	28.0	24.7	6.5	3.2
		60代	(n=47)	23	23	21	15	11	14	0	0
			100.0	48.9	48.9	44.7	31.9	23.4	29.8	0.0	0.0
		70代	(n=48)	21	19	15	11	7	15	1	4
			100.0	43.8	39.6	31.3	22.9	14.6	31.3	2.1	8.3
		80代以上	(n=25)	6	5	7	8	3	7	0	9
			100.0	24.0	20.0	28.0	32.0	12.0	28.0	0.0	36.0
		10代	(n=2)	0	1	0	1	0	0	0	0
			100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	(n=14)	10	7	6	7	2	1	0	0
			100.0	71.4	50.0	42.9	50.0	14.3	7.1	0.0	0.0
		30代	(n=33)	19	13	12	17	5	5	3	0
			100.0	57.6	39.4	36.4	51.5	15.2	15.2	9.1	0.0
		40代	(n=51)	37	14	8	15	10	10	6	0
			100.0	72.5	27.5	15.7	29.4	19.6	19.6	11.8	0.0
		50代	(n=38)	29	9	7	17	16	8	4	1
			100.0	76.3	23.7	18.4	44.7	42.1	21.1	10.5	2.6
		60代	(n=42)	22	8	9	15	12	8	3	2
			100.0	52.4	19.0	21.4	35.7	28.6	19.0	7.1	4.8
		70代	(n=25)	10	4	3	9	4	5	1	5
			100.0	40.0	16.0	12.0	36.0	16.0	20.0	4.0	20.0
		80代以上	(n=16)	3	4	0	3	1	2	2	3
			100.0	18.8	25.0	0.0	18.8	6.3	12.5	12.5	18.8

7 健康・人権

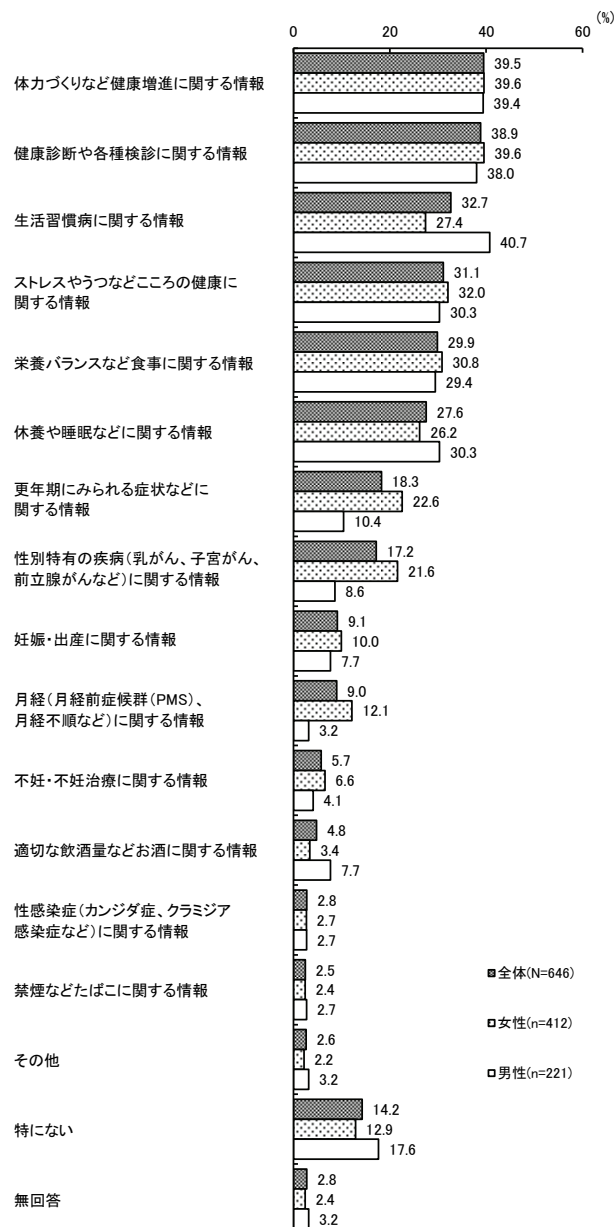
問 18 あなたは、健康に関する情報で欲しいものは何ですか。(いくつでも○)

●健康に関する欲しい情報は性・年代で異なる

全体では、「体力づくりなど健康増進に関する情報」(39.5%)が最も多く、次いで「健康診断や各種検診に関する情報」(38.9%)、「生活習慣病に関する情報」(32.7%)となっている。

性別にみると、女性は「体力づくりなど健康増進に関する情報」(39.6%)と「健康診断や各種検診に関する情報」(39.6%)が同率で最も多く、男性は「生活習慣病に関する情報」(40.7%)が最も多くなっている。また、女性は「更年期にみられる症状などに関する情報」(女性:22.6%、男性:10.4%)、「性別特有の疾病(乳がん、子宮がん、前立腺がんなど)に関する情報」(女性:21.6%、男性:8.6%)で、男性を10ポイント以上、上回っている。一方で男性は、「生活習慣病に関する情報」(女性:27.4%、男性:40.7%)で、女性を13.3ポイント上回っている。(図表Ⅲ－7－1－①)

図表Ⅲ－7－1－① 健康に関する欲しい情報（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、性・年代によって欲しい情報が異なることが分かる。女性の20代は「妊娠・出産に関する情報」(45.5%)、30代は「性別特有の疾病(乳がん、子宮がん、前立腺がんなど)に関する情報」(35.3%)と「健康診断や各種検診に関する情報」(35.3%)、40代は「更年期にみられる症状などに関する情報」(41.3%)、50～70代は「体力づくりなど健康増進に関する情報」、80代以上は「ストレスやうつなどこころの健康に関する情報」(36.0%)と「健康診断や各種検診に関する情報」(36.0%)が最も多くなっている。男性の20代は「ストレスやうつなどこころの健康に関する情報」(50.0%)、30代は「休養や睡眠などに関する情報」(54.5%)、40代は「健康診断や各種検診に関する情報」(41.2%)、50代は「生活習慣病に関する情報」(44.7%)と「健康診断や各種検診に関する情報」(44.7%)、60代は「生活習慣病に関する情報」(45.2%)、70代は「生活習慣病に関する情報」(48.0%)と「体力づくりなど健康増進に関する情報」(48.0%)、80代以上は「栄養バランスなど食事に関する情報」(25.0%)と「健康診断や各種検診に関する情報」(25.0%)が最も多くなっている。(図表Ⅲ－7－1－②)

図表Ⅲ－7－1－② 健康に関する欲しい情報(全体、性別、性・年代別:複数回答)

[上段:実数、下段:%]																					
			体力づくりなど健康増進に関する情報	健康診断や各種検診に関する情報	生活習慣病に関する情報	ストレスやうつなどこころの健康に関する情報	栄養バランスなど食事に関する情報	休養や睡眠などに関する情報	更年期にみられる症状などに関する情報	性別特有の疾病（乳がん、子宮がん、前立腺がんなど）に関する情報	妊娠・出産に関する情報	不妊・不妊治療に関する情報	月経（月経前症候群（PMS）、月経不順など）に関する情報	適切な飲酒量などお酒に関する情報	性感染症（カンジダ症、クラミジア感染症など）に関する情報	禁煙などたばこに関する情報	その他	特にない	無回答		
全	体		(N=646) 100.0	255 39.5	251 38.9	211 32.7	201 31.1	193 29.9	178 27.6	118 18.3	111 17.2	59 9.1	58 9.0	37 5.7	31 4.8	18 2.8	16 2.5	17 2.6	92 14.2	18 2.8	
性別	女	性	(n=412) 100.0	163 39.6	163 39.6	113 27.4	132 32.0	127 30.8	108 26.2	93 22.6	89 21.6	41 10.0	50 12.1	27 6.6	14 3.4	11 2.7	10 2.4	9 2.2	53 12.9	10 2.4	
	男	性	(n=221) 100.0	87 39.4	84 38.0	90 40.7	67 30.3	65 29.4	67 30.3	23 10.4	19 8.6	17 7.7	7 3.2	9 4.1	17 7.7	6 2.7	6 2.7	7 3.2	39 17.6	7 3.2	
性・年代別	女性	10代	(n=4) 100.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 25.0	0 0.0	
		20代	(n=22) 100.0	6 27.3	9 40.9	6 27.3	8 36.4	8 36.4	3 13.6	2 9.1	9 40.9	10 45.5	5 22.7	4 18.2	0 0.0	2 9.1	1 4.5	0 0.0	3 13.6	0 0.0	
		30代	(n=68) 100.0	22 32.4	24 35.3	10 14.7	17 25.0	22 32.4	18 26.5	14 20.6	24 35.3	21 30.9	23 33.8	12 17.6	0 0.0	2 2.9	2 2.9	1 1.5	9 13.2	2 2.9	
		40代	(n=104) 100.0	35 33.7	42 40.4	27 26.0	42 40.4	25 24.0	19 18.3	43 41.3	19 18.3	7 6.7	14 13.5	7 6.7	5 4.8	3 2.9	4 3.8	4 3.8	18 17.3	0 0.0	
		50代	(n=93) 100.0	44 47.3	37 39.8	36 38.7	37 39.8	28 30.1	31 33.3	26 28.0	18 19.4	3 3.2	7 7.5	4 4.3	5 5.4	3 3.2	2 2.2	2 2.2	9 9.7	0 0.0	
		60代	(n=47) 100.0	29 61.7	25 53.2	15 31.9	9 19.1	18 38.3	15 31.9	4 8.5	11 23.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 6.4	0 0.0	1 2.1	1 2.1	5 10.6	1 2.1	
		70代	(n=48) 100.0	20 41.7	14 29.2	12 25.0	9 18.8	16 33.3	17 35.4	3 6.3	6 12.5	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	5 10.4	3 6.3	
		80代以上	(n=25) 100.0	6 24.0	9 36.0	7 28.0	9 36.0	8 32.0	4 16.0	1 4.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 4.0	1 0.0	0 0.0	1 4.0	3 12.0	4 16.0	
	男性	10代	(n=2) 100.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20代	(n=14) 100.0	6 42.9	3 21.4	5 35.7	7 50.0	3 21.4	6 42.9	0 0.0	1 7.1	2 14.3	2 14.3	2 14.3	1 7.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0	3 21.4	0 0.0	
		30代	(n=33) 100.0	13 39.4	10 30.3	15 45.5	11 33.3	13 39.4	18 54.5	3 9.1	6 18.2	8 24.2	3 9.1	4 12.1	4 12.1	2 6.1	2 6.1	0 0.0	4 12.1	0 0.0	
		40代	(n=51) 100.0	18 35.3	21 41.2	18 35.3	16 31.4	12 23.5	13 25.5	7 13.7	6 11.8	4 7.8	1 2.0	1 2.0	2 3.9	2 3.9	0 0.0	3 5.9	10 19.6	2 3.9	
		50代	(n=38) 100.0	16 42.1	17 44.7	17 44.7	11 28.9	12 31.6	13 34.2	6 15.8	3 7.9	1 2.6	0 0.0	0 0.0	5 13.2	0 0.0	1 2.6	1 2.6	9 23.7	0 0.0	
		60代	(n=42) 100.0	18 42.9	18 42.9	19 45.2	14 33.3	13 31.0	9 21.4	4 9.5	3 7.1	2 4.8	1 2.4	2 4.8	4 9.5	1 2.4	3 7.1	2 4.8	7 16.7	0 0.0	
		70代	(n=25) 100.0	12 48.0	11 44.0	12 48.0	5 20.0	7 28.0	5 20.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 8.0	2 12.0	
		80代以上	(n=16) 100.0	2 12.5	4 25.0	3 18.8	2 12.5	4 25.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	5 25.0	2 12.5	

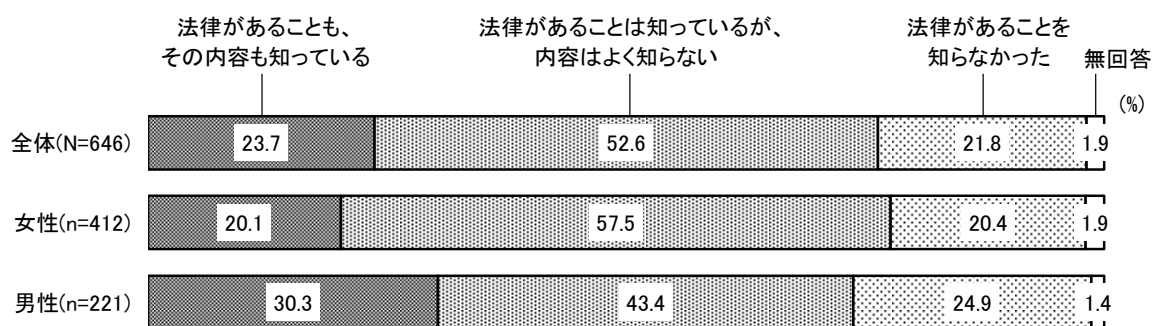
問 19 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。（1つに○）

●「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」が52.6%

全体では、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」（52.6%）が半数を占め、「法律があることも、その内容も知っている」（23.7%）、「法律があることを知らなかった」（21.8%）がともに2割台となっている。

性別にみると、「法律があることも、その内容も知っている」は、女性が20.1%であるのに対して、男性が30.3%となっている。（図表Ⅲ－7－2－①）

図表Ⅲ－7－2－① 配偶者暴力防止法の認知度（全体、性別）



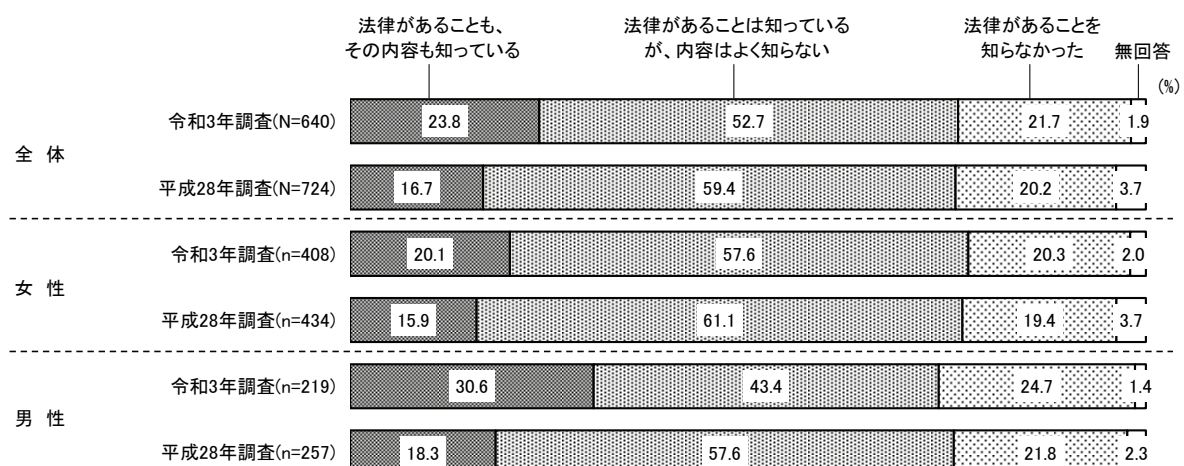
性・年代別にみると、男女ともに20代、30代は「法律があることを知らなかった」の割合が3割を超えて高くなっている。また、男性の40～70代は「法律があることも、その内容も知っている」の割合が3割を超えて高くなっており、特に70代は4割を超えている。(図表Ⅲ－7－2－②)

平成28年調査と比較すると、「法律があることも、その内容も知っている」の割合は、全体では7.1ポイント、女性では4.2ポイント、男性では12.3ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－7－2－③)

図表Ⅲ－7－2－② 配偶者暴力防止法の認知度（全体、性別、性・年代別）

				[上段:実数、下段:%]			
				知も法 つ、律 てそが いのある 内容こ もと	容知法 はつ律 よくあ るがこ ない内 は	知法 ら律 なあ ったこ とを	無 回 答
全 体 (N=646)				153 100.0	340 52.6	141 21.8	12 1.9
性 別	女 性 (n=412)			83 100.0	237 57.5	84 20.4	8 1.9
	男 性 (n=221)			67 100.0	96 43.4	55 24.9	3 1.4
性・年代別	女 性	10 代 (n=4)		1 100.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0
		20 代 (n=22)		5 100.0	9 40.9	8 36.4	0 0.0
		30 代 (n=68)		15 100.0	31 45.6	21 30.9	1 1.5
		40 代 (n=104)		19 100.0	63 60.6	22 21.2	0 0.0
		50 代 (n=93)		21 100.0	57 61.3	15 16.1	0 0.0
		60 代 (n=47)		9 100.0	28 59.6	10 21.3	0 0.0
		70 代 (n=48)		6 100.0	35 72.9	6 12.5	1 2.1
		80 代以上 (n=25)		7 100.0	11 44.0	1 4.0	6 24.0
	男 性	10 代 (n=2)		0 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
		20 代 (n=14)		1 100.0	6 42.9	7 50.0	0 0.0
		30 代 (n=33)		6 100.0	15 45.5	12 36.4	0 0.0
		40 代 (n=51)		18 100.0	18 35.3	15 29.4	0 0.0
		50 代 (n=38)		13 100.0	17 44.7	8 21.1	0 0.0
		60 代 (n=42)		16 100.0	21 50.0	5 11.9	0 0.0
		70 代 (n=25)		11 100.0	10 40.0	4 16.0	0 0.0
		80 代以上 (n=16)		2 100.0	8 50.0	3 18.8	3 18.8

図表Ⅲ－7－2－③ 配偶者暴力防止法の認知度（令和3年調査・平成28年調査:全体、性別）



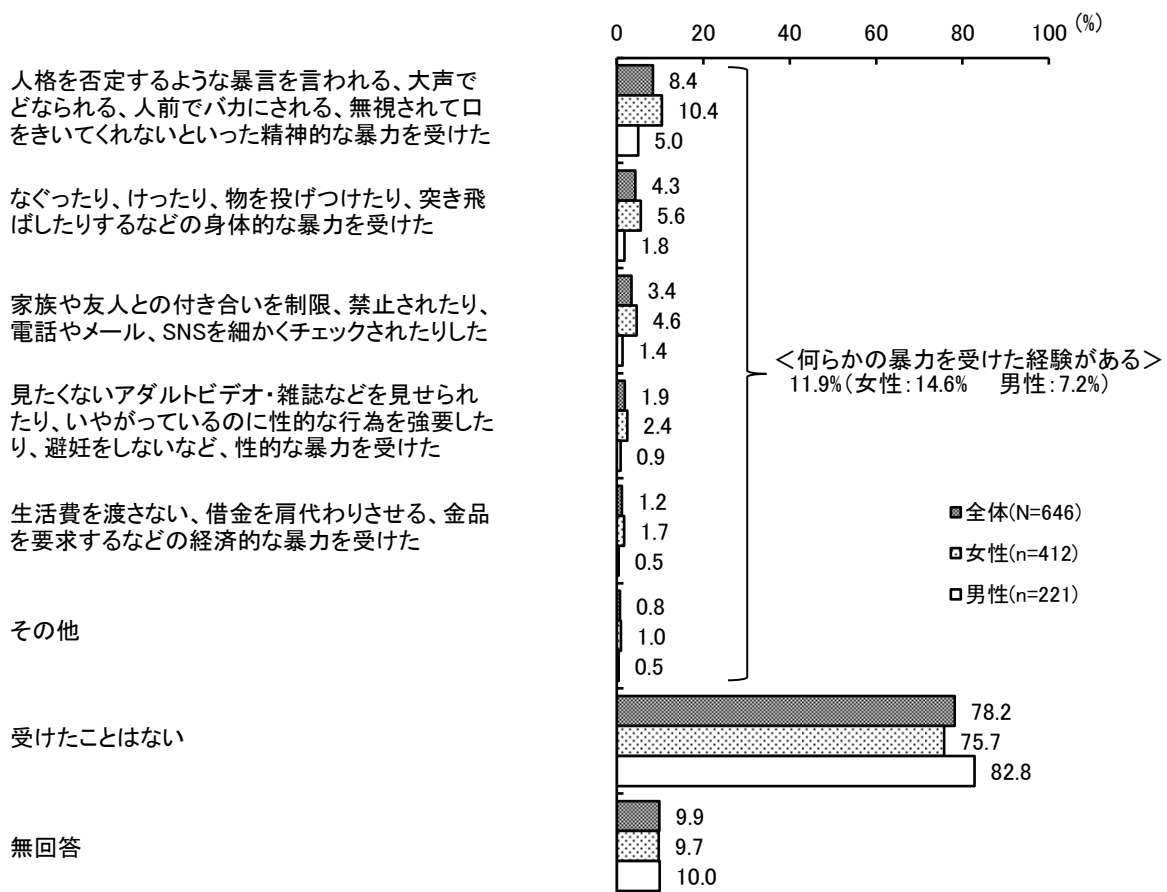
問 20 配偶者や恋人などの間（女性から男性、男性から女性だけでなく、同性間も含む）で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。あなたは、配偶者や恋人などから次のような暴力を受けたことがありますか。（いくつでも○）

●何らかの暴力を受けた経験がある女性は 14.6%、男性は 7.2%

全体では、「受けたことはない」が 78.2%となっている。何らかの暴力については、「人格を否定するような暴言を言われる、大声でどなられる、人前でバカにされる、無視されて口をきいてくれないといった精神的な暴力を受けた」（8.4%）が最も多く、次いで「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的な暴力を受けた」（4.3%）、「家族や友人との付き合いを制限、禁止されたり、電話やメール、SNS を細かくチェックされたりした」（3.4%）となっている。＜何らかの暴力を受けた経験がある＞（「受けたことはない」と無回答を除いたもの）は、11.9%となっている。

性別にみると、＜何らかの暴力を受けた経験がある＞は、女性は 14.6%、男性は 7.2%で、男性も、女性よりは少ないが、暴力を受けた経験がある。（図表Ⅲ－7－3－①）

図表Ⅲ－7－3－① 配偶者・恋人などから暴力を受けた経験の有無（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、女性の30～60代、男性の20代、30代、80代以上で「何らかの暴力を受けた経験がある」が1割を超えており、特に女性40代で2割を超えている。具体的な行為をみると、女性30～50代で「人格を否定するような暴言を言われる、大声でどなられる、人前でバカにされる、無視されて目をきいてくれないといった精神的な暴力を受けた」が1割を超えている。

性・配偶者の有無別にみると、女性（配偶者なし）は＜何らかの暴力を受けた経験がある＞（20.2%）が2割を超えており、具体的な行為をみると「人格を否定するような暴言を言われる、大声でどなられる、人前でバカにされる、無視されて口をきいてくれないといった精神的な暴力を受けた」（12.4%）と「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的な暴力を受けた」（11.6%）が1割を超えている。（図表Ⅲ－7－3－②）

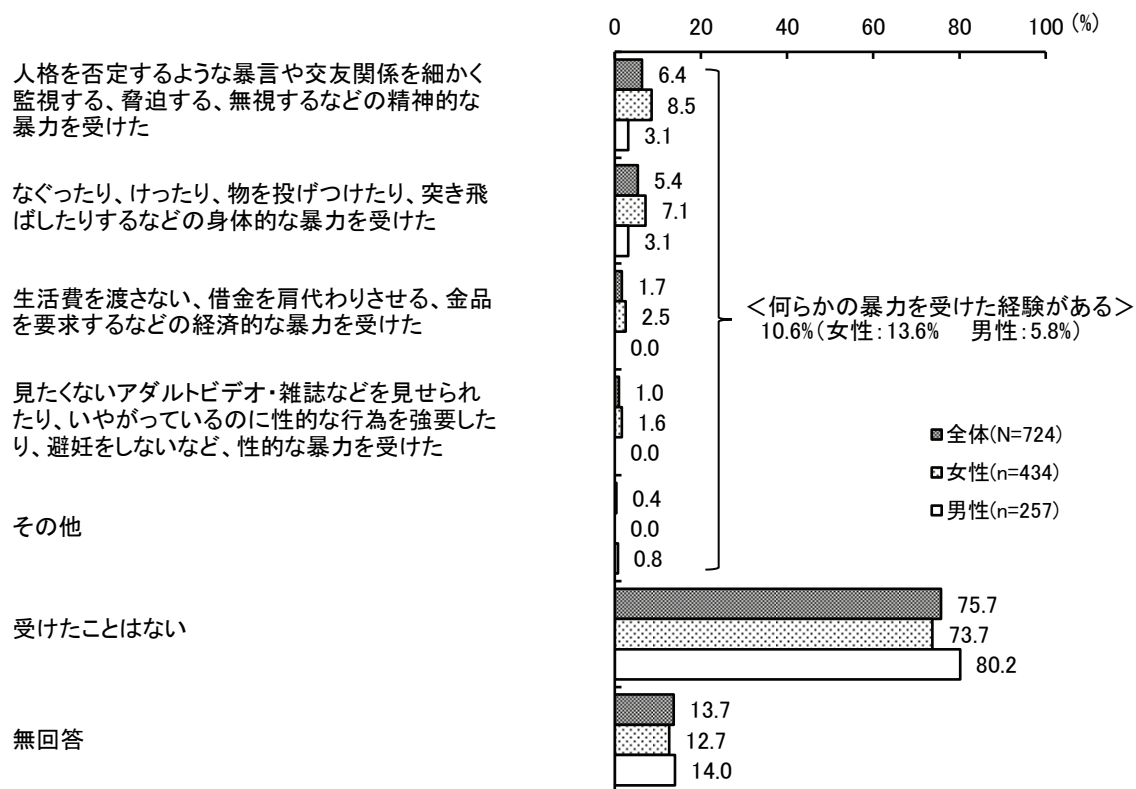
図表Ⅲ－７－３－② 配偶者・恋人などから暴力を受けた経験の有無
(全体、性別、性・年代別、性・配偶者の有無別：複数回答)

[illegible]

Ⅲ 調査結果【区民調査】

選択肢に変更があるため一概には言えないものの、平成 28 年調査と比較すると、令和 3 年調査では何らかの暴力を受けた経験がある人の割合は 1.4 ポイント(女性 1.1 ポイント、男性 1.5 ポイント)高くなっている。(図表Ⅲ－7－3－①、図表Ⅲ－7－3－③)

図表Ⅲ－7－3－③ 配偶者・恋人などから暴力を受けた経験の有無
(平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)



※令和 3 年調査の「18・19 歳」を除いた n=640 の場合の＜何らかの暴力を受けた経験がある＞は、全体:12.0%、女性:14.7%、男性:7.3%である。

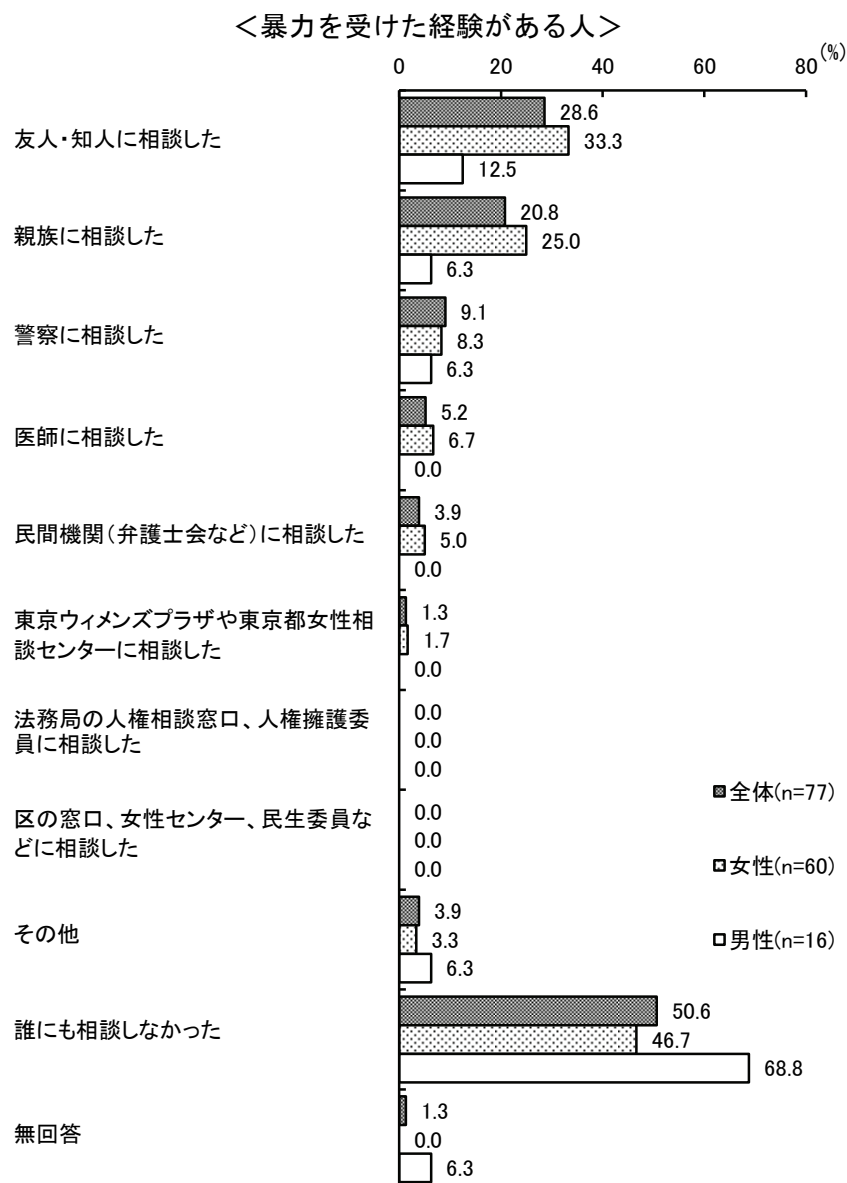
問 20-1 あなたが受けた暴力について、誰かに相談したことはありますか。(いくつでも○)

●誰にも相談しなかった女性は46.7%、男性は68.8%

全体では、「誰にも相談しなかった」(50.6%)が5割を超えている。相談をした先は、「友人・知人に相談した」(28.6%)、「親族に相談した」(20.8%)となっている。「東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センターに相談した」(1.3%)、「区の窓口、女性センター、民生委員などに相談した」(0.0%)など、公的な相談窓口の利用は少なくなっている。

性別にみると、女性は「誰にも相談しなかった」(46.7%)が4割台であり、「友人・知人に相談した」(33.3%)が3割台、「親族に相談した」(25.0%)が2割台となっている。男性は「誰にも相談しなかった」(68.8%)が約7割であり、相談先をみると「友人・知人に相談した」(12.5%)が1割台で、他は1割以下となっている。(図表Ⅲ-7-4-①)

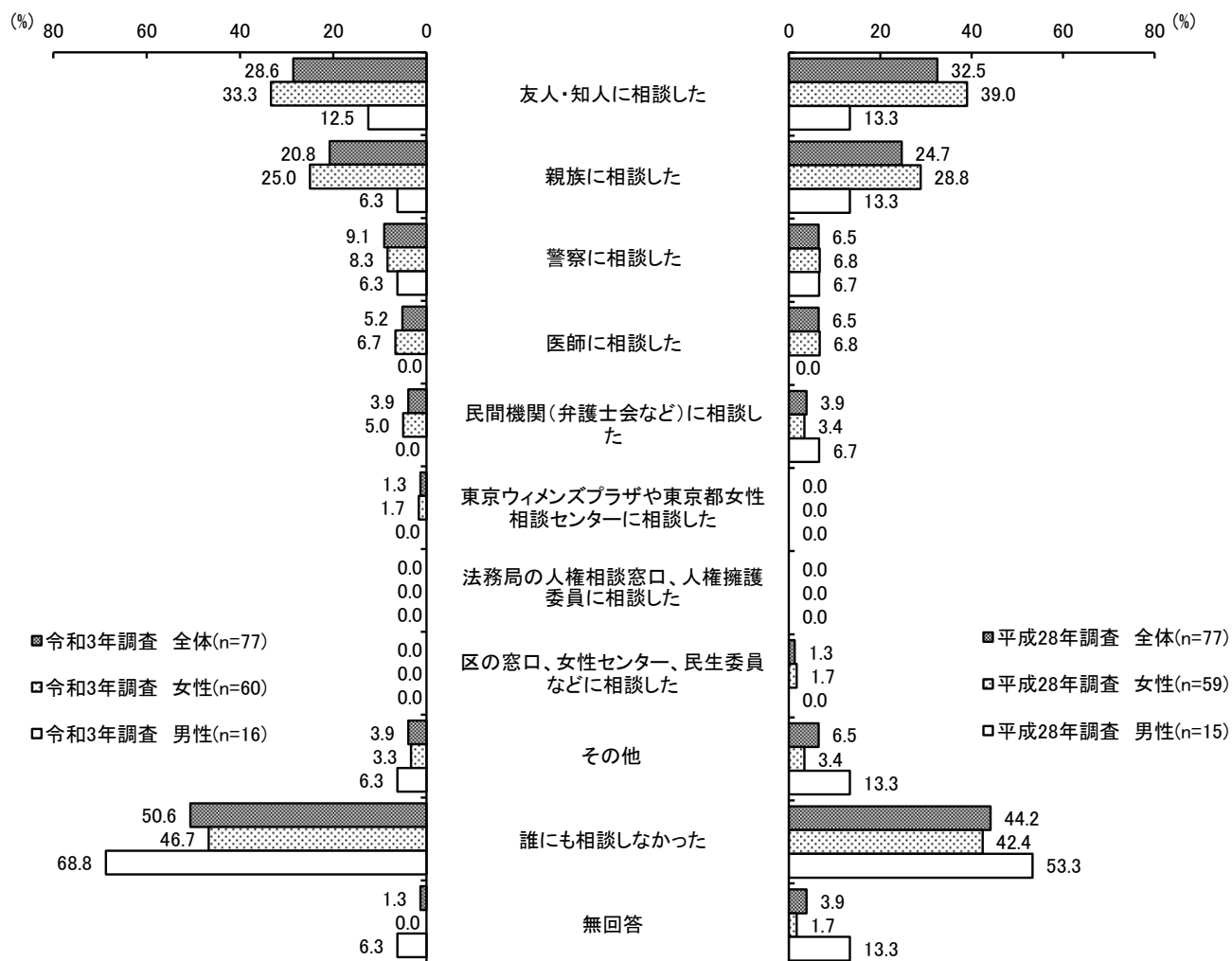
図表Ⅲ-7-4-① 受けた暴力についての相談先(全体、性別:複数回答)



Ⅲ 調査結果【区民調査】

平成 28 年調査と比較すると、令和 3 年調査では男女ともに「誰にも相談しなかった」の割合が高くなっている。(図表Ⅲ－７－４－②)

図表Ⅲ－７－４－② 受けた暴力についての相談先
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)
＜暴力を受けた経験がある人＞



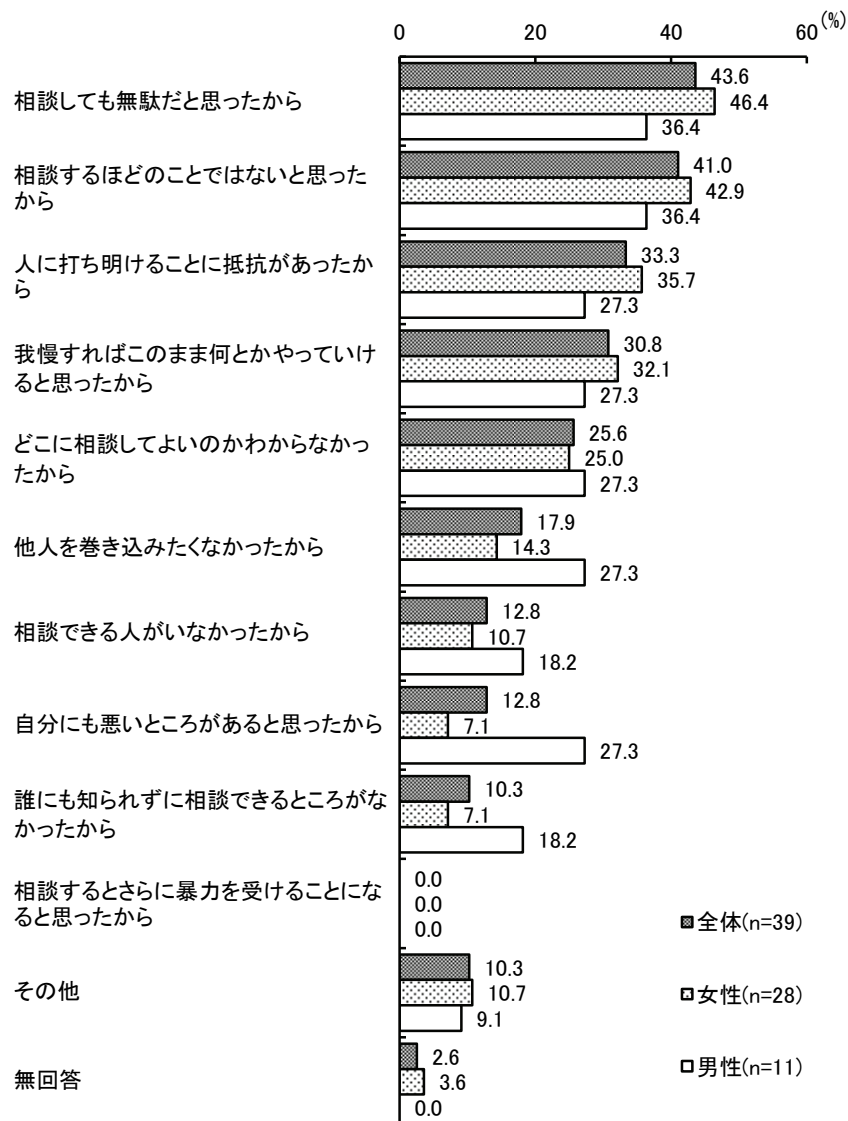
問 20-2 誰にも相談しなかった方にうかがいます。誰にも相談しなかった理由は何ですか。
(いくつでも○)

●「相談しても無駄だと思った」、「相談するほどのことではないと思った」が多い

全体では、「相談しても無駄だと思ったから」(43.6%) が最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(41.0%)、「人に打ち明けることに抵抗があったから」(33.3%) となっている。

性別にみると、女性は上位3項目が全体と同様となっている。男性は「相談しても無駄だと思ったから」(36.4%) と「相談するほどのことではないと思ったから」(36.4%) が同率で最も多くなっている。なお、女性は「相談しても無駄だと思ったから」で男性を10ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」、「人に打ち明けることに抵抗があったから」で男性を5ポイント以上、上回っている。(図表Ⅲ-7-5-①)

図表Ⅲ-7-5-① 誰にも相談しなかった理由(全体、性別:複数回答)
＜暴力を受けた経験があり誰にも相談しなかった人＞

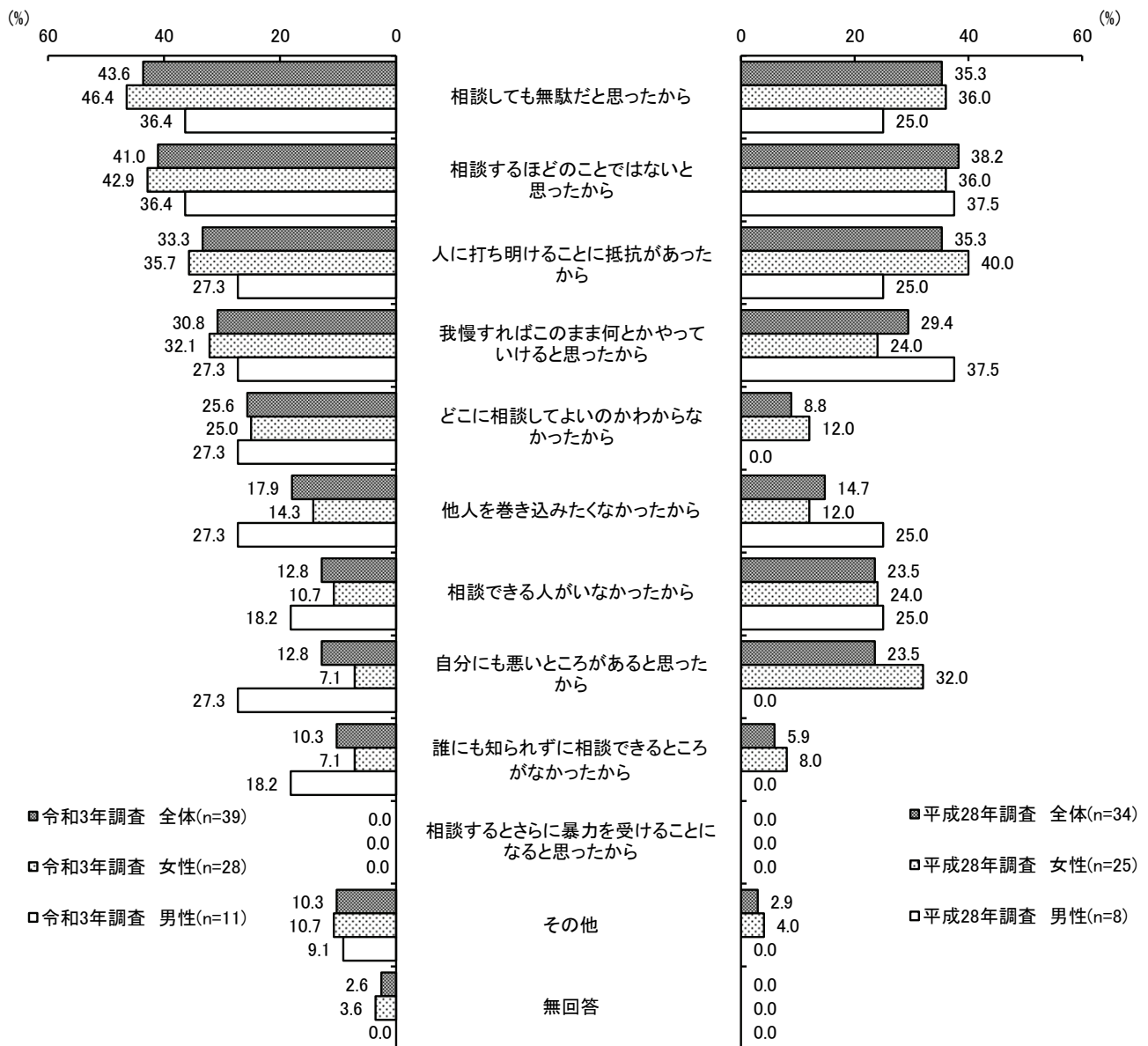


Ⅲ 調査結果【区民調査】

平成 28 年調査と比較すると、平成 28 年調査では、女性は「人に打ち明けることに抵抗があったから」(40.0%) が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから」(36.0%) と「相談するほどのことではないと思ったから」(36.0%) が同率で続いている。男性は「相談するほどのことではないと思ったから」(37.5%) と「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」(37.5%) が同率で最も多くなっている。いずれも令和 3 年調査の順位とは異なっている。

また、平成 28 年調査では、女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合も 32.0% と多くなっていたが、令和 3 年調査では 7.1% と低くなっている。(図表Ⅲ－7－5－②)

図表Ⅲ－7－5－② 誰にも相談しなかった理由
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)
＜暴力を受けた経験があり誰にも相談しなかった人＞



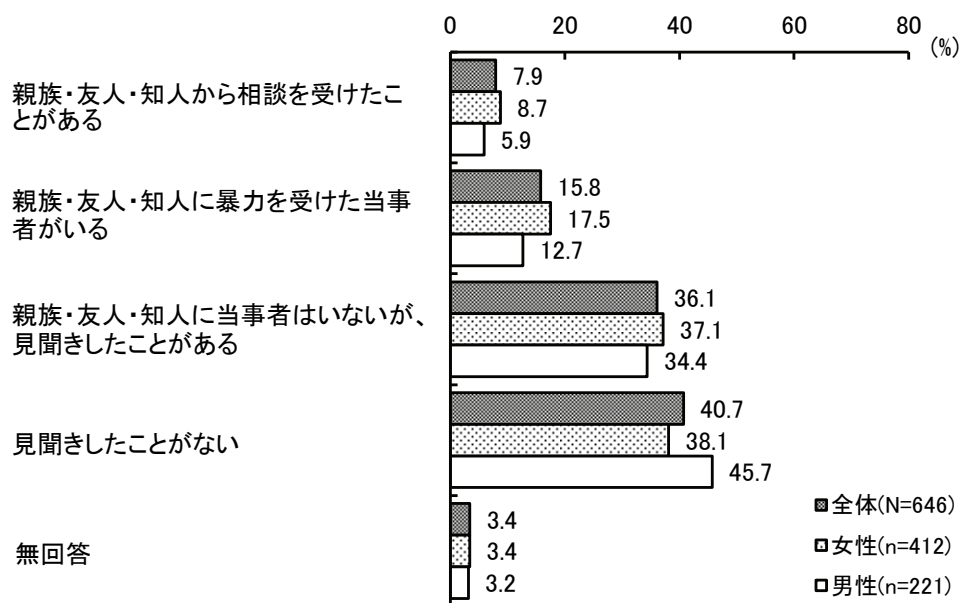
問 21 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、見聞きしたことがありますか。
（いくつでも○）

●「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」が15.8%である

全体では、「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」が7.9%、「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」が15.8%、「親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある」が36.1%となっている。なお、「見聞きしたことがない」が40.7%であり、「無回答」(3.4%)と合計しても44.1%であるため、それ以外の55.9%がドメスティック・バイオレンス（DV）を見聞きしたことがある。

性別にみると、女性は「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」(8.7%)、「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」(17.5%)、「親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある」(37.1%)すべてで男性を上回っている。一方で、男性は「見聞きしたことがない」(45.7%)で女性(38.1%)を7.6ポイント上回っている。(図表Ⅲ－７－６－①)

図表Ⅲ－７－６－① ドメスティック・バイオレンス（DV）について見聞きしたことがあるか
（全体、性別：複数回答）



Ⅲ 調査結果【区民調査】

性・年代別でみると、女性 20 代で「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」(22.7%)と「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」(22.7%)が2割を超え多くなっている。また、女性 40 代、50 代、男性 50 代でも「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」が2割を超えて多くなっている。(図表Ⅲ－7－6－②)

図表Ⅲ－7－6－② ドメスティック・バイオレンス（DV）について見聞きしたことがあるか
(全体、性別、性・年代別:複数回答)

			[上段:実数、下段:%]				
			親族・友人・知人から相談を受けたことがある	親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる	親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいないが、見聞きしたことがある	見聞きしたことがない	無回答
全 体 (N=646)			51 100.0	102 15.8	233 36.1	263 40.7	22 3.4
性別	女 性 (n=412)		36 100.0	72 17.5	153 37.1	157 38.1	14 3.4
	男 性 (n=221)		13 100.0	28 12.7	76 34.4	101 45.7	7 3.2
性・年代別	女性	10 代 (n=4)	0 100.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0
		20 代 (n=22)	5 100.0	5 22.7	7 31.8	6 27.3	1 4.5
		30 代 (n=68)	9 100.0	11 16.2	29 42.6	25 36.8	0 0.0
		40 代 (n=104)	8 100.0	21 20.2	48 46.2	32 30.8	0 0.0
		50 代 (n=93)	10 100.0	21 22.6	34 36.6	34 36.6	0 0.0
		60 代 (n=47)	1 100.0	7 14.9	20 42.6	18 38.3	2 4.3
		70 代 (n=48)	3 100.0	5 10.4	9 18.8	29 60.4	2 4.2
		80 代以上 (n=25)	0 100.0	2 8.0	4 16.0	10 40.0	9 36.0
	男性	10 代 (n=2)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
		20 代 (n=14)	1 100.0	1 7.1	4 28.6	8 57.1	0 0.0
		30 代 (n=33)	2 100.0	4 12.1	12 36.4	17 51.5	0 0.0
		40 代 (n=51)	5 100.0	9 17.6	18 35.3	20 39.2	0 0.0
		50 代 (n=38)	0 100.0	8 21.1	14 36.8	16 42.1	0 0.0
		60 代 (n=42)	4 100.0	5 11.9	16 38.1	17 40.5	1 2.4
		70 代 (n=25)	0 100.0	0 0.0	9 36.0	14 56.0	2 8.0
		80 代以上 (n=16)	1 100.0	1 6.3	3 18.8	7 43.8	4 25.0

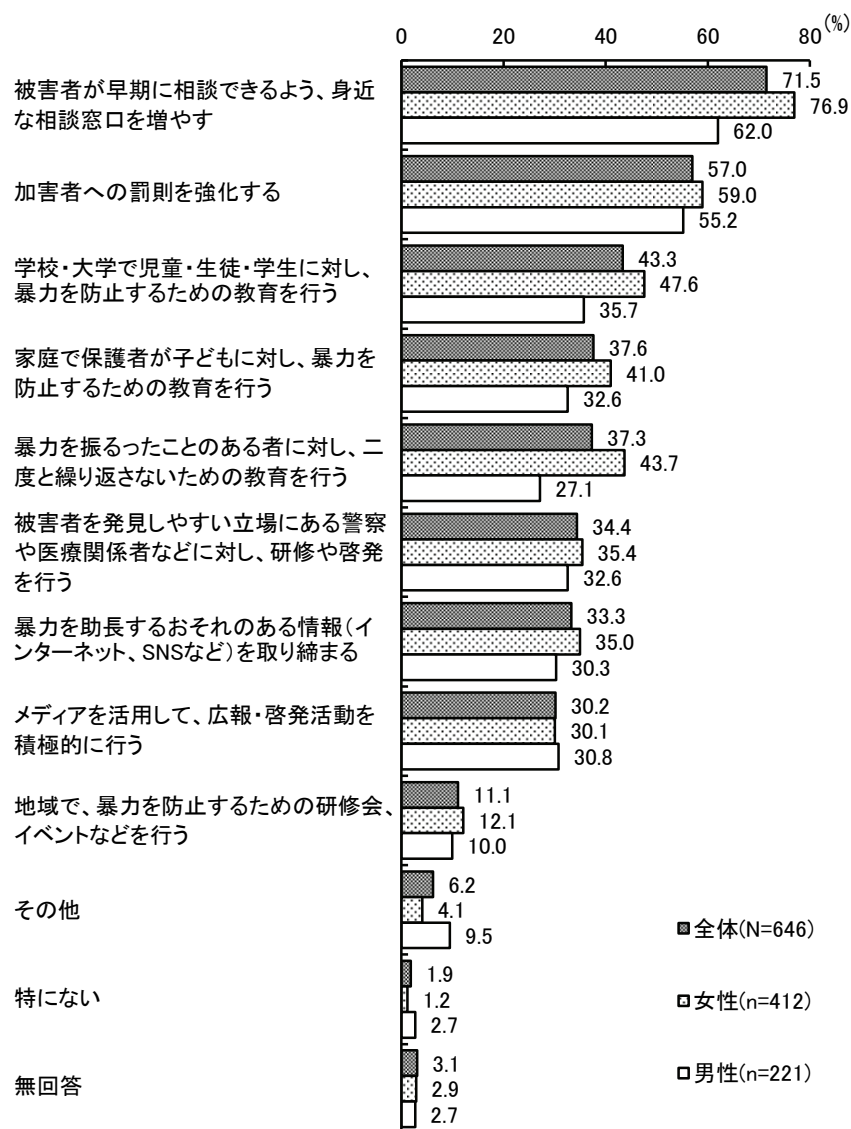
問 22 あなたは、配偶者や恋人などの間で起こる暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

●男女ともに「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も多い

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(71.5%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(57.0%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(43.3%)となっている。

性別にみると、男女ともに上位3項目は全体と同様となっている。女性では、上位3項目に続く項目は「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」(43.7%)であり、この項目は男性(27.1%)を16.6ポイント上回っている。(図表Ⅲ-7-7-①)

図表Ⅲ-7-7-① 配偶者や恋人などの間で起きる暴力を防止するために必要だと思うこと
(全体、性別:複数回答)



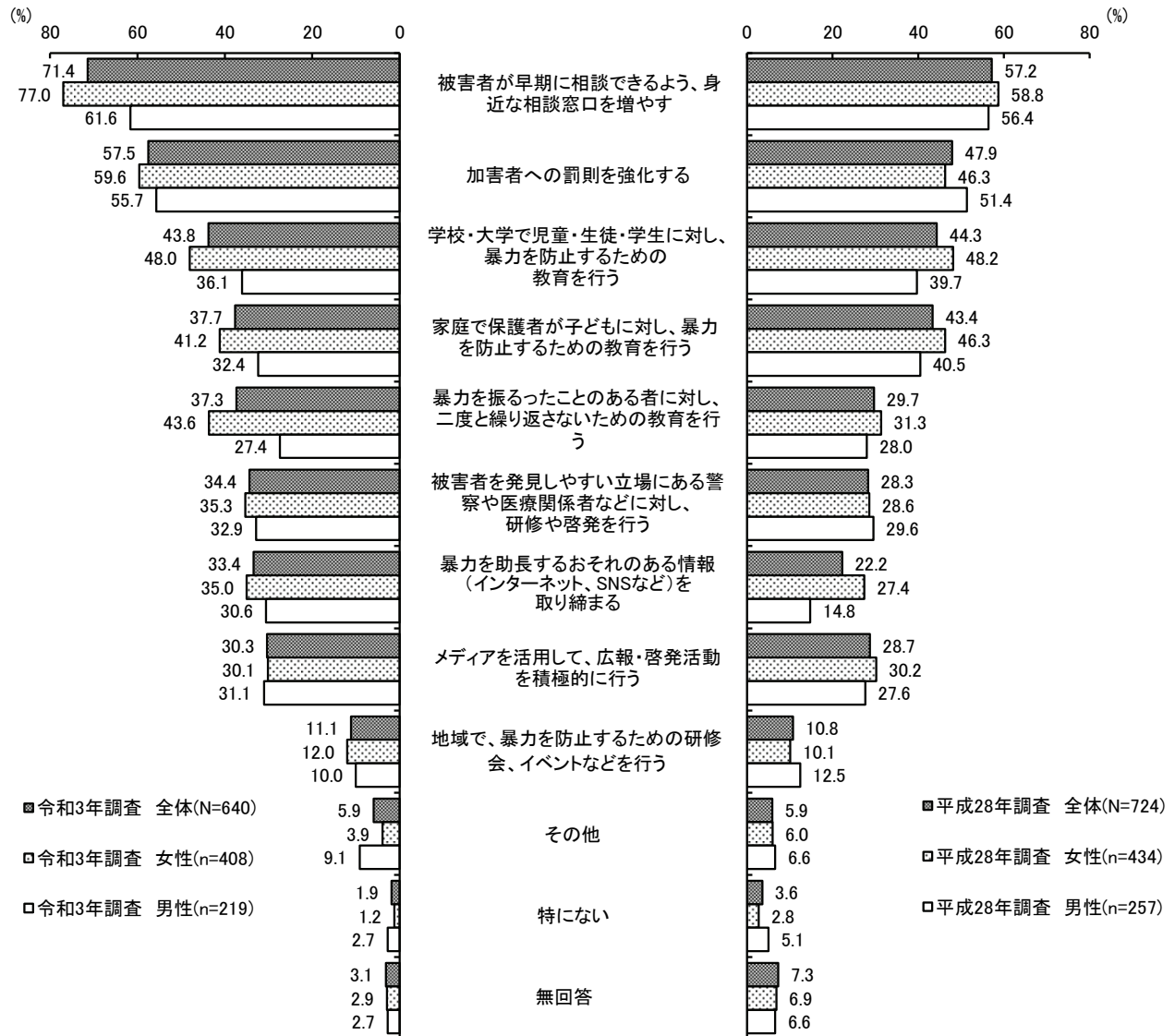
性・年代別にみると、女性 80 代以上、男性 30 代では「加害者への罰則を強化する」が最も多く、男性 80 代以上では「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」と「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と「暴力を助長するおそれのある情報（インターネット、SNS など）を取り締まる」が同率で最も多く、それ以外の性・年代では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も多くなっている。なお、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合は 30 代女性が 79.4%であるのに対して、30 代男性が 48.5%であり、男性よりも女性の方が約 30 ポイント高くなっている。（図表Ⅲ－７－７－②）

図表Ⅲ－７－７－② 配偶者や恋人などの間で起きる暴力を防止するために必要だと思うこと
（全体、性別、性・年代別：複数回答）

[上段：実数、下段：%]														
			被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	暴力をふるったことのある者に対し二度と繰り返さないための教育を行う	被害者や関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力を助長する SNS などのある情報（インターネット、SNS など）を取り締まる	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	その他	特にない	無回答
全 体 (N=646)			462 100.0	368 57.0	280 43.3	243 37.6	241 37.3	222 34.4	215 33.3	195 30.2	72 11.1	40 6.2	12 1.9	20 3.1
性別	女	性 (n=412)	317 100.0	243 76.9	196 47.6	169 41.0	180 43.7	146 35.4	144 35.0	124 30.1	50 12.1	17 4.1	5 1.2	12 2.9
	男	性 (n=221)	137 100.0	122 89.0	79 55.2	72 51.6	60 43.0	72 51.1	67 48.9	68 49.6	22 16.0	21 15.9	6 4.5	6 4.5
性・年代別	女性	10 代 (n=4)	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=22)	20 100.0	14 70.0	13 59.1	9 40.9	10 45.5	11 50.0	5 22.7	6 27.3	1 4.5	0 0.0	0 0.0	
		30 代 (n=68)	54 100.0	40 79.4	26 38.2	31 45.6	31 45.6	28 41.2	18 26.5	15 22.1	5 7.4	2 2.9	1 1.5	0 0.0
		40 代 (n=104)	81 100.0	66 77.9	55 63.5	42 52.9	44 52.3	33 31.7	34 32.7	36 34.6	14 13.5	7 6.7	0 0.0	0 0.0
		50 代 (n=93)	77 100.0	67 82.8	48 51.6	37 39.8	48 51.6	34 36.6	35 37.6	34 36.6	18 19.4	4 4.3	0 0.0	0 0.0
		60 代 (n=47)	38 100.0	26 80.9	27 55.3	25 53.2	23 48.9	21 44.7	29 61.7	19 40.4	7 14.9	1 2.1	2 4.3	0 0.0
		70 代 (n=48)	33 100.0	16 68.8	18 33.3	17 35.4	18 37.5	12 25.0	15 31.3	7 14.6	0 0.0	1 2.1	1 2.1	3 6.3
		80 代以上 (n=25)	11 100.0	13 44.0	9 36.0	7 28.0	4 16.0	5 20.0	6 24.0	5 20.0	4 16.0	1 4.0	1 4.0	9 36.0
	男性	10 代 (n=2)	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=14)	11 100.0	8 72.7	7 50.0	5 35.7	3 21.4	6 42.9	1 7.1	4 28.6	1 7.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=33)	16 100.0	25 48.5	14 42.4	11 33.3	6 18.2	12 36.4	9 27.3	14 42.4	4 12.1	4 12.1	0 0.0	0 0.0
		40 代 (n=51)	37 100.0	32 72.5	19 37.3	17 33.3	20 39.2	19 37.3	11 21.6	18 35.3	9 17.6	5 9.8	0 0.0	1 2.0
		50 代 (n=38)	26 100.0	19 68.4	15 39.5	10 26.3	9 23.7	11 28.9	16 42.1	12 31.6	4 10.5	7 18.4	1 2.6	0 0.0
		60 代 (n=42)	29 100.0	25 69.0	15 35.7	16 38.1	15 35.7	17 40.5	19 45.2	15 35.7	4 9.5	2 4.8	0 0.0	1 2.4
		70 代 (n=25)	11 100.0	10 44.0	4 16.0	8 32.0	6 24.0	7 28.0	6 24.0	3 12.0	0 0.0	1 4.0	3 12.0	1 4.0
		80 代以上 (n=16)	5 100.0	3 31.3	5 31.3	4 25.0	1 6.3	0 0.0	5 31.3	2 12.5	0 0.0	0 0.0	2 12.5	3 18.8

平成 28 年調査と比較すると、全体では、上位 3 項目は令和 3 年調査と同様であるが、最も多い項目である「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合は、令和 3 年調査が平成 28 年調査を 14.2 ポイント上回っている。(図表Ⅲ－７－７－③)

図表Ⅲ－７－７－③ 配偶者や恋人などの間で起きる暴力を防止するために必要だと思うこと
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)



8 性的少数者、LGBT 等

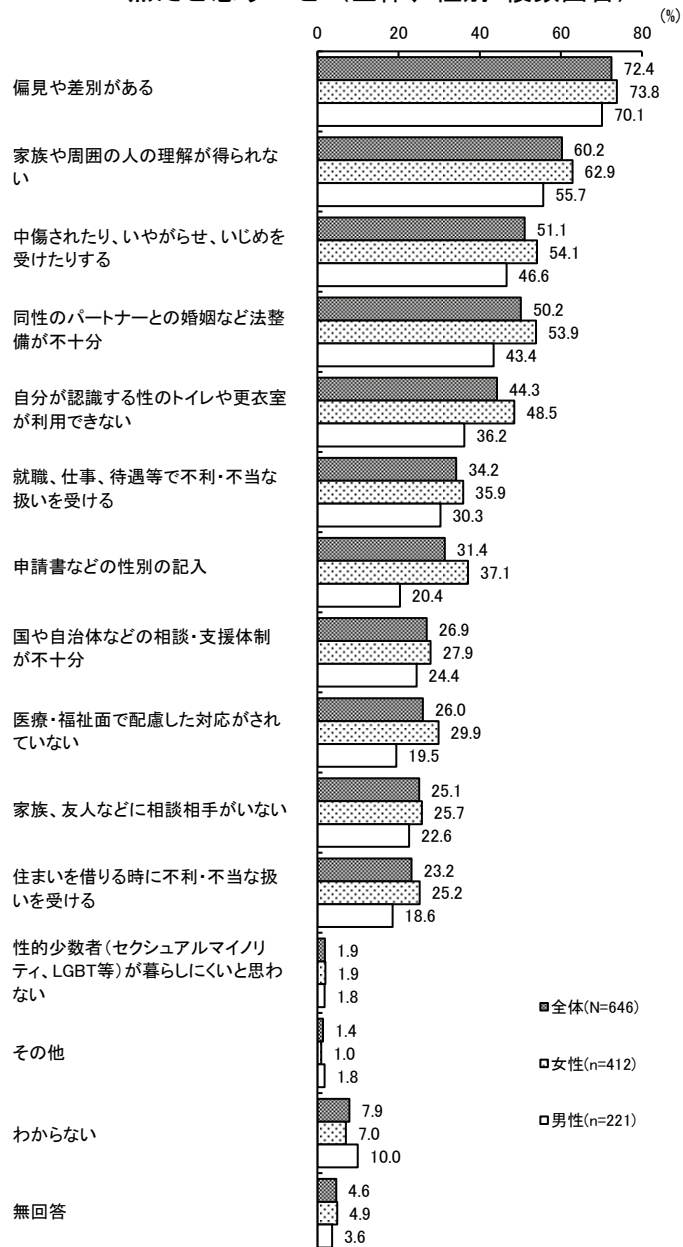
問 23 あなたは、性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）が暮らしにくさを感じるとしたら、どういう点があると思いますか。（いくつでも○）

●「偏見や差別がある」が 72.4%と最も高い

全体では、「偏見や差別がある」（72.4%）が最も多く、次いで「家族や周囲の人の理解が得られない」（60.2%）、「中傷されたり、いやがらせ、いじめを受けたりする」（51.1%）となっている。

性別にみると、男女ともに上位 3 項目は全体と同様である。また、女性は「同性のパートナーとの婚姻など法整備が不十分」、「自分が認識する性のトイレや更衣室が利用できない」、「申請書などの性別の記入」、「医療・福祉面で配慮した対応がされていない」で男性を 10 ポイント以上、上回っている。（図表Ⅲ－８－１－①）

図表Ⅲ－８－１－① 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）が暮らしにくさを感じる点だと思うこと（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、どの性・年代でも「偏見や差別がある」が最も多くなっているが、その割合は女性・男性ともに20～60代で7～8割台であるが、女性70代、80代以上では4割台、男性70代では56.0%、男性80代以上では12.5%と低く、性・年代により違いが大きくなっている。また、男女ともに70代、80代以上は「わからない」が2割を超えている。(図表Ⅲ－８－１－②)

図表Ⅲ－８－１－② 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）が暮らしにくさを感じる点だと思うこと（全体、性別、性・年代別、性・配偶者の有無別：複数回答）

[上段:実数、下段:%]																		
				偏見や差別がある	家族や周囲の人の理解が得られない	中傷されたり、いやがらせ、いじめを受けたり	同性のパートナーとの婚姻など法整備が不十分	自分が認識する性のトイレや更衣室が利用できない	就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受ける	申請書などの性別の記入	国や自治体などの相談・支援体制が不十分	医療・福祉面で配慮した対応がされていない	家族、友人などに相談相手がいない	住まいを借りる時に不利・不当な扱いを受ける	性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）が暮らしにくいと思わない	その他	わからない	無回答
全 体 (N=646)				468 100.0	389 60.2	330 51.1	324 50.2	286 44.3	221 34.2	203 31.4	174 26.9	168 26.0	162 25.1	150 23.2	12 1.9	9 1.4	51 7.9	30 4.6
性別	女	性 (n=412)		304 100.0	259 62.9	223 54.1	222 53.9	200 48.5	148 35.9	153 37.1	115 27.9	123 29.9	106 25.7	104 25.2	8 1.9	4 1.0	29 7.0	20 4.9
		性 (n=221)		155 100.0	123 70.1	103 55.7	96 43.4	80 36.2	67 30.3	45 20.4	54 24.4	43 19.5	50 22.6	41 18.6	4 1.8	4 1.8	22 10.0	8 3.6
性・年代別	女性	10 代	(n=4)	3 100.0	1 25.0	3 75.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
		20 代	(n=22)	17 100.0	16 77.3	16 72.7	16 72.7	14 63.6	10 45.5	12 54.5	9 40.9	9 40.9	12 54.5	8 36.4	1 4.5	0 0.0	1 4.5	0 0.0
		30 代	(n=68)	61 100.0	51 89.7	46 75.0	50 73.5	41 60.3	27 39.7	35 51.5	20 29.4	28 41.2	27 39.7	19 27.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		40 代	(n=104)	76 100.0	70 73.1	60 67.3	61 58.7	58 55.8	28 26.9	36 34.6	23 22.1	28 26.9	23 22.1	25 24.0	3 2.9	1 1.0	5 4.8	2 1.9
		50 代	(n=93)	78 100.0	69 83.9	62 74.2	55 66.7	53 59.1	53 57.0	40 43.0	36 38.7	34 36.6	28 30.1	31 33.3	3 3.2	1 1.1	1 1.1	0 0.0
		60 代	(n=47)	36 100.0	26 83.9	23 74.2	22 66.7	18 59.1	16 57.0	16 43.0	10 21.3	8 17.0	11 23.4	12 25.5	1 2.1	1 2.1	5 10.6	0 0.0
		70 代	(n=48)	23 100.0	19 47.9	11 39.6	10 22.9	11 22.9	9 18.8	9 18.8	13 27.1	10 20.8	4 8.3	4 8.3	0 0.0	0 0.0	12 25.0	7 14.6
		80 代以上	(n=25)	10 100.0	7 40.0	2 28.0	5 8.0	3 12.0	4 16.0	4 16.0	4 16.0	4 16.0	0 0.0	4 16.0	0 0.0	0 0.0	5 20.0	10 40.0
	男性	10 代	(n=2)	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代	(n=14)	11 100.0	9 78.6	11 64.3	7 78.6	7 50.0	5 35.7	6 42.9	3 21.4	3 21.4	5 35.7	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		30 代	(n=33)	26 100.0	24 78.8	20 72.7	22 66.7	18 54.5	10 30.3	12 36.4	10 30.3	9 27.3	16 48.5	6 18.2	0 0.0	0 0.0	1 3.0	0 0.0
		40 代	(n=51)	40 100.0	33 78.4	23 64.7	25 45.1	21 49.0	17 33.3	8 15.7	10 19.6	10 19.6	14 27.5	11 21.6	0 0.0	1 2.0	4 7.8	1 2.0
		50 代	(n=38)	27 100.0	23 71.1	23 60.5	18 47.4	17 44.7	15 39.5	8 21.1	12 31.6	11 28.9	8 21.1	8 21.1	4 10.5	1 2.6	2 5.3	0 0.0
		60 代	(n=42)	33 100.0	22 78.6	16 52.4	14 33.3	8 19.0	11 26.2	8 19.0	10 23.8	5 11.9	4 9.5	10 23.8	0 0.0	2 4.8	3 7.1	1 2.4
		70 代	(n=25)	14 100.0	11 56.0	9 44.0	9 36.0	7 36.0	7 28.0	2 8.0	8 32.0	5 20.0	3 12.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	5 20.0	2 8.0
		80 代以上	(n=16)	2 100.0	1 12.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	7 43.8	4 25.0
有無別	女性	配偶者 いる	(n=274)	207 100.0	182 75.5	147 66.4	151 55.1	143 52.2	99 36.1	99 36.1	76 27.7	83 30.3	69 25.2	64 23.4	4 1.5	1 0.4	17 6.2	9 3.3
		配偶者 いない	(n=129)	92 100.0	74 71.3	72 57.4	69 53.5	55 42.6	47 36.4	51 39.5	37 28.7	38 29.5	35 27.1	38 29.5	4 3.1	3 2.3	12 9.3	7 5.4
	男性	配偶者 いる	(n=165)	115 100.0	95 69.7	75 57.6	75 45.5	64 38.8	49 29.7	33 20.0	43 26.1	33 20.0	40 24.2	28 17.0	3 1.8	3 1.8	18 10.9	5 3.0
		配偶者 いない	(n=53)	39 100.0	27 73.6	28 50.9	20 37.7	16 30.2	18 34.0	12 22.6	11 20.8	9 17.0	9 17.0	12 22.6	1 1.9	1 1.9	3 5.7	2 3.8

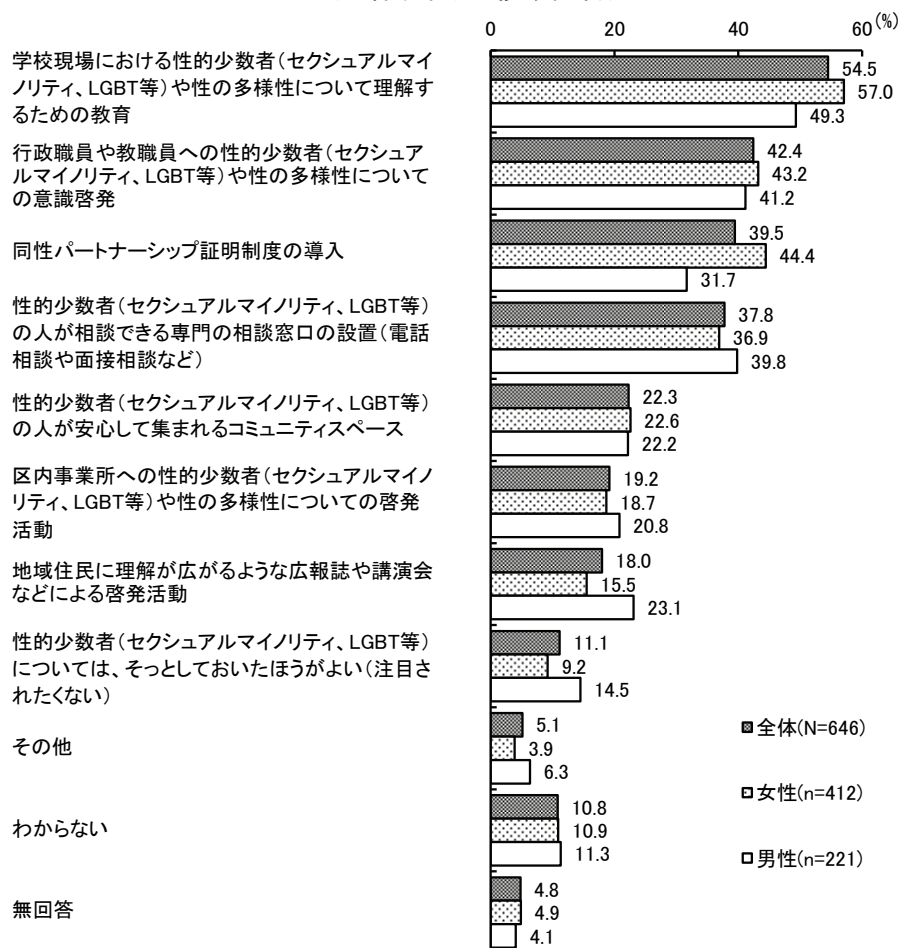
問 24 あなたは、性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）をはじめ、すべての人の性の多様性が認め合える社会をつくるために、区にどのような施策を期待しますか。（いくつでも○）

●「学校現場における性的少数者や性の多様性について理解するための教育」、「行政職員や教職員への性的少数者や性の多様性についての意識啓発」が区に期待されている

全体では、「学校現場における性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）や性の多様性について理解するための教育」（54.5%）が最も多く、次いで「行政職員や教職員への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）や性の多様性についての意識啓発」（42.4%）、「同性パートナーシップ証明制度の導入」（39.5%）となっている。

性別にみると、男女ともに「学校現場における性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）や性の多様性について理解するための教育」（女性：57.0%、男性：49.3%）が最も多く、女性は次いで「同性パートナーシップ証明制度の導入」（44.4%）、「行政職員や教職員への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）や性の多様性についての意識啓発」（43.2%）となっており、男性は次いで「行政職員や教職員への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）や性の多様性についての意識啓発」（41.2%）、「性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）の人が相談できる専門の相談窓口の設置（電話相談や面接相談など）」（39.8%）となっている。また、女性は「同性パートナーシップ証明制度の導入」（女性：44.4%、男性：31.7%）で男性を 12.7 ポイント上回っている。（図表Ⅲ－８－２－①）

図表Ⅲ－８－２－① すべての人の性の多様性が認め合える社会をつくるために区に期待する施策
（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、女性 20 代、40～60 代、男性 30～60 代は「学校現場における性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）や性の多様性について理解するための教育」、女性 30 代は「同性パートナーシップ証明制度の導入」、女性 70 代、男性 20 代、70 代は「性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）の人が相談できる専門の相談窓口の設置（電話相談や面接相談など）」が最も多くなっている。また、女性 60 代、70 代、80 代以上、男性の 70 代、80 代以上は「わからない」が 2 割を超えている。（図表Ⅲ－８－２－②）

図表Ⅲ－８－２－② すべての人の性の多様性が認め合える社会をつくるために区に期待する施策
（全体、性別、性・年代別、性・配偶者の有無別：複数回答）

[上段：実数、下段：%]														
			学校現場における性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）や性の多様な人に対する理解のための教育	行政職員や教職員への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）や性の多様性についての意識啓発	同性パートナーシップ証明制度の導入	窓口の設置（電話相談や面接相談など）	性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）の人が安心して集まれるコミュニティスペース	性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）の啓発活動	区内事業所への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）や性の多様性についての啓発活動	地域住民に理解が広がるような広報誌や講演会などによる啓発活動	性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）については、そつとしておい	その他	わからない	無回答
全 体			(N=646) 100.0	352 54.5	274 42.4	255 39.5	244 37.8	144 22.3	124 19.2	116 18.0	72 11.1	33 5.1	70 10.8	31 4.8
性別	女	性	(n=412) 100.0	235 57.0	178 43.2	183 44.4	152 36.9	93 22.6	77 18.7	64 15.5	38 9.2	16 3.9	45 10.9	20 4.9
	男	性	(n=221) 100.0	109 49.3	91 41.2	70 31.7	88 39.8	49 22.2	46 20.8	51 23.1	32 14.5	14 6.3	25 11.3	9 4.1
性・年代別	女性	10 代	(n=4) 100.0	3 75.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代	(n=22) 100.0	18 81.8	13 59.1	14 63.6	12 54.5	12 54.5	6 27.3	2 9.1	3 13.6	0 0.0	1 4.5	0 0.0
		30 代	(n=68) 100.0	51 75.0	32 47.1	54 79.4	19 27.9	16 23.5	15 22.1	13 19.1	6 8.8	3 4.4	4 5.9	0 0.0
		40 代	(n=104) 100.0	58 55.8	45 43.3	45 43.3	32 30.8	24 23.1	15 14.4	13 12.5	7 11.5	3 6.7	8 7.7	2 1.9
		50 代	(n=93) 100.0	62 66.7	47 50.5	48 51.6	42 45.2	22 23.7	22 23.7	21 22.6	7 7.5	5 5.4	3 3.2	0 0.0
		60 代	(n=47) 100.0	24 51.1	23 48.9	11 23.4	22 46.8	8 17.0	9 19.1	7 14.9	1 2.1	0 0.0	10 21.3	1 2.1
		70 代	(n=48) 100.0	11 22.9	10 20.8	6 12.5	15 31.3	5 10.4	6 12.5	4 8.3	7 14.6	1 2.1	14 29.2	7 14.6
		80 代以上	(n=25) 100.0	8 32.0	6 24.0	3 12.0	8 32.0	5 20.0	3 12.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	5 20.0	9 36.0
	男性	10 代	(n=2) 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代	(n=14) 100.0	7 50.0	6 42.9	5 35.7	8 57.1	7 50.0	2 14.3	3 21.4	3 21.4	1 7.1	1 7.1	0 0.0
		30 代	(n=33) 100.0	22 66.7	19 57.6	19 57.6	13 39.4	5 15.2	7 21.2	6 18.2	4 12.1	4 12.1	2 6.1	0 0.0
		40 代	(n=51) 100.0	26 51.0	23 45.1	17 33.3	22 43.1	15 29.4	16 31.4	10 19.6	6 11.8	3 5.9	7 13.7	1 2.0
		50 代	(n=38) 100.0	19 50.0	12 31.6	14 36.8	15 39.5	10 26.3	9 23.7	11 28.9	5 13.2	3 7.9	1 2.6	0 0.0
		60 代	(n=42) 100.0	21 50.0	16 38.1	11 26.2	15 35.7	7 16.7	10 23.8	10 23.8	9 21.4	3 7.1	4 9.5	2 4.8
		70 代	(n=25) 100.0	10 40.0	10 40.0	4 16.0	12 48.0	4 16.0	2 8.0	8 32.0	3 12.0	0 0.0	6 24.0	2 8.0
		80 代以上	(n=16) 100.0	3 18.8	4 25.0	0 0.0	2 12.5	1 6.3	0 0.0	3 18.8	2 12.5	0 0.0	4 25.0	4 25.0
性・配偶者の有無別	女性	配偶者 いる	(n=274) 100.0	162 59.1	112 40.9	120 43.8	94 34.3	59 21.5	45 16.4	39 14.2	22 8.0	10 3.6	24 8.8	10 3.6
		配偶者 いない	(n=129) 100.0	69 53.5	64 49.6	60 46.5	54 41.9	32 24.8	31 24.0	23 17.8	14 10.9	6 4.7	21 16.3	5 3.9
	男性	配偶者 いる	(n=165) 100.0	83 50.3	67 40.6	54 32.7	66 40.0	34 20.6	34 20.6	39 23.6	20 12.1	13 7.9	19 11.5	7 4.2
		配偶者 いない	(n=53) 100.0	25 47.2	23 43.4	15 28.3	21 39.6	15 28.3	12 22.6	11 20.8	12 22.6	1 1.9	5 9.4	1 1.9

9 防災

問 25 男女共同参画の視点での防災対策が求められていますが、あなたは、地域における防災対策において特に重要なことは何だと思いますか。（いくつでも○）

●男女ともに「災害や防災に関する知識の習得を進める」が最も多い

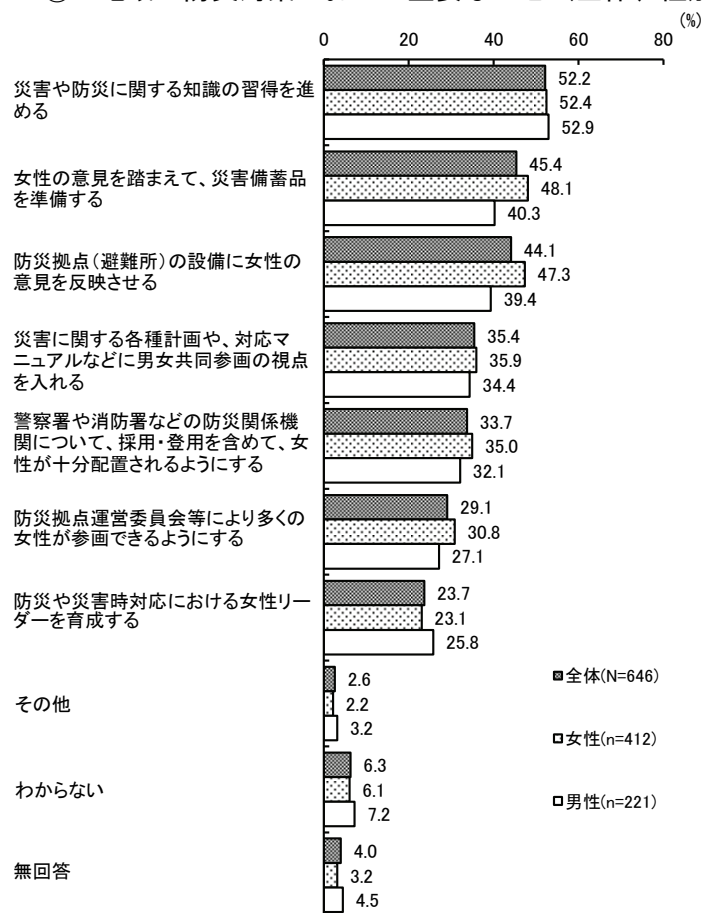
全体では、「災害や防災に関する知識の習得を進める」（52.2%）が最も多く、「女性の意見を踏まえて、災害備蓄品を準備する」（45.4%）がそれに続いている。

性別にみると、「女性の意見を踏まえて、災害備蓄品を準備する」と「防災拠点（避難所）の設備に女性の意見を反映させる」では、女性が男性を8ポイント程度上回っている。（図表Ⅲ－9－1－①）

性・年代別にみると、男性20代、50代を除き、上位3項目は全体結果と同じ傾向となっている。女性20代、30代は「女性の意見を踏まえて災害備蓄品を準備する」、女性40代、50代、70代は「災害や防災に関する知識の習得を進める」、60代は「防災拠点の設備に女性の意見を反映させる」の割合が最も高くなっている。男性30代、50代、70代は上位の割合が拮抗しており、回答が分散している。

居住地域別には大きな違いがみられない。居住歴別にみると、1位は全体結果と同じ傾向であるが、居住歴6年以上～10年未満、10年以上～15年未満の層は「防災拠点の設備に女性の意見を反映させる」の割合が高くなっている。（図表Ⅲ－9－1－②）

図表Ⅲ－9－1－① 地域の防災対策において重要なこと（全体、性別：複数回答）



図表Ⅲ－９－１－② 地域の防災対策において重要なこと
(全体、性別、性・年代別、居住地域別、居住歴別：複数回答)

[上段：実数、下段：％]

				災害や防災に関する知識の習得を進める	女性の意見を踏まえて、災害備蓄品を準備する	防災拠点（避難所）の設備に女性の意見を反映させる	災害に関する各種計画や、対応マニュアルなどに男女共同参画の視点をを入れる	警察署や消防署などの防災関係機関が十分に配置されるようにする	防災拠点運営委員会等により多くの女性が参画できるようにする	防災や災害時対応における女性リーダーを育成する	その他	わからない	無回答
全体 (N=646)				337 100.0	293 45.4	285 44.1	229 35.4	218 33.7	188 29.1	153 23.7	17 2.6	41 6.3	26 4.0
性別	女	女性 (n=412)	216 100.0	198 48.1	195 47.3	148 35.9	144 35.0	127 30.8	95 23.1	9 2.2	25 6.1	13 3.2	
	男	男性 (n=221)	117 100.0	89 40.3	87 39.4	76 34.4	71 32.1	60 27.1	57 25.8	7 3.2	16 7.2	10 4.5	
性・年代別	女性	10代 (n=4)	3 100.0	2 75.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20代 (n=22)	13 100.0	14 59.1	9 40.9	9 40.9	6 27.3	5 22.7	2 9.1	0 0.0	1 4.5	0 0.0	
		30代 (n=68)	36 100.0	39 57.4	38 55.9	21 30.9	20 29.4	17 25.0	25 36.8	2 2.9	9 13.2	0 0.0	
		40代 (n=104)	51 100.0	46 49.0	44 42.3	43 41.3	37 35.6	26 25.0	22 21.2	3 2.9	6 5.8	2 1.9	
		50代 (n=93)	57 100.0	42 61.3	48 45.2	36 38.7	41 44.1	36 38.7	19 20.4	4 4.3	3 3.2	0 0.0	
		60代 (n=47)	24 100.0	26 51.1	29 61.7	17 36.2	18 38.3	18 38.3	11 23.4	0 0.0	2 4.3	0 0.0	
		70代 (n=48)	24 100.0	19 39.6	18 37.5	14 29.2	16 33.3	17 35.4	8 16.7	0 0.0	4 8.3	2 4.2	
		80代以上 (n=25)	8 100.0	10 40.0	8 32.0	6 24.0	6 24.0	6 24.0	8 32.0	0 0.0	0 0.0	8 32.0	
	男性	10代 (n=2)	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20代 (n=14)	12 100.0	6 42.9	2 14.3	3 21.4	2 14.3	2 14.3	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	
		30代 (n=33)	14 100.0	17 51.5	15 45.5	11 33.3	13 39.4	11 33.3	7 21.2	2 6.1	1 3.0	1 3.0	
		40代 (n=51)	32 100.0	19 37.3	19 37.3	16 31.4	11 21.6	11 21.6	13 25.5	0 0.0	0 0.0	3 5.9	
		50代 (n=38)	15 100.0	11 28.9	15 39.5	14 36.8	14 36.8	12 31.6	9 23.7	2 5.3	6 15.8	0 0.0	
		60代 (n=42)	25 100.0	19 45.2	20 47.6	18 42.9	20 47.6	12 28.6	14 33.3	2 4.8	2 4.8	1 2.4	
		70代 (n=25)	13 100.0	12 52.0	12 48.0	10 40.0	7 28.0	7 28.0	7 28.0	0 0.0	3 12.0	2 8.0	
		80代以上 (n=16)	4 100.0	4 25.0	4 25.0	4 25.0	3 18.8	5 31.3	4 25.0	1 6.3	3 18.8	3 18.8	
	居住地域別	京橋地域 (n=153)	79 100.0	66 43.1	71 46.4	53 34.6	53 34.6	45 29.4	37 24.2	6 3.9	12 7.8	5 3.3	
		日本橋地域 (n=204)	107 100.0	90 44.1	95 46.6	72 35.3	69 33.8	63 30.9	45 22.1	5 2.5	10 4.9	9 4.4	
		月島地域 (n=278)	145 100.0	130 52.2	116 46.8	98 41.7	92 35.3	79 33.1	69 28.4	5 24.8	19 1.8	11 6.8	
	居住歴別	3年未満 (n=82)	41 100.0	38 46.3	36 43.9	24 29.3	20 24.4	13 15.9	14 17.1	1 1.2	11 13.4	2 2.4	
3年以上～6年未満 (n=102)		57 100.0	47 55.9	43 46.1	32 31.4	36 35.3	23 22.5	20 19.6	6 5.9	5 4.9	0 0.0		
6年以上～10年未満 (n=84)		42 100.0	40 47.6	45 53.6	34 40.5	28 33.3	29 34.5	28 33.3	0 0.0	5 6.0	3 3.6		
10年以上～15年未満 (n=93)		49 100.0	44 52.7	50 47.3	41 44.1	30 32.3	25 26.9	21 22.6	4 4.3	5 5.4	1 1.1		
15年以上～20年未満 (n=71)		40 100.0	31 43.7	29 40.8	19 26.8	27 38.0	24 33.8	15 21.1	0 0.0	4 5.6	4 5.6		
20年以上 (n=203)		103 100.0	87 42.9	79 38.9	73 36.0	74 36.5	73 36.0	54 26.6	5 2.5	10 4.9	15 7.4		

問 26 あなたが、防災拠点（避難所）の運営において、男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。（いくつでも○）

●男女別の配慮などによる防災拠点（避難所）のプライバシー確保が求められている

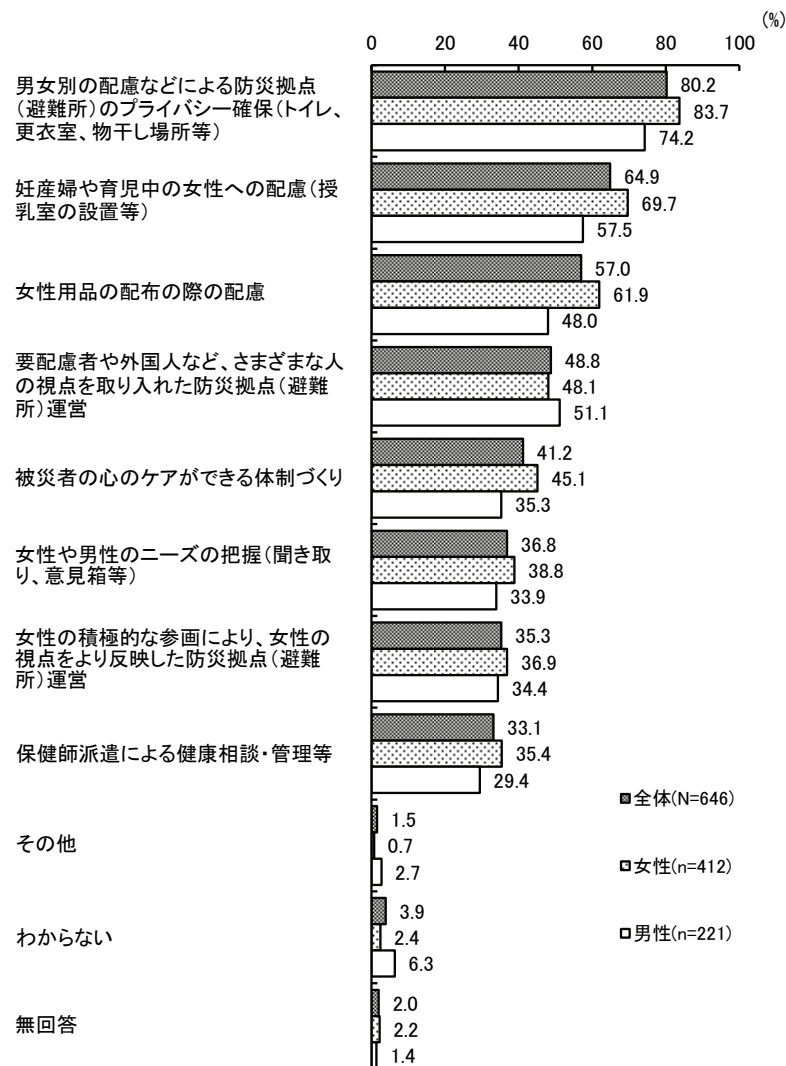
全体では、「男女別の配慮などによる防災拠点（避難所）のプライバシー確保（トイレ、更衣室、物干し場所等）」(80.2%) が最も多く、次いで「妊産婦や育児中の女性への配慮（授乳室の設置等）」(64.9%)、「女性用品の配布の際の配慮」（57.0%）の3項目が半数を超えて高くなっている。

性別にみると、男女で違いのある項目が多く、「男女別の配慮などによる防災拠点のプライバシー確保」、「妊産婦や育児中の女性への配慮」、「女性用品の配布の際の配慮」、「被災者の心のケアができる体制づくり」は、男性よりも女性の方が10ポイント前後高くなっている。（図表Ⅲ－9－2－①）

性・年代別にみると、女性20代は「女性用品の配布の際の配慮」（90.9%）、「妊産婦や育児中の女性への配慮」（86.4%）の2項目が高くなっているが、それ以外は男女年代を通して「男女別の配慮などによる防災拠点のプライバシー確保」が最も高くなっている。

居住地域別、居住歴別にみて、大きな違いはみられない。（図表Ⅲ－9－2－②）

図表Ⅲ－9－2－① 防災拠点（避難所）の運営において男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があること（全体、性別：複数回答）



図表Ⅲ－９－２－② 防災拠点（避難所）の運営において男女共同参画の視点に配慮して
取り組む必要があること（全体、性別、性・年代別、居住地域別、居住歴別：複数回答）

[上段：実数、下段：％]

			イ（避難所）の更衣室、物干し場所等（ト）	男女別の配慮などによる防災拠点（授乳室の設置等）	妊産婦や育児中の女性への配慮	女性用品の配布の際の配慮	要配慮者や外国人など、さまざまな人の視点をとり入れた防災拠点（避難所）運営	被災者の心のケアができる体制づくり	女性や男性のニーズの把握（聞き取り、意見箱等）	視点をより反映した防災拠点（避難所）運営	女性の積極的な参画により、女性の視点をより反映した防災拠点（避難所）運営	保健師派遣による健康相談・管理等	その他	わからない	無回答
全	体	(N=646)	518	419	368	315	266	238	228	214	10	25	13		
		100.0	80.2	64.9	57.0	48.8	41.2	36.8	35.3	33.1	1.5	3.9	2.0		
性別	女	(n=412)	345	287	255	198	186	160	152	146	3	10	9		
	男	(n=221)	164	127	106	113	78	75	76	65	6	14	3		
	性	100.0	74.2	57.5	48.0	51.1	35.3	33.9	34.4	29.4	2.7	6.3	1.4		
性・年代別	女性	10代	(n=4)	4	3	4	2	3	3	2	0	0	0		
		20代	(n=22)	17	19	20	11	11	7	5	0	0	0		
		30代	(n=68)	55	55	51	37	25	26	24	0	4	0		
		40代	(n=104)	88	79	74	56	43	46	37	2	3	0		
		50代	(n=93)	85	66	59	52	44	43	35	1	1	0		
		60代	(n=47)	40	31	22	21	20	18	19	0	1	0		
		70代	(n=48)	39	24	18	13	20	10	17	0	0	3		
		80代以上	(n=25)	17	10	7	6	12	6	7	0	1	5		
	男性	10代	(n=2)	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0		
		20代	(n=14)	9	7	9	6	5	4	2	0	0	0		
		30代	(n=33)	28	24	25	16	15	11	8	1	2	0		
		40代	(n=51)	38	35	32	28	18	20	13	4	1	0		
		50代	(n=38)	31	27	15	22	16	14	10	1	2	0		
		60代	(n=42)	36	19	16	27	14	15	20	0	0	1		
		70代	(n=25)	15	12	7	11	8	8	11	0	4	0		
		80代以上	(n=16)	6	2	2	3	2	3	4	0	4	2		
居住地域別	京橋地域	(n=153)	129	99	88	78	61	51	52	54	0	6	3		
		100.0	84.3	64.7	57.5	51.0	39.9	33.3	34.0	35.3	0.0	3.9	2.0		
居住地域別	日本橋地域	(n=204)	159	133	118	98	82	77	71	59	4	4	5		
		100.0	77.9	65.2	57.8	48.0	40.2	37.7	34.8	28.9	2.0	2.0	2.5		
居住地域別	月島地域	(n=278)	222	181	155	135	120	107	103	97	5	14	5		
		100.0	79.9	65.1	55.8	48.6	43.2	38.5	37.1	34.9	1.8	5.0	1.8		
居住歴別	3年未満	(n=82)	67	62	55	45	29	30	24	23	1	4	0		
		100.0	81.7	75.6	67.1	54.9	35.4	36.6	29.3	28.0	1.2	4.9	0.0		
	3年以上～6年未満	(n=102)	79	75	67	47	45	33	33	30	2	3	1		
		100.0	77.5	73.5	65.7	46.1	44.1	32.4	32.4	29.4	2.0	2.9	1.0		
	6年以上～10年未満	(n=84)	73	67	61	49	36	37	36	26	1	2	0		
		100.0	86.9	79.8	72.6	58.3	42.9	44.0	42.9	31.0	1.2	2.4	0.0		
居住歴別	10年以上～15年未満	(n=93)	80	64	59	52	43	36	30	35	1	2	0		
		100.0	86.0	68.8	63.4	55.9	46.2	38.7	32.3	37.6	1.1	2.2	0.0		
	15年以上～20年未満	(n=71)	55	38	29	32	31	31	24	23	2	5	1		
		100.0	77.5	53.5	40.8	45.1	43.7	43.7	33.8	32.4	2.8	7.0	1.4		
	20年以上	(n=203)	157	108	91	87	79	68	80	73	2	7	11		
		100.0	77.3	53.2	44.8	42.9	38.9	33.5	39.4	36.0	1.0	3.4	5.4		

10 女性の活躍推進

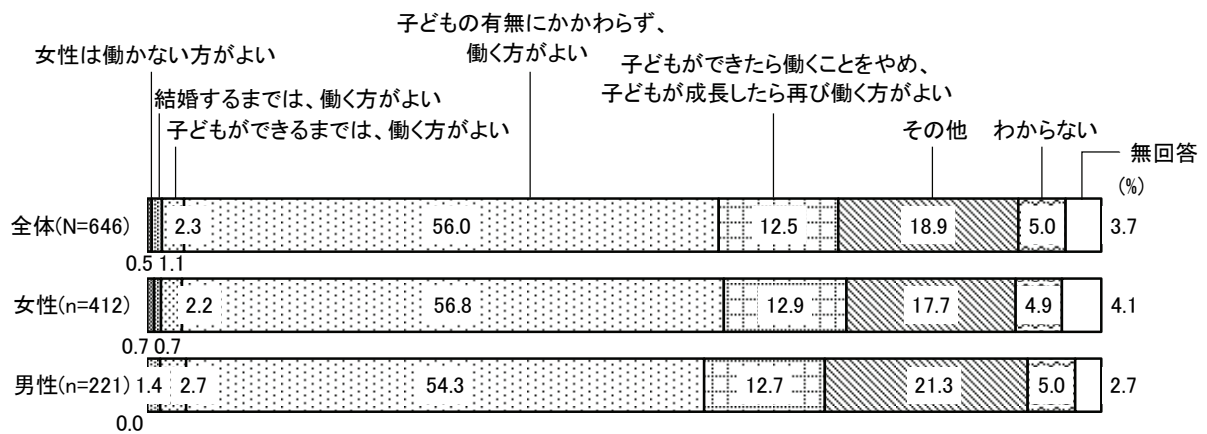
問 27 あなたは、女性が働くことについてどう思いますか。（1つに○）

●女性の働き方は「就業継続型」が増え、「中断再就職型」が減っている

全体では「子どもの有無にかかわらず、働く方がよい」（就業継続型）が 56.0%であり、「子どもができれば働くことをやめ、子どもが成長したら再び働く方がよい」（中断再就職型）が 12.5%となっている。「その他」の回答は 18.9%あり、具体的には、個人の意思が尊重される、個人の自由でよい、生きたいように生きればよい等の意見が大半となっている。

性別にみても、男女とも全体と同様の傾向を示している。（図表Ⅲ－10－1－①）

図表Ⅲ－10－1－① 女性が働くことに対する考え（全体、性別）



* 「女性が働くこと」については、次の5タイプを想定して質問を行っている

「子どもの有無にかかわらず、働く方がよい」（就業継続型）

「結婚するまでは、働く方がよい」（結婚退職型）

「子どもができるまでは、働く方がよい」（出産退職型）

「子どもの有無にかかわらず働く方がよい」（職業継続型）

「子どもができれば働くことをやめ、子どもが成長したら再び働く方がよい」（中断再就職型）

性・年代別にみると、女性は30代と50代で「子どもの有無にかかわらず、働く方がよい」（就業継続型）の割合が最も高く、男性は40代、50代、70代での割合が高くなっている。また30代では、女性が60.3%であるのに対して男性が48.5%と女性の方が、11.8ポイント高くなっている。

また女性20代と、男性30代では、「子どもの有無にかかわらず、働く方がよい」（就業継続型）に次いで、「その他」に回答する割合が3割を超えている（女性20代:31.8%、男性30代:36.4%）。（図表Ⅲ-10-1-③）

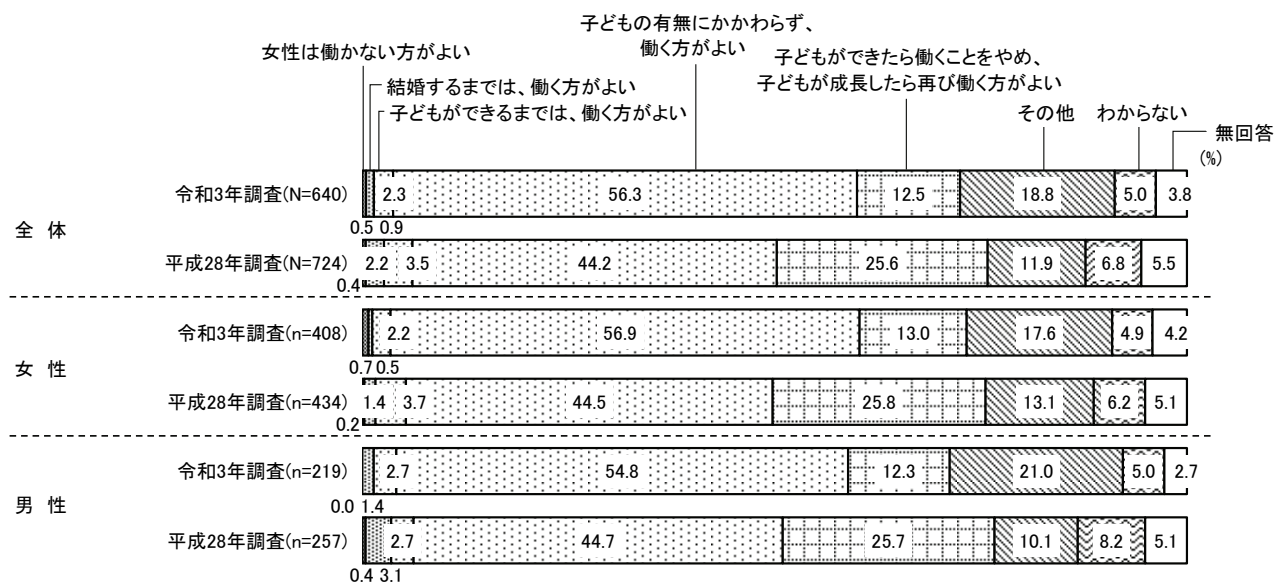
図表Ⅲ-10-1-③ 女性が働くことに対する考え（全体、性別、性・年代別）

[上段:実数、下段:%]											
				女性 は働か ない方 がよい	結 婚す るま では、 働く 方が よい	子 ども がで きる ま では、 働く 方が よい	子 ども の有 無に かか わら ず、 働く 方が よい	子 ども が成 長し たら 再働 くこ とを やめ、 子	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全		体 (N=646)		3 100.0	7 1.1	15 2.3	362 56.0	81 12.5	122 18.9	32 5.0	24 3.7
性 別	女	性 (n=412)		3 100.0	3 0.7	9 2.2	234 56.8	53 12.9	73 17.7	20 4.9	17 4.1
	男	性 (n=221)		0 100.0	3 1.4	6 2.7	120 54.3	28 12.7	47 21.3	11 5.0	6 2.7
性・年代別	女性	10代	(n=4)	0 100.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
		20代	(n=22)	0 100.0	0 0.0	1 4.5	9 40.9	3 13.6	7 31.8	2 9.1	0 0.0
		30代	(n=68)	1 100.0	0 0.0	2 2.9	41 60.3	4 5.9	19 27.9	0 0.0	1 1.5
		40代	(n=104)	1 100.0	0 0.0	1 1.0	58 55.8	10 9.6	24 23.1	8 7.7	2 1.9
		50代	(n=93)	0 100.0	0 0.0	2 2.2	58 62.4	13 14.0	14 15.1	4 4.3	2 2.2
		60代	(n=47)	1 100.0	0 0.0	1 2.1	27 57.4	7 14.9	6 12.8	1 2.1	4 8.5
		70代	(n=48)	0 100.0	1 2.1	1 2.1	28 58.3	12 25.0	1 2.1	3 6.3	2 4.2
		80代以上	(n=25)	0 100.0	1 4.0	1 4.0	10 40.0	4 16.0	1 4.0	2 8.0	6 24.0
	男性	10代	(n=2)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
		20代	(n=14)	0 100.0	1 7.1	0 0.0	7 50.0	1 7.1	4 28.6	1 7.1	0 0.0
		30代	(n=33)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	16 48.5	3 9.1	12 36.4	1 3.0	1 3.0
		40代	(n=51)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	30 58.8	4 7.8	12 23.5	4 7.8	1 2.0
		50代	(n=38)	0 100.0	0 0.0	1 2.6	24 63.2	5 13.2	7 18.4	1 2.6	0 0.0
		60代	(n=42)	0 100.0	0 0.0	1 2.4	23 54.8	6 14.3	8 19.0	2 4.8	2 4.8
		70代	(n=25)	0 100.0	1 4.0	3 12.0	14 56.0	4 16.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0
		80代以上	(n=16)	0 100.0	1 6.3	1 6.3	6 37.5	4 25.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5

平成 28 年調査と比較すると、令和 3 年調査では、男女とも「子どもができたら働くことをやめ、子どもが成長したら再び働く方がよい」（中断再就職型）の割合が 10 ポイント以上低くなり、「子どもの有無にかかわらず働く方がよい」（就業継続型）の割合が 10 ポイント以上高くなっている。（図表Ⅲ－10－1－②）

図表Ⅲ－10－1－② 女性が働くことに対する考え

（令和 3 年調査・平成 28 年調査：全体、性別）



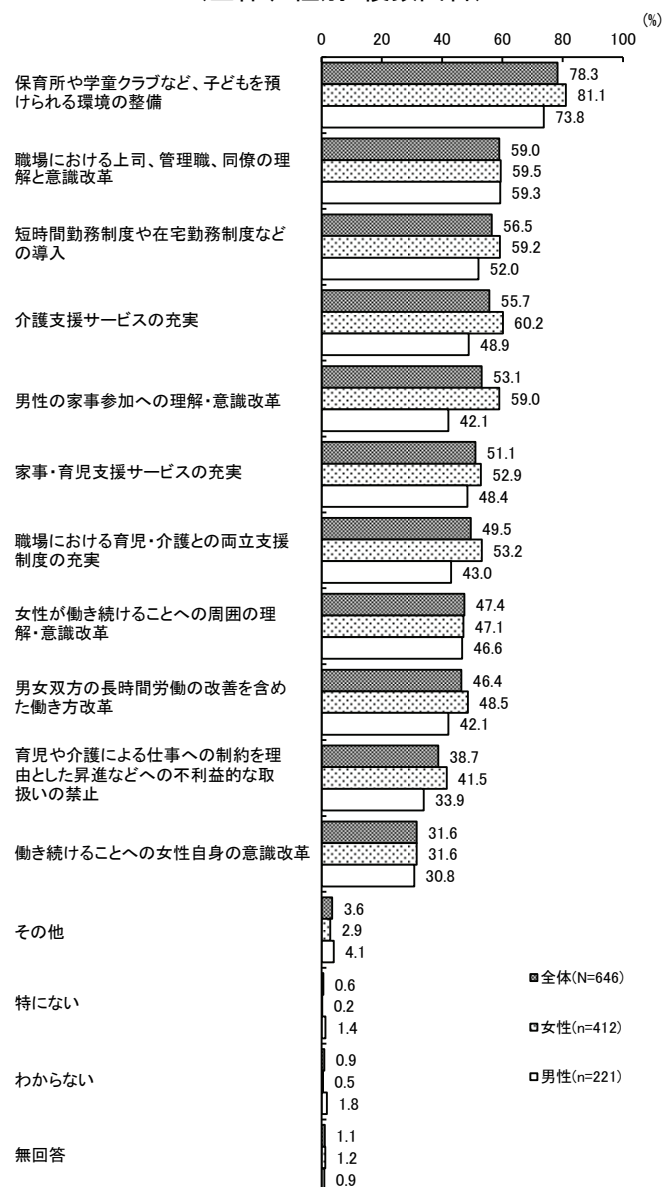
問 28 あなたは、女性が出産・育児・介護により離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(いくつでも○)

●「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多い

全体では、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(78.3%)が最も多くなっている。また、「職場における上司、管理職、同僚の理解と意識改革」(59.0%)、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(56.5%)、「介護支援サービスの充実」(55.7%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(53.1%)、「家事・育児支援サービスの充実」(51.1%)も半数を超えている。

性別にみると、男女とも全体と同様の傾向となっているが、「男性の家事参加への理解・意識改革」(女性:59.0%、男性:42.1%)については男性よりも女性の方が16.9ポイント高くなっている。(図表Ⅲ-10-2-①)

図表Ⅲ-10-2-① 女性が出産・育児・介護により離職せず同じ職場で働き続けるために必要なこと
(全体、性別:複数回答)



Ⅲ 調査結果【区民調査】

性・年代別にみると、男女年代を通して「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が最も高くなっており、女性 20 代、30 代では 60%を超える項目が 7 項目ずつとなっており、挙げられた項目数が多くなっている。男性は 20～50 代で 2 位が「職場における上司、管理職、同僚の理解と意識改革」となっており、職場の理解が重要と考える人が多くなっている。なお女性 50 代、男性 60 代は「介護支援サービスの充実」の割合が高くなっている。（図表Ⅲ－10－2－②）

図表Ⅲ－10－2－② 女性が出産・育児・介護により離職せず同じ職場で働き続けるために必要なこと
（全体、性別、性・年代別：複数回答）

[上段:実数、下段:%]																		
			保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	職場における上司、管理職、同僚の理解と意識改革	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	介護支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	家事・育児支援サービスの充実	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益的な取扱いの禁止	働き続けることへの女性自身の意識改革	その他	特にない	わからない	無回答	
全			体 (N=646) 100.0	506 78.3	381 59.0	365 56.5	360 55.7	343 53.1	330 51.1	320 49.5	306 47.4	300 46.4	250 38.7	204 31.6	23 3.6	4 0.6	6 0.9	7 1.1
性別	女	性	(n=412) 100.0	334 81.1	245 59.5	244 59.2	248 60.2	243 59.0	218 52.9	219 53.2	194 47.1	200 48.5	171 41.5	130 31.6	12 2.9	1 0.2	2 0.5	5 1.2
	男	性	(n=221) 100.0	163 73.8	131 59.3	115 52.0	108 48.9	93 42.1	107 48.4	95 43.0	103 46.6	93 42.1	75 33.9	68 30.8	9 4.1	3 1.4	4 1.8	2 0.9
性・年代別	女性	10代	(n=4) 100.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20代	(n=22) 100.0	20 90.9	18 81.8	17 77.3	14 63.6	12 54.5	13 59.1	17 77.3	14 63.6	14 63.6	13 59.1	7 31.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		30代	(n=68) 100.0	60 88.2	48 70.6	46 67.6	41 60.3	46 67.6	45 66.2	34 50.0	34 50.0	43 63.2	33 48.5	21 30.9	2 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		40代	(n=104) 100.0	87 83.7	63 60.6	64 61.5	61 58.7	61 58.7	58 55.8	49 47.1	48 46.2	39 37.5	37 35.6	5 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		50代	(n=93) 100.0	72 77.4	55 59.1	52 55.9	71 76.3	61 65.6	55 59.1	54 58.1	44 47.3	48 51.6	41 44.1	34 36.6	3 3.2	0 0.0	1 1.1	0 0.0
		60代	(n=47) 100.0	39 83.0	24 51.1	35 74.5	25 53.2	26 55.3	23 48.9	25 53.2	19 40.4	24 51.1	20 42.6	12 25.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		70代	(n=48) 100.0	38 79.2	21 43.8	22 45.8	26 54.2	26 54.2	17 35.4	21 43.8	18 37.5	17 35.4	11 22.9	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		80代以上	(n=25) 100.0	15 60.0	13 52.0	7 28.0	10 40.0	9 36.0	5 20.0	8 32.0	15 60.0	6 24.0	7 28.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	5 20.0	
	男性	10代	(n=2) 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20代	(n=14) 100.0	12 85.7	8 57.1	7 50.0	5 35.7	6 42.9	7 50.0	3 21.4	8 57.1	6 42.9	6 42.9	3 21.4	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		30代	(n=33) 100.0	27 81.8	26 78.8	20 60.6	16 48.5	18 54.5	19 57.6	13 39.4	18 54.5	14 42.4	12 36.4	2 6.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		40代	(n=51) 100.0	39 76.5	34 66.7	34 66.7	25 49.0	28 54.9	26 51.0	26 51.0	27 52.9	26 51.0	21 41.2	16 31.4	2 3.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		50代	(n=38) 100.0	25 65.8	24 63.2	21 55.3	20 52.6	15 39.5	15 39.5	17 44.7	18 47.4	16 42.1	14 36.8	12 31.6	2 5.3	1 2.6	0 0.0	0 0.0
		60代	(n=42) 100.0	31 73.8	22 52.4	21 50.0	27 64.3	15 35.7	22 52.4	21 50.0	19 45.2	20 47.6	14 33.3	17 40.5	1 2.4	1 2.4	0 0.0	0 0.0
		70代	(n=25) 100.0	21 84.0	12 48.0	10 40.0	10 40.0	8 32.0	14 56.0	6 24.0	10 40.0	5 20.0	5 20.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0
		80代以上	(n=16) 100.0	8 50.0	4 25.0	2 12.5	5 31.3	2 12.5	4 25.0	3 18.8	6 37.5	1 6.3	3 18.8	0 0.0	0 0.0	2 12.5	1 6.3	1 6.3

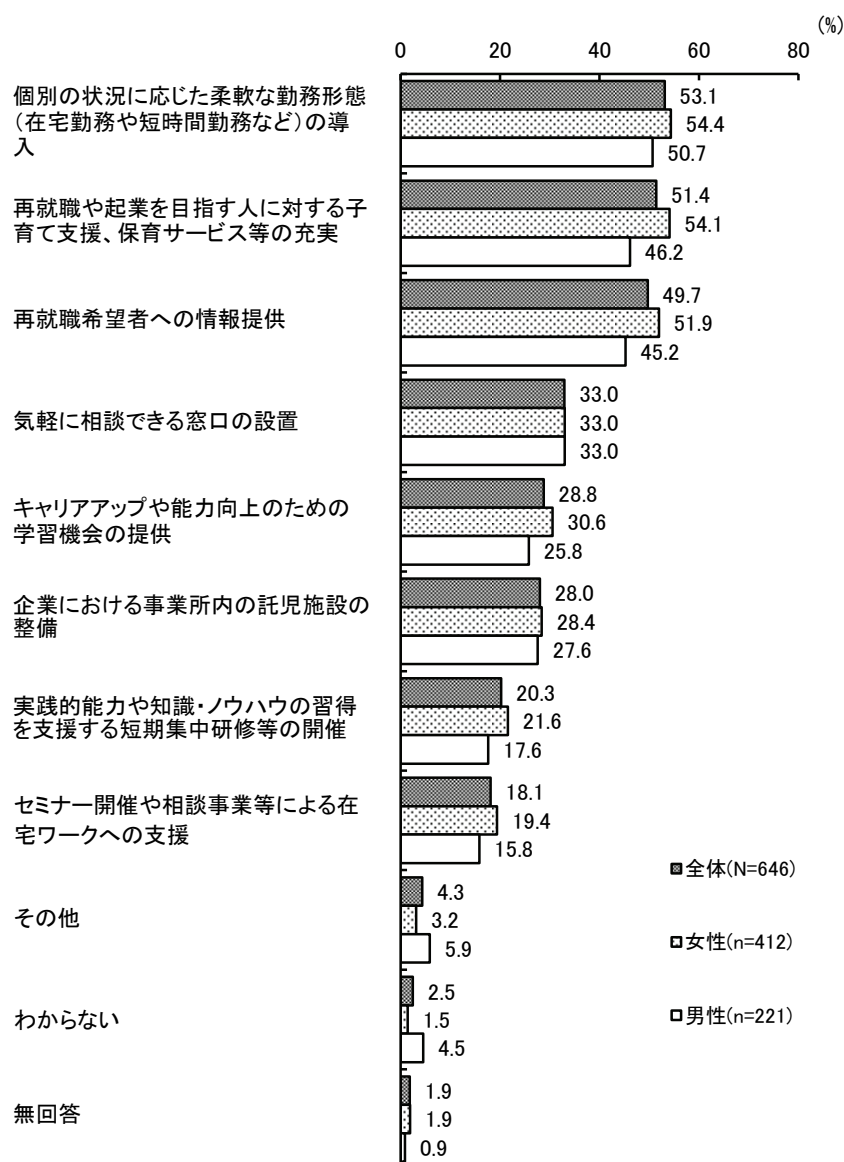
問 29 あなたは、子育てや介護によりいったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

●「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態の導入」、「再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービスの充実」、「再就職希望者への情報提供」が多くなっている

全体では、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入」（53.1%）が最も多く、次いで「再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」（51.4%）、「再就職希望者への情報提供」（49.7%）となっている。

性別にみると、「気軽に相談できる窓口の設置」や「その他」、「わからない」を除く項目で、女性の割合が男性よりも高くなっている。（図表Ⅲ－10－3－①）

図表Ⅲ－10－3－① 女性が再就職や起業にチャレンジする際に必要だと思うこと
（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、女性の20代から60代までは、順位が異なるが、「再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態の導入」、「再就職希望者への情報提供」が上位となっている。20代は「再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」が8割を超え、30代、50代、60代は「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態の導入」が6割を超えて高くなっている。60代は「再就職希望者への情報提供」が6割を超えている。

男性は40代で「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態の導入」(68.6%)、「再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」(62.7%)の割合が高く、60代、70代で「再就職希望者への情報提供」の割合が高くなっている。(図表Ⅲ-10-3-②)

図表Ⅲ-10-3-② 女性が再就職や起業にチャレンジする際に必要だと思うこと
(全体、性別、性・年代別:複数回答)

			[上段:実数、下段:%]										
			（個別の勤務状況や短時間勤務など）の形態導入	て再就職、支援や保育サービス等に対する子育て	再就職希望者への情報提供	気軽に相談できる窓口の設置	習キヤリアアップや能力向上のための学	備企業における事業所内の託児施設の整	支援実践する能力や知識・修等のハウの習得を	セミナー開催や相談事業等による在宅	その他	わからない	無回答
全 体 (N=646)			343 100.0	332 53.1	321 49.7	213 33.0	186 28.8	181 28.0	131 20.3	117 18.1	28 4.3	16 2.5	12 1.9
性別	女 性 (n=412)		224 100.0	223 54.4	214 51.9	136 33.0	126 30.6	117 28.4	89 21.6	80 19.4	13 3.2	6 1.5	8 1.9
	男 性 (n=221)		112 100.0	102 46.2	100 45.2	73 33.0	57 25.8	61 27.6	39 17.6	35 15.8	13 5.9	10 4.5	2 0.9
性・年代別	女性	10 代 (n=4)	2 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=22)	12 100.0	18 54.5	12 54.5	7 31.8	6 27.3	8 36.4	6 27.3	8 36.4	1 4.5	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=68)	42 100.0	47 61.8	33 48.5	17 25.0	32 47.1	29 42.6	20 29.4	19 27.9	5 7.4	2 2.9	0 0.0
		40 代 (n=104)	51 100.0	56 49.0	49 47.1	21 20.2	36 34.6	22 21.2	26 25.0	22 21.2	6 5.8	1 1.0	1 1.0
		50 代 (n=93)	56 100.0	50 60.2	54 58.1	36 38.7	27 29.0	26 28.0	17 18.3	19 20.4	1 1.1	1 1.1	0 0.0
		60 代 (n=47)	29 100.0	25 61.7	30 63.8	19 40.4	11 23.4	14 29.8	13 27.7	7 14.9	0 0.0	1 2.1	0 0.0
		70 代 (n=48)	22 100.0	15 45.8	26 54.2	22 45.8	7 14.6	14 29.2	5 10.4	2 4.2	0 0.0	0 0.0	2 4.2
		80代以上 (n=25)	10 100.0	10 40.0	9 36.0	13 52.0	4 16.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	0 0.0	1 4.0	5 20.0
	男性	10 代 (n=2)	0 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
		20 代 (n=14)	7 100.0	8 57.1	6 42.9	3 21.4	2 14.3	5 35.7	2 14.3	1 7.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=33)	18 100.0	15 45.5	13 39.4	9 27.3	13 39.4	13 39.4	8 24.2	5 15.2	4 12.1	0 0.0	0 0.0
		40 代 (n=51)	35 100.0	32 68.6	19 37.3	15 29.4	17 33.3	16 31.4	9 17.6	15 29.4	2 3.9	1 2.0	0 0.0
		50 代 (n=38)	21 100.0	14 55.3	20 52.6	8 21.1	8 21.1	8 21.1	10 26.3	6 15.8	4 10.5	1 2.6	0 0.0
		60 代 (n=42)	17 100.0	20 40.5	24 57.1	20 47.6	11 26.2	12 28.6	5 11.9	3 7.1	0 0.0	1 2.4	1 2.4
		70 代 (n=25)	11 100.0	10 44.0	13 52.0	11 44.0	5 20.0	5 20.0	2 8.0	4 16.0	1 4.0	3 12.0	0 0.0
		80代以上 (n=16)	3 100.0	2 18.8	4 25.0	7 43.8	1 6.3	1 6.3	3 18.8	1 6.3	1 6.3	3 18.8	1 6.3

11 区の男女共同参画の取組

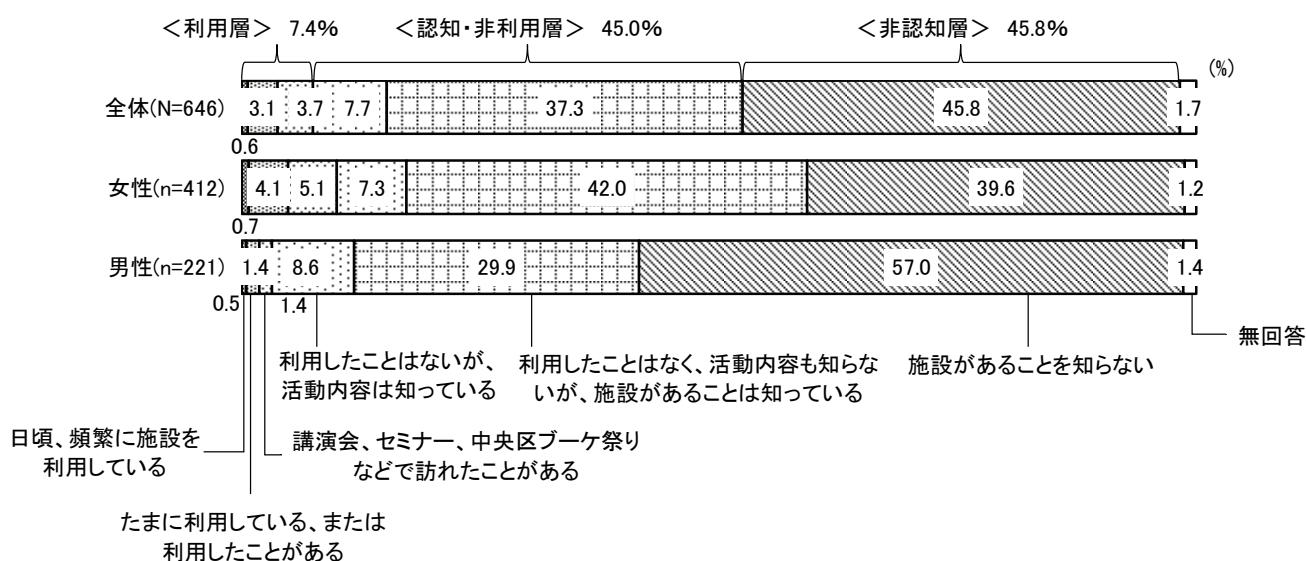
問 30 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ 21」を知っていますか。(1つに○)

●知っているが利用したことがない<認知・非利用層>が 45.0%、施設があることを知らない<非認知層>も 45.8%と、同程度となっている

女性センター「ブーケ 21」について、「日頃、頻繁に施設を利用している」と「たまに利用している、または利用したことがある」と「講演会、セミナー、中央区ブーケ祭りなどで訪れたことがある」を合計した<利用層>は 7.4%、「利用したことはないが、活動内容は知っている」と「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」を合計した<認知・非利用層>の割合は 45.0%、「施設があることを知らない」と回答した<非認知層>の割合は 45.8%である。

性別にみると、女性は<利用層>と<認知・非利用層>が多く、男性は<非認知層>が多くなっている。(図表Ⅲ-11-1-①)

図表Ⅲ-11-1-① 女性センター「ブーケ 21」の認知度（全体、性別）



居住地域別にみると、＜利用層＞の割合は、京橋地域で 11.8%、日本橋地域で 4.9%、月島地域で 6.9% である。＜認知・非利用層＞の割合は、京橋地域で 64.0%に上っており、最も高くなっている。＜非認知層＞の割合は、日本橋地域が 60.3%と最も高くなっている。

居住歴別にみると、居住歴が長くなるほど、「施設があることを知らない」とする割合が低くなる傾向にあり、3年未満では75.6%なのに対し、20年以上は22.2%と50ポイント以上の大きな開きがみられる。(図表Ⅲ-11-1-②)

図表Ⅲ-11-1-② 女性センター「ブーケ21」の認知度
(全体、性別、性・年代別、居住地域別、居住歴別)

				[上段:実数、下段:%]						
				利用層			認知・非利用層	非認知層	無回答	
				て日頃、頻繁に施設を利用し	たまに利用している、また	講演会、セミナー、中央区とが祭りなどで訪れたことがある	動利用したことは知っているが、活用	あることは知らないが、施設が		利用したことはなく、施設が
全 体 (N=646)				4	20	24	50	241	296	11
100.0				0.6	3.1	3.7	7.7	37.3	45.8	1.7
性別	女	性 (n=412)	3	17	21	30	173	163	5	
	男	性 (n=221)	1	3	3	19	66	126	3	
100.0				0.5	1.4	1.4	8.6	29.9	57.0	1.4
性・年代別	女性	10代 (n=4)	0	0	0	0	1	3	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0		
		20代 (n=22)	0	1	0	0	2	19	0	
		100.0	0.0	4.5	0.0	9.1	86.4	0.0		
		30代 (n=68)	0	2	0	5	24	37	0	
		100.0	0.0	2.9	0.0	35.3	54.4	0.0		
		40代 (n=104)	0	3	2	7	45	47	0	
		100.0	0.0	2.9	1.9	6.7	43.3	45.2	0.0	
	50代 (n=93)	0	2	4	8	46	33	0		
	100.0	0.0	2.2	4.3	8.6	49.5	35.5	0.0		
	60代 (n=47)	0	1	5	6	26	9	0		
	100.0	0.0	2.1	10.6	12.8	55.3	19.1	0.0		
	70代 (n=48)	2	5	5	3	22	11	0		
	100.0	4.2	10.4	10.4	6.3	45.8	22.9	0.0		
	80代以上 (n=25)	1	3	5	1	6	4	5		
	100.0	4.0	12.0	20.0	4.0	24.0	16.0	20.0		
	男性	10代 (n=2)	0	0	0	0	0	2	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
		20代 (n=14)	0	0	0	1	3	10	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	71.4	0.0	
30代 (n=33)		0	0	0	2	8	23	0		
100.0		0.0	0.0	0.0	6.1	24.2	69.7	0.0		
40代 (n=51)		0	1	0	3	19	28	0		
100.0		0.0	2.0	0.0	5.9	37.3	54.9	0.0		
50代 (n=38)	0	0	2	4	10	22	0			
100.0	0.0	0.0	5.3	10.5	26.3	57.9	0.0			
60代 (n=42)	0	0	1	4	13	24	0			
100.0	0.0	0.0	2.4	9.5	31.0	57.1	0.0			
70代 (n=25)	1	2	0	4	6	12	0			
100.0	4.0	8.0	0.0	16.0	24.0	48.0	0.0			
80代以上 (n=16)	0	0	0	1	7	5	3			
100.0	0.0	0.0	0.0	6.3	43.8	31.3	18.8			
居住地域別	京橋地域 (n=153)	2	5	11	17	81	35	2		
	100.0	1.3	3.3	7.2	11.1	52.9	22.9	1.3		
	日本橋地域 (n=204)	1	3	6	12	57	123	2		
100.0	0.5	1.5	2.9	5.9	27.9	60.3	1.0			
月島地域 (n=278)	1	11	7	20	101	133	5			
100.0	0.4	4.0	2.5	7.2	36.3	47.8	1.8			
居住歴別	3年未満 (n=82)	0	0	1	2	17	62	0		
	100.0	0.0	0.0	1.2	2.4	20.7	75.6	0.0		
	3年以上～6年未満 (n=102)	0	1	1	3	29	68	0		
	100.0	0.0	1.0	1.0	2.9	28.4	66.7	0.0		
	6年以上～10年未満 (n=84)	0	2	3	6	27	46	0		
	100.0	0.0	2.4	3.6	7.1	32.1	54.8	0.0		
	10年以上～15年未満 (n=93)	0	2	2	6	39	44	0		
100.0	0.0	2.2	2.2	6.5	41.9	47.3	0.0			
15年以上～20年未満 (n=71)	0	3	5	5	32	25	1			
100.0	0.0	4.2	7.0	7.0	45.1	35.2	1.4			
20年以上 (n=203)	4	11	12	27	96	45	8			
100.0	2.0	5.4	5.9	13.3	47.3	22.2	3.0			

問 31 あなたは、女性センター「ブーケ 21」で実施している次の事業を、知っていますか。また、今後利用したいと思いますか。

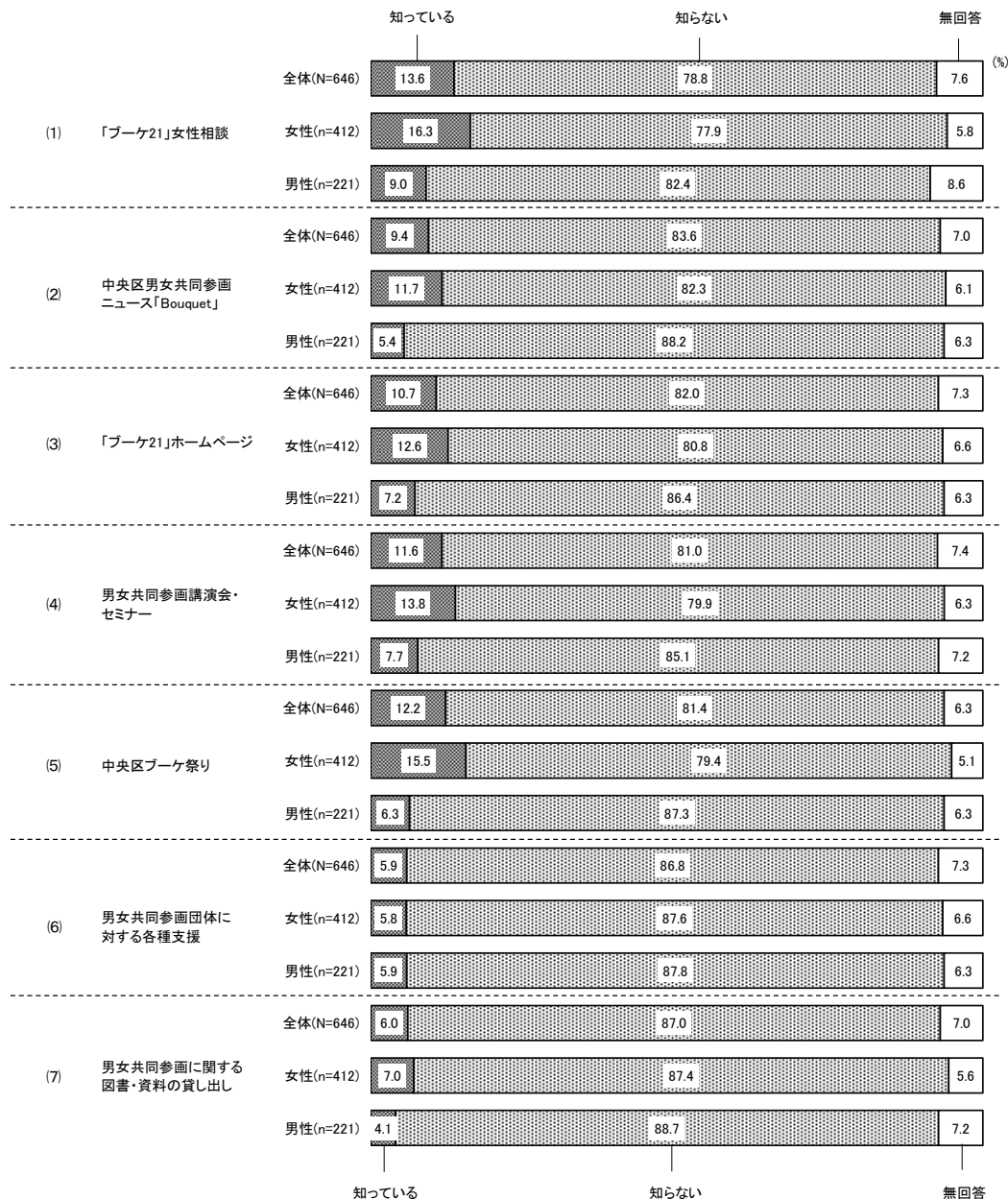
（【現在の認知状況】、【今後の利用意向】ごとに、（１）～（７）について、１つずつ○）

●事業を「知っている」の割合は、『「ブーケ 21」女性相談』、『中央区ブーケ祭り』の順で高くなっている

女性センター「ブーケ 21」事業の【現在の認知状況】をみると、「知っている」の割合は、全体では、『「ブーケ 21」女性相談』（13.6%）が最も高く、次いで『中央区ブーケ祭り』（12.2%）、『男女共同参画講演会・セミナー』（11.6%）となっている。

性別にみると、女性は『「ブーケ 21」女性相談』（16.3%）の割合が最も高く、次いで『中央区ブーケ祭り』（15.5%）となっている。男性は『「ブーケ 21」女性相談』（9.0%）の割合が最も高くなっており、全体として、女性よりも事業を知っている割合が低い傾向にある。（図表Ⅲ－11－２－①）

図表Ⅲ－11－２－① 女性センター「ブーケ 21」事業の【現在の認知状況】（全体、性別）



Ⅲ 調査結果【区民調査】

性・年代別にみると、女性 60 代、70 代、80 代以上は『中央区ブーケ祭り』を知っている割合が高く、60 代は 2 割、70 代、80 代以上でそれぞれ 3 割を超えている。また、女性 60 代は『「ブーケ 21」ホームページ』、女性 70 代は『男女共同参画講演会・セミナー』、『中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」』、80 代以上は『「ブーケ 21」女性相談』、『男女共同参画に関する図書・資料の貸し出し』の割合も 2 割を超えている。男性が女性センターの事業を知っている割合は、女性と比べても低い傾向となっている。(図表Ⅲ－11－2－②)

図表Ⅲ－11－2－② 女性センター「ブーケ 21」事業の【現在の認知状況】

(「知っている」と回答した割合)(全体、性別、性・年代別)

[上段:実数、下段:%]

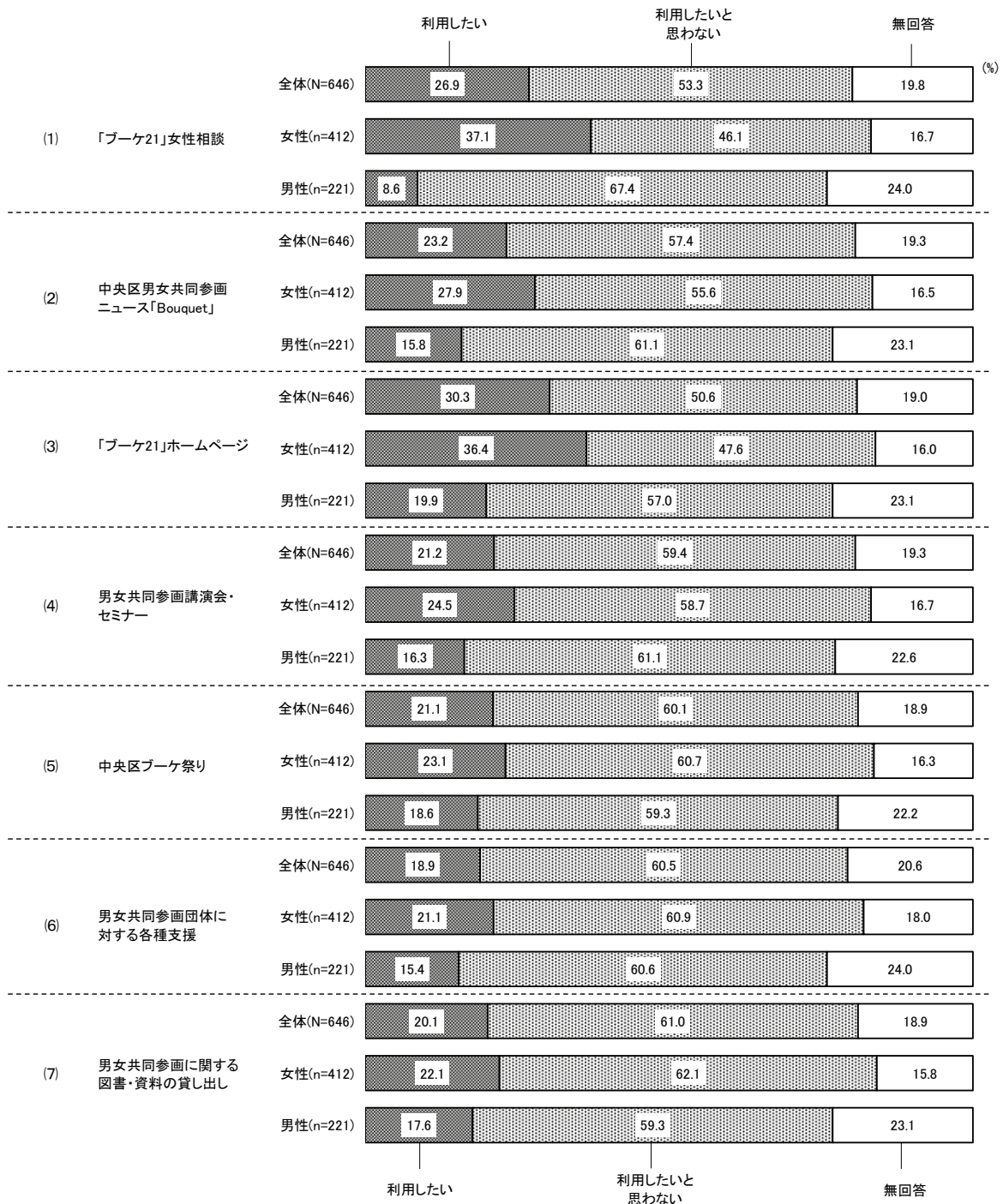
			「ブーケ 21」女性相談	中央区ブーケ祭り	男女共同参画講演会・セミナー	「ブーケ 21」ホームページ	中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」	男女共同参画に関する図書・資料の貸し出し	男女共同参画団体に対する各種支援
性 別	全 体 (N=646)		88 100.0	79 12.2	75 11.6	69 10.7	61 9.4	39 6.0	38 5.9
	女 性 (n=412)		67 100.0	64 15.5	57 13.8	52 12.6	48 11.7	29 7.0	24 5.8
	男 性 (n=221)		20 100.0	14 6.3	17 7.7	16 7.2	12 5.4	9 4.1	13 5.9
性・年代別	女 性	10 代 (n=4)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
		20 代 (n=22)	3 100.0	1 4.5	2 9.1	1 4.5	1 4.5	1 4.5	2 9.1
		30 代 (n=68)	9 100.0	4 5.9	6 8.8	6 8.8	3 4.4	3 4.4	2 2.9
		40 代 (n=104)	16 100.0	5 4.8	11 10.6	10 9.6	10 9.6	4 3.8	4 3.8
		50 代 (n=93)	16 100.0	14 15.1	13 14.0	13 14.0	14 15.1	5 5.4	4 4.3
		60 代 (n=47)	8 100.0	13 27.7	9 19.1	10 21.3	7 14.9	4 8.5	2 4.3
		70 代 (n=48)	7 100.0	19 39.6	12 25.0	8 16.7	11 22.9	6 12.5	6 12.5
		80 代以上 (n=25)	7 100.0	8 32.0	4 16.0	4 16.0	2 8.0	5 20.0	4 16.0
	男 性	10 代 (n=2)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		20 代 (n=14)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		30 代 (n=33)	2 100.0	2 6.1	3 9.1	3 9.1	1 3.0	1 3.0	1 3.0
		40 代 (n=51)	5 100.0	3 5.9	4 7.8	5 9.8	3 5.9	3 5.9	3 5.9
		50 代 (n=38)	5 100.0	3 7.9	5 13.2	5 13.2	2 5.3	3 7.9	3 7.9
		60 代 (n=42)	5 100.0	3 7.1	2 4.8	1 2.4	3 7.1	0 0.0	2 4.8
		70 代 (n=25)	3 100.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	2 8.0	3 12.0
		80 代以上 (n=16)	0 100.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3

●事業を「利用したい」の割合は、『「ブーケ 21」ホームページ』が最も高くなっている

女性センター「ブーケ 21」事業の【今後の利用意向】をみると、「利用したい」の割合は、全体では、『「ブーケ 21」ホームページ』(30.3%) が最も高く、次いで『「ブーケ 21」女性相談』(26.9%)、『中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」』(23.2%) となっている。

性別にみると、女性は『「ブーケ 21」女性相談』(37.1%) や『「ブーケ 21」ホームページ』(36.4%) が高くなっている。男性は『「ブーケ 21」ホームページ』(19.9%) が最も高くなっている。(図表Ⅲ－11－3－①)

図表Ⅲ－11－3－① 女性センター「ブーケ 21」事業の【今後の利用意向】(全体、性別)



性・年代別にみると、女性20代、30代、50代は『「ブーケ21」女性相談』、40代、60代、70代は『「ブーケ21」ホームページ』の割合が1位で、最も高くなっている。この2項目以外では、30代、40代、50代は『中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」』が、また50代は『男女共同参画講演会・セミナー』、60代は『中央区ブーケ祭り』の割合がそれぞれ3割を超えている。

男性をみると、年代を通して3割を超える項目はみられず、30代、40代は『中央区ブーケ祭り』が2割台で最も高くなっており、50代は『「ブーケ21」ホームページ』、『男女共同参画講演会・セミナー』、『男女共同参画に関する図書・資料の貸し出し』、『男女共同参画団体に対する各種支援』、60代は『「ブーケ21」ホームページ』、『男女共同参画に関する図書・資料の貸し出し』がそれぞれ2割台で最も高くなっている。(図表Ⅲ-11-3-②)

図表Ⅲ-11-3-② 女性センター「ブーケ21」事業の【今後の利用意向】

(「利用したい」と回答した割合)(全体、性別、性・年代別)

[上段:実数、下段:%]

				「ブーケ21」ホームページ	「ブーケ21」女性相談	中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」	男女共同参画講演会・セミナー	中央区ブーケ祭り	男女共同参画に関する図書・資料の貸し出し	男女共同参画団体に対する各種支援
全	体	性	(N=646)	196	174	150	137	136	130	122
			100.0	30.3	26.9	23.2	21.2	21.1	20.1	18.9
性別	女	性	(n=412)	150	153	115	101	95	91	87
			100.0	36.4	37.1	27.9	24.5	23.1	22.1	21.1
性別	男	性	(n=221)	44	19	35	36	41	39	34
			100.0	19.9	8.6	15.8	16.3	18.6	17.6	15.4
性・年代別	女性	10代	(n=4)	1	2	0	1	1	1	0
			100.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
		20代	(n=22)	5	8	2	2	1	6	3
			100.0	22.7	36.4	9.1	9.1	4.5	27.3	13.6
		30代	(n=68)	25	27	21	18	12	16	20
			100.0	36.8	39.7	30.9	26.5	17.6	23.5	29.4
		40代	(n=104)	47	45	34	25	31	25	30
			100.0	45.2	43.3	32.7	24.0	29.8	24.0	28.8
	男性	50代	(n=93)	37	42	33	35	21	26	23
			100.0	39.8	45.2	35.5	37.6	22.6	28.0	24.7
		60代	(n=47)	18	15	13	11	15	7	4
			100.0	38.3	31.9	27.7	23.4	31.9	14.9	8.5
		70代	(n=48)	12	8	6	6	10	5	5
			100.0	25.0	16.7	12.5	12.5	20.8	10.4	10.4
		80代以上	(n=25)	5	6	5	2	4	5	2
			100.0	20.0	24.0	20.0	8.0	16.0	20.0	8.0
	男性	10代	(n=2)	1	0	0	1	0	1	0
			100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
		20代	(n=14)	2	0	0	1	1	3	3
			100.0	14.3	0.0	0.0	7.1	7.1	21.4	21.4
		30代	(n=33)	5	4	5	3	7	5	5
			100.0	15.2	12.1	15.2	9.1	21.2	15.2	15.2
		40代	(n=51)	10	3	7	7	11	6	5
			100.0	19.6	5.9	13.7	13.7	21.6	11.8	9.8
		50代	(n=38)	10	7	8	10	9	10	10
			100.0	26.3	18.4	21.1	26.3	23.7	26.3	26.3
		60代	(n=42)	12	4	11	10	9	12	8
			100.0	28.6	9.5	26.2	23.8	21.4	28.6	19.0
		70代	(n=25)	2	0	3	2	3	1	1
			100.0	8.0	0.0	12.0	8.0	12.0	4.0	4.0
		80代以上	(n=16)	2	1	1	2	1	1	2
			100.0	12.5	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	12.5

問 31-1 問 31 の（１）～（７）以外に、利用してみたい、あったら良いと思う事業やサービスがあればご自由にお書き下さい。

女性センター「ブーケ 21」事業で、利用してみたい、あったら良いと思う事業について、自由回答形式でたずねたところ、２人から２件の意見があった。（図表Ⅲ－11－４）

図表Ⅲ－11－４ 女性センター「ブーケ 21」で利用してみたい、あったら良いと思う事業
（自由回答）

内容	回答者	
色々な悩み（子育て、仕事など）を相談したいと思うことは多いですが、そのタイミングで相談に乗ってもらえることがあまりないように思えます。メールなど、多様な受付ができるといいなと思います。	女性	40～ 44 歳
駅や商業施設でついでに相談できる体制の確保。（平日夜間や休日）	男性	25～ 29 歳

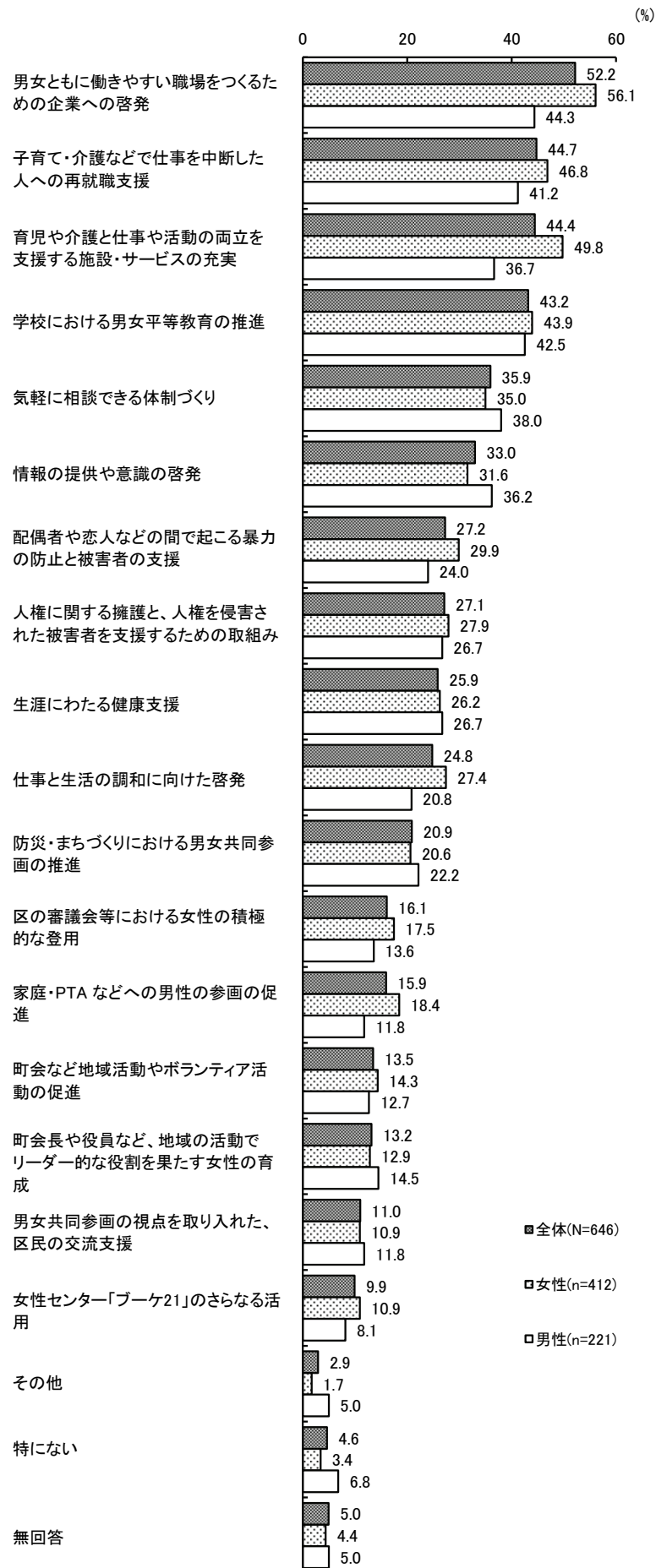
問 32 あなたは、男女共同参画を進めるため、今後、区はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（いくつでも○）

●「男女ともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発」が 52.2%である

男女共同参画を進めるために区が力を入れるべきことは、全体では、「男女ともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発」（52.2%）が最も多く、次いで「子育て・介護などで仕事を中断した人への再就職支援」（44.7%）、「育児や介護と仕事や活動の両立を支援する施設・サービスの充実」（44.4%）、「学校における男女平等教育の推進」（43.2%）、「気軽に相談できる体制づくり」（35.9%）、「情報の提供や意識の啓発」（33.0%）となっている。

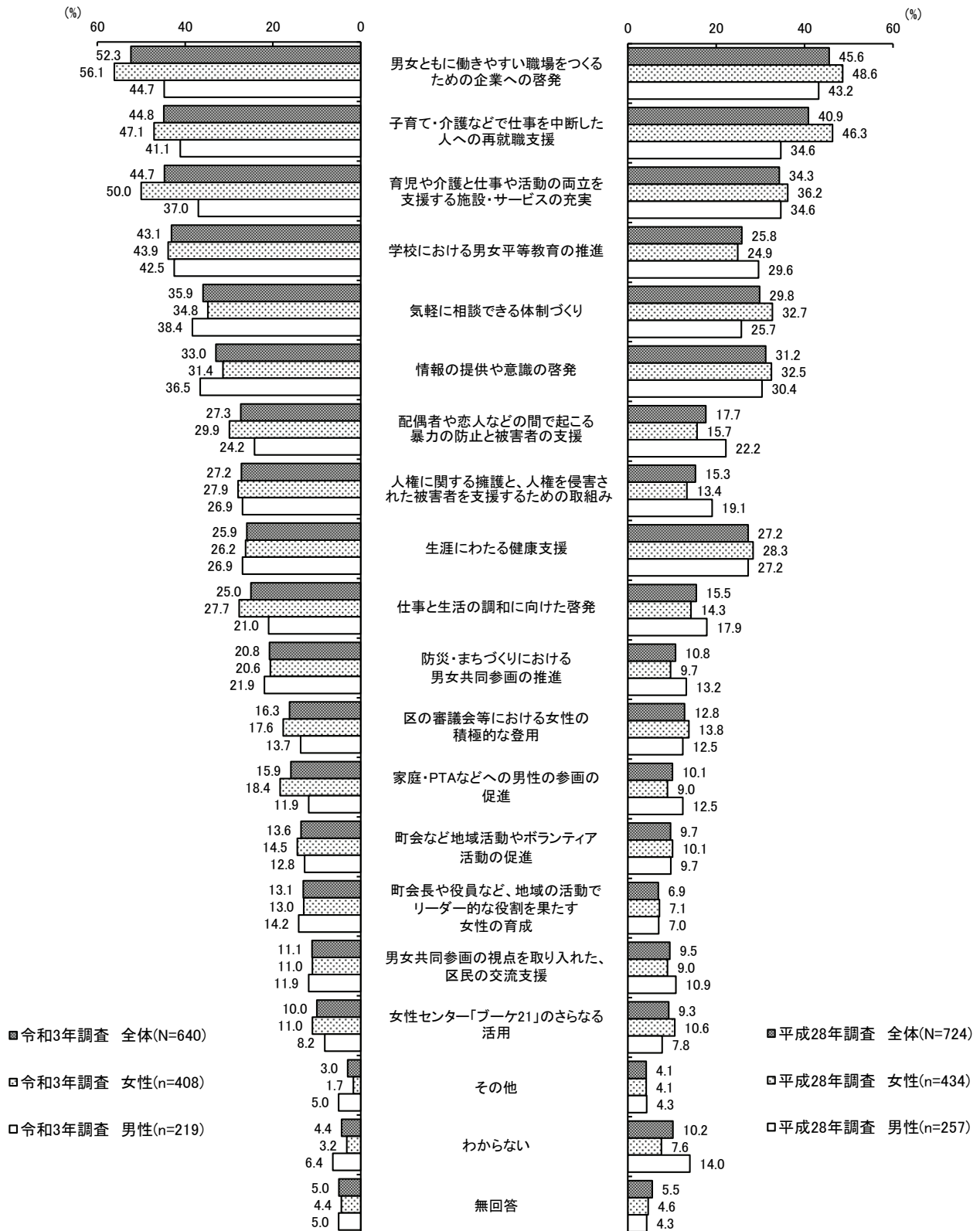
性別にみると、「男女ともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発」（女性：56.1%、男性：44.3%）、「子育て・介護などで仕事を中断した人への再就職支援」（女性：46.8%、男性：41.2%）、「育児や介護と仕事や活動の両立を支援する施設・サービスの充実」（女性：49.8%、男性：36.7%）では、女性の方が、男性よりも割合が高く、「気軽に相談できる体制づくり」（女性：35.0%、男性：38.0%）、「情報の提供や意識の啓発」（女性：31.6%、男性：36.2%）では男性の方が、女性よりも割合が高くなっている。（図表Ⅲ－11－５－①）

図表Ⅲ－11－5－① 男女共同参画を進めるために区が力を入れるべきこと
(全体、性別：複数回答)



平成 28 年調査との比較では、「生涯にわたる健康支援」を除き、すべての項目で平成 28 年調査よりも今回調査の割合が高くなっている。特に、「学校における男女平等教育の推進」は平成 28 年調査では 25.8%だったが、今回調査では 43.1%となり、17.3 ポイント高くなっている。(図表Ⅲ－11－5－②)

図表Ⅲ－11－5－② 男女共同参画を進めるために区が力を入れるべきこと
(令和 3 年調査・平成 28 年調査:全体、性別:複数回答)



問 33 あなたが、男女共同参画や男女平等について、家庭・地域・職場で日頃から感じていること、また、中央区の男女共同参画を進めるための施策について望むことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画や男女平等について、家庭・地域・職場で日頃から感じていることや、区の施策などへの意見を自由回答形式でたずねたところ、130 人から 151 件の回答があった。これを調査項目のブロックに沿って分類したところ、意見が最も多かったのは「区の男女共同参画の取組」であった。（図表Ⅲ－11－6）

図表Ⅲ－11－6 男女共同参画について日頃感じていること、区の施策について望むこと

分類	内容	件数	
男女平等意識	個性や能力の尊重	13 件	32 件
	固定的性別役割分担意識	10 件	
	差別	1 件	
	意識啓発	8 件	
家庭生活や地域活動	男性の家事・育児への参画促進	6 件	11 件
	町会・自治会等の活動	3 件	
	介護	2 件	
子育て・教育	子育て支援の充実	9 件	23 件
	男女平等教育	9 件	
	学校の運営	5 件	
働き方	多様な働き方の推進	2 件	2 件
仕事と生活の調和	両立支援	5 件	5 件
健康・人権	虐待・DV	2 件	2 件
性的少数者、LGBT 等	性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）	3 件	3 件
女性の活躍推進	働く女性の支援	3 件	17 件
	再就職支援	1 件	
	企業の取組について望むこと	13 件	
区の男女共同参画の取組	意思・政策決定の場における女性の参画促進	2 件	33 件
	施策の推進と周知	5 件	
	男女共同参画の取組について望むこと	26 件	
その他	アンケートについて	12 件	23 件
	区政全般について	7 件	
	その他	4 件	
計			151 件

以下、寄せられた回答の中から、一部意見を抜粋した。（なお、回答に関しては一部文字の訂正や省略等を行っている。）

(1) 男女平等意識

分類	内容	回答者	
個性や能力の尊重	性差はなくすことのできないものだと思います。過度に「男性」「女性」を分けて考えること自体（その2つに区別すること）性差を助長するようにも感じてしまいます。個人個人が互いを尊重し合えれば、それ以上は本来必要のないことだと思うのが私の見解です。	女性	35～39 歳
	男女は違って当然だし、向き不向きは絶対あるもの。人それぞれ違うということを理解し、尊重する世の中になればよいと思う。	女性	35～39 歳
	時間をかけてゆっくりと取り組んでいくしかないと思います。40代以上は男らしさ、女らしさの鎧を脱ぎ捨てる教育を受けていないので、なかなか頭で理解していても、内心は男らしく、女らしくありたいという思いが強いです。	男性	40～44 歳
固定的性別役割分担意識	夫の父と母に会うたびに「まだ働いているの？」と言われ、本当に頭の中が貧しいと感じるし、理解できない。あまり会わないようにしているが、女が働くことが悪いことのように思っている人が世の中にいることには驚く。年のせいではあるかもしれないが、自分の両親にはその考え方はないので、世の中全体で変えていくしかないのかもしれない。	女性	45～49 歳
	「女は弱い」、「女は仕事ができない」など古臭い考え方を世の中が変えていくべき。「女は(が)」という発言自体が間違っていることを理解すべきである。	女性	25～29 歳
差別	今は女性を差別してはいけないのに、男性差別については、何も言わないのか？男性サービスDAYがないのはなぜか？そういったすべての人が自由に自らの意思を自己実現できることがよく、その目的には多少なりとも犠牲が出ることも納得しなければならない。一方的にすべてが思うようにはならないことの理解が必要。	女性	50～54 歳
意識啓発	すべてを平等な目で見られるような社会になって欲しいと思っています。私は会社でダイバーシティをスローガンに「男だから、女だから」、「年を取っているから、若いから」といったステレオタイプの考えをなくすメッセージを受けています。このようなメッセージを何度も受け取ることで、考え方を考えることができました。社会から、学校から、会社からメッセージを送り続けることは、効果があると思います。	女性	45～49 歳
	職場では年代が上の人ほど、男女共同参画や男女平等について理解が不足している印象を受ける。繰り返し啓発することが大事なのではないでしょうか。	女性	30～34 歳
	50代以下の世代には、ある程度の理解はされているのではないかと感じる。男性に理解されることが必要であると感じる。	女性	55～59 歳

(2) 家庭生活や地域活動

分類	内容	回答者	
男性の家事・育児への参画促進	男性の育休取得制度が導入されていても活用できない状況など、制度があっても活用できないことが多いので、それが改善されるような啓発や取組をして欲しい。	女性	20～24 歳
	男性も育児に参加できるよう男性用トイレにもおむつ替えができるスペース設置など、設備面が男女平等になると良いと思う。	女性	35～39 歳
町会・自治会等の活動	町会などの地域活動は今後も活発に行われることを望んでいます。一方で町会活動は男性中心、女性は料理や片付けなど補助的なことのみをしているように見受けられた。町会は高齢者が中心なので、難しいと思うが、男女区別ない活動が行われるようになれば、参加者も増えると思う。	女性	45～49 歳
	管理組合の活動において、男女の差異、区別はなく平等な立場で参加し、責任を負っています。一方地域の町会、自治会においては「婦人部」という組織が存在し、特有の活動を担う習慣があるように見受けられます。町会、自治会でも男女平等に役割を持ち、女性でも町会長、自治会長に就任できるような環境を行政から指導、啓発することが望ましいと考えます。	女性	65～69 歳
介護	親を介護して4年になります。仕事をして当たり前、休日は家のことをして当たり前、周囲に同じような苦勞をしている人はいないので、似た環境の方と話す機会が欲しいです。経験者でないと本当の意味での苦勞はわからないと思います。たまには買い物に行きたい、たまには外でのお茶をしたい。女は損です。	女性	30～34 歳
	会社側にはまったく理解なく、介護のために離職を余儀なくされました。「会社を何と思っているんだ」とパワハラめいた言葉を言われたり、退職を促す嫌がらせを受けたりしました。こういったことを相談するところもなく、とてもつらい思いをしています。もっと気軽に相談できる窓口があれば良いと思います。	女性	55～59 歳

(3) 子育て・教育

分類	内容	回答者	
子育て支援の充実	働きながら子どもを育てる際、どうしても女性の負担が大きくなるように思います。例えば「子どもを病院に連れていくのに仕事を休むのは、母親であることが多いこと等です。子の現状が、男女が等しく社会に参画できない障壁の一つだと感じています。そのため、保育園や病児保育施設、一時預かり（当日利用可のもの）施設を拡充させてほしいと思います。	女性	30～34 歳
	待機児童が完全にゼロになるよう、精力的に保育園の増設や保育士の待遇改善に努めてほしい。	女性	35～39 歳
	啓発活動ばかりだと、なかなか行動が伴わない（何をしたいかわからないなど）こともあるので、具体的な整備、例えば保育所の増設などのようなものも重要かと思う。特に中央区は今マンションが増えてきて、子どもが増える可能性が高いが、保育所が増えているわけでもないなので、おそらく出産、子育てから社会復帰が今後さらに難しくなりそうだと感じる。	男性	30～34 歳
	小学校以降の子どもの安全な居場所、学童の数が少なすぎる。プレディでは内容的に不足。	女性	40～44 歳

分類	内容	回答者	
男女平等教育	小学校から教育として学ばせる。	男性	30～ 34 歳
	保育園ですでに男と女の色分けをして考えるよう指導されている場面があるので、早いうちからの平等意識を持った教育をして欲しい。	女性	35～ 39 歳
	子どもに具体的な男女平等教育はしなくても差別をする概念がないかと思う。必要ないと思うし、逆にそれが原因で男女差別があるということを知って差別してしまうかもしれない。そのため、学校での教育は不要だと思う。	男性	50～ 54 歳
	子どもの教育だと思う。個人として、個性があることの素敵さを教えて欲しい。	女性	35～ 39 歳
	中央区は小学校も制服で、男女明確に分けている。また学校によって校則も多い（下着、靴の色など）。子どもに校則がある理由をきちんと答えられるのか。LGBT の子どもへの配慮はないのか、疑問に思う。小さい頃から小学校で当たり前に言われてきて、それを是正するのは難しいのではないかな。子どもへの教育は今後一番重要では。	女性	35～ 39 歳
学校の運営	中央区の多くの区立小学校が半ば強制でランドセルや標準服を着用する必要があることにジェンダーバイアスを感じます。冬の雪降る中でも女子のつりスカートのタイツ着用禁止や男子の半ズボンにも人権が軽んじられているように思います。なぜ凍える中、半ズボンも半ば強制させてはかなければいけないのか。長ズボンではなぜだめなのか。教科書が重くなり水筒などの学用品も増えた中、なぜリュックでの登校を選択しづらいのかなど、男女のジェンダーバイアスを刷り込んでいるのは、中央区自体ではありませんか？子どもにきちんと説明できる政策や活動を今後に期待します。	女性	35～ 39 歳
	子どもを育てていると、学校を取りまく環境が古い。PTAのあり方、学校の保護者会等も平日。夫はよく手伝ってくれるが、女性ばかりで参加しづらい。（学校関連は母親が担当することが多いため、仕事に影響あり）住んでいる区により差があると感じている。中央区は全体的に古い習慣が続いているので、そこから改善して欲しい。まずは平日、日中の集まりをなくして欲しい。区によっては平日の夜、土日に集会等になっているようです。子どもに関する保護者の集まりを見直すだけでもずいぶん女性が働きやすくなる。	—	—

（４）働き方

分類	内容	回答者	
多様な働き方の推進	多様な働き方を選べるようにすること。高齢者も働けるようになること。まだまだ元気でも働く先がない、という人はいると思います。	女性	50～ 54 歳
	男女ともに生涯働き続けられる社会の実現。	女性	55～ 59 歳

(5) 仕事と生活の調和

分類	内容	回答者	
両立支援	いつか子どもを産みたいという気持ちはありますが、子育てにかかる経済的負担、仕事との両立を含めた体力的、精神的負担を考えると、子育ては可能なのだろうかと不安になります。産まなければ楽に暮らせるし、実際それで子育てをあきらめる同年代はたくさんいると思います。仕事と子育てを両立しやすい制度、サービスを期待します。	女性	25～29 歳
	子どもがいる、介護者がいるため時短勤務として育児や介護への時間とすることで、子のいない人への仕事負担が増えます。すべて平等というのは難しいのかもしれませんが、社会全体が固定概念にとらわれず（労働時間など）仕事と自分自身の時間を充分にとれるようにしていただく施策を望みます。	女性	45～49 歳
	個人のワーク・ライフ・バランスと職場の目標との差は、何かをあきらめる必要があると感じている。意識改革が基本なのかもしれない。ワーク・ライフ・バランスが企業にとってもプラスになるような社会につながる施策があればよいと思う。	女性	55～59 歳

(6) 健康・人権

分類	内容	回答者	
虐待・DV	親の子どもへの暴力防止の取組、早めの気づき。	女性	70～74 歳
	子育て中にうつ病になり、区民センターに相談したが、預け先が見つかることはなかった。一時預かりも一カ月先まで予約いっぱい。次の予約開始は、現実的に無理だった。相談窓口があっても何も変わらなかった。虐待のニュースを見ると、助けを求めても結局放置される現実を思い出します。お母さん大変ですね、わかります、でも預け先はどこもいっぱいなんです。誰か頼れる人はいませんか？お辛いですね。言葉だけ。大変ですね、だけでは何も変わらない。助からない。	女性	45～49 歳

(7) 性的少数者、LGBT 等

分類	内容	回答者	
性的少数者、 (セクシュアルマイノリティ、LGBT 等)	「変」と思わないようになれば良いと思います。男、女、その他。その他が差別にならなければ良いと思う。その他であることを隠さなくていい世の中になればいい。生まれてからの男女でない人への配慮が必要。何でも差別にするのも良くないと思う。相手が不快に思わないのが一番。「以前は女だったんだ？」、「そうそう」と普通の会話。これが差別に思うかはそれぞれ。相手との信頼度による。知らない人に言ったら無神経。	女性	50～54 歳
	「男女共同参画」というセンスのない言葉を使って欲しくない。「男性」でも「女性」でもない自分の性を認識する人達を排除しているように聞こえるし、目的は「男性」優位をなくして「女性」に手厚くすることではないはず。「誰でも」平等に同じ目線ですべての事を享受できることが目的だと思うので。	女性	40～44 歳

(8) 女性の活躍推進

分類	内容	回答者	
働く女性の支援	意欲のある女性には、かなり積極的に融資や投資を行えばいいと思う。一般的な社会意識レベルで男性より女性の方がお金持ち、経済的優位となれば、資本主義社会において、それは男女平等に近づくと思う。	男性	30～34 歳
	20～40 代のキャリアアップの重要な時期に出産と育児で男性とは異なる世界を生きている。時間で比べたらどのくらい相違があるのか、これでは平等なんて無理である。平等は不可能、ならばできるだけ近づけるよう制度と施設拡充を切に願う。	女性	35～39 歳
再就職支援	お役所では啓発や相談受付といったことはしてくれるが、本当にキャリアもなく再就職に困っている人に対して、具体的に生活が立ち行くようにしてくれることは少ない。大企業を離職してキャリアもある女性を中心に考えるのではなく、本当に困っている弱い立場の人に寄り添った施策を切にお願いしたい。	男性	50～54 歳
企業の取組について望むこと	企業では管理職ポストが限られるなか、女性登用を望まない男性の意識がある（ライバルを減らしたい）。採用時から透明性ある評価制度があり、平等に出世できる仕組みづくりが大切。また、経営者、40～50 歳以上の男女の意識改革が必要（教育のアップデート）。	女性	40～44 歳
	仕事や育児、家事の分担については、男女どちらがどの役割を担っても何の問題もないし、今後も無理に変えていく必要はないと思います。一番の問題は、共働きでないと成立しないような賃金形態、出張、残業等を当然とする。旧態依然とした企業にあると思います。職場が変わらない限り、周囲の環境が変わっても効果は薄いのではないのでしょうか。	—	—

(9) 区の男女共同参画の取組

分類	内容	回答者	
意思・政策決定の場における女性の参画促進	個人の意識が変わらないと、家庭、地域、職場の変革は難しいので、積極的な啓蒙活動と女性の登用（男女半々）が望ましいと思います。	女性	35～39 歳
	日本は未だに管理職は男性ばかりで、年収も男性が当然のように高く、子どもが生まれた場合、育児休暇を取得するのは女性。育児休暇が明けた後も、保育園からの呼び出しに応じたり、子どもが病気の時に仕事を休んだりするのは、女性と決まっています。女性側の被雇用者ばかりが割を食います。夫婦別姓も認められず、中高年男性の視点でばかりで物事が決められていては、何も変わりません。若い男女の意見をもっと積極的に取り入れるべきと感じている。	女性	50～54 歳
施策の推進と周知	コロナの影響もあり、コミュニケーション不足による相互理解不足が発生していると感じる。近い所から、相手の気持ちに立って物事を考えられるような気持ちの余裕が得られるように、まずは現在ある良いサービスを広く認知されるように案内の分かりやすさと充実をお願いします。	女性	40～44 歳
	現実的に男女共同参画の意識は低い。特に男性において。また、年配の方や役職にかかる場合を感じる人が多い。中央区の施策に望むこととしては、「区のお知らせ」が届けば紙面からの情報を得て、必要、関心があればホームページなど検索するが、それ以外については知らずじまいで終わることが多い。何事においても自ら積極的な情報収集をしなければ、知らずに終わることが多い。広報、知りうるチャンス（機会）が必要かと感じる。	女性	65～69 歳

Ⅲ 調査結果【区民調査】

分類	内容	回答者	
男女共同参画 の取組について望むこと	企業の取り組み方が弱いと思います。生活の基盤が働くことにあり、その企業の取り組み方で大きく変わると思います。企業の自助努力では限界やばらつきが出るので、行政の支援が欠かせないと思います。	男性	50～ 54 歳
	現在の中央区男女共同参画事業は女性を中心に考えすぎてはないだろうか。女性だけに限らず、男性を基軸とした男女共同参画事業も推進すべきと考える。	男性	65～ 69 歳
	中央区は若い新住民と昔から居住している高齢者との間に交流の場がない。ニーズが異なるから仕方ないかもしれないが、従来からあった互助の精神が希薄になってきたように思う。男女共同、男女平等の点でも世代を超えた交流の場（お祭りでもイベントでも）があるとよいと思う。	女性	55～ 59 歳
	男女平等社会について、日本は発展途上国だと思います。先進国（北欧、米国、欧州など）との交流と、その国からの講演会などをし、先の声を聞く機会を持つことも良い施策だと思います。	女性	50～ 54 歳
	ブーケ 21 が家から遠く行きにくい。開催場所を多様化したら、多様な人が集まるかも。	女性	35～ 39 歳
	優秀な女性職員・男性職員が経験・子育てをしながらも辞めずに活躍し続けることができる、職場環境、社会支援を望みます。区にはその支えになる保育、放課後、障害児支援等子育ての支えとなる基本的な施策への注力を期待します。	男性	40～ 44 歳

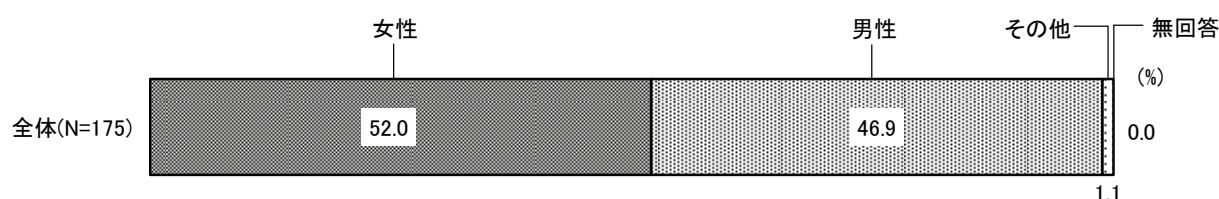
IV 調查結果【若年層調査】

1 回答者のプロフィール

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

全体では、「女性」が 52.0%、「男性」が 46.9%、「その他」が 1.1%となっている。(図表Ⅳ－1－1)

図表Ⅳ－1－1 性別（全体）

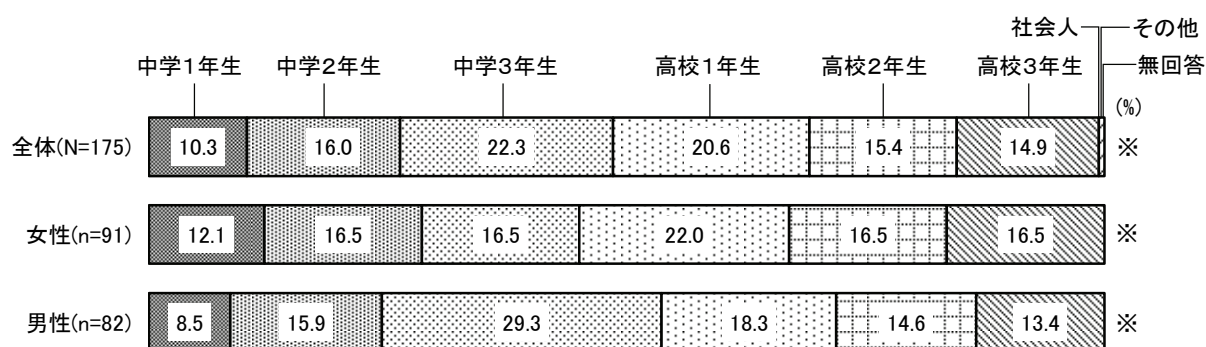


問2 あなたの学年をお答えください。(1つに○)

全体では、「中学3年生」(22.3%)が最も多く、次いで「高校1年生」(20.6%)となっている。

性別にみると、女性は「高校1年生」(22.0%)が最も多く、次いで「中学2年生」、「中学3年生」、「高校2年生」、「高校3年生」がそれぞれ 16.5%となっている。男性は「中学3年生」(29.3%)が最も多く、次いで「高校1年生」(18.3%)、「中学2年生」(15.9%)となっている。(図表Ⅳ－1－2)

図表Ⅳ－1－2 学年（全体、性別）



※ 全体・性別の社会人・その他・無回答の数値

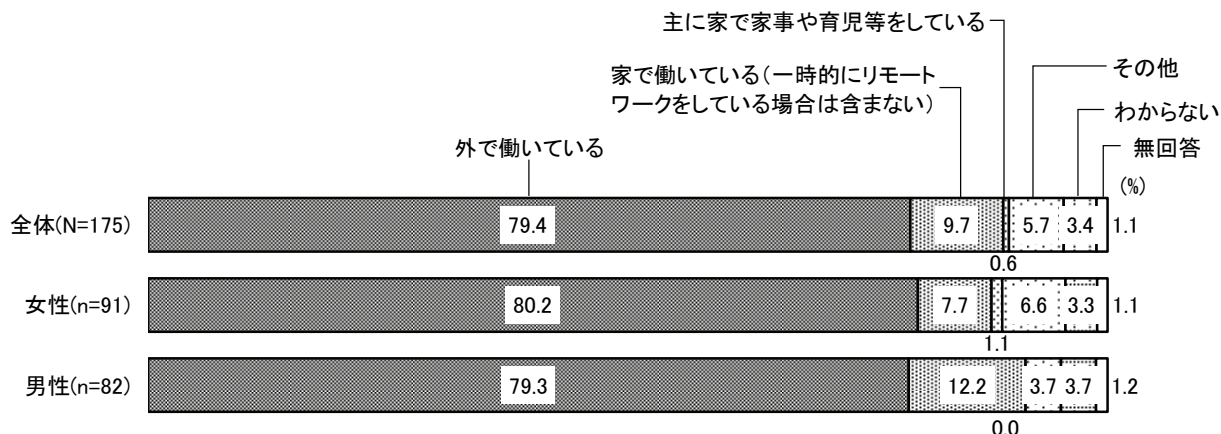
	社会人	その他	無回答
全体	0.0	0.6	0.0
女性	0.0	0.0	0.0
男性	0.0	0.0	0.0

問3 あなたの父親・母親は、ふだん、どのような働き方をしていますか。
(それぞれについて、1つに○)

(1) 父親

全体では、「外で働いている」(79.4%)が最も多く、次いで「家で働いている(一時的にリモートワークをしている場合は含まない)」(9.7%)となっている。(図表Ⅳ－1－3－①)

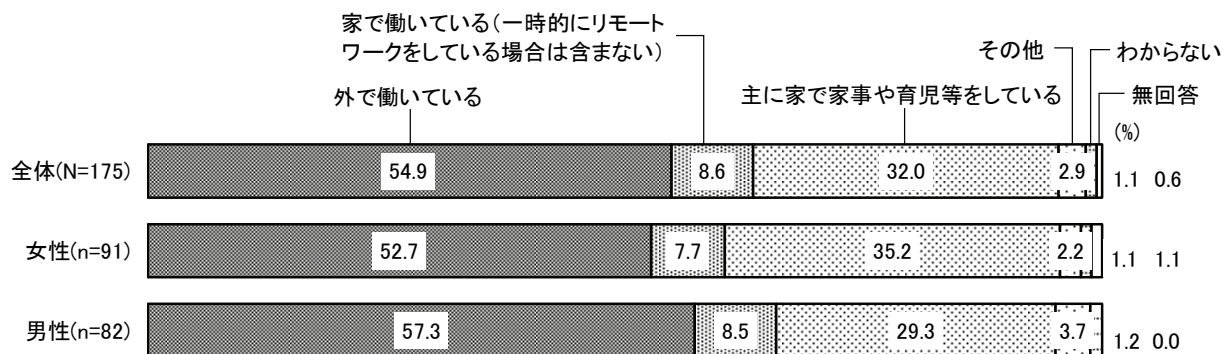
図表Ⅳ－1－3－① 父親の働き方(全体、性別)



(2) 母親

全体では、「外で働いている」(54.9%)が最も多く、次いで「主に家で家事や育児等をしている」(32.0%)となっている。(図表Ⅳ－1－3－②)

図表Ⅳ－1－3－② 母親の働き方(全体、性別)



2 結婚、固定的性別役割分担に対する考え方

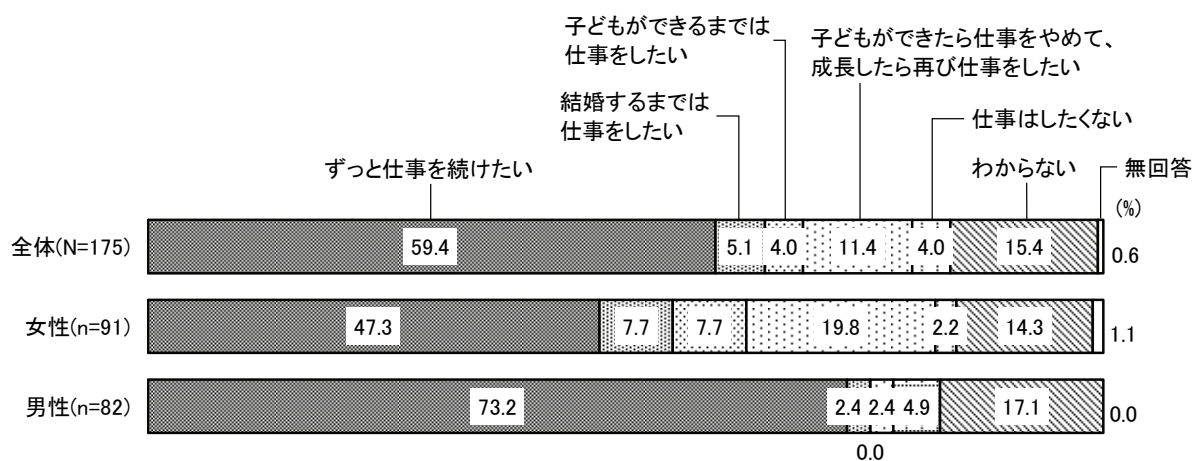
問4 あなたは、将来どのような働き方をしたいか教えてください。（1つに○）

●「ずっと仕事を続けたい」が女性は47.3%、男性は73.2%

全体では、「ずっと仕事を続けたい」（59.4%）が最も多く、次いで「わからない」（15.4%）、「子どもができれば仕事をやめて、成長したら再び仕事をしたい」（11.4%）となっている。

性別にみると、「ずっと仕事を続けたい」は、女性が47.3%に対して男性は73.2%となっている。また女性は「子どもができれば仕事をやめて、成長したら再び仕事をしたい」が19.8%であるのに対し、男性は2.4%となっている。（図表Ⅳ－２－１）

図表Ⅳ－２－１ 将来の働き方への希望（全体、性別）

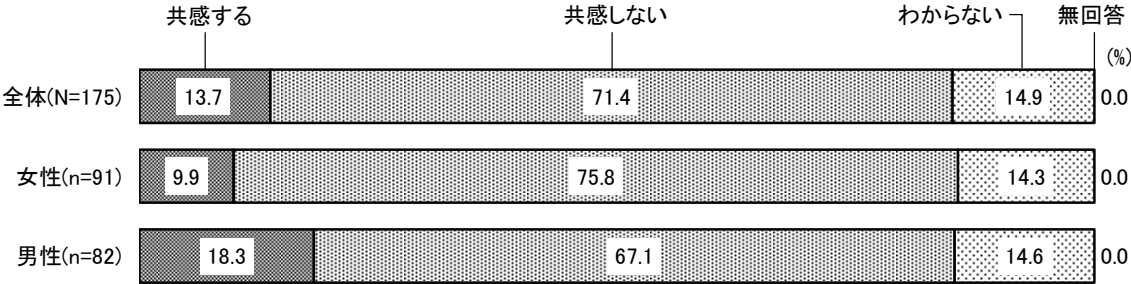


問5 「父親は外で働き、母親は家庭をまもるべきである」という考え方に共感しますか。
(1つに○)

●固定的性別役割分担に「共感しない」割合が71.4%

全体では、「共感する」が13.7%、「共感しない」が71.4%、「わからない」が14.9%となっている。
性別にみると、女性は「共感する」が9.9%であるのに対し、男性は18.3%となっている。(図表Ⅳ－2－2)

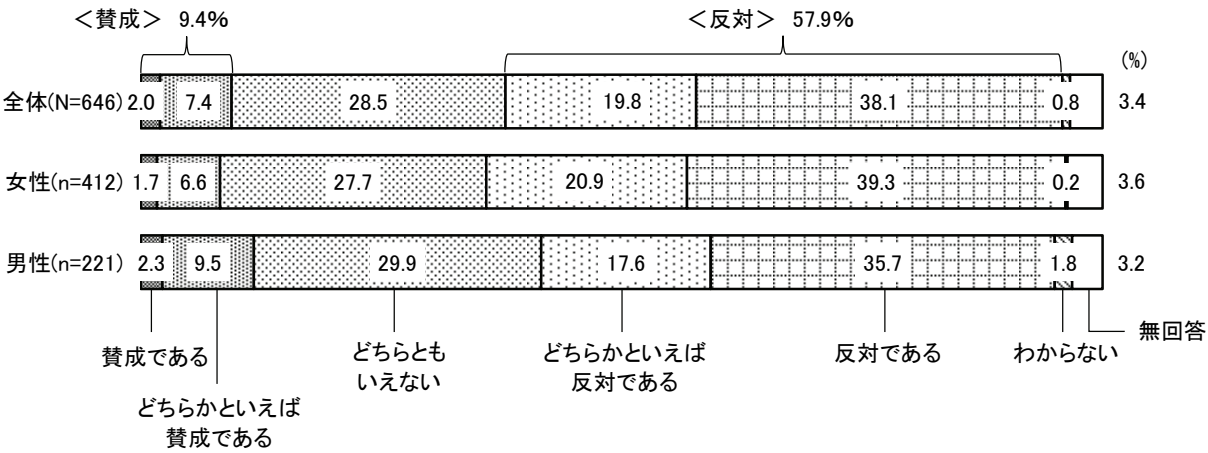
図表Ⅳ－2－2 固定的性別役割分担に対する考え方（全体、性別）



<参考：区民調査の傾向との比較>

選択肢が異なるが区民調査の結果を比較すると、「共感する」と<賛成>、「共感しない」と<反対>の割合の傾向は若年層調査、区民調査ともに同様な傾向を示している。(図表Ⅳ－2－3)

図表Ⅳ－2－3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について
(令和3年区民調査：全体、性別)



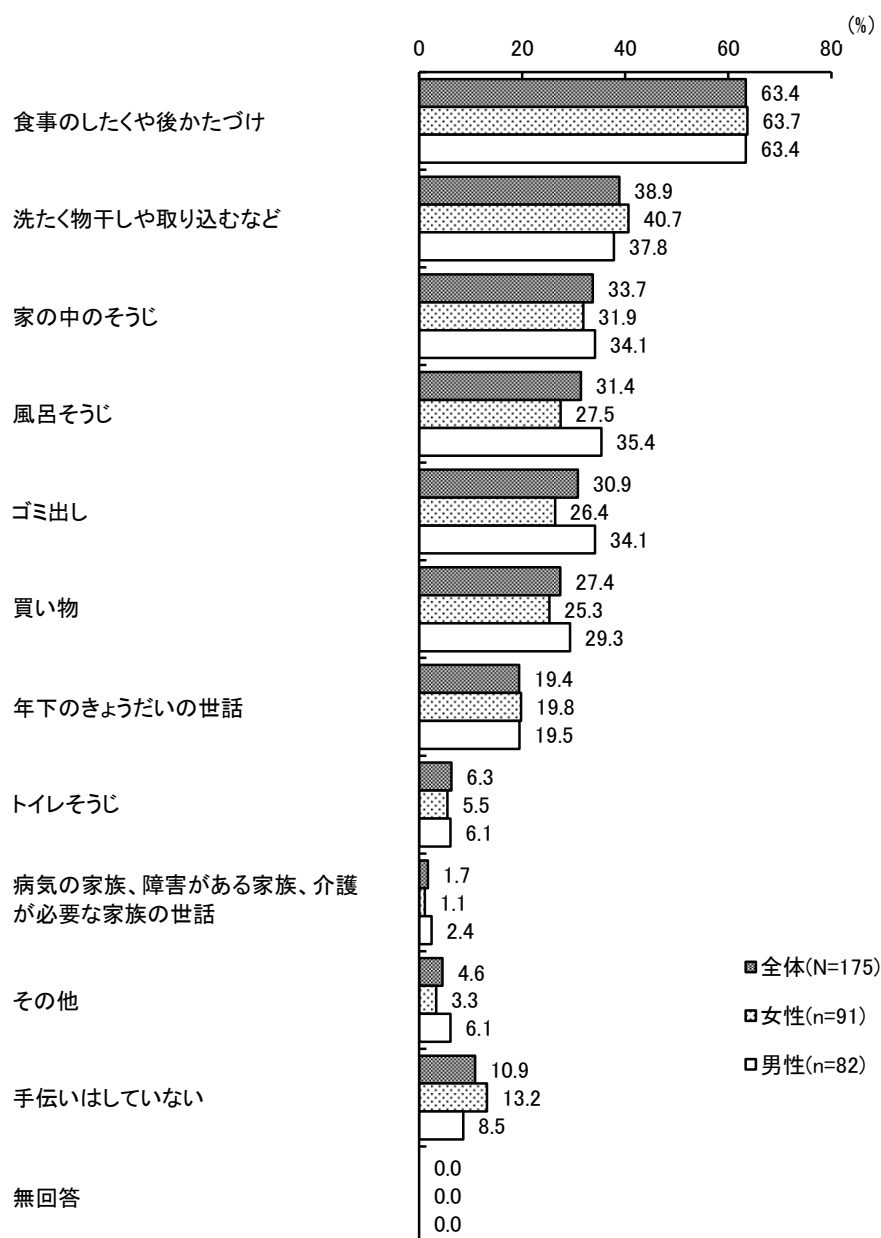
問6 あなたが最近した家の手伝いはどれですか。(いくつでも○)

●男女ともに「食事のしたくや後かたづけ」が最も多い

全体では、「食事のしたくや後かたづけ」(63.4%)が最も多く、次いで「洗たく物干しや取り込むなど」(38.9%)、「家の中のそうじ」(33.7%)となっている。

性別にみると、女性は全体と上位3項目が同様であるが、男性は「食事のしたくや後かたづけ」(63.4%)、「洗たく物干しや取り込むなど」(37.8%)、「風呂そうじ」(35.4%)となっている。また「風呂そうじ」、「ゴミ出し」では、女性よりも男性の方が5ポイント以上高くなっている。(図表IV-2-4)

図表IV-2-4 最近した家での手伝い(全体、性別:複数回答)



3 デートDV

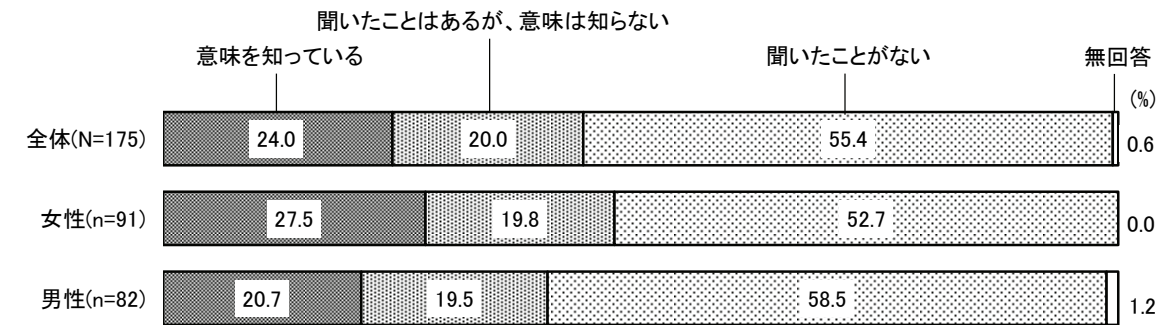
問7 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。(1つに○)

●男性よりも女性の方がデートDVの「意味を知っている」の割合が高い

全体では、「聞いたことがない」(55.4%)が最も多く、次いで「意味を知っている」(24.0%)、「聞いたことはあるが、意味は知らない」(20.0%)となっている。

性別にみると、女性は「意味を知っている」が27.5%であるのに対して、男性は20.7%となっている。(図表IV-3-1)

図表IV-3-1 デートDVの言葉の認知度(全体、性別)



学年別にみると、「意味を知っている」の割合は、中学1年生から高校1年生は低く、高校2年生(55.6%)、高校3年生(42.3%)は高くなっている。(図表IV-3-2)

図表IV-3-2 デートDVの言葉の認知度(全体、学年別)

		[上段:実数、下段:%]			
		意味を知っている	聞いたことはあるが、意味は知らない	聞いたことがない	無回答
全	体 (N=175)	42	35	97	1
		100.0	24.0	20.0	55.4
学 年 別	中 学 1 年 生 (n=18)	3	4	11	0
		100.0	16.7	22.2	61.1
	中 学 2 年 生 (n=28)	2	4	22	0
		100.0	7.1	14.3	78.6
	中 学 3 年 生 (n=39)	4	8	27	0
		100.0	10.3	20.5	69.2
	高 校 1 年 生 (n=36)	7	8	20	1
		100.0	19.4	22.2	55.6
学 年 別	高 校 2 年 生 (n=27)	15	3	9	0
		100.0	55.6	11.1	33.3
	高 校 3 年 生 (n=26)	11	8	7	0
		100.0	42.3	30.8	26.9
社 会 人 (n=0)		0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他 (n=1)		0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	100.0

問8 恋人の間で起こる次の行動を「デートDV」だと思いますか。

((1)～(4)について、1つずつ○)

(1)『たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける』

(2)『ばかにしたり、傷つける言葉を言う』

(3)『友人との連絡・付き合いを制限する』

(4)『いやがっているのにキスしたり、体にさわる』

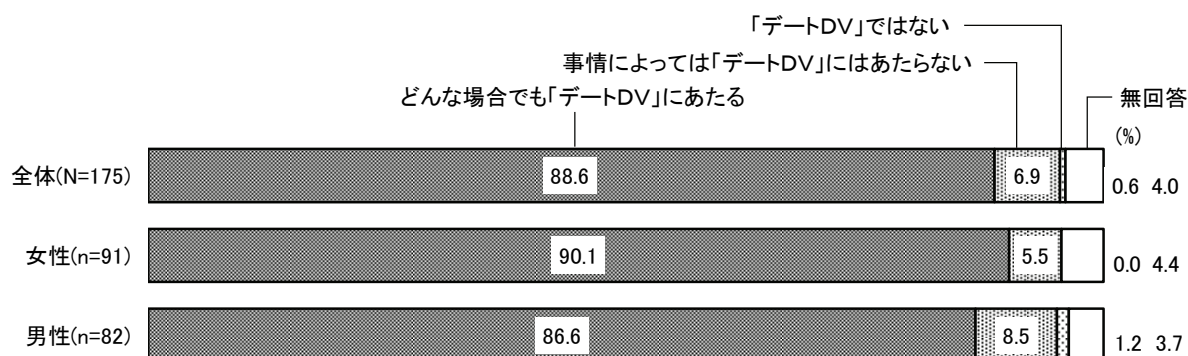
(1) デートDVに対する認識 (『たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける』)

●「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が88.6%

デートDVに対する認識について、『たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が88.6%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」は女性が90.1%、男性が86.6%となっている。(図表IV-3-3-①)

図表IV-3-3-① デートDVに対する認識 (『たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける』)
(全体、性別)



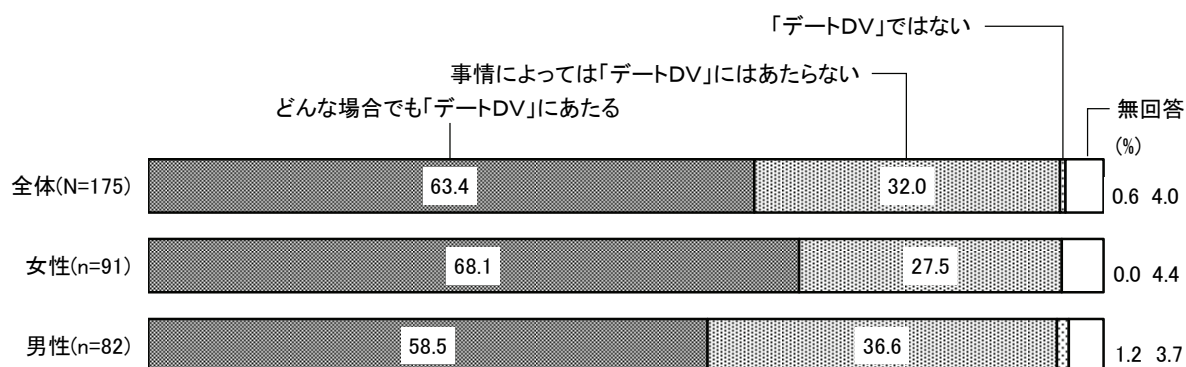
(2) デートDVに対する認識（『ばかにしたり、傷つける言葉を言う』）

●「事情によっては「デートDV」にはあたらない」が32.0%

デートDVに対する認識について、『ばかにしたり、傷つける言葉を言う』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」(63.4%) が最も多く、次いで「事情によっては「デートDV」にはあたらない」(32.0%) となっている。

性別にみると、「事情によっては「デートDV」にはあたらない」は女性が27.5%であるのに対して男性が36.6%となっている。(図表Ⅳ－3－3－②)

図表Ⅳ－3－3－② デートDVに対する認識（『ばかにしたり、傷つける言葉を言う』）
(全体、性別)



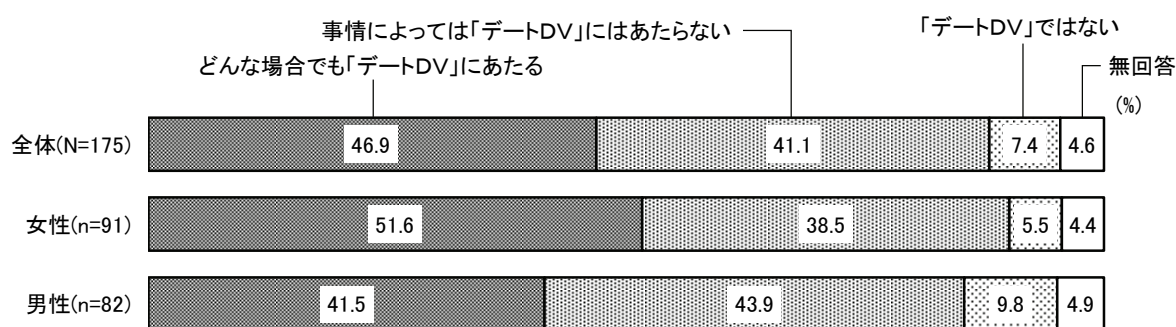
(3) デートDVに対する認識（『友人との連絡・付き合いを制限する』）

●男性は「事情によっては「デートDV」にはあたらない」が43.9%、「「デートDV」ではない」が9.8%

デートDVに対する認識について、『友人との連絡・付き合いを制限する』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」(46.9%)が多く、次いで「事情によっては「デートDV」にはあたらない」(41.1%)となっている。

性別にみると、女性は「どんな場合でも「デートDV」にあたる」(51.6%)が最も多く、男性は「事情によっては「デートDV」にはあたらない」(43.9%)が最も多くなっている。また、男性は「「デートDV」ではない」が9.8%となっている。(図表Ⅳ－３－３－③)

図表Ⅳ－３－３－③ デートDVに対する認識（『友人との連絡・付き合いを制限する』）
(全体、性別)



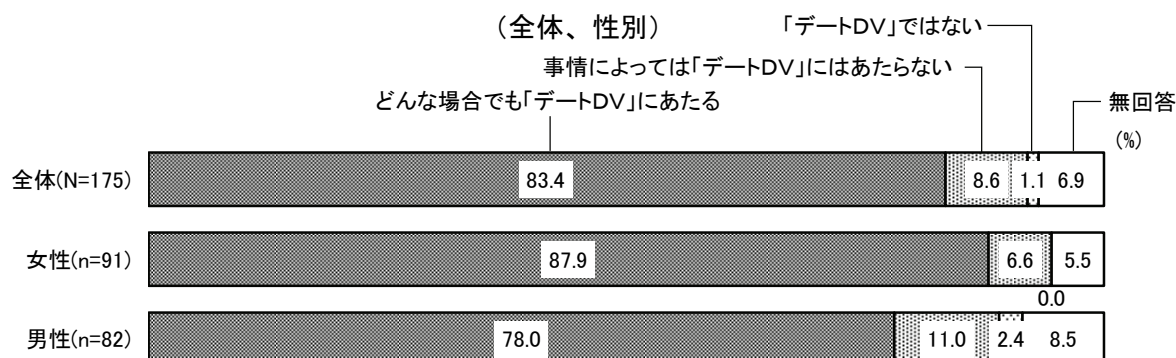
(4) デートDVに対する認識（『いやがっているのにキスしたり、体にさわる』）

●「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が83.4%

デートDVに対する認識について、『いやがっているのにキスしたり、体にさわる』は、全体では、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」が83.4%となっている。

性別にみると、「どんな場合でも「デートDV」にあたる」は女性が87.9%、男性が78.0%となっている。(図表Ⅳ－３－３－④)

図表Ⅳ－３－３－④ デートDVに対する認識（『いやがっているのにキスしたり、体にさわる』）
(全体、性別)



4 悩み

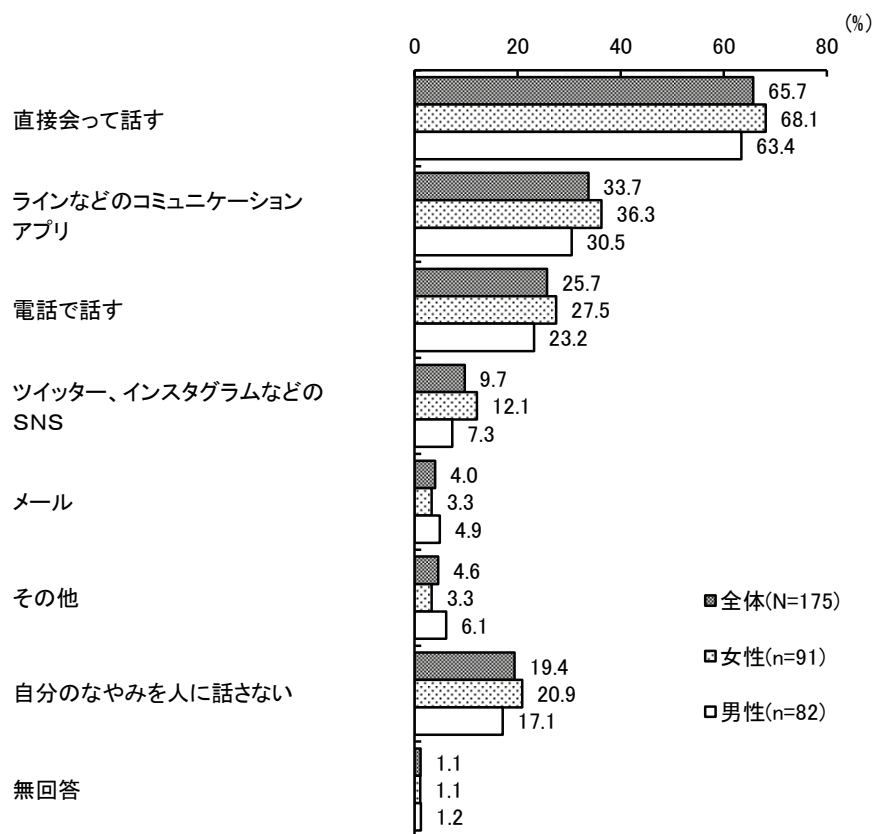
問9 自分のなやみを話す方法として、あなたはどのような方法を使いますか。(いくつでも○)

●全体、男女ともに「直接会って話す」が最も多い

全体では、「直接会って話す」(65.7%)が最も多く、次いで「ラインなどのコミュニケーションアプリ」(33.7%)、「電話で話す」(25.7%)となっている。また、「自分のなやみを人に話さない」は19.4%となっている。

性別にみると、男女ともに全体の上位3項目と同様であるが、全体と比較して女性の割合はやや高く、男性は低くなっている。(図表Ⅳ－4－1)

図表Ⅳ－4－1 悩みを話す方法（全体、性別：複数回答）



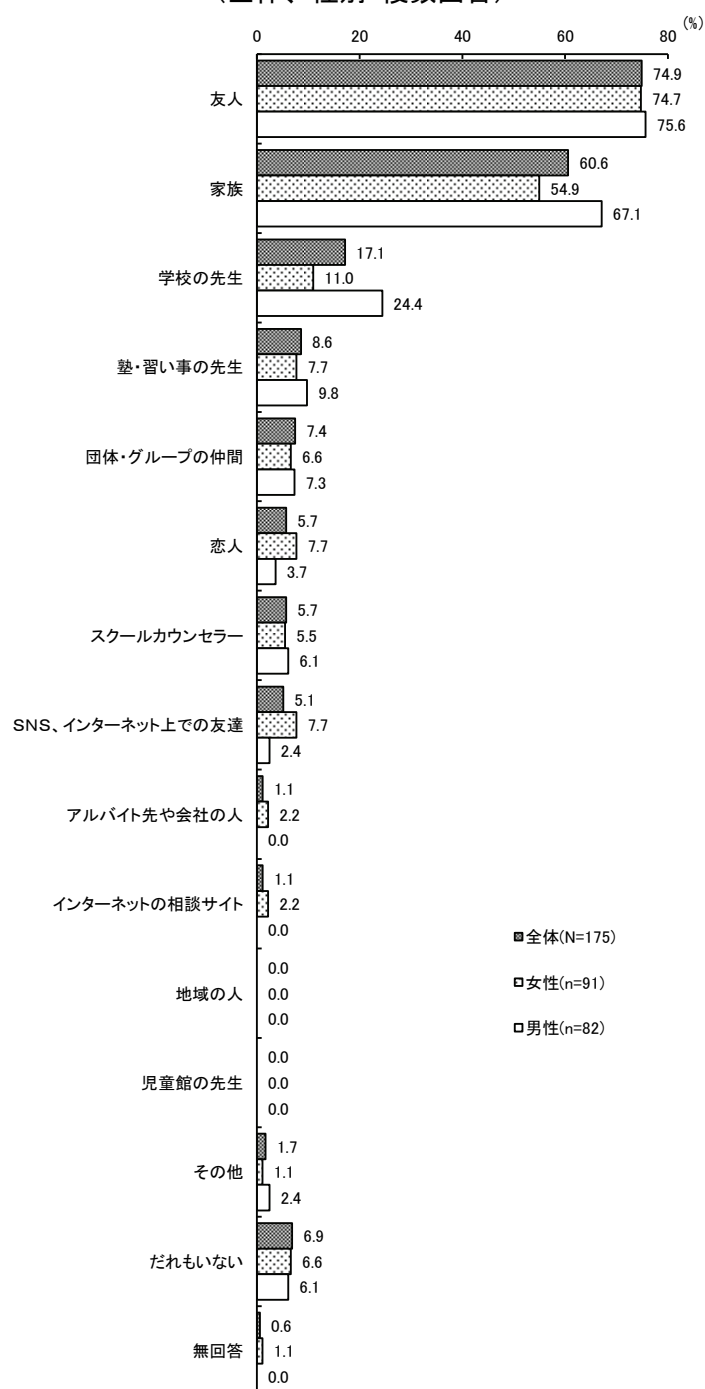
問 10 あなたは、何か相談したいことや聞いてほしいことがあったとき、気軽に話せる相手がありますか。(いくつでも○)

●全体、男女ともに「友人」が最も多く、次いで「家族」が多い

全体では、「友人」(74.9%)が最も多く、次いで「家族」(60.6%)、「学校の先生」(17.1%)となっている。また、「だれもいない」は6.9%となっている。

性別にみると、男女ともに全体の上位3項目と同様であるが、「家族」、「学校の先生」への相談は、女性よりも男性の方が10ポイント以上高くなっている。(図表Ⅳ－4－2)

図表Ⅳ－4－2 相談したいことや聞いてほしいことがあったときに気軽に話せる相手
(全体、性別:複数回答)



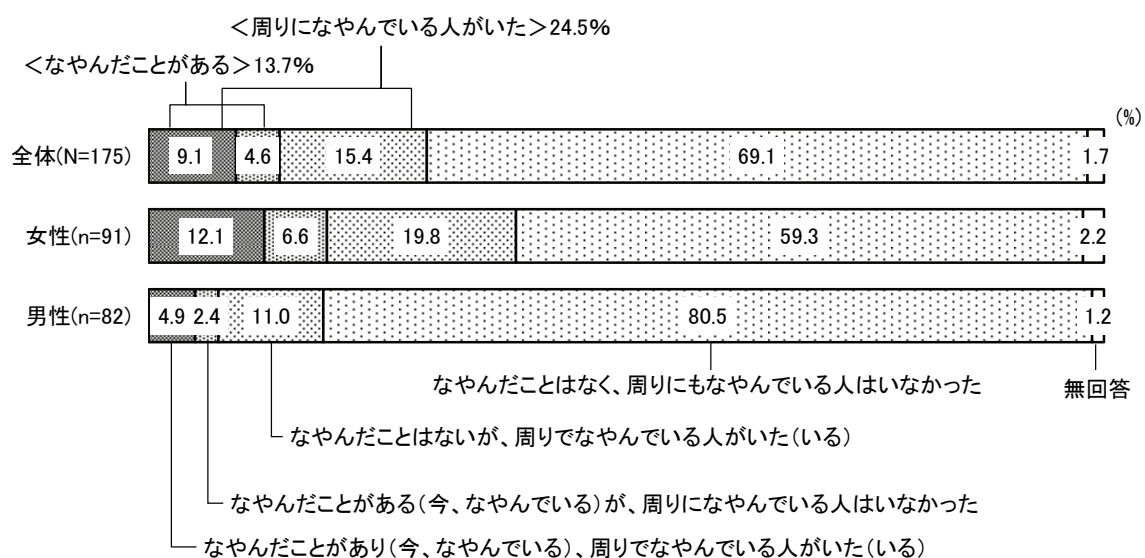
問 11 あなたは、今までに、好きになる性（性的指向）や、身体の性とは関係なく、自分自身が認識している性（性自認）についてなやんだことはありますか。また、周りの人でなやんでいる人はいますか。（1 つに○）

●性（性的指向）や心の性（性自認）について、なやんだことがある人は13.7%、周りになやんでいる人がいた人は24.5%

全体では、「なやんだことがあり（今、なやんでいる）、周りでなやんでいる人がいた（いる）」（9.1%）と「なやんだことがある（今、なやんでいる）が、周りになやんでいる人はいなかった」（4.6%）を合計した＜なやんだことがある＞の割合は13.7%である。また、「なやんだことがあり（今、なやんでいる）、周りでなやんでいる人がいた（いる）」（9.1%）と「なやんだことはないが、周りでなやんでいる人がいた（いる）」（15.4%）を合計した＜周りになやんでいる人がいた＞の割合は24.5%となっている。

性別にみると、＜なやんだことがある＞は女性が 18.7%、男性が 7.3%であり、＜周りになやんでい
る人がいた＞は女性が 31.9%、男性が 15.9%となっている。（図表Ⅳ－４－３）

図表Ⅳ－４－３ 性（性的指向）や心の性（性自認）について悩んだことの有無
（全体、性別）



V 資料編

1 区民調査調査票

男女平等に関する意識についておたずねします

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別によって役割を固定する考え方を「固定的性別役割分担」と言います。あなたはこのような考え方をどう思いますか。(1つに○)

(N=646)

- | | | | |
|-----------------|-------|-----------------|-------|
| 1 賛成である | 2.0% | 4 どちらかといえば反対である | 19.8% |
| 2 どちらかといえば賛成である | 7.4% | 5 反対である | 38.1% |
| 3 どちらともいえない | 28.5% | 6 わからない | 0.8% |
| | | 無回答 | 3.4% |

問2 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

((1)～(8)について、1つずつ○)

(N=646)

	女性 が優 遇 さ れ て い る	女性 が優 遇 さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	男性 が優 遇 さ れ て い る	男性 が優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(記入例) 家庭では	1	2	③	4	5	
(1) 家庭では	3.6%	10.4%	36.2%	34.5%	12.5%	2.8%
(2) 職場では	2.9%	4.5%	27.4%	36.8%	23.2%	5.1%
(3) 教育の場(学校・大学)では	0.8%	2.9%	58.2%	25.5%	6.3%	6.2%
(4) 社会活動の場では	1.1%	4.3%	34.8%	43.0%	13.0%	3.7%
(5) 法律や制度では	0.9%	5.1%	33.0%	37.9%	19.5%	3.6%
(6) しきたりや習慣では	0.6%	3.4%	11.1%	44.4%	37.2%	3.3%
(7) 政治の場では	0.3%	1.1%	7.7%	33.7%	54.0%	3.1%
(8) 全体としては	0.6%	2.2%	14.2%	61.8%	17.5%	3.7%

問3 あなたは、政治や行政、会社などにおいて、特に重要な企画や方針を決定していく際に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(いくつでも○)

(N=646)

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識 | 46.7% |
| 2 男性優位の組織運営 | 63.2% |
| 3 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない | 43.7% |
| 4 家族の支援・協力が得られない | 37.2% |
| 5 女性の活動を支援する制度や仲間(ネットワーク)の不足 | 28.8% |
| 6 女性には能力開発や責任ある業務を任せられる機会が少ない | 34.2% |
| 7 女性が参画に消極的である | 34.7% |
| 8 その他〔具体的に: 〕 | 9.9% |
| 9 女性の参画が特に少ないとは思わない | 4.8% |
| 10 わからない | 1.7% |
| 無回答 | 1.9% |

問4 あなたは、以下の（１）～（６）の言葉とその意味を知っていましたか。

（（１）～（６）について、１つずつ〇）

（N=646）

	言葉の意味 で知っていた	言葉だけは 知っていた	初めて知った	この調査で 初めて知った	無回答
（記入例）男女共同参画	1	②	3		
（１）男女共同参画 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が政治的、経済的、社会的及び文化的利益を平等に享受することができ、かつ、共に責任を担うことです。	53.7%	30.2%	13.8%		2.3%
（２）ジェンダー平等 社会や文化によって作られる性別（ジェンダー）にもとづく偏見や差別のない状態のことです。SDGsや国際的な場で、男女平等を目指す際に使用される言葉です。	70.4%	19.5%	8.4%		1.7%
（３）ポジティブ・アクション（積極的差別是正措置） 社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のことをいいます。 例）課長職以上の管理職は男性が占めているので、女性を増やすために積極的に取り組む。	14.6%	22.6%	61.1%		1.7%
（４）LGBT LGBTとは、L＝レズビアン（女性同性愛者）、G＝ゲイ（男性同性愛者）、B＝バイセクシャル（両性愛者）、T＝トランスジェンダー（性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人）の頭文字をつないだ、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）を表す言葉の一つとして使われます。	79.9%	12.7%	6.3%		1.1%
（５）SOGI（性的指向/性自認） どの性に対して恋愛・性愛感情を持つかという「性的指向（sexual orientation）」と自分の性をどのように認識しているかという「性自認（gender identity）」の頭文字をとった略称です。SOGIは性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）だけでなく、誰もが持っている特性を表しています。	15.5%	15.6%	67.2%		1.7%
（６）アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見） 誰もが潜在的に持っているバイアス（偏見）のことです。育つ環境や所属する集団のなかで知らず知らずのうちに脳にきざみこまれることで、既成概念、固定観念となっていきます。バイアスの対象は、男女、人種、貧富などと様々で、自覚ができないために自制することも難しくなっています。	24.0%	16.7%	58.2%		1.1%

家庭生活や地域活動についておたずねします

問5 あなたには、現在、配偶者※はいらっしゃいますか。(1つに○)

※ 「配偶者」には、婚姻届を出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者（以下「事実婚関係にある者」という）も含まれます。

(N=646)

- | | | | |
|---|-----|-----------------|-------|
| 1 | いる | → 問5-1にもお答えください | 69.0% |
| 2 | いない | → 問6へお進みください | 28.9% |
| | 無回答 | | 2.0% |

問5-1 あなたのご家庭は、次のどれにあてはまりますか。（1つに○）

(n=446)

- | | | |
|---|-------------------------|-------|
| 1 | 共働き家庭（パートタイム・家庭内職などを含む） | 68.2% |
| 2 | あなた本人のみ就業している家庭 | 8.5% |
| 3 | 配偶者のみ就業している家庭 | 11.2% |
| 4 | ともに働いていない家庭 | 8.3% |
| 5 | その他〔具体的に： 〕 | 2.9% |
| | 無回答 | 0.9% |

問6 あなたのご家庭では、次にあげるような家事・育児・介護等を主にどなたがしていますか。((1)～(12)について、1つずつ○)

(N=646)

	主にあなた	主に配偶者	主に母親	主に父親	主に娘	主に息子	家族で協力	その他	該当する人がいないのでする必要がない	無回答
(記入例) 掃除	1	②	3	4	5	6	7	8	9	
(1) 掃除	53.4%	14.4%	3.6%	0.2%	0.3%	0.3%	20.6%	2.2%		5.1%
(2) 洗濯	54.6%	15.3%	4.6%	0.6%	0.6%	0.0%	18.3%	0.9%		5.0%
(3) 日用品の買い物	52.8%	12.4%	3.6%	0.5%	0.6%	0.2%	24.0%	0.9%		5.1%
(4) 食事の支度	55.4%	18.0%	4.5%	0.3%	0.3%	0.0%	15.0%	0.9%		5.6%
(5) 食事の後かたづけ、食器洗い	52.2%	13.6%	3.1%	0.3%	0.8%	0.0%	23.5%	1.2%		5.3%
(6) 子どもの世話やしつけ	17.8%	5.4%	2.3%	0.0%	0.6%	0.0%	18.9%	0.9%	43.3%	10.7%
(7) 日常の家計管理	49.5%	19.0%	3.7%	0.5%	0.6%	0.2%	16.4%	4.3%		5.7%
(8) 家具・家電品などの修理	46.4%	18.4%	1.2%	3.3%	1.1%	1.1%	15.2%	6.5%		6.8%
(9) 高齢者や病人の世話	11.1%	2.6%	1.7%	0.2%	0.8%	0.2%	8.0%	2.8%	63.2%	9.4%
(10) 高額商品の購入	37.8%	17.3%	0.5%	3.4%	0.6%	0.5%	28.9%	2.8%		8.2%
(11) 預貯金の管理	45.2%	16.7%	2.3%	1.1%	0.6%	0.3%	20.7%	6.3%		6.7%
(12) 近所づきあい	40.1%	9.6%	2.6%	0.6%	0.5%	0.3%	27.1%	13.0%		6.2%

問7 あなたが平日・休日で家事・育児・介護に携わる1日あたりの時間はどのくらいですか。平均的な時間をお選びください。

(平日・休日について、1つずつ○)

(N=646)

	0分～15分未満	15分～30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
(記入例1) 平日	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	
(記入例2) 休日	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	
(1) 平日	6.3%	6.3%	10.2%	19.8%	17.2%	18.1%	7.3%	2.6%	5.7%	6.3%
(2) 休日	3.7%	3.9%	8.0%	13.6%	19.8%	19.0%	10.2%	2.8%	12.2%	6.7%

問8 あなたは、現在、ご家族の介護を行っていらっしゃいますか。(1つに○)

(N=646)

- | | | |
|----------|-----------------|-------|
| 1 行っている | → 問8-1にもお答えください | 12.1% |
| 2 行っていない | → 問9へお進みください | 84.4% |
| 無回答 | | 3.6% |

問8-1 あなたは、「介護」を行うことに対して、どのくらい負担を感じますか。

当てはまるものをお選びください。((1)～(4)について、1つずつ○)

(n=78)

	を感じる 非常に負担	やや負担を 感じる	いえない どちらとも	あまり負担 を感じない	全く負担を 感じない	無回答
(記入例) 社会活動の制約 (仕事や社会活動に支障がでる等)	1	2	③	4	5	
(1) 社会活動の制約 (仕事や社会活動に支障がでる等)	19.2%	33.3%	26.9%	9.0%	7.7%	3.8%
(2) 精神的負担感 (ストレスや孤独を感じる等)	26.9%	33.3%	16.7%	16.7%	3.8%	2.6%
(3) 経済的負担感	15.4%	29.5%	23.1%	17.9%	14.1%	0.0%
(4) 肉体的負担感 (疲れる、体に痛みが出る等)	29.5%	30.8%	21.8%	9.0%	6.4%	2.6%

問9 あなたは、男性が家事、育児、介護に参加する際にどのようなことが大切だと思いますか。(いくつでも○)
(N=646)

- | | |
|--|-------|
| 1 家事などの参加に対する男性自身の抵抗感をなくすこと | 47.4% |
| 2 男性の家事、育児、介護への参加に対する女性の抵抗感をなくすこと | 27.9% |
| 3 夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること | 68.9% |
| 4 年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること | 37.9% |
| 5 男性による家事、育児、介護について、評価を高めること | 30.8% |
| 6 働き方の見直し等により、仕事以外の時間を多く持てるようにすること | 51.5% |
| 7 男性の家事、育児、介護への参加を促す啓発を行うこと | 26.9% |
| 8 仕事と家庭の両立に対する理解が得られやすい職場の風土づくりをすること | 52.6% |
| 9 男性が育児や介護を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること | 20.4% |
| 10 仕事と家庭の両立について、男性が相談しやすい窓口を設けること | 21.1% |
| 11 その他〔具体的に: 〕 | 6.5% |
| 12 特に必要なことはない | 1.5% |
| 13 わからない | 2.2% |
| 無回答 | 3.3% |

問10 あなたは、次の地域活動について現在、参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。【現在の参加状況】、【今後の参加意向】ごとに、(1)～(11)について、1つずつ○
(N=646)

	【現在の参加状況】		無回答	【今後の参加意向】		無回答
	参加している	参加していない		参加したい	参加したいと思わない	
(記入例) 町会や自治会の活動	1	②		①	2	
(1) 町会や自治会の活動	17.5%	77.9%	4.6%	25.1%	53.4%	21.5%
(2) 学校の保護者会やPTA活動	12.5%	78.2%	9.3%	17.2%	56.5%	26.3%
(3) 子ども会や青少年の育成活動	4.3%	87.0%	8.7%	20.4%	54.2%	25.4%
(4) 趣味・生涯学習・スポーツなどのサークル活動	17.2%	76.0%	6.8%	49.8%	29.6%	20.6%
(5) 子育てなどのサークル活動	2.5%	88.5%	9.0%	15.5%	59.1%	25.4%
(6) NPO、ボランティアなどの活動	8.0%	85.3%	6.7%	37.0%	41.6%	21.4%
(7) 防災・防犯・消防団等の活動	7.6%	85.9%	6.5%	21.1%	57.1%	21.8%
(8) 商工会・商店会等の活動	2.3%	89.8%	7.9%	10.4%	66.7%	22.9%
(9) 地域交流・国際交流の活動	6.7%	85.8%	7.6%	32.7%	46.0%	21.4%
(10) 審議会、委員会などの政策決定にかかわる活動	2.6%	89.6%	7.7%	16.9%	60.7%	22.4%
(11) その他〔具体的に: 〕	0.9%	37.3%	61.8%	2.0%	26.3%	71.7%

→ 全部に○を付けた方は、
問10-1にもお答えください

問10-1 現在、あなたが地域活動に参加していないのはなぜですか。

(いくつでも○)

(n=331)

1 時間的余裕がないから	54.7%
2 参加したい活動がないから	21.5%
3 どのような活動があるのかわからないから	38.7%
4 参加方法がわからない、きっかけがないから	33.2%
5 人間関係がわずらわしいから	27.8%
6 家族の協力、理解が得られないから	1.2%
7 子どもや高齢者がいるので出かけにくいから	10.3%
8 健康に不安があるから	9.1%
9 経済的余裕がないから	9.4%
10 関心がないから	16.6%
11 その他〔具体的に: 〕	10.3%
無回答	1.5%

子育てや教育についておたずねします

問11 あなたは、子どもをどのように育てることが望ましいと思いますか。

子育てをしていない方もお答えください。(いくつでも○)

(N=646)

1 しつけや教育について、男女の区別はしないで育てる	61.1%
2 男女を問わず、生活に必要な家事ができるように育てる	71.7%
3 男女を問わず、社会で自立ができるように育てる	86.5%
4 男は仕事、女は家事・育児ができるように育てる	2.3%
5 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	13.0%
6 その他〔具体的に: 〕	5.6%
7 わからない	1.2%
無回答	2.9%

問12 あなたは、学校教育の中で、次のうちどのようなことが行われるとよいと思いますか。(いくつでも○)

(N=646)

1 学校生活での児童・生徒の役割分担を性別の区別なく同じにする	60.5%
2 生活指導や進路指導において、性別の区別なく能力を生かせるよう配慮する	70.6%
3 児童・生徒の名簿は男女混合にする	21.1%
4 教師自身の固定観念をとりのぞけるよう研修をする	49.4%
5 男女平等の意識を育てる授業をする	55.1%
6 年代に応じた性教育の授業をする	52.2%
7 校長や副校長に女性を増やしていく	26.9%
8 保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	31.7%
9 その他〔具体的に: 〕	5.1%
10 学校で男女平等教育を行う必要はない	2.6%
11 わからない	2.5%
無回答	2.9%

問13 あなたは、地域で子育てをしやすくするために、今後、区はどのような施策を進める必要があると思われますか。(3つまで○)
(N=646)

1	子育てに関する情報提供や育児相談窓口の充実	27.7%
2	子育て講座などの開催・充実	10.1%
3	保育所の増設など、子どもを預けられる施設の充実	49.8%
4	延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など、状況に応じて利用できる多様なサービスの充実	54.3%
5	子どもと親の健康づくりや医療体制の充実	16.6%
6	親子が集い気軽に交流を図ることができる場（あかちゃん天国など）の充実	13.3%
7	放課後における子どもの居場所づくり（学童クラブやプレディなど）の充実	39.5%
8	保育料、教育費などの軽減や子育て家庭への経済的支援の拡充	34.1%
9	子育てと仕事の両立支援のための企業等に対する啓発 （育児休業制度の利用促進、短時間勤務制度の導入など）	28.3%
10	出産後または子育て後の再就職等の支援	24.6%
11	子どもが交通事故や犯罪に巻き込まれにくい安全なまちづくり	34.8%
12	子ども食堂への支援等、ひとり親家庭への支援の拡充	23.2%
13	その他〔具体的に: 〕	2.8%
14	わからない	4.3%
	無回答	3.6%

働き方についておたずねします

問14 あなたの職業は次のうちどれにあたりますか。(1つに○)
(N=646)

【働いている】		
1	自営業（個人事業主、家族従業者も含む）	15.8%
2	勤め人（フルタイム）	49.2%
3	パートタイマー・アルバイト・派遣社員等	9.4%
4	その他の仕事〔具体的に: 〕	0.9%
【働いていない】		
5	学生	1.2%
6	家事専業（主婦・主夫）	9.6%
7	無職	11.3%
	無回答	2.5%

→ 問14-1にも
お答えください

→ 問14-2及び
問14-3にも
お答えください

問14-1 現在、働いている方にうかがいます。

あなたの職場では、仕事と子育て・介護の両立に対する配慮があると思いますか。(1つに○)

(n=487)

1	配慮があると思う	46.2%
2	やや配慮があると思う	25.7%
3	どちらともいえない	15.8%
4	やや不十分だと思う	3.3%
5	不十分だと思う	6.6%
	無回答	2.5%

問1 4-2 現在、働いていない方にうかがいます。

現在、働いていないのはなぜですか。(いくつでも○)

(n=143)

1 学校に通っているから	5.6%
2 働かなくても経済的に困らないから	16.8%
3 健康に不安があるから	15.4%
4 育児をしているから	8.4%
5 介護をしているから	4.2%
6 職業能力に自信が持てないから	5.6%
7 希望や条件に合う仕事がないから	9.8%
8 趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから	4.9%
9 家族が賛成していないから	2.8%
10 高齢で引退をしているから	52.4%
11 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による事業廃止や解雇のため	5.6%
12 新型コロナウイルス感染症拡大の影響にはよらない事業廃止や解雇のため	1.4%
13 その他〔具体的に: 〕	9.8%
無回答	4.2%

問1 4-3 現在、働いていない方にうかがいます。

今後、働きたいと思いますか。(1つに○)

(n=143)

1 働きたい	28.0%
2 働きたくない	37.1%
3 わからない	25.2%
無回答	9.8%

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についておたずねしま

ご存じですか？ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事は、生活を支える基盤であるとともに、生きがいや喜びをもたらす、自己実現につながるものです。同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしには欠かすことができないものです。しかし、現実の社会では、長時間労働や家事・育児・介護を抱え込んでしまうなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。

人生 100 年時代が到来し、一人一人のライフスタイルも変化する中、将来にわたって多様性に富んだ活力ある社会を創造していくためには、男女がともに、仕事、家庭生活、地域生活など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進が重要です。

問1 5 あなた自身のワーク・ライフ・バランスについて、望ましいと思うものはどれですか。現在仕事をしていない方もお答えください。(1つに○)

(N=646)

1 仕事を優先する方がよい	2.0%
2 どちらかといえば、仕事を優先する方がよい	12.4%
3 仕事とそれ以外の生活とを同じように両立させることが望ましい	60.2%
4 どちらかといえば、仕事以外の生活を優先させる方がよい	12.2%
5 仕事以外の生活を優先する方がよい	6.3%
6 わからない	3.7%
無回答	3.1%

問16 あなた自身のワーク・ライフ・バランスについて、現在の状況は次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)

(N=646)

- | | |
|----------------------------------|-------|
| 1 仕事を優先している | 15.8% |
| 2 どちらかといえば、仕事を優先している | 28.9% |
| 3 仕事とそれ以外の生活を同じように両立させている | 21.1% |
| 4 どちらかといえば、仕事よりも、それ以外の生活を優先させている | 10.7% |
| 5 現在仕事をしていない | 20.7% |
| 無回答 | 2.8% |

問17 あなたは、ワーク・ライフ・バランスを推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

(N=646)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1 ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発を行う | 21.8% |
| 2 企業がワーク・ライフ・バランスを実現しやすい職場づくりに取り組む | 61.3% |
| 3 働く人が、仕事や家事などの能力を高めたり、進め方を工夫したりする | 32.5% |
| 4 家族みんなで家事・育児・介護を分担する | 40.4% |
| 5 家事・育児・介護サービスの充実をはかる | 33.4% |
| 6 趣味や学習などの活動に参加する機会を増やす | 21.1% |
| 7 地域の活動に関心を持ち、積極的に参加する | 11.5% |
| 8 その他〔具体的: 〕 | 6.2% |
| 無回答 | 5.0% |

健康・人権についておたずねします

問18 あなたは、健康に関する情報で欲しいものは何ですか。(いくつでも○)

(N=646)

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1 生活習慣病に関する情報 | 32.7% |
| 2 体力づくりなど健康増進に関する情報 | 39.5% |
| 3 ストレスやうつなどこころの健康に関する情報 | 31.1% |
| 4 休養や睡眠などに関する情報 | 27.6% |
| 5 適切な飲酒量などお酒に関する情報 | 4.8% |
| 6 禁煙などたばこに関する情報 | 2.5% |
| 7 栄養バランスなど食事に関する情報 | 29.9% |
| 8 性別特有の疾病（乳がん、子宮がん、前立腺がんなど）に関する情報 | 17.2% |
| 9 月経（月経前症候群（PMS）、月経不順など）に関する情報 | 9.0% |
| 10 更年期にみられる症状などに関する情報 | 18.3% |
| 11 妊娠・出産に関する情報 | 9.1% |
| 12 不妊・不妊治療に関する情報 | 5.7% |
| 13 性感染症（カンジダ症、クラミジア感染症など）に関する情報 | 2.8% |
| 14 健康診断や各種検診に関する情報 | 38.9% |
| 15 その他〔具体的に: 〕 | 2.6% |
| 16 特になし | 14.2% |
| 無回答 | 2.8% |

問19 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。（1つに○）

(N=646)

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1 法律があることも、その内容も知っている | 23.7% |
| 2 法律があることは知っているが、内容はよく知らない | 52.6% |
| 3 法律があることを知らなかった | 21.8% |
| 無回答 | 1.9% |

問20 配偶者や恋人などの間（女性から男性、男性から女性だけでなく、同性間も含む）で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。あなたは、配偶者や恋人などから次のような暴力を受けたことがありますか。

（いくつでも○）

(N=646)

- | | |
|---|------|
| 1 なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的な暴力を受けた | 4.3% |
| 2 家族や友人との付き合いを制限、禁止されたり、電話やメール、SNS を細かくチェックされたりした | 3.4% |
| 3 人格を否定するような暴言を言われる、大声でどなられる、人前でバカにされる、無視されて口をきいてくれないといった精神的な暴力を受けた | 8.4% |
| 4 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなどの経済的な暴力を受けた | 1.2% |
| 5 見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せられたり、いやがっているのに性的な行為を強要したり、避妊をしないなど、性的な暴力を受けた | 1.9% |
| 6 その他〔具体的に: 〕 | 0.8% |

→ 問 20-1 にもお答えください

- | | |
|----------------------------|-------|
| 7 受けたことはない → 問 21 へお進みください | 78.2% |
| 無回答 | 9.9% |

問20-1 あなたが受けた暴力について、誰かに相談したことはありますか。

（いくつでも○）

(n=77)

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 1 警察に相談した | 9.1% |
| 2 法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した | 0.0% |
| 3 東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センターに相談した | 1.3% |
| 4 区の窓口、女性センター、民生委員などに相談した | 0.0% |
| 5 民間機関（弁護士会など）に相談した | 3.9% |
| 6 医師に相談した | 5.2% |
| 7 親族に相談した | 20.8% |
| 8 友人・知人に相談した | 28.6% |
| 9 その他〔具体的に: 〕 | 3.9% |

→問 21 へお進みください

- | | |
|----------------------------------|-------|
| 10 誰にも相談しなかった → 問 20-2 にもお答えください | 50.6% |
| 無回答 | 1.3% |

問20-2 誰にも相談しなかった方にうかがいます。

誰にも相談しなかった理由は何ですか。(いくつでも○)

(n=39)

1	相談できる人がいなかったから	12.8%
2	どこに相談してよいのかわからなかったから	25.6%
3	誰にも知られずに相談できる場所がなかったから	10.3%
4	人に打ち明けることに抵抗があったから	33.3%
5	相談しても無駄だと思ったから	43.6%
6	相談するとさらに暴力を受けることになると思ったから	0.0%
7	我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから	30.8%
8	自分にも悪いところがあると思ったから	12.8%
9	他人を巻き込みたくなかったから	17.9%
10	相談するほどのことではないと思ったから	41.0%
11	その他〔具体的に: 〕	10.3%
	無回答	2.6%

問21 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、見聞きしたことがありますか(いくつでも○)

(N=646)

1	親族・友人・知人から相談を受けたことがある	7.9%
2	親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる	15.8%
3	親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある	36.1%
4	見聞きしたことがない	40.7%
	無回答	3.4%

問22 あなたは、配偶者や恋人などの間で起こる暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

(N=646)

1	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	37.6%
2	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	43.3%
3	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	11.1%
4	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	30.2%
5	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	71.5%
6	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	34.4%
7	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	37.3%
8	加害者への罰則を強化する	57.0%
9	暴力を助長するおそれのある情報（インターネット、SNS など）を取り締まる	33.3%
10	その他〔具体的に: 〕	6.2%
11	特にない	1.9%
	無回答	3.1%

ご存じですか？ 配偶者からの暴力を受けた人は、法律で守られています

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（配偶者暴力防止法（DV防止法））は、配偶者暴力を防止し、被害者の安全を守り、自立を支援するためにつくられた法律です。

「配偶者」には、事実婚関係にある者も含み、暴力は身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれます。また、離婚後（事実上離婚したと同様の事情に入ることを含みます。）も引き続き暴力を受ける場合や、生活の本拠を共にする交際相手からの暴力についても、この法律を準用することとされています。

同法では、「配偶者暴力相談支援センター」（東京都の場合は東京ウィメンズプラザまたは東京都女性相談センター）において、被害者の相談や一時保護を行うほか、被害者や子ども、親族などの安全を守る「保護命令」の仕組みが設けられています。

性の多様性についておたずねします

問23 あなたは、性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）が暮らしにくさを感じるとしたら、どういう点があると思いますか。（いくつでも○）
(N=646)

1 偏見や差別がある	72.4%
2 家族や周囲の人の理解が得られない	60.2%
3 中傷されたり、いやがらせ、いじめを受けたりする	51.1%
4 同性のパートナーとの婚姻など法整備が不十分	50.2%
5 自分が認識する性のトイレや更衣室が利用できない	44.3%
6 医療・福祉面で配慮した対応がされていない	26.0%
7 住まいを借りる時に不利・不当な扱いを受ける	23.2%
8 就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受ける	34.2%
9 国や自治体などの相談・支援体制が不十分	26.9%
10 申請書などの性別の記入	31.4%
11 家族、友人などに相談相手がいない	25.1%
12 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT 等）が暮らしにくいと思わない	1.9%
13 その他〔具体的に: 〕	1.4%
14 わからない	7.9%
無回答	4.6%

問24 あなたは、性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）をはじめ、すべての人の性の多様性が認め合える社会をつくるために、区にどのような施策を期待しますか。（いくつでも○）

(N=646)

1 地域住民に理解が広がるような広報誌や講演会などによる啓発活動	18.0%
2 学校現場における性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）や性の多様性について理解するための教育	54.5%
3 行政職員や教職員への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）や性の多様性についての意識啓発	42.4%
4 区内事業所への性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）や性の多様性についての啓発活動	19.2%
5 同性パートナーシップ証明制度の導入	39.5%
6 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）の人が相談できる専門の相談窓口の設置（電話相談や面接相談など）	37.8%
7 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）の人が安心して集まれるコミュニティスペース	22.3%
8 性的少数者（セクシュアルマイノリティ、LGBT等）については、そっとしておいたほうがよい（注目されたくない）	11.1%
9 その他〔具体的に: 〕	5.1%
10 わからない	10.8%
無回答	4.8%

防災対策についておたずねします

問25 男女共同参画の視点での防災対策が求められていますが、あなたは、地域における防災対策において特に重要なことは何だと思いますか。（いくつでも○）

(N=646)

1 災害や防災に関する知識の習得を進める	52.2%
2 防災拠点（避難所）の設備に女性の意見を反映させる	44.1%
3 女性の意見を踏まえて、災害備蓄品を準備する	45.4%
4 防災拠点運営委員会*等により多くの女性が参画できるようにする	29.1%
5 防災や災害時対応における女性リーダーを育成する	23.7%
6 災害に関する各種計画や、対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる	35.4%
7 警察署や消防署などの防災関係機関について、採用・登用を含めて、女性が十分配置されるようにする	33.7%
8 その他〔具体的に: 〕	2.6%
9 わからない	6.3%
無回答	4.0%

※ 各防災拠点の地域の町会・自治会や防災区民組織が主体となって運営される組織

問26 あなたが、防災拠点（避難所）の運営において、男女共同参画の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。（いくつでも○）
(N=646)

- | | |
|---|-------|
| 1 男女別の配慮などによる防災拠点（避難所）のプライバシー確保（トイレ、更衣室、物干し場所等） | 80.2% |
| 2 要配慮者※や外国人など、さまざまな人の視点を取り入れた防災拠点（避難所）運営 | 48.8% |
| 3 妊産婦や育児中の女性への配慮（授乳室の設置等） | 64.9% |
| 4 女性用品の配布の際の配慮 | 57.0% |
| 5 被災者の心のケアができる体制づくり | 41.2% |
| 6 保健師派遣による健康相談・管理等 | 33.1% |
| 7 女性の積極的な参画により、女性の視点をより反映した防災拠点（避難所）運営 | 35.3% |
| 8 女性や男性のニーズの把握（聞き取り、意見箱等） | 36.8% |
| 9 その他〔具体的に： 〕 | 1.5% |
| 10 わからない | 3.9% |
| 無回答 | 2.0% |

※ 高齢者や障害者など災害時に特別な配慮が必要な方

女性の活躍推進についておたずねします

問27 あなたは、女性が働くことについてどう思いますか。（1つに○）
(N=646)

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 1 女性は働かない方がよい | 0.5% |
| 2 結婚するまでは、働く方がよい | 1.1% |
| 3 子どもができるまでは、働く方がよい | 2.3% |
| 4 子どもの有無にかかわらず、働く方がよい | 56.0% |
| 5 子どもができたなら働くことをやめ、子どもが成長したら再び働く方がよい | 12.5% |
| 6 その他〔具体的に： 〕 | 18.9% |
| 7 わからない | 5.0% |
| 無回答 | 3.7% |

問28 あなたは、女性が出産・育児・介護により離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（いくつでも○）
(N=646)

- | | |
|--|-------|
| 1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 | 78.3% |
| 2 介護支援サービスの充実 | 55.7% |
| 3 家事・育児支援サービスの充実 | 51.1% |
| 4 男性の家事参加への理解・意識改革 | 53.1% |
| 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 | 47.4% |
| 6 働き続けることへの女性自身の意識改革 | 31.6% |
| 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革 | 46.4% |
| 8 職場における上司、管理職、同僚の理解と意識改革 | 59.0% |
| 9 職場における育児・介護との両立支援制度の充実 | 49.5% |
| 10 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入 | 56.5% |
| 11 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益的な取扱いの禁止 | 38.7% |
| 12 その他〔具体的に： 〕 | 3.6% |
| 13 特にない | 0.6% |
| 14 わからない | 0.9% |
| 無回答 | 1.1% |

問29 あなたは、子育てや介護によりいったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)
(N=646)

1 気軽に相談できる窓口の設置	33.0%
2 再就職や起業を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実	51.4%
3 キャリアアップや能力向上のための学習機会の提供	28.8%
4 実践的能力や知識・ノウハウの習得を支援する短期集中研修等の開催	20.3%
5 再就職希望者への情報提供	49.7%
6 セミナー開催や相談事業等による在宅ワークへの支援	18.1%
7 個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入	53.1%
8 企業における事業所内の託児施設の整備	28.0%
9 その他〔具体的に: 〕	4.3%
10 わからない	2.5%
無回答	1.9%

ご存じですか？ 女性活躍推進法

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」は、平成27年8月に成立しました。この法律は、301人以上の労働者を雇用する事業主に対し、平成28年4月1日以降、①女性の活躍状況の把握や課題の分析、②行動計画の策定、社内周知、外部公表、③労働局への届出、情報公表などを義務付けています。

なお、現在は常時雇用する労働者が300人以下の事業主については、上記の取組みが努力義務とされていますが、令和4年4月1日から、取組みが義務付けられる一般事業主の対象が、常時雇用する労働者数が101人以上の事業主に拡大されます。

男女共同参画を進めるために必要な施策についておたずねします

問30 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。(1つに○)
(N=646)

1 日頃、頻繁に施設を利用している	0.6%
2 たまに利用している、または利用したことがある	3.1%
3 講演会、セミナー、中央区ブーケ祭りなどで訪れたことがある	3.7%
4 利用したことはないが、活動内容は知っている	7.7%
5 利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている	37.3%
6 施設があることを知らない	45.8%
無回答	1.7%

問31 あなたは、女性センター「ブーケ21」で実施している次の事業を、知っていますか。また、今後利用したいと思いますか。（【現在の認知状況】、【今後の利用意向】ごとに、（１）～（７）について、１つつ〇）
（N=646）

	【現在の認知状況】		無回答	【今後の利用意向】		無回答
	知っている	知らない		利用したい	利用したいと思わない	
（記入例）「ブーケ21」女性相談	1	②		①	2	
（１）「ブーケ21」女性相談 生き方、人間関係の悩みなどを専門のカウンセラーがお聞きし、問題解決のお手伝いをします（無料・秘密厳守）。	13.6%	78.8%	7.6%	26.9%	53.3%	19.8%
（２）中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」 生活に密着した切り口から男女共同参画の情報、女性センター「ブーケ21」で実施した講演会・セミナーの報告などを提供しています（年2回発行）。	9.4%	83.6%	7.0%	23.2%	57.4%	19.3%
（３）「ブーケ21」ホームページ 施設や相談の利用、講座・催し物、「Bouquet（ブーケ）」のバックナンバー、登録団体の活動紹介などの情報を見ることができます。	10.7%	82.0%	7.3%	30.3%	50.6%	19.0%
（４）男女共同参画講演会・セミナー 男女共同参画に関する講演会・セミナーを行っています。	11.6%	81.0%	7.4%	21.2%	59.4%	19.3%
（５）中央区ブーケ祭り 中央区における女性の活躍と男女共同参画の推進及び区民団体の交流を目的に毎年開催しています。	12.2%	81.4%	6.3%	21.1%	60.1%	18.9%
（６）男女共同参画団体に対する各種支援 男女共同参画の推進を目的として活動する団体に対し、情報提供や施設利用を支援しています。登録団体になると、施設利用料金の7割が減額されます。	5.9%	86.8%	7.3%	18.9%	60.5%	20.6%
（７）男女共同参画に関する図書・資料の貸し出し 男女共同参画に関する図書・資料を、1回につき2冊まで、2週間貸出しています。	6.0%	87.0%	7.0%	20.1%	61.0%	18.9%

問31-1 問31の（１）～（７）以外に、利用してみたい、あったら良いと思う事業やサービスがあればご自由にお書き下さい。

問32 あなたは、男女共同参画を進めるため、今後、区はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(いくつでも○)
(N=646)

1	情報の提供や意識の啓発	33.0%
2	気軽に相談できる体制づくり	35.9%
3	生涯にわたる健康支援	25.9%
4	人権に関する擁護と、人権を侵害された被害者を支援するための 取り組み	27.1%
5	配偶者や恋人などの間で起こる暴力の防止と被害者の支援	27.2%
6	学校における男女平等教育の推進	43.2%
7	男女ともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発	52.2%
8	子育て・介護などで仕事を中断した人への再就職支援	44.7%
9	仕事と生活の調和に向けた啓発	24.8%
10	育児や介護と仕事や活動の両立を支援する施設・サービスの充実	44.4%
11	男女共同参画の視点を取り入れた、区民の交流支援	11.0%
12	町会など地域活動やボランティア活動の促進	13.5%
13	家庭・PTA などへの男性の参画の促進	15.9%
14	町会長や役員など、地域の活動でリーダー的な役割を果たす女性の育成	13.2%
15	防災・まちづくりにおける男女共同参画の推進	20.9%
16	女性センター「ブーケ21」のさらなる活用	9.9%
17	区の審議会等における女性の積極的な登用	16.1%
18	その他〔具体的に: 〕	2.9%
19	わからない	4.6%
	無回答	5.0%

問33 あなたが、男女共同参画や男女平等について、家庭・地域・職場で日頃から感じていること、また、中央区の男女共同参画を進めるための施策について望むことなどがあれば、ご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについておたずねします

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

(N=646)

1 女性	63.8%	2 男性	34.2%	3 その他	0.2%
				無回答	1.9%

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

(N=646)

1 18～19 歳	0.9%	6 40～44 歳	11.8%	11 65～69 歳	6.7%
2 20～24 歳	0.8%	7 45～49 歳	12.5%	12 70～74 歳	6.8%
3 25～29 歳	4.8%	8 50～54 歳	10.8%	13 75～79 歳	4.5%
4 30～34 歳	7.7%	9 55～59 歳	9.4%	14 80～84 歳	3.1%
5 35～39 歳	7.9%	10 60～64 歳	7.1%	15 85 歳以上	3.6%
				無回答	1.5%

F 3 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(1つに○)

(N=646)

1 京橋地域	(八重洲二丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)	23.7%
2 日本橋地域	(本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲一丁目、日本橋、茅場町、兜町)	31.6%
3 月島地域	(佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)	43.0%
	無回答	1.7%

F 4 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(1つに○)

(N=646)

1 3 年未満	12.7%	4 10 年以上～15 年未満	14.4%
2 3 年以上～6 年未満	15.8%	5 15 年以上～20 年未満	11.0%
3 6 年以上～10 年未満	13.0%	6 20 年以上	31.4%
		無回答	1.7%

F 5 あなたが現在一緒に暮らしている人は誰ですか。(いくつでも○)

※ 「配偶者」には、事実婚関係にある者も含みます。

(N=646)

1 ひとり暮らし	20.3%	5 祖父・祖母 (配偶者の祖父・祖母も含む)	0.2%
2 配偶者 (夫・妻) ※	65.8%	6 孫	1.2%
3 子	39.6%	7 交際相手	0.9%
4 父・母 (配偶者の父・母も含む)	7.3%	8 その他〔具体的に: 〕	1.9%
		無回答	1.7%

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、この調査票は、同封の返信用封筒 (切手不要) に入れて、
10 月 12 日 (火) までにポストへ投函くださいますようお願いいたします。

2 若年層調査調査票

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

(N=175)

1 女性	52.0%
2 男性	46.9%
3 その他	1.1%
無回答	0.0%

問2 あなたの学年をお答えください。(1つに○)

(N=175)

1 中学1年生	10.3%
2 中学2年生	16.0%
3 中学3年生	22.3%
4 高校1年生	20.6%
5 高校2年生	15.4%
6 高校3年生	14.9%
7 社会人	0.0%
8 その他	0.6%
無回答	0.0%

問3 あなたの父親・母親は、ふだん、どのような働き方をしていますか。

(それぞれについて、1つに○)

(N=175)

(1) 父親

1 外で働いている	79.4%
2 家で働いている（一時的にリモートワークをしている場合は含みません）	9.7%
3 主に家で家事や育児等をしている	0.6%
4 その他	5.7%
5 わからない	3.4%
無回答	1.1%

(2) 母親

1 外で働いている	54.9%
2 家で働いている（一時的にリモートワークをしている場合は含みません）	8.6%
3 主に家で家事や育児等をしている	32.0%
4 その他	2.9%
5 わからない	1.1%
無回答	0.6%

問4 あなたは、将来どのような働き方をしたいか教えてください。(1つに○)
(N=175)

1	ずっと仕事を続けたい	59.4%
2	結婚 ^{けっこん} するまでは仕事をしたい	5.1%
3	子どもができるまでは仕事をしたい	4.0%
4	子どもができたら仕事をやめて、子どもが成長したら再び仕事をしたい	11.4%
5	仕事はしたくない	4.0%
6	わからない	15.4%
	無回答	0.6%

問5 「父親は外で働き、母親は家庭をまもるべきである」という考え方に共感しますか。
(1つに○)

(N=175)

1	共感する	13.7%
2	共感しない	71.4%
3	わからない	14.9%
	無回答	0.0%

問6 あなたが最近した家の手伝いはどれですか。(いくつでも○)
(N=175)

1	食事のしたくや後かたづけ	63.4%
2	洗たく物干しや取り込むなど	38.9%
3	家の中のそうじ	33.7%
4	風呂 ^{ふろ} そうじ	31.4%
5	トイレそうじ	6.3%
6	買い物	27.4%
7	ゴミ出し	30.9%
8	病気の家族、障害がある家族、介護が必要な家族の世話	1.7%
9	年下のきょうだいの世話	19.4%
10	その他〔具体的に: 〕	4.6%
11	手伝いはしていない	10.9%
	無回答	0.0%

ここからはデートDV やふだんの悩み・相談についてお聞きします。

問7 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。(1つに○)

(N=175)

- | | |
|---------------------|-------|
| 1 意味を知っている | 24.0% |
| 2 聞いたことはあるが、意味は知らない | 20.0% |
| 3 聞いたことがない | 55.4% |
| 無回答 | 0.6% |

問8 恋人の間で起こる次の行動を「デートDV」だと思いますか。

((1)～(4)について、1つずつ○)

※デートDVとは、結婚していない恋人間の暴力のことです。

(N=175)

	「デートDV」 にあたる	「デートDV」 にはあたら ない	「デートDV」 ではない	無回答
(1) たたく、ける、髪を引っ張る、物を投げつける	88.6%	6.9%	0.6%	4.0%
(2) ばかにしたり、傷つける言葉を使う	63.4%	32.0%	0.6%	4.0%
(3) 友人との連絡・付き合いを制限する	46.9%	41.1%	7.4%	4.6%
(4) いやがっているのにキスしたり、体にさわる	83.4%	8.6%	1.1%	6.9%

問9 自分のなやみを話す方法として、あなたはどのような方法を使いますか。

(いくつでも○)

(N=175)

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1 直接会って話す | 65.7% |
| 2 電話で話す | 25.7% |
| 3 ツイッター、インスタグラムなどのSNS | 9.7% |
| 4 ラインなどのコミュニケーションアプリ | 33.7% |
| 5 メール | 4.0% |
| 6 その他〔具体的に: 〕 | 4.6% |
| 7 自分のなやみを人に話さない | 19.4% |
| 無回答 | 1.1% |

問10 あなたは、何か相談したいことや聞いてほしいことがあったとき、気軽に話せる相手がありますか。(いくつでも○)

(N=175)

1 家族	60.6%
2 友人	74.9%
3 こいびと 恋人	5.7%
4 団体・グループの仲間	7.4%
5 アルバイト先や会社の人	1.1%
6 学校の先生	17.1%
7 スクールカウンセラー	5.7%
8 じゅく 塾・習い事の先生	8.6%
9 地域の人	0.0%
10 児童館の先生	0.0%
11 インターネットの相談サイト	1.1%
12 SNS、インターネット上での友達	5.1%
13 その他〔具体的に: 〕	1.7%
14 だれもない	6.9%
無回答	0.6%

問11 あなたは、今までに、好きになる性(性的指向)や、身体の性とは関係なく、自分自身が認識している性(性自認)についてなやんだことはありますか。また、周りの人でなやんでいる人はいますか。(1つに○)

(N=175)

1 なやんだことがあります(今、なやんでいる)、周りでなやんでいる人がいた(いる)	9.1%
2 なやんだことがある(今、なやんでいる)が、周りになやんでいる人はいなかった	4.6%
3 なやんだことはないが、周りでなやんでいる人がいた(いる)	15.4%
4 なやんだことはなく、周りにもなやんでいる人はいなかった	69.1%
無回答	1.7%

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

中央区男女共同参画に関するアンケート調査報告書

令和4(2022)年3月 発行

刊行物登録番号

3-110

発 行：中央区総務部総務課

中央区湊一丁目1番1号

中央区立女性センター「ブーケ21」内

電話 03-5543-0651（直通）

実 施：株式会社生活構造研究所

千代田区麹町二丁目5番地4 第2押田ビル

電話 03-5275-7861（代表）